

明治国際医療大学 柔道整復学科

講義概要

〔2024〕

柔道整復学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
大学の教育と研究	前期	1	1
基礎ゼミ	前期	1	1
学習技法	前期	1	1
キャリアデザイン	前期	1	1
医療情報学	後期	1	1
柔道整復師のための職業倫理概論	前期	1	1
柔道Ⅰ	前期	1	1
柔道Ⅱ	後期	1	1
解剖学Ⅰ（骨）	前期	1	1
解剖学Ⅱ（筋）	後期	1	1
解剖学Ⅲ（脈管）	前期	1	1
解剖学Ⅳ（内臓）	後期	1	1
生理学Ⅰ（植物生理Ⅰ）	前期	1	1
生理学Ⅱ（植物生理Ⅱ）	後期	1	1
生理学Ⅲ（動物生理Ⅰ）	前期	1	1
生理学Ⅳ（動物生理Ⅱ）	後期	1	1
整復学総論Ⅰ	前期	1	2
整復学総論Ⅱ	後期	1	2
体表解剖学	後期	1	1
包帯・固定学総論	前期	1	1
包帯学実習	前期	1	1
固定学実習	後期	1	1
医療面接法	前期	2	1
社会保障概論	前期	2	1
柔道Ⅲ	前期	2	1
解剖学実習	後期	2	1
病理学総論	前期	2	2
病理学各論	後期	2	1
診断学	前期	2	1
内科学	後期	2	1
整形外科学	後期	2	2
運動機能解剖学	前期	2	1
整復学Ⅰ（上肢系）	前期	2	1
整復学Ⅱ（上肢系）	前期	2	1

柔道整復学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
整復学Ⅲ（上肢系）	後期	2	1
整復学Ⅳ（下肢系）	後期	2	1
徒手療法学総論	後期	2	1
運動機能解剖学実習	後期	2	1
臨床整復学実習Ⅰ	前期	2	1
臨床整復学実習Ⅱ	後期	2	1
臨床整復学実習Ⅲ	後期	2	1
臨床実習Ⅰ	通年	2	1
応急救急処置実習	前期	3	1
関係法規	前期	3	2
運動学	前期	3	1
リハビリテーション論	後期	3	2
臨床鑑別診断学総論	通年	3	2
関節評価法Ⅰ	前期	3	1
関節評価法Ⅱ	後期	3	1
整復学Ⅴ（下肢系）	前期	3	1
整復学Ⅵ（頭部・顔面・脊椎）	前期	3	1
物理療法学演習	前期	3	1
徒手療法学各論	前期	3	1
スポーツ柔道整復学概論	前期	3	1
臨床整復学実習Ⅳ	前期	3	1
臨床整復学実習Ⅴ	前期	3	1
実践整復学Ⅰ（上肢）	前期	3	1
実践整復学Ⅱ（下肢）	後期	3	1
実践整復学Ⅲ（体幹）	後期	3	1
臨床技術実習	前期	3	1
臨床シミュレーション実習Ⅰ	後期	3	1
臨床実習Ⅱ	通年	3	1
臨床実習Ⅲ	通年	3	1
健康スポーツ実習Ⅰ	後期	3	1
スポーツ医学基礎	前期	3	2
生活習慣病と運動障害	後期	3	1
スポーツ医学応用	後期	3	2
アスレチックリハビリテーション	後期	3	1

柔道整復学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
アスレチックリハビリテーション実習	後期	3	1
キャリア教育	前期	4	1
看護学概論	後期	4	1
運動器外傷保存療法学総論	後期	4	1
総合演習Ⅱ	後期	4	1
基礎系総合演習Ⅰ	前期	4	2
基礎系総合演習Ⅱ	後期	4	2
傷害鑑別診断学	後期	4	1
後療法技術学演習	後期	4	1
運動器画像観察演習	後期	4	1
伝承整復術演習	後期	4	1
臨床セミナー	後期	4	1
臨床系総合演習Ⅰ	前期	4	2
臨床系総合演習Ⅱ	後期	4	2
外傷・障害予防論実習	後期	4	1
臨床シミュレーション実習Ⅱ	前期	4	1
臨床シミュレーション実習Ⅲ	後期	4	1
アスレチックリハビリテーション	前期	4	1
アスレチックリハビリテーション実習	前期	4	1
卒業研究Ⅱ	前期	4	2
合計単位数			102
省令で定める基準単位数			13

講義科目名称： 大学の教育と研究

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
宮坂 卓治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	初年次教育の一環であり、本学の「建学の精神」「教学の理念」「沿革」「教育目標」を理解し、明治国際医療大学の学生として求められる学修態度と姿勢を明確にする。その上で、柔道整復学科の教育目的と教育の特徴を理解する。また、現代医療の課題を踏まえて看護学科、鍼灸学科、救急救命学科の教育概要を理解し、医療系大学である明治国際医療大学の求める医療人像について理解を深める。さらに、柔道整復学士を目指すうえで必要な基礎知識や知るべき研究内容などを教授し、大学教育の在り方を深めることをねらいとする。
授業計画	<p>1回目 本学の教育の特徴、および「建学の精神」と「教学の理念」について（担当：勝見） 到達目標：本学の教育の主な特徴、および建学の精神と教学の理念を説明できる。</p> <p>2回目 柔道整復学科と鍼灸学科の教育の特徴について（担当：宮坂、未定） 到達目標：柔道整復学科と鍼灸学科の教育の主な特徴を説明できる。</p> <p>3回目 看護学科と救急救命学科の教育の特徴について（担当：未定） 到達目標：看護学科と救急救命学科の教育の主な特徴を説明できる。</p> <p>4回目 大学における一般教養教育と基礎医学教育について（担当：河合） 到達目標：一般教養教育と医学基礎教育の特徴について説明でき、大学教育での生物学、生化学と分子生物学の重要性について説明できる。</p> <p>5回目 柔道整復の大学教育において必要な基礎医学、特に生理学について（担当：未定） 到達目標：柔道整復の大学教育に必要な基礎医学の重要性を説明できる。</p> <p>6回目 大学の教育と研究について（研究と後療法の変遷）（担当：宮坂） 到達目標：高校と大学の教育の違い、および過去の研究と現在の後療法とのつながりを説明でき、大学生活のグランドデザインを描くことができる。</p> <p>7回目 柔道整復とスポーツ関連資格について（担当：宮坂） 到達目標：本学で取得できるスポーツ関連資格と柔道整復との関わりを説明できる。</p> <p>8回目 接骨院・整骨院の業務内容と経営について（担当：宮坂）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義内で出題されたテーマや内容などについて自分で調べ、復習を行う。
教科書	授業中にレジュメを配布するため教科書の指定はなし
参考書	講義中に適宜紹介する
成績評価	レポート試験を実施する。評価はレポート内容を100%とし、成績評価を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名：宮坂 卓治 研究室：8号館4階教授室 オフィスアワー：火曜日 16:30～17:30
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-③ ○-④ 科目ナンバー：HJ-1-HS1-RS-L-1

講義科目名称： 心理学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
山本 岳			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	信頼される医療従事者になるためには、人間を知ることが必要です。それを学ぶ手段の1つとして、心理学という分野が存在します。また最近では、社会状況の複雑化等により、ますますメンタルケアが必要であることが指摘されています。 そのことから本講義では、心理学の基礎を学びながら、医療従事者として今後出会うであろう患者へのメンタルケアの重要性を理解してもらうことを目的として講義を実施します。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション(授業方針、評価方法)、心理学とは何か。基礎心理学①(知覚とは) [到達目標]心理学はどのようなもので、どんな分野があるのか理解するとともに、基礎心理学(知覚・認知)の概要を理解する。 (キーワード：心理学、心理測定、知覚心理学・認知心理学)</p> <p>第2講 基礎心理学②(学習、適応とは) [到達目標]基礎心理学(学習、記憶)の概要を理解する。 (キーワード：(学習心理学、反射、学習、条件づけ、記憶))</p> <p>第3講 健康心理学(心理的ストレスの概要) [到達目標]心理的ストレスの概念と概要を理解する。 (キーワード：健康心理学、適応、ストレッサー、ストレス反応、コーピング)</p> <p>第4講 発達心理学(子どもから大人までのこころの発達と教育) [到達目標]子どもから大人までのこころの発達の概要を理解する。 (キーワード：発達心理学)</p> <p>第5講 臨床心理学(心理技法と精神症状)① [到達目標]臨床現場で出会う可能性のあるこころの病気や障がいの概要を理解する。 (キーワード：臨床心理学 精神症状)</p> <p>第6講 臨床心理学(心理技法と精神症状)② [到達目標]臨床現場で出会う可能性のある心理療法や心理検査の概要を理解する。 (キーワード：心理アセスメント)</p> <p>第7講 臨床心理学(心理技法と精神症状)③ [到達目標]臨床現場で出会う可能性のある心理療法や心理検査の概要を理解する。 (キーワード：心理療法)</p> <p>第8講 まとめ(評価含む) [到達目標]第1講から第7講までのまとめ</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	配布資料を使い事前学習や事後学習をすることをお勧めします。 また余力のある受講者は、授業計画にある各キーワードを調べておくことも良い学習に繋がると思います。 教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習90分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習90分)。
教科書	特にありません。講義の進み具合で適宜資料を配布します。
参考書	1.心理学概論(向井希宏・水野邦夫 編, ナカニシヤ出版) 2.心理学 [第3版] (和田万紀 編 弘文堂)
成績評価	1.心理学全般の知識(50点):定期試験(持込不可)を行います。試験範囲は全講義内容から問題を提示します。 2.平常点(50点):出席カードを毎回提出してもらいます。 ①心理学とは何かを理解し、それを活用できる。 ②受講者という集団の一人として、そして医療従事者の卵として、他者を尊重・共感し、他者の話を傾聴できる。 ③授業に積極的に参加し、自ら質問や発言をする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山本 岳 (非常勤講師) 研究室 : 6号館非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー: 授業終了後
備考	講義は基本的にPower Pointを使用します。受講者は各自で適宜配布する資料にメモを取って受講するようにしてください。講義は講師と学生の双方向の関わりにより進めます。そのことから、講義をただ聞くという受け身の姿勢ではなく、積極的に講義に参加する学生に受講してもらいたいと思います。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎- , ○-

講義科目名称： コミュニケーション論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
池田 正樹			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	1) 新たな他者と接する状況で、良好な関係を構築する技術・理論を理解・使用できる 2) レポート作成など、基本的な文章作成が行える 3) 対人関係上生じる可能性のある問題点を学び、それらに対して自分なりに理解・対応できる
授業計画	<p>第1講 身近な精神疾患について [到達目標] 身近に接する可能性のある精神疾患について、理解する</p> <p>[備考] オンデマンド講義</p> <p>第2講 文章の書き方の基本 [到達目標] 基本的な長文の構成を理解し、自分で記述できるようになる。</p> <p>[備考] オンデマンド講義</p> <p>第3講 レポートの書き方の基本 [到達目標] レポートの構造と記載内容の意味を理解し、自分でレポートを書くことができるようになる。</p> <p>[備考] オンデマンド講義</p> <p>第4講 プレゼンテーションの基礎を学ぶ [到達目標] プレゼンテーションの基本的な構造を学び、実際に作成できる。</p> <p>[備考] オンデマンド講義</p> <p>第5講 アサーショントレーニング1 [到達目標] アサーションの基本を学ぶ</p> <p>[備考] 特に無し</p> <p>第6講 アサーショントレーニング2 [到達目標] アサーティブな自己表現の方法を学ぶ</p> <p>[備考] 特になし</p> <p>第7講 話の聞き方 [到達目標] 基本的な傾聴の方法について理解する</p> <p>[備考] 特になし</p> <p>第8講 しんどくなりすぎない受け取り方 [到達目標] 自分のものの見方の癖を知る</p> <p>[備考] 特になし</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	連続ものの内容もあるため、適時復習を行なってください。
教科書	適時紹介します。
参考書	適時紹介します。
成績評価	<p>①評価方法 : レポート70%、平常点30%</p> <p>②評価基準 : レポートは講義の内容を一つ、もしくは複数選んで書いてもらいます。自分なりにそのテーマを今後どの様に役立てていくかなどについて、論述してください。論述においては、講義中に説明したレポートの書き方やパラグラフライティングの方法を参考としてください</p>

	い。 平常点は受講態度、出席の有無で判定します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 池田正樹 研究室 : 1号館2階こころの相談室・8号館4階講師室 メールアドレス : ms_ikeda@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業開始終了前後
備考	対面：講義形式とグループワーク形式を適時切り替える予定です。 オンデマンド：講義＋課題の構成で行う予定です。

講義科目名称： 基礎ゼミ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
田中健吾			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	科目ナンバー HJ-1-HS4-RS-L-1
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】医療に関する未知の世界に関心を持ち、大学で主体的に学ぶ意欲を高め、姿勢を整えること、「読み」「書き」「考える」能力を鍛え、基本的な学修作法を身につけるために授業を行う。</p> <p>【到達目標】本科目は初年次教育の一環であり、学生間、学生-教員間のコミュニケーションを密接にすることでスムーズな大学教育への導入を図ることを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・教員の研究を知る① 【到達目標】担当教員の研究テーマを理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】各教員が提示した予習・復習に関することを事前に行なっておくこと。</p> <p>第2回 教員の研究を知る② 【到達目標】担当教員の研究テーマを理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】各教員が提示した予習・復習に関することを事前に行なっておくこと。</p> <p>第3回 教員の研究を知る③ 【到達目標】担当教員の研究テーマを理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】各教員が提示した予習・復習に関することを事前に行なっておくこと。</p> <p>第4回 教員の研究を知る④ 【到達目標】担当教員の研究テーマを理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】各教員が提示した予習・復習に関することを事前に行なっておくこと。</p> <p>第5回 教員の研究を知る⑤ 【到達目標】担当教員の研究テーマを理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】各教員が提示した予習・復習に関することを事前に行なっておくこと。</p> <p>第6回 教員の研究を知る⑥ 【到達目標】担当教員の研究テーマを理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】各教員が提示した予習・復習に関することを事前に行なっておくこと。</p> <p>第7回 教員の研究を知る⑦ 【到達目標】担当教員の研究テーマを理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】各教員が提示した予習・復習に関することを事前に行なっておくこと。</p> <p>第8回 教員の研究を知る⑧ 【到達目標】担当教員の研究テーマを理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】各教員が提示した予習・復習に関することを事前に行なっておくこと。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	毎授業後に担当教員のテーマを出題するため、次回の授業までに調べることが授業時間外学修となる。各担当教員の指示に従い予習(45分間)し、実習・講義内での要点を復習(45分間)しておくこと。
教科書	教科書指定なし
参考書	必要に応じて資料を配布する。
成績評価	教員毎に課題を実施・評価する。 欠席(課題未提出)すると、その課題について評価されない場合があるので注意すること。
担当教員の基本情報	担当教員名：田中健吾 研究室：8号館4F 講師室 メールアドレス：k_tanaka@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日16:40～17:30
備考	施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	資料・課題の配布はClassroomを利用します。パソコン、スマートフォン、タブレット端末などのインターネットへ接続できる機器・環境を用意してください。
	この科目は、原則として対面講義形式にて実施するが、適宜、オンデマンド形式に変更されることがあります。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-3

講義科目名称： 現代国語読解

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
山本 直子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	説明的文章や文学的文章を正しく読み解き、理解するための基礎的な事項を身につけることができる。また、読解した内容や解釈したことを、文章で説明し、まとめることができる。さらに、グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、他者に伝える力や理解力、論理的思考力などを培い、コミュニケーション能力を身につけることができる。
授業計画	<p>第1講 インTRODクシヨン [到達目標] 新聞を題材に、構成や文体を理解し、内容が読み取れるようになる。 [備考]</p> <p>第2講 論説文の読解① [到達目標] 文章表現や構造を理解したうえで、文章の意図や主題、書き手の考えを考察し、まとめることができる。 [備考]</p> <p>第3講 論説文の読解② [到達目標] 前時のまとめをグループワークを通して深め、自己の考えをまとめることができる。 [備考]</p> <p>第4講 小論文を書く [到達目標] 小論文の書き方の基本を習得し、論理的に書くことができる。 [備考]</p> <p>第5講 小説の読解① [到達目標] 小説を題材に、内容を読み取り、テーマを設定することができる。 [備考]</p> <p>第6講 小説の読解② [到達目標] 前時で設定したテーマに関連する資料や文献を参考に、自己の考えをまとめることができる。 [備考]</p> <p>第7講 プレゼンテーション [到達目標] 前時でまとめたことをスライドやPPを用いて、発表することができる。 [備考]</p> <p>第8講 まとめ（評価含む） [到達目標] 授業を振り返り、読解への理解を深め、思考力や表現力などを向上させる実践力を身につけることができる。 [備考] 第8講の後半で試験を実施します。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	次回使用する教材や準備物を授業中に提示または配付しますので、準備をしておいてください。事前学習が済んでいるものとして授業を進めます。
教科書	特に購入していただくものではありません。
参考書	特になし。
成績評価	①評価方法 : 試験評点60%、平常点40% ②評価基準 : 試験は授業の理解度や実践力（小論文1題）に関する問題を出題し、判定します。平常点は受講態度、出席状況、課題の取組、提出などで判定します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山本 直子 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業前及び授業終了後
備考	

講義科目名称： 生活と環境

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
前中 一晃			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	21世紀の人類の課題は、エネルギーや資源、自然、環境、生命をめぐる多くの問題に向いあうことである。そのためにさまざまな現象を生み出してきた地球の環境条件がどのように変化してきたかを体系的に学習する。		
授業計画	1回目	はじめに [到達目標] 地球にはさまざまな環境問題がある。	
	2回目	地球史概観 [到達目標] 地球46億年の歴史について概観する。 [備考] 地球史年表の作成 地球環境の変遷について理解するため地球史の時代区分を知っておく。	
	3回目	地球環境を変えたもの① [到達目標] 大気の成分を変えたもの	
	4回目	地球環境を変えたもの② [到達目標] 地球の環境を破壊したもの	
	5回目	病んでる地球 [到達目標] 病んでる地球とはどういうことか	
	6回目	深刻な環境問題 [到達目標] 地球温暖化・ごみ問題	
	7回目	広がる環境問題 [到達目標] オゾン層の破壊・水問題	
	8回目	まとめ（レポート作成） レポート作成等	
授業時間外の学習（準備学習等）について	使用するプリントを事前配布する。あらかじめ下調べしておくように。 教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。		
教科書	毎週プリントを配付		
参考書	なし		
成績評価	出席点＋試験点で判断。 出席点には毎授業で実施する小試験の点数を加味。		
担当教員の基本情報	担当教員名：前中 一晃（非常勤講師） 研究室：6号館1階非常勤講師室 メールアドレス：mae7kaz3aki4@docomo.ne.jp オフィスアワー：授業終了後		
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1		

講義科目名称： 学習技法

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
河井 正隆			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンデマンド：ビデオ配信）	Google Classroomを活用
添付ファイル			

授業目標	この授業では、大学での学びに対する真摯な態度やスキルを、さまざまな側面から考えていきます。そして、最終的にはあなた自身が、自立した学習者に成長するきっかけ（契機）をつかむことが、この授業の目標です。
授業計画	<p>1回目 大学ってどんなところ！？ 【到達目標】大学で求められる力や態度を判断できる。</p> <p>※課題1：今日の授業を受け、自分なりに「考えたこと」をレポートしてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>2回目 学習スタイルとやり抜く力 【到達目標】自らの学習スタイルを知り、今後の学習方法を省察できる。</p> <p>※課題2：「やり抜く力」のアンケートに回答してください（期日までにGoogle formsへ）。</p> <p>3回目 考えるってどういうこと？ 【到達目標】学びのスキルや思考方法（批判的思考）を活用できる。</p> <p>※課題3：今日の授業を受け、自分なりに「考えたこと」をレポートしてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>4回目 プロフェッショナルとコミュニケーションを考える 【到達目標】プロとしてのコミュニケーションの概要を説明できる。</p> <p>※課題4：ビデオの中で示される【課題①】【課題②】の2つを考えてください（各課題を200字程度で）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>5回目 ディプロマ・ポリシーとICEルーブリック 【到達目標】ディプロマ・ポリシーとICEルーブリックの作成を通して、自らの学びを考察できる。</p> <p>※課題5：あなた自身の「ICEルーブリック」を書いて提出してください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>6回目 1. 図式化に挑戦！ 2. NOLの紹介 【到達目標】選択した科目の重要ポイントを図式化により整理できる。</p> <p>※課題6：あなたが描く「図式化」の成果物を提出してください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>※課題7：NOLを読んで、あなた自身の「感想」を教えてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）</p> <p>7回目 短期記憶の実験 【到達目標】短期記憶の実験をとおして、自身の記憶の傾向性を認識する。</p> <p>※課題8：今日の授業を受け、自分なりに「考えたこと」をレポートしてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>8回目 レポートの書き方 ※アクティブ・ラーニング（学びの振り返りと表出） 【到達目標】本授業で学んだ内容を踏まえ、適切なレポートを作成できる。</p> <p>※課題9：本授業を受講した上で、「今までの学びを振り返り、これからの4年間を展望してください（400字）」をレポートしてください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>1. 課題は、Google ClassroomへUPします。</p> <p>2. 本授業における時間外学習は、週4時間となります。</p>
教科書	授業テーマに応じた資料をGoogle ClassroomにUpします。
参考書	必要に応じて、授業テーマに即した図書などをGoogle Classroomで紹介します。
成績評価	<p>1. 課題の提出締切日：期日までにGoogle Classroomへ提出してください（厳守）。</p> <p>2. 課題点：①+②=100点 ※期日を過ぎると点数はありません。</p> <p>①「課題1～8」：10点×8課題=80点（提出点）</p> <p>②「課題9」：20点（配点基準は、Google ClassroomにUpするルーブリックを参照：後日）</p> <p>3. 60点以上が合格点です（単位認定）。</p> <p>4. 教員からの各課題へのコメントは、基本的には全体または個別で行います（Google ClassroomにUp）。</p>
担当教員の基本情報	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員名 : 河井正隆 ・研究室 : 学修支援センター別室（3号館内） ・メールアドレス : m_kawai@meiji-u.ac.jp ・オフィスアワー : 水曜日、午後4時30分～午後6時

備考	<p>1. 本授業とディプロマ・ポリシーとの関連：思考・判断◎、関心・意欲○</p> <p>2. 本授業では、スマートフォンやノートパソコンなどの端末機を積極的に活用します。</p> <p>3. 授業の進捗状況や社会的情勢により、授業内容を変更することがあります。その場合は、Google Classroomやメリーでお伝えします。</p>
	<p>実務経験：京都府亀岡市に所在地を置く整形外科・内科医院および明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センターにて鍼灸臨床に従事する（臨床歴：約35年）。なお後者（学校）では、鍼灸学科生および教員養成学科生の臨床実習指導にも携わる。</p>
	<p>科目ナンバー：HJ-0-HS8-RS-L-1</p>

講義科目名称： キャリアデザイン

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
宮坂卓治、宗友宏行、田中健吾、吉元拓也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】本科目では、医療者としてのキャリア育成のための理論や社会で必要な素養（コミュニケーション力、社会的なマナー）について学び、アーリーエクスポージャー（早期体験学習）として柔道整復師の職業理解を深めるため、臨床現場での見学実習を行う。また、本学近隣地域（美山町）の方とふれあい、農業体験を実施する。</p> <p>【授業目標】本科目で学ぶ、通して地域での産業を理解し、本学周辺の地域特性を知ることが目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・柔道整復師について 【到達目標】キャリアとは何かを学び、柔道整復師の職業について学ぶ。大学生活の4年間で柔道整復師として必要な素養とは何かについて理解することを目的とする。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第2回 臨床現場見学（早期体験学習）1</p> <p>第3回 柔道整復師が施術を行う現場を見学し、接骨院とはどういう医療施設なのかを理解する。また、今後4年間の学修で必要な知識について調べる。先生やそこで働くスタッフから意見を聞き、自分のキャリアを形成するために大切なことは何かを見つけることを目的とする。 臨床現場見学（早期体験学習）2</p> <p>第4回 柔道整復師が施術を行う現場を見学し、接骨院とはどういう医療施設なのかを理解する。また、今後4年間の学修で必要な知識について調べる。先生やそこで働くスタッフから意見を聞き、自分のキャリアを形成するために大切なことは何かを見つけることを目的とする。 農業体験学習（早期体験学習）1</p> <p>第5回 本学の近隣地域における美山町で農業（米作り）、鳥捌きを体験し、地域の方とのコミュニケーションを図り、地域産業や本学周辺の地域特性を知ることが目的とする。 農業体験学習（早期体験学習）2</p> <p>第6回 本学の近隣地域における美山町で農業（米作り）、鳥捌きを体験し、地域の方とのコミュニケーションを図り、地域産業や本学周辺の地域特性を知ることが目的とする。 農業体験学習（早期体験学習）3</p> <p>第7回 本学の近隣地域における美山町で農業（米作り）、鳥捌きを体験し、地域の方とのコミュニケーションを図り、地域産業や本学周辺の地域特性を知ることが目的とする。 農業体験学習（早期体験学習）4</p> <p>本学の近隣地域における美山町で農業（米作り）、鳥捌きを体験し、地域の方とのコミュニケーションを図り、地域産業や本学周辺の地域特性を知ることが目的とする。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業内で配布する資料を参考に復習を行う。また、授業内の課題テーマについて調べ、予習を行うことが必要である。
教科書	授業用資料を配布するため教科書指定はしない。
参考書	自分らしいキャリアのつくり方 著者：高橋俊介 PHP新書
成績評価	授業の出席基準を満たした者に評価を行う。臨床現場見学（早期体験学習）の出席、課題レポート、実習先での評価で総合的に評価を行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名（代表者）：宮坂卓治 研究室：8号館4階教授室 オフィスアワー：16:30-17:30</p> <p>オムニバス担当</p>
備考	<p>講義日については説明会を行い、決定します。時間外で実施します。 科目ナンバー：HJ-1-HS9-RS-S-1</p> <p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-4</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
千葉 章太			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義（遠隔・オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	医療系学生に必要な生物学の知識を習得することを目標とする。 到達目標： ・「生物の原則」である細胞、分子、遺伝子の働きを説明できる。 ・DNAからRNAそしてタンパク質へと進む遺伝情報の伝達の仕組みを理解する。 ・物質代謝、自己複製の仕組みを理解する。 ・解剖学・生理学等を理解するのに必要な、「ヒトに関する基本」（ヒトの組織や器官の構造と働き、健康を維持するシステム、病気の原因）に関する基礎的な内容を説明できる。
授業計画	<p>第1回 生物とは何か、生物としてのヒト 【到達目標】： ・生物の条件を説明できる。 ・生物としてのヒトの特徴を説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第2回 細胞、細胞小器官 【到達目標】：細胞と細胞小器官の構造と機能を説明できる 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第3回 生物を構成する物質 【到達目標】： ・生物を構成する元素と分子にはどのようなものがあるかを説明できる。 ・生物を構成する元素と分子の基本的な性質を説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第4回 栄養と代謝 【到達目標】： ・ヒトが必要とする栄養にはどのようなものがあるかを説明できる。 ・基礎的な代謝の流れを説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第5回 遺伝とDNA、遺伝情報の発現 【到達目標】： ・遺伝の仕組みについて説明ができる。 ・DNAからRNA、タンパク質への遺伝情報の伝達の仕組みを説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第6回 細胞の増殖、生殖、発生、分化 【到達目標】：基礎的な自己複製の仕組みを説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第7回 ヒトの生殖、発生、分化 【到達目標】：ヒトの自己複製の仕組みを説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>中間試験 中間試験 対面形式で行う。 日時は別途指定する。</p> <p>第8回 動物の組織 【到達目標】：動物組織の基礎的な構造や特徴について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第9回 動物の器官Ⅰ（消化器系・循環器系） 【到達目標】：動物の器官（消化器系・循環器系）の基礎的な構造や機能について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第10回 動物の器官Ⅱ（呼吸器系・排出系・感覚器系） 【到達目標】：動物の器官（呼吸器系・排出系・感覚器系）の基礎的な構造や機能について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第11回 ホルモンと生体調節 【到達目標】：ヒトの各内分泌器官から分泌されるホルモンとその作用について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。</p>

	<p>(正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第12回 神経系 【到達目標】：動物の神経系の基礎的な構造や機能について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第13回 免疫・微生物 【到達目標】： ・生体防御システムの基礎的な機能について説明できる。 ・病原微生物と感染症との関係について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第14回 がんと老化 【到達目標】： ・がん発生の仕組みについて説明できる。 ・細胞や個体の老化のプロセスについて説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第15回 バイオテクノロジーと医療・総括 【到達目標】： ・遺伝子組換え技術や再生医療などの基礎的な仕組みや意義を説明できる。 ・本講義を通じて学んだことを述べるができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>期末試験 期末試験 対面形式で行う。 日時は別途指定する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習45分)し、講義で学修した内容をまとめてください(復習45分)。
教科書	「医療・看護系のための生物学」 田村 隆明 著 (裳華房) ISBN978-4-7853-5233-2
参考書	「キャンベル生物学」 Urry, Cain, Wasserman, Minorsky, Reece著 池内昌彦、伊藤元己、箸本春樹、道上達男 監訳 (丸善出版) ISBN978-4-621-30276-7
成績評価	出席が6割に満たないものは試験の受験を認めない。 中間試験(試験86%、課題14%)、期末試験(試験86%、課題14%)それぞれ6割以上を合格とし、中間試験(50%)と期末試験(50%)により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 13:00-13:50
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1 科目ナンバー: HJ-1-NS1-RS-L-1
	講義の動画は該当週の月曜日9:25までに公開する。 動画視聴(40~50分程度)と課題(40~50分)で講義を行う。 講義内容に対する質問は、原則Mellyで行なってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 課題の解答は提出期限後にGoogleclassroom上に掲示する。
	出欠は課題の期限内での提出をもって行います。 課題への取り組みが不十分とみなされる場合には、課題点が付与されないことがあります。

講義科目名称： 物質の自然と科学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	医療には物理学の知見が多く取り入れられている。本講義では、医学を深く学ぶ上で必要となる物理学の基礎知識を身に着けることを授業目標とする。		
授業計画	第1回	単位と移動の基礎 到達目標： ・単位を説明できる。速度，加速度，移動距離を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第2回	ニュートンの法則 到達目標： ・三角関数が理解できる。 ・ベクトルを計算できる。 ・ニュートンの法則を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第3回	浮力 到達目標： ・密度を計算できる。 ・浮力を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第4回	放物運動 到達目標： ・自由落下，投げ上げの速度，移動距離が計算できる。 ・放物運動を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第5回	抵抗 到達目標： ・モノに働く抵抗を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第6回	円運動と万有引力 到達目標： ・円運動，万有引力が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第7回	電気の基本 到達目標： ・電気の基本が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第8回	電気の特性 到達目標： ・電気の特性が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第9回	波の基本特性 到達目標： ・縦波，横波，振幅，周期，周波数を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第10回	音における波の特性 到達目標： ・音の波の特性を説明できる。 ・ドップラー効果を説明できる。 ・耳からの伝わり方を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第11回	光における波の特性 到達目標： ・光の波の特性を説明できる ・サングラスの偏光を説明できる ・ヒトの映像の見え方を説明できる 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第12回	光の特殊な性質 到達目標： ・光の量子性について説明できる。 ・量子コンピュータの概要が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第13回	いろいろエネルギー 到達目標：	

	<p>・エネルギー保存の法則を説明できる。 ・モノのエネルギーが説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。 試験及びまとめ 到達目標：全体的な概要の説明ができる。 授業形態： 対面形式で行う。日時は別途指定する。 確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p> <p>総括 到達目標：講義全体を振り返り、自然現象を総合的に判断し説明することができる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	種々の物理の問題を自力で解けるようになるために参考書を用いた予習(130分)と講義内容の復習(130分)を行う。
教科書	特に指定しない。
参考書	改訂版 センター試験 物理基礎の点数が面白いほどとれる本。 鈴木誠治(著) ISBN-10: 404600777X
成績評価	1回の試験により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 〇赤澤 淳 研究室 : 5号館3階 メールアドレス : j_akazawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : Mellyを活用して連絡して下さい。
備考	この講義とディプロマポリシーとの関連「◎-1」 科目コード: HJ-1-NS2-ES-L-1
	講義の動画は該当週の月曜日9:30までに公開する。 動画視聴(20~50分程度)と課題(30~80分程度)で講義を行う。 動画視聴に関する質問は、原則Mellyで行ってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 出欠は課題の期限内での提出をもって行います。

講義科目名称： 物質の反応

授業コード：

英文科目名称： Basic Chemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
千葉 章太			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>医療系学生に必要な化学の知識を習得することを目標とする。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもな元素、分子およびそれらの性質を覚える。 ・物質量の計算ができる。 ・溶液の濃度計算ができる。 ・化学反応式から反応物と生成物について定量的に説明できる。 ・その他、生化学や生理学などを理解するに必要な化学の法則を説明できる。
授業計画	<p>第1回 元素記号・周期律・化学の基礎</p> <p>【到達目標】：おもな元素記号を記述できる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニングの有無：講義の中で課題問題を解いてもらう。（正誤は講義終了後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第2回 原子の構造、電子配置と原子軌道</p> <p>【到達目標】：陽子、中性子、電子を使って原子を説明できる。</p> <p>s軌道とp軌道を使って電子配置を説明できる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニングの有無：講義の中で課題問題を解いてもらう。（正誤は講義終了後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第3回 イオン結合</p> <p>【到達目標】：主要なイオン性物質の組成式を作ることができる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニングの有無：講義の中で課題問題を解いてもらう。（正誤は講義終了後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第4回 分子の間に働く力、共有結合、金属結合</p> <p>【到達目標】：分子軌道により共有結合を説明できる。</p> <p>それぞれの化学結合の特徴を説明できる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニングの有無：講義の中で課題問題を解いてもらう。（正誤は講義終了後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第5回 原子量・分子量・式量</p> <p>【到達目標】：原子量、分子量と式量を計算できる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニングの有無：講義の中で課題問題を解いてもらう。（正誤は講義終了後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第6回 物質量</p> <p>【到達目標】：粒子の数、質量、体積と物質量の関係を理解し算出できる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニングの有無：講義の中で課題問題を解いてもらう。（正誤は講義終了後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第7回 溶液・コロイド</p> <p>【到達目標】：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・溶液、コロイドの特徴について説明できる。 ・溶液の濃度、希釈、作成について計算できる。 <p>【授業形態】：アクティブ・ラーニングの有無：講義の中で課題問題を解いてもらう。（正誤は講義終了後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第8回 化学反応式</p> <p>【到達目標】：主な化学反応を化学反応式で表せる。</p> <p>化学反応式の係数を決定できる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニングの有無：講義の中で課題問題を解いてもらう。（正誤は講義終了後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第9回 酸と塩基</p> <p>【到達目標】：酸と塩基の性質を説明できる。</p> <p>水素イオン指数pHを説明、計算できる。</p> <p>中和反応を説明、計算できる</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニングの有無：講義の中で課題問題を解いてもらう。（正誤は講義終了後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第10回 酸化還元反応</p> <p>【到達目標】：酸化・還元反応の性質を説明できる。</p> <p>電池・電気分解を説明できる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニングの有無：アクティブ・ラーニングの有無：講義の中で課題問題を解いてもらう。（正誤は講義終了後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第11回 熱化学</p> <p>【到達目標】：化学反応の進行をエネルギーの観点で説明できる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニングの有無：講義の中で課題問題を解いてもらう。（正誤は講義終了後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第12回 酵素反応と酸塩基平衡</p> <p>【到達目標】：酵素反応のしくみを説明できる。</p> <p>化学平衡と緩衝液について説明できる。</p>

	<p>【授業形態】アクティブ・ラーニングの有無：講義の中で課題問題を解いてもらう。（正誤は講義終了後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第13回 有機化合物</p> <p>【到達目標】：炭化水素と有機化合物の名称や分類について説明できる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニングの有無：講義の中で課題問題を解いてもらう。（正誤は講義終了後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第14回 生体を構成する物質</p> <p>【到達目標】：糖質、脂質、タンパク質、核酸について説明できる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニングの有無：講義の中で課題問題を解いてもらう。（正誤は講義終了後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第15回 期末試験、無機化合物・高分子化合物 期末試験</p> <p>【到達目標】：身近な化合物の性質を理解する。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニングの有無：無し</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習 4 5分）し、講義で学修した内容をまとめてください（復習 4 5分）
教科書	「生理学・生化学につながる ていねいな化学」 白戸亮吉、小川由香里、鈴木研太著（羊土社） ISBN978-4-7581-2100-2
参考書	「よくわかる化学基礎+化学」 富田 功監修（Gakken） ISBN978-4-05-303852-4 「ブラウン一般化学 I、II」 T. H. Brown 他著、荻野和子監訳（丸善出版） ISBN978-4-621-30010-7, -30011-4
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 期末試験(72%)と課題(28%)により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日 13:00-13:50
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1 科目ナンバー：HJ-1-NS3-ES-L-0

講義科目名称： データサイエンス入門

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一			
配当学科：柔道整備学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	コンピュータおよび表計算ソフトウェアを用いて、実験データなど多くの情報を整理し解析する手法を身につけることを目的とします。また、デジタルデータを正確に取り扱い、コンピュータを用いてデータの記録と解析を達成できることを到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスおよび表計算ソフトを用いた基本練習 [到達目標] キーボードショートカットを用いた操作を修得する 関数を使った計算を復習し、棒グラフを正確に作成することができる 絶対参照・相対参照について理解する 絶対参照・相対参照について、表計算ソフトにおける操作方法を修得する [備考] 課題あり</p> <p>第2回 さまざまなグラフ① 度数分布 [到達目標] 度数の意味や使い方を理解する 関数を利用してさまざまなデータの度数を算出できる [備考] 課題あり</p> <p>第3回 さまざまなグラフ② ヒストグラム [到達目標] ヒストグラムの示すデータの意味を理解する 関数を利用した場合分けを実施できる 結果を予測して利用する関数を工夫できる データを度数分布表およびヒストグラムとして表現することができる [備考] 課題あり</p> <p>第4回 さまざまなグラフ③ 散布図 [到達目標] 散布図を作成することができる 相関係数について説明できる 散布図や相関係数を使ってデータの特徴を表現できる [備考] 課題あり</p> <p>第5回 関数の応用と図表の読み取り [到達目標] 資料等に示される図表を正しく読み取り解釈できる 実用的な関数を使い、データ処理の省力化を体験する 関数を正しく活用することができる [備考] 課題あり</p> <p>第6回 復習と演習 [到達目標] 学修した内容をもとに、独力でデータを統計的に解析できる PCおよびソフトウェア操作の基本的な操作をスムーズに行う事ができる 割合やデータの相関など必要に応じたグラフを選択し作成することができる [備考] 課題あり</p> <p>第7回 デジタルデータの取り扱いと工夫 [到達目標] 実験などで得られる実データの安全な取り扱い方と記録の意義について理解する データ処理の必要性およびデータを活用するためのスキルについて考察する 大規模なデータを取り扱うためのデータハンドリングについて知る [備考] 課題あり</p> <p>第8回 データの収集および解析の実践 [到達目標] データに対して適した解析方法を選択し、正確に処理できる グラフ等を用いてデータを視覚的表現できる データを読み解き結果を言葉で表現することによって、レポート等を作成できる</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：講義で利用するHPを参考にして、各講義で必要となる用語や操作手順をまとめておきましょう（120分程度）。 ・復習：次回の講義開始時に実施する確認テストに解答できるように準備しておいて下さい。特に講義内容および理解に時間を要した操作について復習を行い、躓きの解消とコンピュータスキルの獲得に努めましょう（120分程度）。 ・講義をやむを得ず欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認して演習問題に解答できるようにしておい

	て下さい。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	評価割合は試験90%、課題10%とします。 試験は選択式および記述式の問題により、データ処理能力および他者に対して説明する能力の到達度を総合的に評価します。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 〇河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 17:30-20:00 (木曜日以外の平日)</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : 〇-1, ◎-3 「科目ナンバー」 : HJ-1-NS4-RS-L-1 講義資料および課題は授業専用のホームページにて提供します (別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置します。 アクティブラーニング形式の授業は実施しません。

講義科目名称： 英語 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
山本 奈美			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	この科目では、英単語や英文法の習得を中心に英語の基礎力を固め、将来医療従事者として活動する際に必要とされる、実践的な英語でのコミュニケーションの能力を身につけることを目的とします。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標] 授業の構成、目的、スケジュール、評価基準を理解する [備考] この科目を受講するにあたって、日常的にどのような準備や心がけを要するのか説明します。	
	第2講	現在時制 [到達目標] 本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態] 授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考] 授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第3講	代名詞 [到達目標] 本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態] 授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考] 授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第4講	前置詞 [到達目標] 本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態] 授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考] 授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第5講	過去時制 [到達目標] 本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態] 授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考] 授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第6講	疑問文 [到達目標] 本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態] 授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考] 授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第7講	進行形 [到達目標] 本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態] 授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考] 授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第8講	助動詞 [到達目標] 本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態] 授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考] 授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第9講	未来時制 [到達目標] 本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態] 授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考] 授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第10講	比較 [到達目標] 本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態] 授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考] 授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第11講	完了時制 [到達目標] 本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態] 授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考] 授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第12講	接続詞 [到達目標] 本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態] 授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考] 授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第13講	動名詞・不定詞 [到達目標] 本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態] 授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考] 授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第14講	受動態 [到達目標] 本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態] 授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考] 授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第15講	まとめ [到達目標] 本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態] 定期テストを実施します。	

授業時間外の学習 (準備学習等) について	授業は、教科書に沿って進めていきます。毎回、授業前課題を実施しますので、予習が必要です。また、授業ごとに英単語や英語表現の小テストも行います。次の授業で活かせるように復習も重要です。また本講義においては、TOEICやTOEFLなど学外英語検定に向けた英語学習を希望する学生の割合に応じて、授業内容をフレキシブルに展開していきます。
教科書	English Booster!, Robert Hickling and Yasuhiro Ichikawa, Kinseido (2021)
参考書	授業ごとに必要があれば紹介します。
成績評価	平常点 70% (授業への積極的な参加、課題と小テスト) 定期テスト 30%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山本 奈美 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー :
備考	
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」 : ◎-1 科目ナンバー : HJ-0-LI1-ES-L-1

講義科目名称： 英語Ⅱ ※未開講（人数が少ないため）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
小島奈名子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	この科目においては、英単語の記憶、英文法の習得を中心に英語の基礎力を深め、表現力を磨いていくことが目的となります。また、授業内では、状況に応じて、自主的に英作文を作成するアクティブラーニングに配慮した活動も実施していく予定です。将来、医療従事者として活動する際に必要な表現を念頭に置きながら、授業を展開していきます。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標]この科目での学習内容、目標を理解する。 [備考]この科目を受講するにあたって、日常的にどのような準備や心がけを要するのか、説明します。	
	第2講	現在時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第3講	代名詞・前置詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第4講	過去・未来時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第5講	名詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第6講	疑問詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第7講	進行形 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第8講	助動詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第9講	比較 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第10講	完了時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第11講	接続詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第12講	動名詞・不定詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	

	<p>第13講 受動態 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。</p> <p>第14講 関係詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。</p> <p>第15講 まとめ(評価を含む) [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を総復習する。 [授業形態]まとめ解説→課題実施→採点→課題提出</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	授業では、英単語を習得できるように毎回小テストを実施しますので準備してください。また、授業ごとに英単語や英語表現を身につけ、次の授業では活かせるように、復習することも大切です。また、本講義においてはTOIECやTOEFLなどの学外英語検定、国家試験等に対応した英語学習を希望する学生の割合に応じて、授業内容をフレキシブルに展開していく予定です。自らの将来的なビジョンを明確にするよう、心がけてください。
教科書	English Booster!, Robert Hickling and Yasuhiro Ichikawa, Kinseido(2021).
参考書	授業ごとに必要があれば紹介します。
成績評価	授業への参加、提出物(単語テストと課題)と、定期試験またはレポートの結果より総合的に評価します。授業参加・提出物30%~50%、定期試験またはレポート50%~70%を目安として考えています。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小島 奈名子 研究室 : 1号館2階 メールアドレス : n_kojima@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :
備考	
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」 : ◎-1

講義科目名称： 英語コミュニケーション

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
横田 良聡			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	国際化が進む中でグローバルな視点で医療を捉えられるためには、英語を習得することが大切である。この講義では、日本人が特に苦手とするリスニングとスピーキングに重点を置き、医療現場における様々なシチュエーションの会話をパターンプラクティスで習得するとともに、映画やアニメのシナリオを通して実用的な英語に触れることを目指す。また、今後必要となる可能性のある医療用語についても学ぶ。		
授業計画	第1講	オリエンテーション、診療予約の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①診療予約の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第2講	受付業務(1)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①受付業務(1)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第3講	受付業務(2)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①受付業務(2)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第4講	道案内の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①道案内の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第5講	院内案内の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①院内案内の表現を学習する②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第6講	身長・体重測定と採血の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①身長・体重測定と採血の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第7講	血圧・脈拍測定の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①血圧・脈拍の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第8講	体温測定・身体チェック(1)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①体温測定・身体チェック(1)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第9講	身体チェック(2)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①身体チェック(2)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第10講	症状を診て薬を出す指示(1)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①症状を診て薬を出す指示(1)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第11講	症状を診て薬を出す指示(2)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①症状を診て薬を出す指示(2)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第12講	症状を診て薬を出す指示(3)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①症状を診て薬を出す指示(3)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習	

	<p>し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p> <p>第13講 症状を診て薬を出す指示(4)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①症状を診て薬を出す指示(4)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p> <p>第14講 問診(1)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①問診(1)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p> <p>第15講 問診(2)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①問診(2)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	予習することはありません。各講義内での課題や小テストをクリアするためには、講義内での取り組みが重要になります。講義内にしっかり取り組んでいれば及第点の取れる課題や小テストですから、積極的に音読や会話練習で英語を使う姿勢を持って臨んでください。
教科書	教科書は使用しません。 基本的にパワーポイントを使った授業になります。 必要に応じてプリントをこちらから用意します。
参考書	英和辞書もしくは電子辞書(高校で使用していたものでよい)
成績評価	テストは行わず、「講義への参加度合い、積極性、各講義課題提出等」の各講義で評価します。 そのため、10分を越える遅刻・早退・中座については減点対象とします。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 横田 良聡 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後10分間
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
矢放 昭文			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標は初級中国語の基礎を身につけることである。中国語は発音が難しい。だが音声表示（ピンイン）の仕組みを理解し、継続して練習を重ねると身につくはず！練習方法は；①シャドーイングの反復、ライティングと意味の把握、文法的仕組みの理解を同時並行で繰り返すことである。また②グループ（ペア）ワーク（2人または4人）を通じて、入力（耳：input）・出力（口：output）と書写（ライティング）練習を繰り返し、定着度をお互いに確認しつつ教材の運用練習をすることも効果が高い。</p> <p>学習進度と習得度を踏まえつつ、看護・救急・救命・鍼灸などの現場で使われる中国語教材の表現練習を採り入れ、中国語の知識をゆたかにすることも授業目標の一つである。</p> <p>なお「継続は力なり」という言葉をいつも自分に言い聞かせるとういでしょう！</p>
授業計画	<p>第1講 中国語の音声（ピンイン）の仕組みを理解しよう [到達目標]①中国語の音声の仕組みを「中国語音節表」（p. 74-75）に基づいて学ぶ。教科書に基づいて授業の進め方を説明し、相互に確認する。また次回授業の準備（p11-16）を予習する。</p> <p>[備考]補助教材として、プリントを配布することがある。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>第2講 第1課「自己紹介」を学ぶ。音声（ピンイン）の復習もおこなう。 [到達目標]発音：単母音・声調・軽声・子音を学習する。さらに、ペアワークを通じて挨拶・自己紹介ができるようにする。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p. 17-18「ドリル」を完成し、p. 19-22を予習する。</p> <p>第3講 第2課「どうなさいましたか」を学ぶ。音声（ピンイン）の復習もおこなう。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn/答dá」ができるようにする。つぎに前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認・補正する。また、発音：複母音・声調表記と「新出語句」（p. 20）の発音練習・書取を行う。</p> <p>[備考] さらに、次回授業の準備：p. 23-24「ドリル」を完成し、p. 25-28を予習する。</p> <p>第4講 第3課「この薬はどう飲みますか」を学ぶ。音声（ピンイン）の復習もおこなう。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn/答dá」ができるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：鼻母音と「新出語句」（p. 26）の発音・書取を行う。</p> <p>第5講 第3課「この薬はどう飲みますか」の復習。 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで薬の飲み方を説明できるように練習し・定着を目指す。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p. 29-30「ドリル」を完成し、p. 31-35を予習する。</p> <p>第6講 第4課「病室はどこですか」の学習。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：「声調の変調」「アール化音」「新出語句」（p. 33）の練習・書取を行う。</p> <p>第7講 第4課「病室はどこですか」の復習。 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで場所を訊ねたり、教えたりできるように練習し・定着を目指す。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p. 36-37「ドリル」を完成し、p. 38-41を予習する。</p> <p>第8講 第5課「具合はいかがですか」の学習。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：「新出語句（p. 38）」「補足語句（p. 40）」と「表現」の練習・書取を行う。</p> <p>第9講 第5課「具合はいかがですか」の復習。 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで「具合はいかがですか」と「問wèn・答dá」できるようにする。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p. 42-43「ドリル」を完成し、p. 44-46を予習する。</p> <p>第10講 第6課「心配いりません」の学習。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に病気の現状を説明できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：「新出語句（p. 44）」「補足語句（p. 46）」と「表現」の練習・書取を</p>

	<p>第11講 行う。 第6課「心配いりません」の復習。 [到達目標]会話」の復習。ペアワークで、病気の現状説明と患者を落ち着かせる会話、の練習をする。</p> <p>第12講 [備考] 次回の授業：p. 47-48「ドリル」を完成し、p. 49-51を予習する。 第7課「退院おめでとう」の学習。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを言えるようにする。また、前回のドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認、補正する。</p> <p>第13講 [備考] さらに、発音：「新出語句 (p. 50)」「補足語句 (p. 51)」と「表現」の練習・書取を行う。 第7課「退院おめでとう」の復習。 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを相互に言えるようにする。さらに「チャレンジ (p. 54)」をグループワークで行う。</p> <p>第14講 [備考] また、次回授業の準備：p. 52-53のドリルを完成する。 第1課～第7課の総復習と「自己紹介」の練習を行う。 [到達目標]第1課～第7課のまとめ (p. 55-60)を総括する。</p> <p>第15講 [備考] 「自己紹介文」について発音・音読練習をおこなう。 第1課～第7課で身につけた中国語をつかい「自己発表」を行う。 [到達目標] 自信をもって「自己紹介」できることが目標である。</p> <p>[備考] 評価と今後の学習のための助言を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>① 予習 (音声ファイルをダウンロードし、繰り返し聞くと効果は高い。日本語の発音と異なるの中国語音の微妙な違い、イントネーション (声調) に注意してシャドーイングを繰り返すと効果があります。</p> <p>② またシャドーイングと同時に書写 (ライティング) を習慣として行うと定着度は高いはずですが。「ドリル」を完成することも、頭に定着させるためには大切です。</p> <p>③ ピンイン、単語、例文などを音読しながら書写することにより定着度を高めることも出来ます。自分で時間の配分を考えながら実行することを習慣にすること、も高い効果を期待できます。「習慣」は人生を変えます!</p>
教科書	『協同学習で学ぶ医療系中国語会話』李偉・管虹共著、白帝社 (定価：2100円+税)
参考書	授業中に紹介する。
成績評価	平常点 (50%) と期末試験 (50%)。なお平常点には小テスト (複数回) の成績も算入する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 矢放 昭文 (ヤハナシ アキフミ) 大阪外国語大学大学院外国語学研究科東アジア語学 (中国語専攻) 修士 大阪大学大学院人文学研究科招聘研究員 文学修士、京都産業大学名誉教授</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業時間の前後に随時受け付ける。</p>
備考	

講義科目名称： 情報リテラシー

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>コンピュータとインターネットを利用した課題の遂行を通じ、様々なアプリケーションの使い分けに加えてデータサイエンスの基盤となるデータ整理のスキル獲得を目的とします。また、コンピュータとインターネットに絡んだ犯罪から身を守る知識の修得し、具体的に対処する方法について学びます。4年間の大学生活を送るに当たり必要なコンピュータスキルと犯罪に巻き込まれないための知識を修得し、実践できることを到達目標としています。</p> <p>ガイダンスには「必ず」出席して下さい。本学のシステムおよびメール等の学生生活に必要な事項について説明します。</p>		
授業計画	第1講	<p>ガイダンス、PCの基本操作、学内システムへのアクセス法</p> <p>[到達目標] 本学でのコンピュータ利用方法を知る コンピュータからメールが送受信できる 学修支援システムとmellyを利用できる 大学内で印刷を行う具体的な方法を理解する</p> <p>[備考] 入学時ガイダンスでの配布物（パスワードが記載された用紙）を必ず持参すること</p>	
	第2講	<p>基本操作の修得</p> <p>[到達目標] 電子レポートを提出できる 電子書類をコンピュータ上で適切に保存できる USBフラッシュメモリ等の外部デバイスの利用に対する注意点を理解する</p> <p>[備考] 必要に応じてUSBメモリーを持参すること（任意）</p>	
	第3講	<p>表計算①：関数の使い方と表計算ソフトの便利な機能</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトが使い、必要に応じてレイアウトを整えることができる 表計算ソフトを操作し、四則演算ができる 表計算ソフトで良く使う関数を使うことができる キーボードショートカットを活用できる</p> <p>[備考] 課題あり</p>	
	第4講	<p>表計算②：さまざまなグラフと表・数値の読み方</p> <p>[到達目標] グラフの特徴を理解し、活用することができる 種々のグラフ、表、数値を読み解くことができる データに対して適切なグラフを作成することができる</p> <p>[備考] 課題あり</p>	
	第5講	<p>表計算③：さまざまな関数の利用</p> <p>[到達目標] 引数の概念を理解する “条件分け”の関数を適用することができる “抽出”の関数を適用することができる</p> <p>[備考] 課題あり</p>	
	第6講	<p>表計算④：復習と演習</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトを利用し学修した内容を独力で実践できる</p> <p>[備考] 課題あり</p>	
	第7講	<p>表計算⑤：表計算を用いたデータ整理と表示法のテストおよび解説</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトを独力で使いこなすことができる</p> <p>[備考] 表計算ソフトを用いたテストを実施する</p>	
	第8講	<p>情報倫理とネットセキュリティ</p> <p>[到達目標] ITリテラシーおよび情報倫理として適切な事柄を示すことができる ネットのビジネスマナー、アカウントとパスワードの意味、悪意のあるプログラムとその対策について知識を修得する</p> <p>[備考] 講義時間内に情報倫理に関するwebテストを実施 NOA出版の教科書にて事前に学修しておくこと</p>	
	第9講	<p>文書表現の実践：文章表現の実践とルーブリックによる自己評価</p>	

	<p>[到達目標] Word等の文書作成ソフトを利用し、自力でレポート課題に取り組むことができる 指定された条件をレポートに適用できる [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第10講 ビジュアル表現の実践：プレゼンテーションの実践とルーブリックによる自己評価</p> <p>[到達目標] PowerPoint等のプレゼンテーションソフトを利用し、自力でプレゼン資料を作成できる 指定された条件を適用できる [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第11講 デジタル環境を利用したレポート相互評価の実践</p> <p>[到達目標] 客観的視点をもって他者の文章を精査することができる 自身の評価を文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の利点と欠点について考察する [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第12講 デジタル環境を利用したプレゼン資料相互評価の実践</p> <p>[到達目標] 客観的視点をもって他者の資料を精査することができる 自身の評価を文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の集約と共有の方法について考察する [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第13講 記録とデータ</p> <p>[到達目標] 記録の必要性を理解する データの種類を理解する cloud環境で利用できる仕組みを活用してポートフォリオ作成を体験する [備考] 課題あり</p> <p>第14講 データベースとその意義</p> <p>[到達目標] データベースとは何かを説明できる 情報を活用するためのデータ取得について考える プログラミングとは何かを知る スクリプトを用いてデジタル処理の動作を体験する [備考] 課題あり</p> <p>第15講 機械学習の基本</p> <p>[到達目標] 機械学習とは何かを説明できる 社会の中で機械学習がどのように活用されているかを知る [備考] 課題あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義で必要となる用語や操作手順を事前に調べ、まとめておいて下さい(30分程度)。必要に応じて復習を行い、コンピュータスキルの獲得に努めて下さい(30分程度)。第10講では情報倫理に関する小テストを実施しますので、「情報倫理ハンドブック」を事前に熟読し、理解を深めて下さい。
教科書	「情報倫理ハンドブック」(noa出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	評価割合は授業内課題40%、情報倫理に関するwebテスト10%、表計算テスト50%とします。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 17:30-20:00 (木曜日以外の平日)</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」:◎-2, ○-3 「科目ナンバー」: HJ-1-LI9-RS-S-1 講義資料および課題は授業専用のホームページにて提供します(別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置します。

講義科目名称： 医療情報学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 医療システムから出力されるデジタルデータの取り扱いを想定し、実際に取得したデータを使って表計算ソフトを利用した四則演算・データ解析・統計学の手法を活用したデータ処理を実践することで、データを正しく判断できる力を養います。また、医療情報の新しい展開として期待されるウェアラブルデバイスなどIoTの現状について、医療情報収集における課題やセキュリティ対策などを踏まえて調査し、今後のデータ活用のあり方を考えます。</p> <p>【到達目標】 ・医療情報システムから出力されるデータを正しく把握するための統計学の基礎知識を修得する。 ・医療システムについて理解し、診療情報を含めた医療情報の流れなどの仕組みと医療情報のあり方および医療データの利活用について理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1講 統計学の概念 [到達目標] 基本的な統計用語について説明できる 仮説検定の概念を理解する 数字の性質を理解し、尺度水準を用いた分類ができる [備考] 課題あり</p> <p>第2講 統計手法の理解 [到達目標] パラメトリック・ノンパラメトリックの違いを説明できる 対応の有無について理解し、判別することができる 適切な統計手法を選択できる [備考] 課題あり</p> <p>第3講 グラフを使った多様な表現方法とデータ処理 [到達目標] グラフで表現できる事項を理解する データの可視化において必要となる「正しいグラフの選択」ができる データ処理上の誤りを指摘することができる 複合グラフの読み取りができる [備考] 課題あり</p> <p>第4講 実務における統計 [到達目標] 推計統計と記述統計の違いを理解する 統計が必要となる場面を想定し、どのような技術を身につける必要があるのか考察する データをグラフや表で表現することができる データに即した統計的表現を選択することができる [備考] 課題あり</p> <p>第5講 統計処理の実践 [到達目標] 統計用語について説明できる グラフと表および数値の読み方と使い方が適切に行える データに即した統計手法を選択することができる 独力でデータの統計処理を実施できる [備考]</p> <p>第6講 統計領域の理解度テストをする 医療情報システムとデータベース [到達目標] 医療システムの仕組みを理解する 病院内の医療情報と電子カルテについて、医療情報システムのメリット・デメリットおよび個人情報保護の仕組みについて説明できる [備考] レポートあり</p> <p>第7講 IoT技術と医療の新しい展開 [到達目標] 医療用デバイスの意義と問題点について、情報を集めることができる 多岐にわたるデバイスから得られるデータがどのように収集され、活用されているのかを理解する IoTが医療や社会にもたらす変化について考察する [備考] レポートあり</p>

	<p>第8講 医療の産業化とAIの活用</p> <p>[到達目標] 新しい時代の医療とデータの関係について考察する 医療データの社会的な活用状況について調査し、AIの関わりについて知る</p> <p>[備考] レポートあり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：講義に使用するHPを参考にして各講義で必要となる用語や操作手順をまとめましょう。(120分程度) ・復習：講義内容および理解に時間を要した操作についてファイル等にまとめ、次回以降の躓き解消に努めるとともに、講義開始時に実施する確認テストに解答できるようにして下さい。(120分程度) ・講義をやむを得ず欠席した場合は必ず欠席した講義内容を確認し、演習問題にチャレンジして下さい。 ・webブラウザのブックマークやリンクの活用、フォルダを利用したファイル整理など、必要な情報は各自でまとめ、併せてコンピュータスキルの獲得に努めましょう。
教科書	特に指定しない
参考書	活用事例でわかる!統計リテラシー (noa出版) 医療・保健学のためのやさしい統計学 (金原出版)
成績評価	評価割合は試験60%、課題40%とします。 試験は選択式の問題を解答し、統計学的な判断力を評価します。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員の基本情報</p> <p>担当教員名 : ○ 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 17:30-20:00 (木曜日以外の平日)</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-3 「科目ナンバー」 : HJ-1-LI10-ES-L-0 講義資料および課題は授業専用のHPにて提供します(別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置します。

講義科目名称： 生命倫理

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
伊藤 博康			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	医療の担い手としての医療従事者（看護師）には、高度な医療・看護の技術だけでなく、患者様の心と向き合い、その尊厳を保障するために高い人権意識と倫理観が求められる。看護師を目指す学生に分かりやすく講義をする。		
授業計画	第1講	生命倫理の流れ 看護の倫理 現代の医療倫理 [到達目標]生命倫理の流れを理解し、説明できる。 [備考] 教科書1ページから12ページ	
	第2講	人工妊娠中絶 選別出産と減数手術 [到達目標]生命を絶つことを理解し、説明できる。 [備考] 教科書47ページから63ページ	
	第3講	脳死と臓器移植 [到達目標]死と生について理解し、説明できる。 [備考] 教科書78ページから97ページ	
	第4講	安楽死と尊厳死 [到達目標]安楽死と尊厳死について理解し、説明できる。 [備考] 教科書78ページから97ページ	
	第5講	医療と宗教 [到達目標]医療と宗教について理解し、説明できる。 [備考] 教科書98ページから106ページ	
	第6講	ターミナルケアからエンド・オブ・ライフケアへと死の臨床 [到達目標]生と死のケアについて理解し、説明できる。 [備考] 教科書117ページから137ページ	
	第7講	インフォームド・コンセント [到達目標]インフォームド・コンセントについて理解し、説明できる。 [備考] 教科書139ページから163ページ	
	第8講	医療と法と倫理そして医療倫理の今後・まとめ [到達目標]守秘義務と医療事故について理解し、説明できる。 [備考] 教科書165ページから183ページ	
授業時間外の学習（準備学習等）について	・ 授業計画の備考に記載している教科書の指定ページの予習と復習（各2時間以内）をすること。 ・ 保健・医療・福祉に関するニュースに注視し、特に関心がある事項については、記録し問題意識を持つようにすること。		
教科書	生命倫理への招待（改訂6版） 著者 塩野寛 清水恵子 発行者 南山堂（ISBN 978-4-525-52016-8）		
参考書	厚生労働白書（最新版） 厚生労働省編 （ISBN 978-4-86579-384-0）		
成績評価	本試験80% 平常点 10% 出席点 10%		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 伊藤 博康（非常勤講師） 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : hiro0404yasu@yahoo. co. jp オフィスアワー : 授業終了後		
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-4，○-2		
	全国紙（朝日・読売・産経・日経）の中から一紙、朝刊を毎日読む習慣をつけるよう努力しましょう。大学生として教養とコミュニケーション力を高めましょう。		

講義科目名称： 医療概論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
北小路 博司			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目の目標は、医学・医療及び社会とのかかわりについて、考え、理解するための基礎知識を習得し、医療人としての資質を身につけることであり、そのために医学、医療に関連する基本用語を理解し、また医学・医療の現状および問題点などについて幅広く学習する。</p> <p>具体的には、医療の歴史、健康の概念、医の倫理、医療の質と安全性、医療事故と医療者の責任、QOLとヘルスプロモーション、医療と経済、EBMと補完代替医療などについて理解を深める。上記を踏まえ、生命倫理、医療倫理の諸問題について考える基礎力を身につけることを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン～医療の歴史 INTROクシヨンとして医療概論で学ぶことの概要と意義を説明する。その後医療の歴史についてテキストに基づいて説明しスライドを用いて補足する。</p> <p>第2回 医療と健康の概念 医療および健康の概念について説明する。特にWHOによる健康の定義について重点的に解説し、理解させる。</p> <p>第3回 医の倫理とバイオエシックス 医療従事者の倫理観について概説する。また医療技術や遺伝子工学の進歩とともにクローズアップされたバイオエシックスについても解説する。配布テキストによる説明とスライドによる補足説明。</p> <p>第4回 医療の質と安全性 医療の質の現状や評価について解説する。また医療事故の概要と防止策についても説明する。配布テキストとスライドにより補足説明する。医療者の責任と医療訴訟について、概要を説明し、実例やデータをもとに解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第5回 QOLとヘルスプロモーション 健康の概念について再確認するとともに、生活の質（QOL）の考え方について解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第6回 医療と経済 医療費と医療保険制度の概要について概説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第7回 EBMとCAM EBM(エビデンスに基づく医療)と補完代替医療(CAM)について概説する。配布資料とスライドを利用する。</p> <p>第8回 まとめ(評価含む)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>初回講義で配布されるテキストを中心に復習してください。</p> <p>配布資料・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習90分)、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習90分)。</p>
教科書	なし(講義でプリントを配布します)
参考書	「医療概論」 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社
成績評価	出席日数は、3/5以上を受験資格とし、60点以下の者は、追・再試験を実施する。
担当教員の基本情報	<p>担当者 : 北小路博司 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 講義終了後</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-3</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
長尾 淳彦			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	本科目では柔道整復師の職業倫理の模範となる「医の倫理」について理解を深め、社会的な役割や責任について個人が行動を律する基準・範囲について学修する。また、医療者としてのモラルを身に付けることの大切さを学修する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・医の倫理について ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言など医の倫理に関する知識を学ぶ。 【到達目標】 ヒポクラテスの誓いについて理解する。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第2回 インフォームド・コンセントについて インフォームド・コンセントの成り立ち、意義などの知識を学ぶ。 セカンドオピニオンについての知識を学ぶ。 【到達目標】 インフォームド・コンセントについて理解する。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第3回 医療人としてのモラルについて ハラスメント・社会人のモラルに関する知識を学ぶ。 【到達目標】 医療人としてのモラルを習得する。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第4回 医療費・療養費について 現状の医療制度・療養費についての知識を学ぶ。 【到達目標】 柔道整復師が扱う療養費の仕組みについて理解する。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第5回 受領委任払い制度・柔道整復師の保険請求について 受領委任払い・柔道整復師の保険請求についての知識を学ぶ。 【到達目標】 受領委任払い・保険請求の仕組みについて理解する。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第6回 柔道整復師の職業倫理について 柔道整復師としての職業倫理についての知識を学ぶ。 【到達目標】 架空請求・水増し請求などの違反行為について学ぶ。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第7回 まとめ（評価含む） 本授業で行った内容について評価・まとめを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業時毎に配布する資料に授業内で理解出来ない部分を記載して次の授業までに自習（約90分程度）または教員に聞き、理解する。
教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（監修）川渕孝一・長尾淳彦 医歯薬出版株式会社
参考書	教員作成資料
成績評価	出席基準を充たした者に筆記試験(100%)を行い評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：長尾淳彦 メールアドレス： オフィスアワー：授業終了時
備考	整形外科病院、整骨院での臨床経験をもとに授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1 ○-4

講義科目名称： 柔道 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
小川 豊清			
配当学科：柔道整備学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 投技・固技の基本的な動きが身につく。 2. 相手を尊重する態度や協力して練習ができる。 3. 柔道衣の管理や柔道場の安全を確かめるなど、健康や安全に留意する態度がとれる。 4. 礼法・受け身の重要性が充分理解できる。 5. 審判規定が理解できる。 6. 柔道の歴史、柔道の理念、審判規定に準じた服装態度、礼法、受け身を理解し、国家試験問題に対応できる能力を身につける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 学習の取り組み方や方針が理解できる。 ※柔道衣がないので、スポーツウェアを持参してください。 1) 柔道の概要（歴史や理念）が理解できる。 2) 礼法（立礼、座礼）ができる。</p> <p>第2回 柔道衣の着方・柔道の概要・礼法・受け身・立技・固技 1) 柔道衣を正しく着ることができる。 2) 礼法（立礼、座礼）ができる。 3) 後受け身ができる。 4) 立技（大外刈）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 5) 固技（袈裟固）の理解ができる。</p> <p>第3回 礼法・受け身・立技・固技 1) 横受け身ができる。 2) 礼法（立礼、座礼）ができる。 3) 立技（背負投）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 4) 固技（縦四方固）の理解ができる。</p> <p>第4回 礼法・受け身・立技・固技 1) 前回り受け身ができる。 2) 立技（一本背負投）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 固技（上四方固）の理解ができる。</p> <p>第5回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（大腰）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 固技（逆袈裟固）の理解ができる。</p> <p>第6回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（体落）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 固技（肩袈裟固）の理解ができる。</p> <p>第7回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（払腰）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 絞技の掛け方が理解ができる。</p> <p>第8回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（膝車）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 絞技の掛け方が理解できる。</p> <p>第9回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（支釣込足）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第10回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（大内刈）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第11回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（小内刈）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 絞技・関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第12回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（手技・腰技・足技）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 固技の掛け方と逃げ方のグループワークが体験できる。</p> <p>第13回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（手技・腰技・足技）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。</p>

	<p>第14回 3) 固技の掛け方と逃げ方のグループワークが体験できる。 まとめ 1) 礼法（立礼、座礼）ができる。 2) 受け身ができる。 3) 立技（手技・腰技・足技）に対する投げ方と受け方（受け身）ができる。 4) 固技の掛け方ができる。</p> <p>第15回 3) 固技の掛け方と逃げ方のグループワークが体験できる。 まとめ、理解度チェック 1) 礼法（立礼、座礼）ができる。 2) 受け身ができる。 3) 立技（手技・腰技・足技）に対する投げ方と受け方（受け身）ができる。 4) 固技の掛け方ができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	柔道場で準備学習を希望する者は小川まで申し出てください。なお、体調管理に十分留意してください。また、怪我防止のためにも、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。各実技タイトルに関連する内容を事前学習し（予習35分）、実技で学修した内容をまとめてください（復習35分）。
教科書	なし
参考書	1) 学校柔道 全国高等学校体育連盟柔道部 著（史資料出版協会）
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席（欠席は3回まで可とする）。実際の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキルの習熟度、取り組みの意欲・態度、教員・学生間のコミュニケーションの有無、スポーツマンシップの実践などを加味して、授業最終日に実技テストを行い総合評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小川 豊清 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : t_ogawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 丸山 佳代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_maruyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	20年間における、ジュニアから社会人までの柔道指導の実務経験をもとに、実技指導を行う。
	HJ-1-JJ3-RS-P-1

講義科目名称： 柔道Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
小川 豊清			
配当学科：柔道整備学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 投技・固技の基本的な動きが身につく。 2. 相手を尊重する態度や協力して練習ができる。 3. 柔道衣の管理や柔道場の安全を確かめるなど、健康や安全に留意する態度がとれる。 4. 礼法・受け身の重要性が充分理解できる。 5. 立技・固技の乱取（実践練習）を通して柔道の楽しさを実感しながら身体精神が鍛錬できる。 6. 柔道の歴史、柔道の理念、審判規定に準じた服装態度、礼法、受け身を理解し、国家試験問題に対応できる能力を身につける。 		
授業計画	第1回	オリエンテーション 1) 学習の取り組み方や方針が理解できる。 2) 柔道衣を正しく着ることができる。 3) 礼法（立礼、座礼）ができる。 4) 受け身ができる。	
	第2回	投技・固技の対人的技能Ⅰ 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 立技の応用が理解できる。	
	第3回	投技・固技の対人的技能Ⅰ 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 立技の応用が理解できる。	
	第4回	投技・固技の対人的技能Ⅰ 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 立技の応用が理解できる。	
	第5回	投技・固技の対人的技能Ⅱ 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 相手の動きに合わせて立技ができる。	
	第6回	投技・固技の対人的技能Ⅱ 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 相手の動きに合わせて立技ができる。	
	第7回	投技・固技の対人的技能Ⅱ 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 相手の動きに合わせて立技ができる。	
	第8回	投技・固技の対人的技能Ⅲ 1) 受け身ができる。 2) 相手の動きに合わせて固技ができる。 3) 固技の乱取ができる。	
	第9回	投技・固技の対人的技能Ⅲ 1) 受け身ができる。 2) 相手の動きに合わせて固技ができる。 3) 固技の乱取ができる。	
	第10回	投技・固技の対人的技能Ⅲ 1) 受け身ができる。 2) 相手の動きに合わせて固技ができる。 3) 固技の乱取ができる。	
	第11回	投技・固技の対人的技能Ⅳ 1) 受け身ができる。 2) 立技の乱取ができる。 3) 固技の乱取ができる。	
	第12回	投技・固技の対人的技能Ⅳ 1) 受け身ができる。 2) 立技の乱取ができる。 3) 固技の乱取ができる。	
	第13回	投技・固技の対人的技能Ⅳ 1) 受け身ができる。 2) 立技の乱取ができる。 3) 固技の乱取ができる。	
	第14回	理解度チェック	

	<p>1) 受け身・礼法ができる。 2) 総合的な動きができる。</p> <p>第15回 まとめ、理解度チェック</p> <p>1) 受け身・礼法ができる。 2) 総合的な動きができる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	柔道場で準備学習を希望する者は小川まで申し出てください。なお、体調管理に十分留意してください。また、怪我防止のためにも、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。各実技タイトルに関連する内容を事前学習し(予習35分)、実技で学修した内容をまとめてください(復習35分)。
教科書	なし
参考書	学校柔道 全国高等学校体育連盟柔道部 著(史資料出版協会)
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席(欠席は3回まで可とする)。実際の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキルの習熟度、取り組みの意欲・態度、教員・学生間のコミュニケーションの有無、スポーツマンシップの実践などを加味して、授業最終日に実技テストを行い総合評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小川 豊清 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : t_ogawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 丸山 佳代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_maruyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	20年間における、ジュニアから社会人までの柔道指導の実務経験をもとに、実技指導を行う。
	HJ-1-JJ4-RS-P-1

講義科目名称： 解剖学 I (骨)

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
田中 健吾			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	科目ナンバー HJ-1-MM1-RS-L-1
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】解剖学とは、ヒトの身体の構築を学ぶ学問である。人体の構造の理解と知識は、柔道整復学はもとより医学領域において基盤となる知識であり、疾病を学ぶ上でも必要不可欠である。この授業では主に骨学を学ぶ。</p> <p>【到達目標】外傷や疾患を学ぶうえで必要な骨の構造や名称について理解し説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・骨学(1) 【到達目標】解剖学用語、人体の区分、骨学総論、骨の連結について説明できる。 【授業形態】講義 (アクティブラーニングなし) 【備考】ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第2回 骨学(2) 【到達目標】骨の連結(関節)、脊柱(脊柱の構成、頸椎)について説明できる。 【授業形態】講義 (アクティブラーニングなし) 【備考】ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第3回 骨学(3) 【到達目標】脊柱(胸椎、腰椎、仙骨、尾骨、脊柱の彎曲、脊柱の連結)について説明できる。 【授業形態】講義 (アクティブラーニングなし) 【備考】ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第4回 骨学(4) 【到達目標】胸郭、胸骨、肋骨、上肢骨の構成について説明できる。 【授業形態】講義 (アクティブラーニングなし) 【備考】ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第5回 まとめ① 【到達目標】1～4回の学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 【授業形態】筆記試験(50分) + 講義(アクティブラーニングあり)(40分)</p> <p>第6回 骨学(5) 【到達目標】肩甲骨、鎖骨、上腕骨について説明できる。 【授業形態】講義 (アクティブラーニングなし) 【備考】ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第7回 骨学(6) 【到達目標】橈骨、尺骨、手の骨、上肢の関節について説明できる。 【授業形態】講義 (アクティブラーニングなし) 【備考】ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第8回 まとめ② 【到達目標】5～7回の学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 【授業形態】筆記試験(50分) + 講義(アクティブラーニングあり)(40分)</p> <p>第9回 骨学(7) 【到達目標】下肢骨の構成、寛骨、骨盤について説明できる。 【授業形態】講義 (アクティブラーニングなし) 【備考】ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第10回 骨学(8) 【到達目標】大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨について説明できる。 【授業形態】講義 (アクティブラーニングなし) 【備考】ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第11回 骨学(9) 【到達目標】足の骨、足弓、下肢の関節について説明できる。 【授業形態】講義 (アクティブラーニングなし) 【備考】ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第12回 まとめ③ 【到達目標】9～11回の学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 【授業形態】筆記試験(50分) + 講義(アクティブラーニングあり)(40分)</p> <p>第13回 骨学(10) 【到達目標】脳頭蓋の構成、顔面頭蓋の構成、頭蓋冠、頭蓋底について説明できる。 【授業形態】講義 (アクティブラーニングなし) 【備考】ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第14回 骨学(11) 【到達目標】頭蓋前面、頭蓋側面、頭蓋泉門、顎関節について説明できる。 【授業形態】講義 (アクティブラーニングなし) 【備考】ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第15回 総合復習 【到達目標】1～14回の学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 【授業形態】筆記試験(50分) + 講義(アクティブラーニングあり)(40分)</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	事前に各講義項目を調べて当該ページを熟読する。(予習35分) 講義ノートを整理し、授業で配布した確認テストを行う。(復習35分)
教科書	「解剖学」改定第2版, 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修, 岸 清・石塚 寛 編, 医歯薬出版
参考書	「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」 監訳 坂井建雄、松村讓児
成績評価	各章の終了後に筆記試験を行いその結果にて評価する。評価の配分は中間試験3回(20%×3回)、期末試験(40%)とする。
担当教員の基本情報	担当教員名: 田中健吾 研究室: 8号館4F 講師室 メールアドレス: k_tanaka@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 水曜日16:40~17:30
備考	施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	資料・課題の配布はClassroomを利用します。パソコン、スマートフォン、タブレット端末などのインターネットへ接続できる機器を用意してください。
	この科目は、原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがあります。
	当該教科とディプロマ・ポリシーとの関連 : ◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
吉元 拓也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			
解剖Ⅱシラバス.aspx			

授業目標	<p>[授業内容]解剖学Ⅱでは筋学について講義します。筋学では筋の種類（骨格筋、心筋、平滑筋）、構造、起始、停止、神経、作用等について講義します。筋学を含む解剖学はあらゆる科目の基盤となっています。基礎の力をつけて臨床に繋げてほしいです。解剖学に強い柔道整復師になって患者と接してほしいです。柔道整復師になる人間として自覚と覚悟を持って授業に臨んでください。</p> <p>[到達目標]</p> <p>1 骨学があつての筋学ですので起始、停止、神経、作用が理解できるように学びましょう。</p> <p>2 筋学と臨床を結び付けて説明できるようにしましょう。</p> <p>3 柔道整復師国家試験における筋学範囲の出題形式や問題内容を理解し正解を導く事ができるようにしましょう。</p>		
授業計画	第1回	授業の進め方、注意点及び筋の種類、構造について 到達目標]筋の種類、構造について説明できる [授業形態]講義形式で行います [備考] P70-76までの予習をし、授業に臨みましょう	
	第2回	頭部及び頸部の筋 到達目標]頭部及び頸部の筋について説明できる [授業形態]講義形式で行い、適宜ペアワークを実施する [備考] P76-81までの予習をし、授業に臨みましょう	
	第3回	頭部及び頸部の筋 到達目標]頭部及び頸部の筋について説明できる [授業形態]講義形式で行い、適宜ペアワークを実施する [備考] P76-81までの予習をし、授業に臨みましょう	
	第4回	胸部の筋 到達目標]胸部の筋について説明できる [授業形態]講義形式で行い、適宜ペアワークを実施する [備考] P81-84までの予習をし、授業に臨みましょう	
	第5回	腹部の筋 到達目標]腹部の筋について説明できる [授業形態]講義形式で行い、適宜ペアワークを実施する [備考] P85-88までの予習をし、授業に臨みましょう	
	第6回	背部の筋 到達目標]背部の筋について説明できる [授業形態]講義形式で行い、適宜ペアワークを実施する [備考] P88-92までの予習をし、授業に臨みましょう	
	第7回	上肢帯の筋 到達目標]上肢帯の筋について説明できる [授業形態]講義形式で行い、適宜ペアワークを実施する [備考] P92-95までの予習をし、授業に臨みましょう	
	第8回	上腕の筋 到達目標]胸部の筋について説明できる [授業形態]講義形式で行い、適宜ペアワークを実施する [備考] P95-97までの予習をし、授業に臨みましょう	
	第9回	前腕の筋 到達目標]前腕の筋について説明できる [授業形態]講義形式で行い、適宜ペアワークを実施する [備考] P97-102までの予習をし、授業に臨みましょう	
	第10回	手の筋 到達目標]手の筋について説明できる [授業形態]講義形式で行い、適宜ペアワークを実施する [備考] P102-107までの予習をし、授業に臨みましょう	
	第11回	下肢帯の筋 到達目標]下肢帯の筋について説明できる [授業形態]講義形式で行い、適宜ペアワークを実施する [備考] P107-111までの予習をし、授業に臨みましょう	
	第12回	大腿の筋 到達目標]大腿の筋について説明できる [授業形態]講義形式で行い、適宜ペアワークを実施する [備考] P111-114までの予習をし、授業に臨みましょう	
	第13回	下腿の筋 到達目標]下腿の筋について説明できる [授業形態]講義形式で行い、適宜ペアワークを実施する [備考] P114-118までの予習をし、授業に臨みましょう	
	第14回	足の筋	

	<p>到達目標]足の筋について説明できる [授業形態]講義形式で行い、適宜ペアワークを実施する [備考] P118-P122までの予習をし、授業に臨みましょう</p> <p>第15回 試験 第1回から第14回までの講義内容について試験する</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>筋学は一つの筋を理解するだけでもたくさんの情報(起始、停止、神経、作用)を覚える必要があります。そのため、予習と復習が重要となります。</p> <p>(1) 予習: 講義予定範囲内についての予習を行ってください。また漢字の読み方についても事前に調べておいてください。</p> <p>(2) 復習: 授業ごとに小テストを行います。小テストの不正解箇所、授業内容の疑問、不明な点について調べてください。解消が出来ない場合、mellyにて質問をしてください。</p>
教科書	<p>「解剖学」第2版 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 岸 清・石塚 寛 編 医歯薬出版 7800円(+税)</p> <p>※シラバス中の教科書のページはこの書籍のページを示す。講義はこの図書に沿って進める。また、講義内容の理解を深めるため、プリント資料を配ることがある。</p>
参考書	特になし。
成績評価	定期試験(100%)で評価します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉元拓也 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : t_yoshimoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日15:40-17:20</p>
備考	<p>山形大学医学部解剖学第一(形態構造医学)講座に在籍してました。その経験をもとに解剖学について講義します。</p>
	<p>「当該教科とディプロマ・ポリシーとの関連」: ◎-1 科目ナンバー: HJ-1-MM2-RS-L-1</p>
	<p>この科目は、原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業、に変更されることがある。少なくとも1回の授業はオンデマンドにする。アクティブラーニング有</p>

講義科目名称： 解剖学Ⅲ（脈管）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
渡邊 康晴、児玉香菜絵			
柔道整復学科	30時間	対面講義＋遠隔講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	<p>人体の構造の理解と知識は、柔道整復学はもとより医学領域において基盤となる知識であり、疾病を学ぶ上でも必要不可欠である。解剖学Ⅲ（脈管）では、主に脈管学を学ぶ。外傷や疾患を学ぶうえで必要な心臓、血管系の走行や構造についての理解を深め、患者を診る際に重要な人体について説明できるようにすることを授業目標とする。加えて解剖学基礎と内分泌学についても学ぶ。脈管学と内分泌学は、毎年必ず国家試験に出題される。このため当該の科目では、授業と自学学修を通して国家試験の水準まで『知識の理解し、定着させること』をゴールとし、この水準を単位認定の基準とする。</p>
授業計画	<p>第1講 解剖学基礎 細胞 [到達目標] 方向と位置を示す用語、細胞（細胞小器官、DNAとRNA、細胞分裂）と上皮組織について説明できる。 [備考] 教科書P.1～P.8を学修する。授業の冒頭にガイダンスを実施する。</p> <p>第2講 解剖学基礎 組織 [到達目標] 組織学（支持組織、筋組織）、脈管学概論（肺循環と体循環）について説明できる。 [備考] 教科書P.8～P.14を学修する。</p> <p>第3講 脈管 総論・心臓1 [到達目標] 血管の基本構造、動脈と静脈の特徴、心臓の位置と形態について説明できる。 [備考] 教科書P.123～P.127を学修する。</p> <p>第4講 脈管 心臓2 [到達目標] 心臓の弁、心臓の構造、刺激伝導系、心臓の脈管、心臓壁の構造について説明できる。 [備考] 教科書P.127～P.131を学修する。</p> <p>第5講 脈管 動脈系1 [到達目標] 大動脈の区分、頭頸部の動脈について説明できる。 [備考] 教科書P.131～P.135を学修する。</p> <p>第6講 脈管 動脈系2 [到達目標] 大脳動脈輪、上肢の動脈について説明できる。 [備考] 教科書P.135～P.139を学修する。</p> <p>第7講 脈管 動脈系3 [到達目標] 胸大動脈、腹大動脈について説明できる。 [備考] 教科書P.139～P.142を学修する。</p> <p>第8講 脈管 動脈系4 [到達目標] 骨盤部の動脈、下肢の動脈について説明できる。 [備考] 教科書P.142～P.145を学修する。</p> <p>第9講 脈管 静脈系1 [到達目標] 心臓上部の静脈、頭部の静脈、上肢の皮静脈、奇静脈系、腹部の静脈について説明できる。 [備考] 教科書P.145～P.148を学修する。</p> <p>第10講 脈管 静脈系2・胎児循環 [到達目標] 門脈系、下肢の皮静脈、胎児循環について説明できる。 [備考] 教科書P.148～P.152を学修する。</p> <p>第11講 脈管 リンパ系 [到達目標] リンパの定義、リンパ本幹に注ぐリンパ、リンパ性器官（リンパ節、脾臓、胸腺）について説明できる。 [備考] 教科書P.152～P.156を学修する。</p> <p>第12講 内臓 内分泌系1 [到達目標] 内分泌の働き、下垂体、松果体の内分泌について説明できる。 [備考] 教科書P.207～P.210を学修する。</p> <p>第13講 内臓 内分泌系2 [到達目標] 甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓の内分泌について説明できる。 [備考] 教科書P.211～P.215を学修する。</p> <p>第14講 国家試験過去問題の解説 [到達目標] 過去の国家試験問題の解説内容を理解でき、類似問題が解答できる。 [備考] ビデオオンデマンドにて実施予定。</p> <p>第15講 解剖学基礎、脈管および内分泌 総括 [到達目標] 解剖学基礎、脈管および内分泌についての設問に60%以上解答できる。 [備考] 試験実施後に問題の解答解説を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>高校までの学習と比べ、授業進行は極めて速い。事前に教科書を読み、次回の授業範囲の下調べを行う（予習15分）。授業は、人体の構造を「理解する」ことに重点をおく。</p>

	<p>授業後の復習として、授業内容を学修用ノートにまとめ直すことなどにより理解を深め、講義内容の記憶定着につとめる（復習15分）。</p> <p>Google classroom上にある小テスト（国家試験の過去問題）を行い、知識の理解と定着を確認する（演習15分）。</p>
教科書	<p>「解剖学」改定第2版，公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修，岸 清・石塚 寛 編，医歯薬出版 7800円（+税）。</p> <p>※シラバス中の教科書のページはこの書籍のページを示す。講義はこの図書に沿って進める。</p> <p>また、講義内容の理解を深めるため、pdfの学修用ノートをGoogle classroom上にアップロードする。</p>
参考書	<p>「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 F.H. マティーン M.J. テイモンズ M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳 西村書店 7800円（+税）</p> <p>※講義で主に使うものではないが、より高度な学びを目指す場合には、本書を使うことを推奨する。</p>
成績評価	<p><配点></p> <p>期末試験（80%）：国家試験の過去問題と同等水準の問題を解答する。</p> <p>小テスト（20%）：過去の国家試験問題を小テスト（何回でも受験可）として活用し、それぞれの小テストの最高点を評価する。また、講義内で確認テストを実施する。</p> <p><評価基準></p> <p>90点以上 たいへん優れている</p> <p>80点～89点 優れている</p> <p>70点～79点 良い成績である</p> <p>60点～69点 概ね水準に達している</p> <p>59点以下 不合格</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：渡邊 康晴 研究室：附属病院1階MRセンター（6号館1階事務所にいることが多い） メールアドレス：nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：Mellyでの質問等を推奨する 質問推奨時間 平日の9:00-19:00</p> <p>担当教員名：児玉 香菜絵 研究室：8号館4階 メールアドレス：k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：</p>
備考	<p>実務経験の有無：専門学校、大学にて当該領域の教育経験、MRIを用いた人体構造にかかる研究実績、鍼灸師としての臨床経験を有する。これらの経験を基に講義を行う。</p>
	<p>授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1 科目ナンバー：HJ-1-MM3-RS-L-1</p>
	<p>講義の一部でアクティブラーニング形式の学修（グループワーク）を行う。</p>
	<p>この科目は、原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがある。教室内は一つの社会と解釈される。医療人になるとの目的を忘れることなく、他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を強く期待する。</p>

講義科目名称： 解剖学IV（内臓）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
渡邊 康晴、吉元 拓也			
柔道整復学科	30時間	講義＋対面	
添付ファイル			

授業目標	<p>人体の構造の理解と知識は、柔道整復学はもとより医学領域において基盤となる知識であり、疾病を学ぶ上でも必要不可欠である。解剖学IV（内臓）では、主に内臓学を学ぶ。外傷や疾患を学ぶうえで必要な内臓の構造についての理解を深め、患者を診る際に重要な人体について説明できるようにすることを目標とする。内臓学は必ず国家試験に出題され、その問題数も多い。このため当該の科目では、授業と自学学修を通して国家試験の水準まで『知識の理解し、定着させること』をゴールとし、この水準を単位認定の基準とする。</p>
授業計画	<p>第1講 解剖学基礎 発生学・内臓 消化器系1 [到達目標] 発生学、内臓学総論、消化器の種類と構造（口腔）について説明できる。 [備考] 教科書P.14～P.17、P.157～P.163を学修する。</p> <p>第2講 内臓 消化器系2 [到達目標] 消化器の種類と構造（咽頭、食道、胃）について説明できる。 [備考] 教科書P.163～P.167を学修する。</p> <p>第3講 内臓 消化器系3 [到達目標] 消化器の種類と構造（小腸、大腸）について説明できる。 [備考] 教科書P.167～P.171を学修する。</p> <p>第4講 内臓 消化器系4 [到達目標] 消化器の種類と構造（肝臓と胆道、膵臓、腹膜）について説明できる。 [備考] 教科書P.171～P.177を学修する。</p> <p>第5講 内臓 呼吸器系1 [到達目標] 呼吸器（外鼻、鼻腔と副鼻腔、喉頭）について説明できる。 [備考] 教科書P.177～P.181を学修する。</p> <p>第6講 内臓 呼吸器系2 [到達目標] 呼吸器（気管および気管支、肺、胸膜、縦隔）について説明できる。 [備考] 教科書P.181～P.186を学修する。</p> <p>第7講 内臓 泌尿器系1 [到達目標] 泌尿器（腎臓）について説明できる。 [備考] 教科書P.186～P.190を学修する。</p> <p>第8講 内臓 泌尿器系2 [到達目標] 泌尿器（尿管、膀胱、尿道）について説明できる。 [備考] 教科書P.190～P.192を学修する。</p> <p>第9講 内臓 生殖器系1 [到達目標] 男性生殖器（精巣と精巣上体、精管）について説明できる。 [備考] 教科書P.192～P.195を学修する。</p> <p>第10講 内臓 生殖器系2 [到達目標] 男性生殖器（精囊、付属生殖器、陰茎と陰囊）について説明できる。 [備考] 教科書P.195～P.197を学修する。</p> <p>第11講 内臓 生殖器系3 [到達目標] 女性生殖器（卵巣、卵管）について説明できる。 [備考] 教科書P.197～P.200を学修する。</p> <p>第12講 内臓 生殖器系4 [到達目標] 女性生殖器（子宮、膣）について説明できる。 [備考] 教科書P.200～P.202を学修する。</p> <p>第13講 内臓 生殖器系5 [到達目標] 女性生殖器（外陰部、会陰、胎盤）について説明できる。 [備考] 教科書P.202～P.205を学修する。</p> <p>第14講 消化器系、呼吸器系、泌尿器系および生殖器系 演習 [到達目標] 第1講から第13講まで範囲の国家試験の過去問題を60%以上解答できる。 [備考] ビデオオンデマンドによるe-learningにより実施する。国家試験の過去問題の解答と解説を行う。</p> <p>第15講 消化器系、呼吸器系、泌尿器系および生殖器系 総括 [到達目標] 発生学、消化器系、呼吸器系、泌尿器系および生殖器系についての設問に60%以上解答できる。 [備考] 試験実施後に問題の解答解説を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>高校までの学習と比べ、授業進行は極めて速い。事前に教科書を読み、次回の授業範囲の下調べを行う（予習20分）。</p> <p>授業は、人体の構造を「理解する」ことに重点をおく。</p> <p>授業後の復習として、授業内容を学修用ノートにまとめ直すことなどにより理解を深め、講義内容の記憶定着につとめる（復習20分）。</p> <p>Google classroom上にある小テスト（国家試験の過去問題）を行い、知識の理解と定着を確認する（演習20分）。</p>
教科書	「解剖学」改定第2版，公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修，岸 清・石塚 寛 編，医歯薬出版 7800円

	(+税)。 ※シラバス中の教科書のページはこの書籍のページを示す。講義はこの図書に沿って進める。 また、講義内容の理解を深めるため、pdfの学修用ノートをGoogle classroom上にアップロードする。
参考書	「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 F.H. マティーニ M.J. テイモンズ M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳 西村書店 7800円 (+税) ※講義で主に使うものではないが、より高度な学びを目指す場合には、本書を使うことを推奨する。
成績評価	<配点> 期末試験 (80%) : 国家試験の過去問題と同等水準の問題を解答する。 小テスト (20%) : 過去の国家試験問題を小テスト (何回でも受験可) として活用し、それぞれの小テストの最高点を評価する。また、講義内で確認テストを実施する。 <評価基準> 90点以上 たいへん優れている 80点~89点 優れている 70点~79点 良い成績である 60点~69点 概ね水準に達している 59点以下 不合格
担当教員の基本情報	担当教員名 : 渡邊 康晴 研究室 : 附属病院1階MRセンター (6号館1階事務所にいることが多い) メールアドレス : nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 16:30-17:30 担当教員名 : 吉元 拓也 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : t_yoshimoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :
備考	実務経験の有無: 専門学校、大学にて当該領域の教育経験、MRIを用いた人体構造にかかる研究実績、鍼灸師としての臨床経験を有する。これらの経験を基に講義を行う。
	授業とディプロマ・ポリシーとの関連: ◎-1 科目ナンバー: HJ-1-MM4-RS-L-1
	アクティブラーニング形式の学修は行わない。
	この科目は、原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがある。教室内は一つの社会と解釈される。医療人になるとの目的を忘れることなく、他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を強く期待する。

講義科目名称： 生理学 I（植物生理 I）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
林 知也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問である。この授業では、正常な機能のうち、細胞の働き、血液の働き、循環を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必須なものとなる。</p> <p>到達目標：生体の基本構成要素である細胞の働き、ガスや栄養素を運搬する血液の働き、血液やリンパ液を生体の隅々まで運ぶ仕組み等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 生理学とは？ 到達目標：「生体の機能とは？」，および生理学の学修に必要な単位の接頭辞・ローマ数字の書き方・最低限知っておいて欲しい単語について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：配布プリントを熟読すること。</p> <p>第2回 生理学の基礎(1) 到達目標：細胞膜、物質移動について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第3回 生理学の基礎(2) 到達目標：細胞内小器官について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第4回 生理学の基礎(3) 到達目標：生体の恒常性、体液の区分と組成について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第5回 血液(1) 到達目標：血漿と各血球の機能について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第6回 血液(2) 到達目標：止血の仕組みと血液型について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第7回 血液(3) 到達目標：生体防御である免疫について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第8回 循環(1) 到達目標：心臓の構造とはたらき、心臓の電気的活動について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第9回 循環(2) 到達目標：心電図、心周期について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第10回 循環(3) 到達目標：弾性血管、抵抗血管、交換血管、容量血管、リンパ系の特徴と機能について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第11回 循環(4) 到達目標：循環調節の局所性調節、神経性調節、液性調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第12回 循環(5) 到達目標：収縮期血圧、拡張期血圧、脈圧、平均血圧、血圧の測定法について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第13回 まとめ(1) 到達目標：第1～7回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 授業形態：演習形式（事前に配布した課題に対してフィードバックを行う。アクティブラーニングあり） 備考：事前に提示された課題に対して、各自説明できるように準備すること。</p> <p>第14回 まとめ(2)</p>

	<p>到達目標：第8～12回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 授業形態：演習形式（事前に配布した課題に対してフィードバックを行う。アクティブラーニングあり） 備考：事前に提示された課題に対して、説明できるように準備すること。 まとめ (3) 到達目標：第1～12回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 授業形態：筆記試験（60分）＋演習（アクティブラーニングあり）（30分） 備考：事前に提示された課題に対して、説明できるようにすること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習45分） 各講義後、配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。（復習45分）
教科書	「生理学(改訂第4版)」 全国柔道整復学校協会 監修, 彼末一之 編集 (南江堂)
参考書	※必要に応じて、自分に合うと思えるものを選ぶこと。 「はじめの一步のイラスト生理学(改訂第2版)」 照井直人 編 (羊土社) 「イラストでまなぶ生理学(第4版)」 田中越郎 著 (医学書院) 「人体の正常構造と機能(改訂第4版)」 坂井建雄・河原克雅 編集 (日本医事新報社) 「マンガでわかる基礎生理学」 田中 越郎 監修 (オーム社) 「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂3版」 岡田隆夫 編集 (メジカルビュー社) 「生理学テキスト(第9版)」 大地陸男 著 (文光堂)
成績評価	【期末試験】評価割合：90% 第1回目から12回目までの講義内容の理解度を期末試験によって評価する。 【確認小テスト】評価割合：10% 各講義ごとに確認小テストを行う。確認小テストはGoogle formにて実施するため、Google Classroomからアクセスする。確認小テストは何度でも受験でき、各々の小テストの最高点を評価として用いる。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階林(知) 教授室 オフィスアワー : 月曜日16:30～17:30
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・実務経験：あり。大学医学部の生理学教室に勤務していた。その実務経験をもとに生理学の講義を行う。 ・この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1 ・科目ナンバー：「HJ-1-MM8-RS-L-1」 ・Classroomの活用：授業資料の配布、確認小テストへのアクセス

講義科目名称： 生理学Ⅱ（植物生理Ⅱ）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
林 知也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問である。この授業では、正常な機能のうち、呼吸、腎機能、代謝、消化・吸収、体温調節、カルシウム代謝を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必須なものとなる。</p> <p>到達目標：酸素と二酸化炭素のガス交換の仕組み、体液の恒常性維持に必須の腎機能、摂取した栄養を代謝して生命活動を営むしくみ、生体を構成する物質やエネルギー源となる物質を得るための消化吸收、産熱と放熱のバランスをとる体温調節、血中カルシウム濃度の調節等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 呼吸の生理(1) 到達目標：換気の仕組み、肺容量について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第2回 呼吸の生理(2) 到達目標：ガス交換、呼吸調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第3回 尿の生成と排泄(1) 到達目標：糸球体濾過、再吸収、分泌、クリアランスについて説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第4回 尿の生成と排泄(2) 到達目標：排尿のしくみ、腎臓による体液の調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第5回 栄養と代謝(1) 到達目標：各栄養素、エネルギー代謝について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第6回 栄養と代謝(2) 到達目標：三大栄養素の代謝、エネルギー代謝量の測定方法、エネルギー代謝の内訳について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第7回 消化と吸収(1) 到達目標：消化器系の概要、消化管運動、消化液分泌、消化管機能の調節、口腔の作用、嚥下について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第8回 消化と吸収(2) 到達目標：胃の作用、小腸の作用（膵液と胆汁）、ビリルビン代謝について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第9回 消化と吸収(3) 到達目標：大腸の作用、肝臓の働き、三大栄養素の消化について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第10回 消化と吸収(4) 到達目標：三大栄養素の吸収、ビタミン、水、ミネラル等の吸収について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第11回 体温とその調節(1) 到達目標：体内の温度分布、体温の生理的変動、産熱、放熱について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第12回 体温とその調節(2)、および骨の生理 到達目標：体温調節、気候順化、発熱、うつ熱、カルシウム代謝の調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第13回 まとめ(1) 到達目標：第1～6回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 授業形態：演習形式（事前に配布した課題に対してフィードバックを行う。アクティブラーニングあり）</p>

	<p>備考：事前に提示された課題に対して、各自説明できるように準備すること。</p> <p>まとめ(2)</p> <p>到達目標：第8～12回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。</p> <p>授業形態：演習形式（事前に配布した課題に対してフィードバックを行う。アクティブラーニングあり）</p> <p>備考：事前に提示された課題に対して、説明できるように準備すること。</p> <p>まとめ(3)</p> <p>到達目標：第1～12回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。</p> <p>授業形態：筆記試験（60分）＋演習（アクティブラーニングあり）（30分）</p> <p>備考：事前に提示された課題に対して、説明できるようにすること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習45分） 各講義後、配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。（復習45分）
教科書	「生理学(改訂第4版)」 全国柔道整復学校協会 監修, 彼末一之 編集 (南江堂)
参考書	※必要に応じて、自分に合うと思えるものを選ぶこと。 「はじめの一步のイラスト生理学(改訂第2版)」 照井直人 編 (羊土社) 「イラストでまなぶ生理学(第4版)」 田中越郎 著 (医学書院) 「人体の正常構造と機能(改訂第4版)」 坂井建雄・河原克雅 編集 (日本医事新報社) 「マンガでわかる基礎生理学」 田中 越郎 監修 (オーム社) 「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂3版」 岡田隆夫 編集 (メジカルビュー社) 「生理学テキスト(第9版)」 大地陸男 著 (文光堂)
成績評価	【期末試験】評価割合：90% 第1回目から12回目までの講義内容の理解度を期末試験によって評価する。 【確認小テスト】評価割合：10% 各講義ごとに確認小テストを行う。確認小テストはGoogle formにて実施するため、Google Classroomからアクセスする。確認小テストは何度でも受験でき、各々の小テストの最高点を評価として用いる。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階林(知)教授室 オフィスアワー : 月曜日16:30～17:30
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・実務経験：あり。大学医学部の生理学教室に勤務していた。その実務経験をもとに生理学の講義を行う。 ・この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1 ・科目ナンバー：「HJ-1-MM9-RS-L-1」 ・Classroomの活用：授業資料の配布，確認小テストへのアクセス

講義科目名称： 生理学Ⅲ（動物生理Ⅰ）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
田中 健吾			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	科目ナンバー：HJ-1-MM10-RS-L-1
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問である。この授業では、正常な機能のうち、筋、神経を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必須なものとなる。</p> <p>到達目標：筋肉の収縮のメカニズムや収縮の特性、神経の基本的機能として興奮の発生とその伝導・伝達、内臓機能を調節する自律神経の働き、運動機能にかかわる反射と運動を司る中枢、脳の高次機能等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・筋の生理(1) 【到達目標】 骨格筋の構造について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第2回 筋の生理(2) 【到達目標】 骨格筋の機能について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第3回 筋の生理(3) 【到達目標】 心筋・平滑筋の性質について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第4回 まとめ① 【到達目標】 第1回～3回の学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 【授業形態】 筆記試験（50分）＋講義（アクティブラーニングあり）（40分）</p> <p>第5回 神経の生理(1) 【到達目標】 静止膜電位について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第6回 神経の生理(2) 【到達目標】 活動電位について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第7回 神経の生理(3) 【到達目標】 シナプスにおける興奮伝達について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第8回 神経の生理(4) 【到達目標】 脳の高次機能について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第9回 神経の生理(5) 【到達目標】 内臓機能の調節について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第10回 まとめ② 【到達目標】 第5～9回の学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 【授業形態】 筆記試験（50分）＋講義（アクティブラーニングあり）（40分）</p> <p>第11回 運動の生理(1) 【到達目標】 運動と支配神経について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第12回 運動の生理(2) 【到達目標】 脊髄反射について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第13回 運動の生理(3) 【到達目標】 脳幹反射について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第14回 運動の生理(4) 【到達目標】 高次運動機能について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p>

	<p>第15回 まとめ③</p> <p>【到達目標】 11～14回の学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。</p> <p>【授業形態】 筆記試験（50分）＋講義（アクティブラーニングあり）（40分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>事前に各講義項目を調べて当該ページを熟読する。（予習35分）</p> <p>講義ノートを整理し、授業で配布した確認テストを行う。（復習35分）</p>
教科書	「生理学(改訂第4版)」 全国柔道整復学校協会 監修, 彼末一之 編集 (南江堂)
参考書	<p>※必要に応じて、自分に合うと思えるものを選ぶこと。</p> <p>「イラストでまなぶ生理学(第3版)」田中越郎 著 (医学書院)</p> <p>「人体の正常構造と機能(改訂第3版)」坂井建雄・河原克雅 編集 (日本医事新報社)</p> <p>「はじめの一步のイラスト生理学(改訂第2版)」 照井直人 編 (羊土社)</p>
成績評価	各章の終了後に筆記試験を行いその結果にて評価する。評価の配分は筋の生理(25%)、神経の生理(45%)、運動の生理(30%)とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：田中健吾</p> <p>研究室：8号館4F 講師室</p> <p>メールアドレス：k_tanaka@tch.meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：水曜日16:40～17:30</p>
備考	<p>施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p> <p>資料・課題の配布はClassroomを利用します。パソコン、スマートフォン、タブレット端末などのインターネットへ接続できる機器を用意してください。</p> <p>この科目は、原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがあります。</p> <p>この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1</p>

講義科目名称： 生理学Ⅳ（動物生理Ⅱ）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
田中 健吾			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	科目ナンバー：HJ-1-MM11-RS-L-1
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問である。この授業では、正常な機能のうち、感覚、内分泌、生殖を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必須なものとなる。</p> <p>到達目標：外界の変化や生体内部の状態を把握する感覚機能、生体の恒常性維持に必要な内分泌器官の働き、種族維持に必要な生殖機能等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・内分泌(1) 【到達目標】 ホルモンについて説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第2回 内分泌(2) 【到達目標】 視床下部ホルモン、下垂体のホルモンについて説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第3回 内分泌(3) 【到達目標】 甲状腺のホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモンについて説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第4回 内分泌(4) 【到達目標】 副腎髄質ホルモン、腎臓のホルモン、膵臓のホルモンについて説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第5回 内分泌(5) 【到達目標】 男性ホルモン、女性ホルモンについて説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第6回 まとめ① 【到達目標】 1第～5回の学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 【授業形態】 オンデマンド</p> <p>第7回 生殖(1) 【到達目標】 男性生殖器の機能について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第8回 生殖(2) 【到達目標】 女性生殖器の機能について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第9回 まとめ② 【到達目標】 1～8回の学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 【授業形態】 筆記試験（50分）+講義（アクティブラーニングあり）（40分）</p> <p>第10回 感覚の生理(1) 【到達目標】 感覚の特性について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第11回 感覚の生理(2) 【到達目標】 特殊感覚(視覚)について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第12回 感覚の生理(3) 【到達目標】 特殊感覚(聴覚・平衡覚)について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第13回 感覚の生理(4) 【到達目標】 特殊感覚(味覚・嗅覚)、体性感覚について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第14回 感覚の生理(5) 【到達目標】 痛覚について説明できる。 【授業形態】 講義（アクティブラーニングなし） 【備考】 ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第15回 まとめ③</p>

	<p>【到達目標】 第10～14回の学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。</p> <p>【授業形態】 筆記試験（50分）＋講義（アクティブラーニングあり）（40分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>事前に各講義項目を調べて当該ページを熟読する。（予習35分）</p> <p>講義ノートを整理し、授業で配布した確認テストを行う。（復習35分）</p>
教科書	「生理学(改訂第4版)」 全国柔道整復学校協会 監修, 彼末一之 編集 (南江堂)
参考書	<p>※必要に応じて、自分に合うと思えるものを選ぶこと。</p> <p>「イラストでまなぶ生理学 (第3版)」 田中越郎 著 (医学書院)</p> <p>「人体の正常構造と機能(改訂第3版)」 坂井建雄・河原克雅 編集 (日本医事新報社)</p> <p>「はじめの一歩のイラスト生理学 (改訂第2版)」 照井直人 編 (羊土社)</p>
成績評価	中間と期末に筆記試験を行いその結果にて評価する。評価の配分は内分泌(45%)、生殖(10%)、感覚の生理(45%)とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：田中健吾</p> <p>研究室：8号館4F 講師室</p> <p>メールアドレス：k_tanaka@tch.meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：水曜日16:40～17:30</p>
備考	施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	資料・課題の配布はClassroomを利用します。パソコン、スマートフォン、タブレット端末などのインターネットへ接続できる機器を用意してください。
	この科目は、原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがあります。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1

講義科目名称： 整復学総論 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
児玉 香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義・対面	
添付ファイル			

授業目標	<p>【 授業概要 】 本科目は、柔道整復に関する導入として、骨組織損傷についての基礎知識を理解することを目的とする。教科書前半部分の総論が学習の中心である。この知識が、今後どのようなかたちで必要になるのか理解するために、一部、各論についての解説も導入する。 授業範囲：柔道整復学（理論編）改訂第7版 P20～46</p> <p>【 到達目標 】 主に骨折に関する基礎知識を学び、今後の臨床科目を習得するための基盤構築を目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション① 【内容・到達目標】 整復学総論 I における授業のながれを説明し学習計画をたてる。 柔道整復について理解を深める。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ・授業までに教科書P20～46について一読しておくこと。</p> <p>第2回 オリエンテーション② 【内容・到達目標】 柔道整復師について理解を深め自分がなりたい柔道整復像をイメージすることができる。 柔道整復学とはなにか説明することができる。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ・柔道整復学とはなにか調べてどのようなことができるのか考える。</p> <p>第3回 骨の形態と機能、骨損傷の概説について 【内容・到達目標】 骨の形態と機能、骨損傷の概説について理解する。 骨の形態と機能 P20～22 骨損傷の概説 P22～23</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ・教科書P20～23について予習し、授業終了後に復習しておくこと。 ・アクティブラーニングの実施：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第4回 骨折の分類について① 【内容・到達目標】 骨折の分類について理解する。 骨折の分類について① P23～26</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ・教科書P23～26について予習し、授業終了後に復習しておくこと。 ・アクティブラーニングの実施：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第5回 骨折の分類について② 【内容・到達目標】 骨折の分類について理解する。 骨折の分類について② P27～31</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ・教科書P27～31について予習し、授業終了後に復習しておくこと。 ・アクティブラーニングの実施：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第6回 骨折の症状について① 【内容・到達目標】 骨折の症状について理解する。 骨折の局所症状について P31～33</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ・教科書P31～33について予習し、授業終了後に復習しておくこと。 ・アクティブラーニングの実施：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第7回 骨折の症状について② 【内容・到達目標】 骨折の症状について理解する。 骨折の全身症状について P34～35</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ・教科書P34～35について予習し、授業終了後に復習しておくこと。 ・アクティブラーニングの実施：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第8回 骨折の合併症について① 【内容・到達目標】 骨折の合併症（併発症・続発症）について理解する。</p>

	<p>骨折の合併症について P34~36</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) ・教科書P34~36について予習し、授業終了後に復習しておくこと。 ・アクティブラーニングの実施：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>骨折の合併症について②。</p> <p>【内容・到達目標】 骨折の合併症(後遺症)について理解する。 骨折の合併症について P36~39</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) ・教科書P36~39について予習し、授業終了後に復習しておくこと。 ・アクティブラーニングの実施：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>小児骨折について</p> <p>【内容・到達目標】 小児骨折について理解する。 小児骨折について P39~41</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) ・教科書P39~41について予習し、授業終了後に復習しておくこと。 ・アクティブラーニングの実施：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>高齢者骨折について</p> <p>【内容・到達目標】 高齢者骨折について理解する。 高齢者骨折について P41~42</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) ・教科書P41~42について予習し、授業終了後に復習しておくこと。 ・アクティブラーニングの実施：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>骨折の癒合と治癒 ①</p> <p>【内容・到達目標】 骨損傷の治癒機序を理解し、骨癒合経過について説明することができる。 骨折の癒合日数について P.42 骨折の治癒過程について P.43~45</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) ・教科書P42~45について予習し、授業終了後に復習しておくこと。 ・アクティブラーニングの実施：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>骨折の癒合と治癒 ②</p> <p>【内容・到達目標】 骨損傷の治癒機序を理解し、骨癒合経過とその予後について説明することができる。 骨折の治癒過程について P.43~45 骨折の予後について P.45~46</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) ・教科書P43~46について予習し、授業終了後に復習しておくこと。 ・アクティブラーニングの実施：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>総復習</p> <p>【内容・到達目標】 第1回~第12回までの範囲を関連付ける。 今までの講義内容を関連付け説明することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) ・教科書P20~46について予習し、授業終了後に復習しておくこと。 ・アクティブラーニングの実施：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>まとめおよび評価(筆記試験)</p> <p>【内容・到達目標】 第1回~第13回までの範囲について理解する。 第1回~第13回までの範囲について総合的に評価(筆記試験)を行う。 試験終了後、問題解説(講義形式)を行う。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) ・教科書P20~46について理解し、授業終了後に復習しておくこと。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	授業までに前回分の復習を行う。 また、各授業開始時に前回の試験範囲について確認テストを行うので、次回の授業までに予習・復習しておくこと。 教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習90分)し、講義で学修した内容をまとめること(復習90分)。
教科書	1. 柔道整復学(理論編)改訂第7版 社団法人柔道整復学校協会 南江堂
参考書	1. 柔道整復学(実技編)改訂第2版 社団法人柔道整復学校協会 南江堂
成績評価	出席基準(欠席届などの手続き重視)を満たした者に対して学期末試験を実施する。 学期末試験90%程度、授業毎の提出物10%程度で総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：児玉 香菜絵 研究室；8号館4F講師室 メールアドレス：k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後
備考	授業開始から30分以内を遅刻とする。以降の入室は欠席とする。遅刻は累積2回で欠席1回とする。 ①各学科の資格に関する実務経験の有無：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2

	ナンバリング : HJ-1-JT1-RS-L-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
村迫 萌生			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【 講義概要 】 柔道整復師の業務範囲である脱臼と軟部組織損傷の基本的事項を学習する。そのため、この科目は柔道整復学各論で各部位に発生する脱臼や軟部組織損傷を学習する前の導入科目となっている。本講義では、関節構造や軟部組織損傷の復習を行いながら講義を行う。</p> <p>【 到達目標 】 柔道整復学各論を学習する前段階として、脱臼および軟部組織損傷時の基本的状態を理解する。また、各々の外傷が発生した際の初期鑑別が可能となる。</p>
授業計画	<p>1回目 関節の構造と機能 到達目標：関節と軟部組織の概説を理解し、関節の構造と機能を説明することができる。 講義内容：p. 46～p. 50 備考：解剖学の教科書で関節の構造を理解しておくこと。 アクティブラーニング：有・各グループで講義内容の範囲の問題を作成し、解説を行う。</p> <p>2回目 関節部損傷の概説 到達目標：関節部損傷の発生機序を理解し、説明することができる。 講義内容：p. 50～p. 52 備考：骨損傷の発生機序の復習を行いながら講義を実施する。 アクティブラーニング：有・各グループで講義内容の範囲の問題を作成し、解説を行う。</p> <p>3回目 脱臼の概説と各種分類Ⅰ 到達目標：脱臼の概説と各種分類を理解し、説明することができる。 講義内容：p. 52～p. 55 備考：骨折の分類の復習を行いながら講義を実施する。 アクティブラーニング：有・各グループで講義内容の範囲の問題を作成し、解説を行う。</p> <p>4回目 脱臼の各種分類Ⅱ 到達目標：脱臼の各種分類を理解し、説明することができる。 講義内容：p. 55～p. 56 備考：骨折の分類及び3回目の講義内容の復習を行いながら講義を実施する。 アクティブラーニング：有・各グループで講義内容の範囲の問題を作成し、解説を行う。</p> <p>5回目 脱臼の症状と整復障害 到達目標：脱臼発生時にみられる特有の症状及び整復障害を理解し、説明することができる。 講義内容：p. 56～p. 59、p. 92 備考：骨折の固有症状及び一般外傷症状の復習を行いながら講義を実施する。 アクティブラーニング：有・各グループで講義内容の範囲の問題を作成し、解説を行う。</p> <p>6回目 関節構成組織損傷 到達目標：関節構成組織の損傷発生時の症状とその後の治癒課程を理解し、説明することができる。 講義内容：p. 59～p. 64 備考：骨折及び5回目の講義の復習を行いながら講義を実施する。 アクティブラーニング：有・各グループで講義内容の範囲の問題を作成し、解説を行う。</p> <p>7回目 筋の構造と機能 到達目標：筋の構造と機能を理解し、説明することができる。 講義内容：p. 64～p. 66 備考：解剖学の教科書で筋の基本構造を復習すること。 アクティブラーニング：有・各グループで講義内容の範囲の問題を作成し、解説を行う。</p> <p>8回目 筋損傷の概説と各種分類、治癒機序 到達目標：筋損傷の概説と各種分類、治癒機序を理解し、説明することができる。 講義内容：p. 66～p. 71 備考：7回目の講義の復習を行いながら講義を実施する。 アクティブラーニング：有・各グループで講義内容の範囲の問題を作成し、解説を行う。</p> <p>9回目 腱の損傷 到達目標：腱の構造と機能を理解し、外傷発生時の基本事項を説明することができる。 講義内容：p. 71～p. 76 備考：解剖学の教科書で腱の基本構造を復習すること。 アクティブラーニング：有・各グループで講義内容の範囲の問題を作成し、解説を行う。</p> <p>10回目 末梢神経損傷の概説と各種分類 到達目標：末梢神経損傷の概説と各種分類を理解し、説明することができる。 講義内容：p. 76～p. 80 備考：解剖学の教科書で末梢神経の基本構造を復習すること。 アクティブラーニング：有・各グループで講義内容の範囲の問題を作成し、解説を行う。</p> <p>11回目 末梢神経損傷の症状と治癒課程 到達目標：末梢神経損傷の症状と治癒課程を理解し、説明することができる。 講義内容：p. 80～p. 82 備考：10回目の講義の復習を行いながら講義を実施する。</p>

	<p>1 2 回目 アクティブラーニング：有・各グループで講義内容の範囲の問題を作成し、解説を行う。 治療法（骨折の整復法） 到達目標：骨折の整復を行う際の各種整復法を理解し、説明することができる。 講義内容：p. 88～p. 92 備考：教科書を熟読し、不明な点は授業内に理解できるように努める。 アクティブラーニング：有・各グループで講義内容の範囲の問題を作成し、解説を行う。</p> <p>1 3 回目 治療法（脱臼の整復法と軟部組織損傷の初期処置） 到達目標：骨折の整復を行う際の各種整復法を理解し、説明することができる。 講義内容：p. 92～p. 95 備考：教科書を熟読し、不明な点は授業内に理解できるように努める。 アクティブラーニング：有・各グループで講義内容の範囲の問題を作成し、解説を行う。</p> <p>1 4 回目 まとめ 到達目標：本講義で教授した内容を理解し、脱臼及び軟部組織損傷時の基本的状態を把握し、説明できる。 評価内容：1～13回目までの講義内容に関する整理・復習を行う。 授業内容：全講義内容の総復習を行う。 アクティブラーニング：有・各グループで講義内容の範囲の問題を作成し、解説を行う。</p> <p>1 5 回目 評価（筆記試験）+講義 到達目標：本講義で教授した内容を理解し、脱臼及び軟部組織損傷時の基本的状態を把握し、外傷発生時に鑑別を行うことが可能である。 評価内容：1～13回目までの講義内容に関する筆記試験を実施する。 授業内容：筆記試験実施後の解説及び再度全講義内容の総復習を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義受講前までに講義受講範囲を熟読しておくこと。 講義受講後の不明点は次回の講義までに教員に質問または参考書等で調べておくこと。 また、シラバスを参照し【備考】欄を確認し復習しておくこと。 講義受講に必要な予習および復習の時間は各90分とする。
教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」 社団法人柔道整復学校協会 南江堂
参考書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 社団法人柔道整復学校協会 南江堂 「解剖学 改訂第2版」 社団法人柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社
成績評価	出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たした者に対して筆記試験を実施する。 また、各講義で小テストを実施する。 小テスト（10%）+筆記試験（90%）
担当教員の基本情報	担当教員名：村迫 萌生 研究室：8号館4F 講師室 メールアドレス：m_murasako@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後
備考	村迫 萌生：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2 科目ナンバー：HJ-1-JT2-RS-L-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
田中 健吾			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義(オンデマンド)	科目ナンバー HJ-1-JT4-RS-L-1
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】臨床に必要な人体の現状を把握するため、解剖学の知識の取得、正常な状態の骨・筋の形と位置を学ぶ。</p> <p>【到達目標】正常な状態の骨・筋の形と位置について理解し説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・解剖学概説 【到達目標】解剖学用語・体表区分について説明できる。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第2回 骨学(1) 【到達目標】骨の名称(上肢)について説明できる。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第3回 骨学(2) 【到達目標】骨の名称(上肢)について説明できる。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第4回 骨学(3) 【到達目標】骨の名称(下肢)・関節について説明できる。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第5回 骨学(4) 【到達目標】体表解剖(下肢)について説明できる。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第6回 骨学(5) 【到達目標】体表解剖(体幹)について説明できる。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第7回 骨学(6) 【到達目標】体表解剖(体幹)について説明できる。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第8回 骨学(7) 【到達目標】体表解剖(頭部)について説明できる。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第9回 骨学(8) 【到達目標】体表解剖(頭部)について説明できる。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第10回 骨学(9) 【到達目標】体表解剖(頭部)について説明できる。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第11回 生態観察(1) 【到達目標】体表から触知できる骨について説明できる。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第12回 生態観察(2) 【到達目標】体表から触知できる筋について説明できる。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第13回 生態観察(3) 【到達目標】拍動を触れる動脈について説明できる。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第14回 生態観察(4) 【到達目標】神経の圧痛点について説明できる。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第15回 まとめ 【到達目標】1～14回の学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。</p>

	【授業形態】筆記試験（50分）＋講義（アクティブラーニングあり）（40分）
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前に各講義項目を調べて当該ページを熟読する。（予習35分） 授業内での疑問点は次回までに担当教員に質問する、調べる等の復習を行う。（復習35分）
教科書	「解剖学」改定第2版，公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修，岸清・石塚寛 編，医歯薬出版
参考書	「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」 監訳 坂井建雄、松村譲児
成績評価	評価の配分は課題(56%)、期末試験(44%)とする。 課題は提出をもって受講完了(出席)とし、期限後の提出・不正行為による提出は認めない。
担当教員の基本情報	担当教員名：田中健吾 研究室：8号館4F 講師室 メールアドレス：k_tanaka@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日16:40～17:30
備考	施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	資料・課題の配布はClassroomを利用します。パソコン、スマートフォン、タブレット端末などのインターネットへ接続できる機器・環境を用意してください。
	この科目は、原則としてオンデマンド形式にて実施するが、適宜、対面授業に変更されることがあります。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
村迫 萌生			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 柔道整復師が臨床現場で使用する基本的な固定法や固定に使用する材料の特性を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 固定の目的や固定材料の特性を理解し、固定時に固定材料および固定法を選択することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 固定の概説 【到達目標】 固定の目的および固定材料の種類を理解する。 【授業内容】 教科書P. 1～P. 7 【アクティブラーニング有】 グループで講義内容に関する問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第2回 巻軸帯の基礎 【到達目標】 巻軸帯の基礎を理解する。 【授業内容】 教科書P. 8～P. 15 【アクティブラーニング有】 グループで講義内容に関する問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第3回 基本包帯法と冠名包帯法 【到達目標】 6つの基本包帯法と3つの冠名包帯法の特徴を理解する。 【授業内容】 教科書P. 16～P. 41 【アクティブラーニング有】 グループで講義内容に関する問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第4回 部位別包帯法 【到達目標】 身体部位の特徴から各部位に用いられる包帯法を理解する。 【授業内容】 教科書P. 42～P. 70 【アクティブラーニング有】 グループで講義内容に関する問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第5回 その他の固定法と固定材料の特性 【到達目標】 巻軸帯以外の固定法と固定（軟性）材料の特徴を理解する。 【授業内容】 教科書P. 71～P. 90 【アクティブラーニング有】 グループで講義内容に関する問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第6回 固定材料の特徴 【到達目標】 固定（硬性）材料の特徴を理解する。 【授業内容】 教科書P. 91～P. 119 【アクティブラーニング有】 グループで講義内容に関する問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第7回 その他の固定材料の特徴 【到達目標】 固定（熱可塑性、その他）材料の特徴を理解する。 【授業内容】 教科書P. 120～P. 150 【アクティブラーニング有】 グループで講義内容に関する問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第8回 まとめ 【到達目標】 固定および包帯学の基礎を理解し、各外傷ごとに使用すべき包帯・固定法を総論的に選択することができる。 【授業内容】 筆記試験による評価を行った後、全講義範囲の総復習を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	シラバスを参照し、次回の授業範囲の教科書を熟読する。また、授業での疑問点は次回の授業までに教員に質問する、調べる等の復習を行うこと。（各回の予習および復習に必要な時間は各100分程度）
教科書	「包帯固定学 改訂第2版」公益社団法人全国柔道整復学校協会 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」公益社団法人全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」公益社団法人全国柔道整復学校協会 南江堂
成績評価	授業の各回で小テストを実施する。 出席基準を満たした者に対して筆記試験を行い評価する。 小テスト（10%）＋筆記試験（90%）
担当教員の基本情報	保健医療学部 柔道整復学講座 村迫萌生 待機室：8号館4階講師室 メールアドレス：m_murasako@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後
備考	村迫萌生：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-5 科目ナンバー：HJ-1-JT6-RS-L-1
	基本的には対面授業を行うが、状況に応じて適宜オンデマンド授業を行う。

講義科目名称： 包帯学実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
沖 和久、吉元 拓也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習（一部オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	包帯・固定学総論で得た知識を基に、柔道整復師の施術の基本となる巻軸包帯や三角巾を用いた被覆包帯の技術を習得し、適切な施行をすることができるようになる。		
授業計画	第1講目	巻軸包帯の巻き方と注意事項、巻軸包帯の巻き戻しP. 8～P. 15 【到達目標】巻軸包帯の基本となる巻き方や巻き戻し方の技術を習得することができる。 【備考】教科書P. 8～P. 15 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。	
	第2講目	螺旋帯・蛇行帯（上肢帯・下肢帯） 【到達目標】各包帯法の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。 【備考】教科書P. 16～P. 17 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。	
	第3講目	折転帯（上肢帯・下肢帯） 【到達目標】折転帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。 【備考】教科書P. 17 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。	
	第4講目	亀甲帯（扇状帯）① 集合亀甲帯（肘関節・膝関節） 【到達目標】集合亀甲帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。 【備考】教科書P. 19 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。	
	第5講目	亀甲帯（扇状帯）② 離開亀甲帯（肘関節・膝関節） 【到達目標】離開亀甲帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。 【備考】教科書P. 19 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。	
	第6講目	亀甲帯（扇状帯）③ 集合・離開亀甲帯（足関節）、三節帯 【到達目標】上行麦穂帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。 【備考】教科書P. 62～P. 64 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。	
	第7講目	麦穂帯（人字帯・スパイカ帯）① 上行麦穂帯（手関節・足部） 【到達目標】上行麦穂帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。 【備考】教科書P. 20 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。	
	第8講目	評価①（実技試験） 【到達目標】第1講目～第7講目までに修得した知識と技術を適切に実施することが可能である。 【備考】各包帯法についての総復習と、実技試験を実施する。	
	第9講目	麦穂帯（人字帯・スパイカ帯）② 下行麦穂帯（手関節・足部） 【到達目標】下行麦穂帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。 【備考】教科書P. 20 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。	
	第10講目	麦穂帯（人字帯・スパイカ帯）③ 上行麦穂帯（肩関節） 【到達目標】上行麦穂帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。 【備考】教科書P. 20 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。	
	第11講目	麦穂帯（人字帯・スパイカ帯）④ 下行麦穂帯（肩関節） 【到達目標】下行麦穂帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。 【備考】教科書P. 20	

	<p>第12講目 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。 隻指帯・全指帯（手指部・足趾部） 【到達目標】各包帯法の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。 【備考】教科書P.53～P.54 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p> <p>第13講目 指頭包か帯・総指包か帯（手指部・足趾部） 【到達目標】各包帯法の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。 【備考】教科書P.54～P.55 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p> <p>第14講目 提肘三角巾 【到達目標】三角巾の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。 【備考】教科書P.77～P.78 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p> <p>第15講目 評価②（実技試験） 【到達目標】第9講目～第13講目までに修得した知識と技術を適切に実施することが可能である。 【備考】各包帯法についての総復習と、実技試験を実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	包帯実技は反復練習により修得されるものである。そのためシラバスを参考に、予習復習を行うように努める。 予習（45分）：シラバスの【備考】を参照し、教科書を精読し不明点は授業中に理解できるよう努める。 復習（45分）：各包帯施行時の注意点を再確認するとともに、授業で習得した技術の反復継続した練習を行う。
教科書	包帯固定学 改訂第2版：（社）全国柔道整復学校協会監修 南江堂 必要に応じてプリントを配布することがある（Google Classroomにてデータによる配布）。
参考書	柔道整復学・理論編 改訂第7版：（社）全国柔道整復学校協会監修 南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版：（社）全国柔道整復学校協会監修 南江堂
成績評価	成績評価は、出席基準を満たした者に対して、授業時間内に実技試験を行い評価する。 合格基準は、授業時の注意点や各包帯法について正しく施行することができた者とする。 原則として、授業を受講する際は、上下KCおよび名札を着用し、教科書、授業時の配布物（包帯・プリント等）を持参すること。 KCおよび名札を着用していない者や忘れ物については、成績評価の授業態度の項目から減点する。
担当教員の基本情報	担当教員名：沖 和久 研究室：8号館4F 講師室(沖) メールアドレス：k_oki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後 担当教員名：吉元 拓也 研究室：8号館4F 講師室(吉元) メールアドレス：t_yoshimoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後
備考	沖 和久：クリニックや施術所、スポーツ現場等での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 吉元拓也：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1 ○-5 科目ナンバー：HJ-1-JT29-RS-P-1
	この科目は原則として対面の実習形式にて実施するが、一部オンデマンド授業に変更されることがある。

講義科目名称： 固定学実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
沖 和久、吉元 拓也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習（一部オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	包帯学で得た知識を踏まえ、柔道整復で使用することの多い副子の作成や固定技術を中心に学習し理解を深める。		
授業計画	第1回	<p>基本包帯方法の復習</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】</p> <p>前期に学んだ基本包帯法を、正確に実践することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等)</p> <p>予習(45分)：自主練習しておくこと。</p> <p>復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p>	
	第2回	<p>クラーメル副子の作成</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】</p> <p>クラーメル副子の作成を通して、固定材についてその仕組みを理解することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等)</p> <p>予習(45分)：自主練習しておくこと。</p> <p>復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p>	
	第3回	<p>クラーメル副子の固定法</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】</p> <p>上肢ならびに下肢に対してクラーメル副子による固定を行うことができる。（上司の固定に際しては三角巾固定も併用して実施する）</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等)</p> <p>予習(45分)：自主練習しておくこと。</p> <p>復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p>	
	第4回	<p>厚紙副子と枕子の作成</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】</p> <p>厚紙副子と枕子の作成を通して、固定材についてその仕組みを理解することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等)</p> <p>予習(45分)：自主練習しておくこと。</p> <p>復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p>	
	第5回	<p>厚紙副子とクラーメル副子の固定</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】</p> <p>上肢に対して厚紙副子とクラーメル副子にて固定を行い、三角巾で堤肘することができる。</p> <p>上肢の基本的な固定方法 について理解し、実践することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等)</p> <p>予習(45分)：自主練習しておくこと。</p> <p>復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p>	
	第6回	<p>アルミシーネの作成と固定</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】</p> <p>手指に対してアルミシーネを合わせ、包帯により固定を行うことができる。</p> <p>その他、手指の固定方法について理解し、実践することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等)</p> <p>予習(45分)：自主練習しておくこと。</p> <p>復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p>	
	第7回	<p>石膏ギプスによるギプスシーネの作成</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】</p> <p>石膏ギプスの材質を理解し、ギプスシーネの作成を行うことができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等)</p> <p>予習(45分)：自主練習しておくこと。</p> <p>復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p>	
	第8回	<p>石膏ギプスによるギプスシーネの固定</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、</p>	

	<p>より適切な圧などを互いにフィードバックする。 【内容・到達目標】 第7回目の実習で作成したギブスシーネを用いて実際に固定することができる。 【備考】 (授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p> <p>第9回 テーピングの基本① 【アクティブラーニング】 有：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 【内容・到達目標】 テーピングの種類や適応について理解し、実践することができる。 【備考】 (授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p> <p>第10回 テーピングの基本② 【アクティブラーニング】 有：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 【内容・到達目標】 テーピングの種類や適応について理解し、実践することができる。 【備考】 (授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p> <p>第11回 キャストライトによるシーネの作成と固定① 【アクティブラーニング】 有：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 【内容・到達目標】 キャストライトによるシーネの作成を通して、その性質を理解することができる。 【備考】 (授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p> <p>第12回 キャストライトによるシーネの作成と固定② 【アクティブラーニング】 有：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 【内容・到達目標】 キャストライトによるシーネの作成を通して、その性質を理解することができる。 【備考】 (授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p> <p>第13回 熱可塑性固定材(ブライトン)によるシーネの作成と固定 【アクティブラーニング】 有：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 【内容・到達目標】 熱可塑性固定材(ブライトン)によるシーネの作成を通して、その性質を理解することができる。 【備考】 (授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p> <p>第14回 総復習 【アクティブラーニング】 有：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 【内容・到達目標】 第1回から第12回で行った内容の復習を行う。ペアで実技練習を行いながら、互いの包帯を評価し合い、それぞれの包帯施行技術が向上するように努める。 【備考】 (授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p> <p>第15回 評価(実技試験) これまでに学んだ項目について、実技試験による評価を行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	包帯実技は反復練習により修得されるものである。そのためシラバスを参考に、予習復習を行うように努める。 予習(45分)：シラバスから授業で行う範囲を確認し、教科書等を熟読し事前に理解できるように努める。 復習(45分)：授業で行った内容(走行や注意点など)を確認しながら、自主練習を行う。
教科書	「包帯固定学 改訂第2版」公益社団法人全国柔道整復学校協会 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」公益社団法人全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」公益社団法人全国柔道整復学校協会 南江堂
成績評価	成績評価は、出席基準を満たした者に対して、授業時間内に実技試験を行い評価する。 実習態度等も加味し総合評価とする。 授業中はKCと名札の着用を原則とし、着用していない場合は実習態度の項目から減点対象とする。
担当教員の基本情報	担当教員名：沖 和久 研究室：8号館4F 講師室 メールアドレス：k_oki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後 担当教員名：吉元 拓也 研究室：8号館4F 講師室 メールアドレス：t_yoshimoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後
備考	沖 和久：クリニックや施術所、スポーツ現場等での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。

	吉元拓也：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1 ○-5 科目ナンバー：HJ-1-JT30-RS-P-1
	この科目は原則として対面の実習形式にて実施するが、一部オンデマンド授業に変更されることがある。

講義科目名称： フィールドワーク実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康管理と体力向上を目的として、運動の知識を学ぶことができるようになる。 ・将来指導者になった際に、健康管理や健康づくりについて説明・指導ができるようになる。 ・自己で課題を見つけ解決できる能力を身につけることができる。
授業計画	<p>第1回目 体力と生活習慣について（概要） [到達目標] 自己の体力向上から生活習慣病の予防と改善のための運動実践を体験・理解できる。</p> <p>第2回目 体力を知る [達成目標] 自己の体力向上から生活習慣病の予防と改善のための運動実践を体験・理解できる。</p> <p>第3回目 ウォーミングアップとクールダウン・ストレッチング 達成目標] ウォーミングアップの方法・重要性について体験し理解できる。</p> <p>第4回目 ウォーミングアップとクールダウン・ストレッチング [達成目標] 運動後のクールダウンの重要性をストレッチングを実践し理解できる。</p> <p>第5回目 ウォーキング① [達成目標] 健康ウォーキング理論 ウォーキングの目的・効果・強度・頻度・注意事項・フォーム・スピードを体験理解できる。</p> <p>第6回目 ウォーキング② [達成目標] ウォーキングの運動量：時間×強度×回数/週を考え体験し理解できる。</p> <p>第7回目 ジョギング① [達成目標] ジョギングの目的・効果・強度・頻度・注意事項・フォーム・スピードを体験理解できる。</p> <p>第8回目 ジョギング② [達成目標] ジョギングの運動量：時間×強度×回数/週を考え体験し理解できる。</p> <p>第9回目 健康づくりの運動実践体験① [達成目標] 様々な健康づくりをグループで考え全体で体験理解できる。</p> <p>第10回目 健康づくりの運動実践体験② [達成目標] 対象別フィットネスプログラム（壮年（中年）のフィットネスプログラム）をグループで考え全体で体験理解できる。</p> <p>第11回目 健康づくりの運動実践体③ [達成目標] 対象別フィットネスプログラム（高齢者のフィットネスプログラム）をグループで考え全体で体験理解できる。</p> <p>第12回目 健康づくりの運動実践体④ [達成目標] 対象別フィットネスプログラム（子供のフィットネスプログラム）をグループで考え全体で体験理解できる。</p> <p>第13回目 健康づくりの運動実践体⑤ [達成目標] 対象別フィットネスプログラム（女性のフィットネスプログラム）をグループで考え全体で体験理解できる。</p> <p>第14回目 健康づくりの運動実践体⑥ レクリエーションスポーツや各対象者に対するフィットネスプログラムを考え、体験することによりウォーミングアップの方法、重要性・コミュニケーション方法を体験・理解できる。</p> <p>第15回目 健康づくりの運動実践体⑦ 総括 レクリエーションスポーツや各対象者に対するフィットネスプログラムを考え、体験することによりウォーミングアップの方法、重要性・コミュニケーション方法を体験・理解できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>講義後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習（予習30分）し、実技で学修した内容をまとめて下さい（復習30分）。</p>

教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	授業の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキル、コミュニケーション・スキル、服装・忘れ物などを加味して総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員：村川 増代 研究室：体育館・教官室 メールアドレス：m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業前後、水曜日、木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	①服装は運動に適した服装、室内シューズ。 ②水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。 ③この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：5
	・HJ-1-HA1-RS-P1

講義科目名称： 日本国憲法

授業コード： 4J201

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
山谷 真			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：対面授業	
添付ファイル			

授業目標	各人権の意義や統治機構に関する基本原理を理解する。憲法問題につき興味関心を持ち、法的な思考に慣れる。		
授業計画	第1講	日本国憲法入門 [到達目標] 法律との違いを意識しながら憲法の意義を説明できる。	
	第2講	[備考] 幸福追求権・平等権 [到達目標] 憲法第13条・第14条の意義を説明できる。憲法第13条・14条に関連する判例を指摘できる。	
	第3講	[備考] 自由権1 [到達目標] 憲法第20条・第21条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法第20条・第21条に関連する判例を指摘できる。	
	第4講	[備考] 自由権2 [到達目標] 憲法第22条・第31条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法22条等に関連する判例を指摘できる。	
	第5講	[備考] 社会権 [到達目標] 憲法25条の意義を説明できる。憲法25条に関連する判例を指摘できる。	
	第6講	[備考] 国務請求権・新しい人権 [到達目標] 請求権や新しい人権の意義を説明できる。新しい人権に関連する判例を指摘できる。	
	第7講	[備考] 参政権 [到達目標] 参政権の意義を説明できる。日本の選挙制度につき説明できる。	
	第8講	[備考] 国会 [到達目標] 国会の権能や衆議院と参議院の違いを説明できる。いわゆる衆議院の優越の意義やそれがどのような場合に認められるかを指摘できる。	
	第9講	[備考] 内閣 [到達目標] 内閣の組織や権能について説明できる。	
	第10講	[備考] 裁判所 [到達目標] 裁判所の組織や権能について説明できる。	
	第11講	[備考] 地方自治 [到達目標] 「地方自治の本旨」や地方公共団体の仕組み（首長と議会の関係など）につき説明できる。	
	第12講	[備考] 天皇・平和主義その他 [到達目標] 天皇の地位を説明できる（特に明治憲法と日本国憲法における地位の違いについて）。 憲法9条の意義について説明できる。	
	第13講	[備考] 明憲と日憲・法治主義と法の支配・直接民主制・法学概論 [到達目標] 明治憲法と日本国憲法における人権（国民の権利）や統治機構に関する相違点を指摘できる。	

	<p>法治主義と法の支配の意義の違いを説明できる。</p> <p>[備考] 第14講 医療をめぐる法律問題 [到達目標] 民事法と刑事法の違いを理解した上で、医療事故が発生した場合の法的な問題について、 民事責任、刑事責任、行政法上の責任にわけて説明できる。</p> <p>[備考] 第15講 これまでの振り返り（評価含む） [到達目標] これまでの学習を振り返り、各自の習得状況を確認する。</p> <p>[備考]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	既習事項の確認や指示された問題（特に公務員試験問題）の演習を行う。
教科書	なし
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・全受講者 芦部 信喜（高橋 和之補訂）『憲法 第七版』（岩波書店）。 ・公務員試験受験志望者 過去問精選問題集 出たDATA問(2)社会科学 基礎編 国家公務員・地方初級公務員試験オープンセミナーシリーズ参考書 (1)政治・経済・社会
成績評価	<p>試験60%・レポートや毎回の提出物30%・授業態度など平常点10点</p> <p>※各回における課題を課した場合、期限後に提出した場合は減点し、期限後1週間過ぎた場合は提出を認めない。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山谷真</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師</p> <p>メールアドレス :</p> <p>オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	

講義科目名称： 手話

授業コード： 4J202

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択
担当教員			
竹市 麻奈美			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：対面授業	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者のコミュニケーション手段の一つである「手話言語」を学ぶことを中心に、聴覚障がい者の文化や生活の様子、福祉制度や課題等について理解を深める。 ・手話言語について必要性を理解し、簡単な日常会話程度の手話技能を段階的に習得する。 		
授業計画	第1講	ガイダンス／【講義】聴覚障害の基礎知識①／【実技】①あいさつ [到達目標] 聴覚障がい者とのコミュニケーション方法について理解する／基本あいさつの表現を習得する [備考]	
	第2講	【実技】②名前・指文字 [到達目標] 自分の名前やいろいろな名前の表現を習得する [備考]	
	第3講	【実技】③数 [到達目標] 時刻・年齢・日にち等に関わる数字の表現を習得する [備考]	
	第4講	【実技】④家族 [到達目標] 家族に関わる表現を習得する [備考]	
	第5講	【実技】⑤外出 [到達目標] 場所・移動手段等に関わる表現を習得する [備考]	
	第6講	【実技】⑥趣味 [到達目標] 趣味に関わる表現を習得する／気持ち（好き・嫌い・得意・苦手）の表現を習得する [備考]	
	第7講	【講義】手話の基礎知識／【実技】⑦学校 [到達目標] 日本の手話の歴史について理解する／学校に関わる表現を習得する [備考]	
	第8講	【実技】⑧1日 [到達目標] 1日の過ごし方に関わる表現を習得する [備考]	
	第9講	【実技】①～⑧まとめ [到達目標] 今まで学んだ疑問詞を使って会話ができる [備考]	
	第10講	【講義】聴覚障がい者の生活（ろう講師） [到達目標] きこえない人の日常生活における課題とその対応方法について理解を深める [備考]	
	第11講	【講義】聴覚障害の基礎知識②／【実技】⑨体調・病気 [到達目標] 聞こえのサポート、福祉制度における支援を理解する／体調・病気に関わる表現を習得する [備考]	
	第12講	【実技】⑩SNS・インターネット [到達目標] SNS・インターネットに関わる表現を習得する [備考]	
	第13講	【実技】⑪災害 [到達目標] 災害に関する手話を習得し 聴覚障がい者と防災について考える [備考]	
	第14講	【実技】①～⑪まとめ [到達目標] 今まで学んだことを活用して自己紹介ができる／疑問詞を使ってたずね合うことができる [備考]	
	第15講	聴覚障がい者とのフリーディスカッション	

	<p>[到達目標] 今まで学んだ手話表現を会話の中で実践し 自分の意見を伝えたり相手の話を理解したりすることができる [備考]</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	学んだ手話表現については 必ず復習して次回の授業に備える
教科書	授業テーマに応じたスライドを使用
参考書	関連書籍をその都度紹介
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席及び毎回の振り返りレポート 30% ・授業内実技課題 50% ・指定課題のレポート提出 20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 竹市麻奈美 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
村迫 萌生			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義、ワグメント	
添付ファイル			

授業目標	医療面接法では、実際の診療に則した問診や医療面接・カルテ記載の方法を適切かつ効果的に行える技能を修得することを到達目標とする。あわせて医療人としての心構えや医療倫理などについての理解を深める。
授業計画	<p>1回目 医療面接の目的や概要 【内容・到達目標】 オリエンテーションを行う。 医療面接の目的・構造を理解する</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 柔道整復学・理論編の教科書P86～90を読み予習し、授業終了後に復習しておくこと。</p> <p>2回目 診察手順と流れ 【内容・到達目標】 診察手順および、その流れについて理解する。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 柔道整復学・理論編の教科書P86～90を読み予習し、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：有</p> <p>3回目 身体診察について 【内容・到達目標】 身体診察の流れおよび、その際の情報収集の仕方について理解する。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 柔道整復学・理論編の教科書P86～90を読み予習し、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：有</p> <p>4回目 施術録の扱いと記録 【内容・到達目標】 施術録の扱いとその記録方法について理解する。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 柔道整復学・理論編の教科書P86～90を読み予習し、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：有</p> <p>5回目 様々なコミュニケーション技法 【内容・到達目標】 より良い医療面接・コミュニケーションを行なうための患者さんに対する態度、診察環境、位置関係について理解する。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 柔道整復学・理論編の教科書P86～90を読み予習し、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：有</p> <p>6回目 臨床推論について 【内容・到達目標】 臨床推論の基本について理解する。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 柔道整復学・理論編の教科書P86～90を読み予習し、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：有</p> <p>7回目 まとめ 内容・到達目標】 1回～6回までのまとめとして、医療面接について理解する。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 柔道整復学・理論編の教科書P86～90を読み予習し、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニング：有</p> <p>8回目 筆記試験 【授業概要・到達目標】 第1～第7回までに学んだ内容について、筆記試験を行う。 医療面接についての理解ができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 第1～第7回までの内容を復習しておくこと。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>本授業は、初診患者、再診患者から聞き出す内容(問診)と患者さんの良好な関係を築くためのコミュニケーション(態度を含む)の2つの柱から構築される。それに加えて正確なカルテ記載などについても学習する。</p> <p>1) 初診患者・再診患者から聞き出す内容、カルテ記載 参考資料を熟読して学習、理解すること。これを修得しておかなくては実際の患者さんを目の前にした際、何</p>

	<p>を質問してよいのかわからなくなる。問診は、患者さんと接する最初の医療行為である。</p> <p>2) コミュニケーション法 授業で学習した内容を日常生活で意識することが重要である。実際のコミュニケーション能力は、授業で学習したのみでは向上しない。日常生活でも意識して実践することが重要である。</p> <p>3) 基本と応用 本授業では、問診と医療面接に必要な基本事項を学習する。臨床現場では、患者さんの病態や性格に応じた面接（コミュニケーションを含む）が求められる。本授業で学習した内容を省略する場合もあれば、さらに深い面接が必要になることもある。現代医学的知識、柔道整復学的知識を活かしながら各患者に応じた面接を応用として学習する。</p> <p>上記の内容について 予習(45分)：シラバスから授業で行う範囲を確認し、配布したプリントを基に自主練習を行う。 復習(45分)：授業で行った内容を確認しながら、自主練習を行う。</p>
教科書	特に指定はない。 授業時に資料を配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> よくわかる医療面接と模擬患者：鈴木富雄、阿部恵子（名古屋大学出版会） 鍼灸臨床における医療面接：丹澤章八（医道の日本社） 授業中配付したプリントなどを参考資料とする。
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。 評価は、最終評価として筆記試験を行い、これを100%とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：○ 村迫 萌生 研究室：8号館4F講師室 メールアドレス：m_murasako@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業の直後</p>
備考	<p>授業開始から30分以内を遅刻とする。以降の入室は欠席とする。遅刻は累積2回で欠席1回とする。 各学科の資格に関する実務経験の有無：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-5、○-4 科目ナンバー：HJ-2-ME2-RS-L-1</p>
	本授業は第7回目の講義をオンデマンドで行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
長尾 淳彦			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業内容】柔道整復師は開業することが可能であり、医療費等の医療経済を含む社会保障制度を理解することが重要です。この授業では、社会保障、社会保険制度、医療保険制度の基本を学ぶとともに、わが国における医療保険制度や医療経済の現状に関する知識を深め、柔道整復療養費の支給申請がどのようなものを学びます。将来、開業もしくは勤務柔道整復師になる際に大変役に立つ内容ですので、しっかり学修しましょう。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障をととは何か理解し説明できる。 2. 社会保障制度の意義と仕組みを理解し説明できる。 3. 医療保険制度の目的と意義を理解し説明できる。 4. 保険診療の概要を理解し説明できる。 5. 柔道整復師業務における療養費制度を理解し説明できる。 6. 療養費の算定方法を理解し説明できる。
授業計画	<p>1回目 療養費制度の概要 【到達目標】療養費の概要について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】教科書P1-7まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>2回目 医療保険制度 【到達目標】医療保険制度の意義、目的、保険診療の概要を理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】教科書P7-12まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>3回目 医療保険財政の現状と課題 【到達目標】医療保険財政、診療報酬制度について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】教科書P12-17まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>4回目 療養費制度 【到達目標】柔道整復療養費の歴史について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】教科書P19-25まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>5回目 療養費の算定 1 【到達目標】柔道整復師の施術に係る療養費を理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】教科書P25-28まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>6回目 療養費の算定 2 【到達目標】柔道整復師の施術に係る療養費を理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】教科書P29-33まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>7回目 療養費請求のケーススタディ 【到達目標】柔道整復師の療養費申請書の書き方を理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜グループワークを実施します。 【備考】教科書P34-48まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>8回目 まとめと試験 【到達目標】これまで行った授業のまとめと試験をします。 【授業形態】講義と試験を行います。 【備考】教科書P1-48まで復習し試験に臨みましょう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>(1) これまで学修した柔道整復学の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。</p> <p>(2) 復習が重要です。ノートは講義の板書やスライド等を写すのではなく、自分の言葉で噛みこなして記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストや資料を確認してください。</p> <p>予習：授業予定範囲の教科書や資料を用いて30分程度の予習を行って下さい。教科書や資料に記載されているわからない語句を事前に調べておくのも良い方法です。</p> <p>復習：授業ノートをまとめるなど、30分程度復習しましょう。</p>
教科書	「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」第2版 全国柔道整復学校協会監修 著者 長尾淳彦ほか
参考書	必要に応じ授業で紹介いたします。
成績評価	筆記試験（100％）により評価します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：長尾淳彦（柔道整復学科教授）</p> <p>研究室：8号館4F</p> <p>メールアドレス：a_nagao@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：授業前30分と授業終了後30分</p>
備考	<p>①柔道整復師の資格をもち、開業経験もあります。その経験をもとに本授業を行います。</p> <p>②この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
小川 豊清			
配当学科：柔道整備学科	時間数：30時間	授業形態：	
添付ファイル			

授業目標	1. 投の形を通して、崩し・作り・掛けの投技の理論や受け方が身につく。 2. 相手を尊重する態度や協力して練習ができる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（投の形・ビデオ教材の視聴） 投の形の目的が理解できる。すり足ができる。継ぎ足ができる。</p> <p>第2回 投の形Ⅰ 投の形（手技）1. 浮落ができる。</p> <p>第3回 投の形Ⅰ 投の形（手技）2. 背負投ができる。</p> <p>第4回 投の形Ⅰ 投の形（手技）3. 肩車ができる。</p> <p>第5回 投の形Ⅱ 投の形（腰技）4. 浮腰ができる。</p> <p>第6回 投の形Ⅱ 投の形（腰技）5. 払腰ができる。</p> <p>第7回 投の形Ⅱ 投の形（腰技）6. 釣込腰ができる。</p> <p>第8回 投の形Ⅲ 投の形（足技）7. 送足払ができる。</p> <p>第9回 投の形Ⅲ 投の形（足技）8. 支釣込足ができる。</p> <p>第10回 投の形Ⅲ 投の形（足技）9. 内股ができる。</p> <p>第11回 投の形Ⅳ 投の形（手技）ができる。</p> <p>第12回 投の形Ⅳ 投の形（腰技）ができる。</p> <p>第13回 投の形Ⅳ 投の形（足技）ができる。</p> <p>第14回 投の形まとめ 1) 手技・腰技・足技の投の形ができる。 2) 手技・腰技・足技の受け身ができる。</p> <p>第15回 投の形まとめ、理解度チェック 1) 手技・腰技・足技の投の形ができる。 2) 手技・腰技・足技の受け身ができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	柔道場で準備学習を希望する者は小川まで申し出てください。なお、体調管理に十分留意してください。また、怪我防止のためにも、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。各実技タイトルに関連する内容を事前学習し（予習35分）、実技で学修した内容をまとめてください（復習35分）。
教科書	なし
参考書	1) 学校柔道 全国高等学校体育連盟柔道部 著（史資料出版協会） 2) 柔道の形 入門[投の形][柔の形] 小俣幸嗣 著（大泉書店） 3) 投の形 財団法人 講道館（亀井印刷）
成績評価	授業回数数の5分の4以上の出席（欠席は3回まで可とする）。実際の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキルの習熟度、取り組みの意欲・態度、教員・学生間のコミュニケーションの有無、スポーツマンシップの実践などを加味して、授業最終日に実技テストを行い総合評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小川 豊清 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : t_ogawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 丸山 佳代</p>

	研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_maruyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	20年間における、ジュニアから社会人までの柔道指導の実務経験をもとに、実技指導を行う。
	HJ-2-JJ5-RS-P-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
岡田 成賛			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：	
添付ファイル			

授業目標	本講義では神経系全体の概論を解説した後に、中枢神経（脳・脊髄）の概論を展開する。中枢神経系の各論は、高位中枢（大脳）から低位中枢（脊髄）の順番に断面的に講義を行い、最終的にそれらを繋ぐ伝導路を理解させる。中枢神経系の理解は、柔道整復学の臨床において脳神経外科領域の患者に対する基礎的かつ専門的知識の習得が必要とされており、これからもより高度な知識が求められるようになって行く。よって中枢神経系は国家試験に必ず数題出題される分野なので、意欲を持って受講することが望まれる。
授業計画	<p>第1講 神経系総論 [到達目標] 感覚神経と運動神経の用語について。 [備考] 教科書P.217～P.219を学修する。</p> <p>第2講 神経組織 [到達目標] 神経細胞の特徴 [備考] 教科書P.219～P.220を学修する。 末梢神経系と中枢神経系の構成細胞の違い。</p> <p>第3講 中枢神経系 1（脳の発生、脳室と髄膜） [到達目標] 脳の発生から脳室の形成と髄膜の構造。 [備考] 教科書P.220～P.223を学修する。</p> <p>第4講 中枢神経系 2（大脳皮質、大脳灰白質） [到達目標] 大脳の構造と機能局在について。 [備考] 教科書P.224～P.225を学修する。大脳辺縁系の構造について。</p> <p>第5講 中枢神経系 3（大脳髄質、大脳白質） [到達目標] 内包の構造と周辺組織との関連。 [備考] 教科書P.226を学修する。 大脳基底核の構造と周辺器官との連絡。</p> <p>第6講 中枢神経系 4（脳幹；間脳：視床と視床下部） [到達目標] 視床と視床下部の楮を理解する。 [備考] 教科書P.226～P.227を学修する。 特に視床の上行性伝導路の役割と下行性伝導路における大脳小脳関連系での機能について</p> <p>第7講 中枢神経系 5（脳幹；中脳・橋・延髄） [到達目標] 脳幹の構造と機能について [備考] 教科書P.227～P.229を学修する。 中脳の構造と脳幹網様体の機能、大脳基底核との連絡。</p> <p>第8講 中枢神経系 6（脳幹；中脳・橋・延髄） [到達目標] 橋の核と機能。小脳との連絡。 [備考] 教科書P.227～P.229を学修する。 橋にある核と網様体の機能。</p> <p>第9講 中枢神経系 7（脳幹；中脳・橋・延髄） [到達目標] 延髄の核と網様体 [備考] 教科書P.227～P.229を学修する。 延髄特有の核と延髄における疾患との関連。</p> <p>第10講 中枢神経系 8（小脳） [到達目標] 小脳の構造と機能について。 [備考] 教科書P.229～P.230を学修する。 小脳と脳幹との連絡と、小脳・大脳皮質関連系の連絡路について。</p> <p>第11講 中枢神経系 9（脊髄） [到達目標] 脊髄の構造と機能について。 [備考] 教科書P.230～P.232を学修する。 脊髄の形態とバル・マジランディーの法則など機能敵的特徴について理解する。</p> <p>第12講 中枢神経系 10（上行性伝導路） [到達目標] 上行性伝導路の理解。 [備考] 教科書P.233～P.236を学修する。 伝導路の理解するのに単純な反射弓から始める。一般感覚の伝導路（脊髄視床路と三叉神経視床路、後索路と内側毛帯）について理解する。</p> <p>第13講 中枢神経系 11（伝導路） [到達目標] 上行性伝導路の理解。 [備考] 教科書P.234～P.236を学修する。 特殊感覚である視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚の特徴的な伝導路を理解する。</p> <p>第14講 中枢神経系 12（伝導路） [到達目標] 下行性伝導路の理解。これまでの講義内容を理解し、中枢神経系の課題に対して自分たちが調べてきた内容について、グループディスカッションや班員同士の質問タイムで積極的に自ら学修を進める（アクティブラーニング）。 [備考] 教科書P.236～P.238を学修する。 下行性伝導路の錐体路といわゆる錐体外路について、理解する。</p>

	<p>第15講 単位試験</p> <p>[到達目標] 第1講から第14講の講義内容についての設問に60%以上解答できる。試験問題はマークシート形式とする。</p> <p>[備考] 試験時間後に問題に対する解説も行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>この科目で取得すべき内容は非常に多い。事前に次回授業範囲を教科書で下調べを行い、あらかじめ疑問点を見つけ出しておく(予習65分)。授業の資料は、ClassroomにアップしてPaperless化に努め、また人体解剖の動画も資料としてアップする。授業中に疑問点が解消されなければ、授業後に質問し、速やかに疑問点を解消・理解する事が重要となる。個々の学生の質問に対して、メリーを活用する。中枢神経系の動画資料の解説を、オンデマンド講義としてクラスルームにアップする。</p> <p>復習として、授業内容は、配布した講義ノートにまとめ直して理解を深め、授業のビデオをClassroomにアップして、自由な時間に再度授業内容を確認する。授業ごとの小テストをClassroomにアップして、解説は次回の授業の冒頭で行う。(復習65分)。</p> <p>課外授業として小グループを形成し、学生同士が授業の項目を決めてチューター形式でアクティブラーニングを実施する。</p>
教科書	<p>「解剖学」第2版 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 岸 清・石塚 寛 編 医歯薬出版 7800円(+税)</p> <p>※シラバス中の教科書のページはこの書籍のページを示す。講義はこの図書に沿って進める。</p>
参考書	<p>「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」</p> <p>F.H. マティーン M.J. ティモンズ M.P. マッキンリ 著 井上貴央 監訳 西村書店 7800円(+税)</p> <p>※講義で主に使うものではないが、単元によっては参考書として使用する。より高度な学びを目指す場合には、本書を使うことを推奨する。</p>
成績評価	<p>期末試験(中枢神経系)60%以上の点数を取得した場合のみ合格とする。受験資格はその試験範囲の講義に3/5以上の出席を満たすものとする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岡田 成賛</p> <p>研究室 : 1号館2階</p> <p>メールアドレス : s_okada@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 水曜日17:30-18:30</p>
備考	<p>「当該教科とディプロマ・ポリシーとの関連」: ◎-1</p>
	<p>柔道整復師になる目的を忘れることなく、他言は慎み、学生全員が心地よい学習環境の構築をする。</p>
	<p>講義内容を理解し、中枢神経系の課題に対して自分たちが調べてきた内容について、グループディスカッションや班員同士の質問タイムで積極的に自ら学修を進める(アクティブラーニング)。</p>
	<p>科目ナンバー : HJ-2-MM5-RS-L-1</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
岡田 成賛			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：	
添付ファイル			

授業目標	末梢神経（脳神経・脊髄神経と自律神経）の概論を展開する。さらに運動神経は各論として、全身の神経の走行と、筋肉支配について解説する。これに付随して感覚器（皮膚感覚器や特殊感覚の受容器）とその情報伝達について解説する。末梢神経系の各論は柔道整復師の日常臨床に多くの患者の疾患として神経絞扼障害の原因と対処法について柔道整復学理論編の教科書と並行して授業を行う。末梢神経の理解は重要な基礎知識であるとともに、国家試験には必ず出題される分野なので、意欲を持って受講することが望まれる。
授業計画	<p>第1講 末梢神経系 1（脳神経） [到達目標] 脳神経12対の構成と、走行と分枝と分布領域を理解する。 [備考] 各脳神経を構成する神経線維の種類と機能に関して理解する。</p> <p>第2講 末梢神経系 2（脳神経） [到達目標] 脳神経12対の構成と、走行と分枝と分布領域を理解する。 [備考] 各脳神経を構成する神経線維の種類と機能に関して理解する。</p> <p>第3講 末梢神経系 3（脳神経） [到達目標] 脳神経12対の構成と、走行と分枝と分布領域を理解する。 [備考] 各脳神経を構成する神経線維の種類と機能に関して理解する。</p> <p>第4講 末梢神経系 4（脊髄神経）後枝と頸神経叢 [到達目標] 脊髄神経後枝と頸神経叢の構成について。 [備考] 教科書P.246～P.247を学修する。 頸神経叢からの分枝と頸神経ワナの構成について。</p> <p>第5講 末梢神経系 5（脊髄神経）腕神経叢 [到達目標] 腕神経叢の構成について理解する。 [備考] 教科書P.247～P.250を学修する。 腕神経叢からの分枝と走行と分布領域。</p> <p>第6講 末梢神経系 6（脊髄神経）腕神経叢 [到達目標] 腕神経叢の構成について理解する。 [備考] 教科書P.247～P.250を学修する。 腕神経叢からの分枝と走行と分布領域。</p> <p>第7講 末梢神経系 7（脊髄神経）腕神経叢と肋間神経 [到達目標] 腕神経叢の構成について理解する。 [備考] 教科書P.247～P.250を学修する。 腕神経叢からの分枝と走行と分布領域と肋間神経の分布領域。</p> <p>第8講 末梢神経系 8（脊髄神経）腰神経叢 [到達目標] 腰神経叢からの分枝と走行、分布領域の理解。 [備考] 教科書P.251～P.252を学修する。</p> <p>第9講 末梢神経系 9（脊髄神経）仙骨神経叢 [到達目標] 仙骨神経叢からの分枝と走行、分布領域の理解。 [備考] 教科書P.252～P.255を学修する。</p> <p>第10講 末梢神経系 10（脊髄神経）陰部神経叢とデルマトーム [到達目標] 陰部神経叢からの分枝の走行と分布領域の理解。 [備考] 教科書P.255～P.256を学修する。 臨床的に重要なデルマトームを全て理解する。</p> <p>第11講 末梢神経系 11（自律神経）交感神経・副交感神経 [到達目標] 交感神経と副交感神経との違いについて理解する。 [備考] 教科書P.256～P.259を学修する。 交感神経の分布領域と走行。副交感神経の特徴。</p> <p>第12講 感覚器 1（外皮と視覚） [到達目標] 外皮の構造と感覚受容器の分布。視覚器の構造。 [備考] 教科書P.261～P.266を学修する。</p> <p>第13講 感覚器 2（視覚と聴覚） [到達目標] これまでの講義内容全般について説明できる。 [備考] 教科書P.266～P.270を学修する。 視覚器全体の構造と、聴覚器全体の構造を理解する。</p> <p>第14講 感覚器 3（聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚） [到達目標] 内耳の構造と味覚器、嗅覚器の特徴的な構造を理解する。 またこれまでの講義内容を理解し、末梢神経系と感覚器の課題に対して自分たちが調べてきた内容について、グループディスカッションや班員同士の質問タイムで積極的に自ら学修を進める（アクティブラーニング）。 [備考] 教科書P.270～P.274を学修する。 特に内耳における、聴覚と平衡覚の構造について。</p> <p>第15講 単位試験</p>

	<p>[到達目標] 第1講から第14講の講義内容についての設問に60%以上解答できる。試験問題はマークシート形式とする。</p> <p>[備考] 試験時間後に問題に対する解説も行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>この科目で取得すべき内容は非常に多い。事前に次回授業範囲を教科書で下調べを行い、あらかじめ疑問点を見つけ出しておく(予習65分)。授業の資料は、ClassroomにアップしてPaperless化に努め、また人体解剖の動画も資料としてアップする。授業中に疑問点が解消されなければ、授業後に質問し、速やかに疑問点を解消・理解する事が重要となる。個々の学生の質問に対して、メリーを活用する。</p> <p>復習として、授業内容は、配布した講義ノートにまとめ直して理解を深め、授業のビデオをClassroomにアップして、自由な時間に再度授業内容を確認する。授業ごと的小テストをClassroomにアップして、解説は次の授業の冒頭で行う。(復習65分)。</p> <p>課外授業として小グループを形成し、学生同士が授業の項目を決めてチューター形式でアクティブラーニングを実施する。</p>
教科書	<p>「解剖学」第2版 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 岸 清・石塚 寛 編 医歯薬出版 7800円(+税)</p> <p>※シラバス中の教科書のページはこの書籍のページを示す。講義はこの図書に沿って進める。</p>
参考書	<p>「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 F.H. マティーン M.J. テイモンズ M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳 西村書店 7800円(+税)</p> <p>※講義で主に使うものではないが、単元によっては参考書として使用する。より高度な学びを目指す場合には、本書を使うことを推奨する。</p>
成績評価	<p>期末試験(末梢神経系)60%以上の点数を取得した場合のみ合格とする。受験資格はその試験範囲の講義に3/5以上の出席を満たすものとする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岡田 成賛 研究室 : 1号館2階 メールアドレス : s_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日17:30-18:30</p>
備考	<p>「当該教科とディプロマ・ポリシーとの関連」: ◎-1</p>
	<p>柔道整復師になる目的を忘れることなく、他言は慎み、学生全員が心地よい学習環境の構築をする。</p>
	<p>講義内容を理解し、末梢神経系と感覚器の課題に対して自分たちが調べてきた内容について、グループディスカッションや班員同士の質問タイムで積極的に自ら学修を進める(アクティブラーニング)。</p>
	<p>科目ナンバー: HJ-2-MM6-RS-L-1</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
岡田成賛、後藤渉子、澤谷友香理、奥田正作、村迫萌生			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：	
添付ファイル			

授業目標	<p>【講義概要】 解剖学実習では解剖学講義で学んだ内容を、組織学実習および骨実習を通して、また顕微鏡で観察して、あるいは自ら骨を手で触れることによって体験的に知識を深め、より立体的にイメージできるよう解剖学知識を定着させる。</p> <p>【講義目標】 (1) 骨学実習では教科書で学んだ骨の名称、部分名の他に、他の骨との連結を手にとって組み立て、骨のスケッチを通して理解し、説明できることを目標とする。 (2) 組織学実習では、プレパラードで神経組織、筋組織（横紋筋、平滑筋、心筋）、骨組織、軟骨組織について観察、スケッチすることにより、運動学に必要な骨、軟骨、筋、神経組織を説明できることを目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 骨学1 体幹（椎骨、上肢帯：鎖骨と肩甲骨、胸骨、肋骨） [到達目標] 椎骨・上肢帯の骨の名称、部分名称、連結と運動について説明でき、スケッチできる。 [備考] 椎骨・上肢骨の名称と特徴、骨各部の名称等。各骨間の関節の名称と特徴および運動様式。肋骨、胸骨の特徴および胸郭。</p> <p>2回目 骨学1 体幹（椎骨、上肢帯：鎖骨と肩甲骨、胸骨、肋骨） [到達目標] 椎骨・上肢帯の骨の名称、部分名称、連結と運動について説明でき、スケッチできる。 [備考] 椎骨・上肢骨の名称と特徴、骨各部の名称等。各骨間の関節の名称と特徴および運動様式。肋骨、胸骨の特徴および胸郭。</p> <p>3回目 骨学2 上肢（自由上肢：上腕骨から手の骨まで） [到達目標] 自由上肢の骨の名称、部分名称、連結と運動について説明でき、スケッチできる。 [備考] 自由上肢と体幹との連結、運動様式等。</p> <p>4回目 骨学3 下肢（下肢帯：寛骨、大腿骨から足の骨まで） [到達目標] 下肢・下肢帯の骨の名称、部分名称、連結と運動について説明でき、スケッチできる。 [備考] 下肢骨の名称と特徴、骨各部の名称。下肢骨間の関節の名称と特徴および運動様式。</p> <p>5回目 骨学3 下肢（下肢帯：寛骨、大腿骨から足の骨まで） [到達目標] 下肢・下肢帯の骨の名称、部分名称、連結と運動について説明でき、スケッチできる。 [備考] 下肢骨の名称と特徴、骨各部の名称。下肢骨間の関節の名称と特徴および運動様式。</p> <p>6回目 骨学4 頭部A（頭蓋骨内外面：外頭蓋底、内頭蓋底） [到達目標] 頭蓋を構成する骨について説明でき、スケッチできる。 [備考] 骨連結、関節、縫合などを中心とする。</p> <p>7回目 骨学5 頭部B（頭蓋骨の孔、裂孔そこを通るもの）組織解剖7 軟骨・骨組織（） [到達目標] 頭蓋骨に開く孔、裂孔などを説明でき、スケッチできる。 [備考] 孔、裂孔を通るものや付着する筋肉、靭帯などを含む。 [到達目標] 骨・軟骨組織を正しく観察し、スケッチできる。</p> <p>8回目 骨学6 骨学実習総復習 [到達目標] 全身の骨を全て組み立て説明できる。 自分たちが調べてきた内容について、グループディスカッションや班員同士の質問タイムで積極的に自ら学修を進める（アクティブラーニング）。 [備考] 頭蓋を構成する骨をはじめ、全身の骨を自ら組み立てて、全身を再構成する。</p> <p>9回目 組織学1 顕微鏡の使い方とプレパラート [到達目標] 顕微鏡の各部分とその調整について説明できる。 [備考] 顕微鏡の各部の正しい使用方法とプレパラート観察。スケッチ法。</p> <p>10回目 組織学2 上皮組織（上皮組織と皮膚） 骨学2 上肢（自由上肢：上腕骨から手の骨まで） [到達目標] 上皮組織、外皮組織とその付属器について説明できる。 [備考] 一般的な各種上皮の違いと外皮については付属器（特に受容器）の構造と分布を理解する。</p> <p>11回目 組織学3 筋組織（骨格筋・平滑筋・心筋） [到達目標] 3種類の筋組織を正しく観察し、スケッチできる。 [備考] 喉頭の組織構成（喉頭軟骨、喉頭筋）。骨格筋（横断、縦断）。平滑筋、心筋の違いを再確認しておく。</p> <p>12回目 組織学4 軟骨・骨組織（硝子軟骨、弾性軟骨・線維軟骨、石灰化骨） [到達目標] 3種類の軟骨組織の組織学的違いを観察し、スケッチする。石灰化骨（研磨標本）と脱灰標本で骨層板と骨小腔、骨細管を観察。 [備考] 各種軟骨組織を観察し、その違いが認識できる。</p> <p>13回目 組織学5 神経組織 [到達目標] 大脳と脊髄の神経組織の細胞群を正しく観察し、スケッチできる。 [備考] 大脳・脊髄の組織構造。神経細胞と神経膠細胞の特徴。</p>

	<p>14回目 組織学6 神経組織 [到達目標] 小脳と脊髄の神経組織の細胞群を正しく観察し、スケッチできる。 [備考] 小脳・脊髄の組織構造。神経細胞と神経膠細胞の特徴。</p> <p>15回目 組織学7 総復習 [到達目標] これまでの実習で使用した組織を見て、どのような組織か説明できる。 [備考] これまで学修した各組織の違いが認識できる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>また骨学実習では骨模型の重要箇所について自分達で調べる。骨の形、部位名だけでなく、その部位にはどのような筋が起始あるいは停止するのか、孔・溝にはどのようなものが通るのか等も調べておく。 組織学実習では、配布するテキストの各項目に掲げた課題を中心に各構造物の特徴、機能等説明できるようにしておく(30分程度)。 注意点:各講義では自分たちが調べてきた内容について、グループディスカッションや班員同士の質問タイムで積極的に自ら学修を進める(アクティブラーニング)。そのためには骨の外観から内部構造、通るものや、組織構成は運動器系・神経系・内臓系人体構造学における基礎知識を一度、復習して総括しておけば、実習のよい予習となる(1時間程度)。 骨実習の資料と組織学実習(顕微鏡実習)の資料はClassroomにアップして、自由な時間に閲覧して理解し易い様にする。</p>
教科書	<p>本学独自で作成した骨学実習帳と、組織学実習帳を配布する。</p>
参考書	<p>3つの解剖学講義で使用した教科書、柔道整復学校協会教科書は参考となるので、必ず持参すること。 「カラー 人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで」 F.H. マティエニ M.J. ティモンズ M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳 西村書店 7800円 「解剖学」第2版 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 医歯薬出版 8190円</p>
成績評価	<p>、骨学実習に於いては実習中のスケッチとミニ試問によって評価し、組織学実習については各実習項目におけるスケッチによって評価する。 どれか1つでも不合格の場合は、居残りとなりスケッチを再提出とする。それでも不合格の者は他日に補習をすることになる(この場合は再試験となり、再試料が必要となる。)</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岡田 成賛 研究室 : 1号館2階 教授室 メールアドレス : s_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日放課後17:30-19:00</p>
備考	<p>①実務経験の有無:歯学部や医学部で人体解剖学の実習を30年以上指導し、海外留学先での解剖学実習と研究経験を生かして講義をすすめる。 ②この授業とディプロマポリシーとの関係:◎-1、解剖学実習担当教員 奥田正作、村迫萌生、吉元拓也、後藤渉子、澤谷友香理 ③科目ナンバー:HJ-2-MM7-RS-L-1</p>
	<p>必修実習のため基本的に欠席は認めない。理由なく欠席した者、諸手続き(病欠の場合には診断書等)を行わずに欠席したものは、履修取り消しとなり、単位は与えられない。また理由のある者については事前に岡田まで申し出て補習等の時間を確保すること。</p>
	<p>[授業形態]骨模型を触りながら、学生同士が骨の形態を教えあうアクティブラーニングの実施。 グループごとに分かれて実習を行うが、自由時間ではない。大声で騒ぐもの、スマホで遊ぶものは即座に退場を命ずることになる。その場合、履修取り消しとなる。</p>
	<p>本実習は解剖学実習であるので、実習中には高い倫理規範を適用される。従って、機器、サンプル、模型等を乱暴に扱ったり、それを以て遊具に模す、あるいは放置して帰宅するなどの不逞の行いがあった者は大幅減点か履修取り消しとなるので、真剣に取り組むこと。 実習中は白衣を着用すること。組織実習においては、色鉛筆を用意すること。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
林 知也、田中健吾、児玉香菜絵、村迫萌生			
配当学科：柔道整備学科	時間数：30時間	授業形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>講義で得た知識を基に、生命体としてのヒトの機能について学生自身が実験し、データを記録する。得られた結果からそれぞれの機能を分析的・統合的に考察することにより、各臓器・組織の機能、およびそれらの調節機能に関する知識を深めると共に、いかにすれば結果から必要な情報を引き出せるかを理解する。また、科学実験におけるレポートの意味と書き方と重要性を理解する。</p> <p>具体的には設定された実習項目について1回1項目ずつ担当教員の指導の下に実習を行い、各テーマについて、グループ内で相互に実験者と被験者を経験できるようにする。実習項目および、それに関連する内容を実験実施前と後に討論し、1項目ごとにレポートを作成する。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・ミニ講義（「循環・呼吸」と「代謝」の項目） 到達目標：実習の目的、内容を把握し、実習実施にあたっての注意事項を確認する。ミニ講義を実施し、知識の確認を行う。 備考：配布の実習書を熟読する。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第2回 オリエンテーション・ミニ講義（「誘発筋電図」と「脳波」の項目） 到達目標：実習の目的、内容を把握し、実習実施にあたっての注意事項を確認する。ミニ講義を実施し、知識の確認を行う。 備考：配布の実習書を熟読する。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第3回 循環・呼吸の実習 到達目標：実習によって心電図、血圧、ならびに肺容量の測定法を理解し、得られたデータを基に心電図、血圧、ならびに肺容量の意味を理解する。また、運動におけるそれらの変化についても理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを基に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり（グループワーク）</p> <p>第4回 循環・呼吸の実習 到達目標：実習によって心電図、血圧、ならびに肺容量の測定法を理解し、得られたデータを基に心電図、血圧、ならびに肺容量の意味を理解する。また、運動におけるそれらの変化についても理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを基に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり（グループワーク）</p> <p>第5回 循環・呼吸の実習 到達目標：実習によって心電図、血圧、ならびに肺容量の測定法を理解し、得られたデータを基に心電図、血圧、ならびに肺容量の意味を理解する。また、運動におけるそれらの変化についても理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを基に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり（グループワーク）</p> <p>第6回 代謝の実習 到達目標：安静時と運動時のエネルギー代謝に関するデータを測定し、そのデータを基に運動時におけるエネルギー代謝の変化を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり（グループワーク）</p> <p>第7回 代謝の実習 到達目標：安静時と運動時のエネルギー代謝に関するデータを測定し、そのデータを基に運動時におけるエネルギー代謝の変化を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり（グループワーク）</p> <p>第8回 代謝の実習 到達目標：安静時と運動時のエネルギー代謝に関するデータを測定し、そのデータを基に運動時におけるエネルギー代謝の変化を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり（グループワーク）</p> <p>第9回 誘発筋電図の実習 到達目標：測定パラメーターを変えながら誘発筋電図を測定し、そこで得られたデータを基に伸張反射の回路を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり（グループワーク）</p> <p>第10回 誘発筋電図の実習</p>

	<p>到達目標：測定パラメーターを変えながら誘発筋電図を測定し、そこで得られたデータを基に伸張反射の回路を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり（グループワーク）</p> <p>第11回 誘発筋電図の実習</p> <p>到達目標：測定パラメーターを変えながら誘発筋電図を測定し、そこで得られたデータを基に伸張反射の回路を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり（グループワーク）</p> <p>第12回 脳波の実習</p> <p>到達目標：実習を通して自発性脳波の測定法を学び、得られたデータを基に脳波の意義を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり（グループワーク）</p> <p>第13回 脳波の実習</p> <p>到達目標：実習を通して自発性脳波の測定法を学び、得られたデータを基に脳波の意義を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり（グループワーク）</p> <p>第14回 脳波の実習</p> <p>到達目標：実習を通して自発性脳波の測定法を学び、得られたデータを基に脳波の意義を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり（グループワーク）</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>到達目標：各項目ごとに、実習結果の重要なポイントを確認でき、実習内容について考察できる。 備考：各自測定したデータ、および各自のレポートを再確認する。 アクティブラーニングの有無：なし</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布する実習書を熟読し、その内容が理解できるように、必要な知識を参考書等にて確認する。（予習45分） 各実習後にデータを整理し、必要な事項を参考書等で確認し、実習内容を確実に理解した上でレポートを作成する。（復習45分）
教科書	2024年度生理学実習書、明治国際医療大学生理学教室 編
参考書	生理学テキスト 第9版、大地陸男 著、文光堂、2022。 標準生理学 第9版、本間研一 監修、医学書院、2019。 ギャノン生理学 原書26版、岡田泰伸 他 訳、丸善、2022。 コスタンゾ明解生理学 原書第6版、林 俊宏、高橋倫子 監訳、エルゼビア・ジャパン、2019。
成績評価	主体的な実習参加態度(10%)、口頭試問(10%)、レポート(80%)の採点により判定する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階 林(知) 教授室 メールアドレス : tomoya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:30-17:30</p> <p>担当教員名 : 田中健吾 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : k_tanaka@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:30-17:30</p> <p>担当教員名 : 児玉香菜絵 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:30-17:30</p> <p>担当教員名 : 村迫萌生 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : m_murasako@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:30-17:30</p>
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1 科目ナンバー：「HJ-2-MM12-RS-L-1」

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
林 知也、児玉香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	小児期から青年期の発育に関して、スキャモンの発育曲線、骨・骨格筋などの発育の特徴、循環機能・呼吸機能などの発達の特徴、発育期の運動不足、過運動の影響などの説明ができるようにする。また、競技者の生理的特徴を理解するために、骨、筋肉、循環、呼吸などの生体諸機能が、運動時ではどのように変化するかを、生理学的観点から説明ができるようし、トレーニングによる筋・心肺機能、神経機構、姿勢調節能力の変化を説明できるようにする。
授業計画	<p>第1回 成長に伴う身体や運動能力の発達(1) 到達目標：小児期から青年期の発育曲線、骨・骨格筋の発育の特徴、循環機能・呼吸機能の発達の特徴、発育期の運動不足・過運動の影響について説明できる。 備考：教科書、ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第2回 成長に伴う身体や運動能力の発達(2) 到達目標：小児期から青年期の歩行・走行機能の発達、持久力の発達について説明できる。 備考：教科書、ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第3回 運動とエネルギー代謝 到達目標：筋のATP産生系、筋線維の種類、エネルギー供給源、乳酸の産生、運動の指標について説明できる。 備考：教科書、ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第4回 運動と循環 到達目標：運動と心機能、運動と血流配分、運動時の血流変化、運動と血圧、スポーツ心臓について説明できる。 備考：教科書、ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第5回 運動と呼吸、運動と骨・骨格筋 到達目標：1回換気量と呼吸数、肺泡換気と死腔、呼吸機能への持久トレーニングの影響、酸素の運搬、呼吸交換比、最大酸素摂取量、換気性作業閾値、酸素借、EPOC、骨のリモデリング、運動と骨代謝、筋線維組成とトレーニングの関係について説明できる。 備考：教科書、ならびに配布資料を熟読すること。</p> <p>第6回 競技者の生理的特徴 到達目標：トレーニングによる筋・心肺機能の変化、トレーニングによる反射の変化、トレーニングによる姿勢調節能力の変化、眼球運動と姿勢制御について説明できる。 備考：教科書、ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第7回 まとめ(1) 到達目標：第1～6回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 授業形態：演習形式（事前に配布した課題に対してフィードバックを行う。アクティブラーニングあり） 備考：事前に提示された課題に対して、各自説明できるように準備すること。</p> <p>第8回 まとめ(2) 到達目標：第1～6回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 授業形態：筆記試験（60分）＋演習（アクティブラーニングあり）（30分） 備考：事前に提示された課題に対して、説明できるようにすること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習120分） 各講義後、配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。（復習120分）
教科書	「生理学(改訂第4版)」 全国柔道整復学校協会 監修、彼末一之 編集（南江堂）
参考書	特に指定しない。 ※運動生理学，スポーツ生理学関連の本
成績評価	【期末試験】評価割合：90% 第1回目から6回目までの講義内容の理解度を期末試験によって評価する。 【確認小テスト】評価割合：10% 各講義ごとに確認小テストを行う。確認小テストはGoogle formにて実施するため、Google Classroomからアクセスする。確認小テストは何度でも受験でき、各々の小テストの最高点を評価として用いる。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階 林(知) 教授室 オフィスアワー : 月曜日16:30-17:30 担当教員名 : 児玉香菜絵 研究室 : 8号館4階講師室 オフィスアワー : 月曜日16:30-17:30

備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1, ○-3 科目ナンバー：「HJ-2-MM15-RS-L-1」 Classroomの活用：授業資料の配布, 確認小テストへのアクセス

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：対面	
添付ファイル			

授業目標	わが国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、高齢者、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 衛生・公衆衛生学の目的と保健統計 [到達目標] 衛生・公衆衛生の目的について理解する。 衛生統計の種類と特徴、我が国の人口統計の現状と問題点について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（確認問題と解答・解説）</p> <p>第2回 疾病の予防と健康管理 [到達目標] 予防医学と健康管理について理解する。 健康増進と健康日本21について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第3回 感染症の予防と消毒 [到達目標] 感染症と感染症の予防・対策について理解する。 主な感染症流行とその対策について理解する。 消毒の意義・主な消毒法について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第4回 環境保健1 環境および環境の把握とその評価 [到達目標] 人間を取り巻く環境、地球環境の現状と問題点について理解する。 環境の把握とその評価方法について理解する。 物理的・化学的・生物的環境因子について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第5回 環境保健2 公害、空気の衛生と環境の管理 [到達目標] 公害の歴史と現状および公害による健康被害について理解する。 空気の衛生と健康への影響について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第6回 環境保健3 水の衛生、生活環境 [到達目標] 水の衛生と健康への影響について理解する。 衣服・住居環境と健康への影響について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第7回 環境保健4 食品衛生、廃棄物 [到達目標] 食の安全・栄養と健康への影響について理解する。 廃棄物の現状と問題点を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第8回 中間試験、母子保健 [到達目標] 中間試験（試験と解説で約50分）：第1回～7回講義内容（主に小テスト及び確認問題で問われた内容）を理解・修得する 妊産婦と乳幼児の保健管理の課題について理解する。 母子保健行政の仕組みについて理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（中間試験と解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第9回 学校保健 [到達目標] 学校保健に関わるの現状と課題について理解する。 学校保健行政の仕組みについて理解する。 [授業形態]</p>

	<p>第10回 アクティブラーニング有（確認問題と解答・解説） 産業保健 [到達目標] 産業保健に関わる現状と課題について理解する。 労働衛生行政の仕組みについて理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第11回 高齢者の保健 [到達目標] 高齢者の保健の現状と課題について理解する。 高齢者の医療保険・介護保険の制度と現状およびその課題について理解する。 主な生活習慣病等の疾患とその予防対策について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第12回 精神保健 [到達目標] 精神保健に関わる現状と課題について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第13回 地域保健と国際保健、保健医療制度 [到達目標] 地域保健の特徴、地域保健行政および地域保健活動について理解する。 国際保健の組織と日本の国際協力について理解する。 医療制度と医療保障の概要を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第14回 疫学 [到達目標] 疫学の意義と主な疫学の方法を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第15回 期末試験（第8回～第14回）、試験解説 [到達目標] 第8回～14回講義内容（主に小テスト及び確認問題で問われた内容）を理解・修得する。 [授業形態] アクティブラーニング有（試験と解答・解説）</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通して、項目を整理しておくこと。（35分程度） 2. 講義の後に講義資料及び該当する教科書の部分を読み返し、指示された課題についてまとめておくこと。 3. 確認問題を見直して理解を深めること。（2、3併せて35分程度） 4. 分からないことは質問し、繰り返し復習を行うこと。
教科書	衛生学・公衆衛生学 改訂第6版（公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修）（南江堂）
参考書	「国民衛生の動向」（厚生統計協会） 「衛生試験法・注解」（日本薬学会） 「シンプル公衆衛生学2024」（南江堂） 「わかりやすい公衆衛生学（第4版）」（ヌーベルヒロカワ） 「Simple Step series 公衆衛生」（海馬書房）
成績評価	中間試験、期末試験および授業時間の最初に前回の講義内容について小テストを実施する。 成績評価は中間試験45%、期末試験45%と小テスト10%で行い、合計60点以上を合格とする。 出席が6割（第1回～第7回：5回以上、第8回～14回：5回以上）に満たないものは中間試験および期末試験の受験を認めない。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室、1号館2階 教授室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日12:35-13:20
備考	この科目とディプロマポリシーとの関連：◎-1 科目ナンバー：HJ-2-MM16-RS-L-1
	講義資料、確認問題、小テストはGoogle Classroom で配信する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：対面	
添付ファイル			

授業目標	感染症を起こす病原微生物の特徴、感染症の成立要因・発症のメカニズムを学ぶ。そのうえで、感染症の予防と対策および主な感染症の原因微生物とその特徴・感染経路について学び、感染症のコントロールに必要な知識を修得する。さらに、生体に侵入する病原微生物などの異物に対する生体防御システムを学び、免疫系による感染防御の仕組みと免疫系の異常による疾患について理解する。
授業計画	<p>第1回 感染症と病原微生物 [到達目標] 感染症とはなにか、病原微生物とはなにかを説明できる。 病原体の種類とそれぞれの特徴について説明できる。 感染の成立と経過について説明できる。 感染症成立の要因について説明できる。 感染経路および感染症の分類について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（確認問題と解答・解説）</p> <p>第2回 生体防御システム [到達目標] 生体防御システムの全体像を説明できる。 自然免疫と獲得免疫のそれぞれの仕組みについて説明できる。 感染症における免疫応答について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答と解説。確認問題と解答・解説）</p> <p>第3回 免疫と医療・免疫疾患 [到達目標] 能動免疫と受動免疫を説明できる。 予防接種と血清療法・免疫グロブリン療法を説明できる。 移植・輸血における免疫応答について説明できる。 アレルギーと自己免疫疾患についてそれぞれ説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答と解説。確認問題と解答・解説）</p> <p>第4回 感染症の予防と対策 [到達目標] 感染源対策・感染経路対策・感受性対策について説明できる。 消毒と滅菌の定義が説明できる。 主な滅菌法と消毒薬について説明できる。 ワクチンの種類と特徴を説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答と解説。確認問題と解答・解説）</p> <p>第5回 感染症各論1（細菌感染症） [到達目標] 細菌の分類と特徴について説明できる。 主な細菌感染症について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答と解説。確認問題と解答・解説）</p> <p>第6回 感染症各論2（ウイルス感染症） [到達目標] ウイルスの分類と特徴について説明できる。 主なウイルス感染症について説明できる。 プリオンとプリオン病について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答と解説。確認問題と解答・解説）</p> <p>第7回 感染症各論3（その他の感染症） [到達目標] 原虫・真菌・寄生虫の特徴について説明できる。 主な原虫感染症、真菌感染症、寄生虫感染症について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答と解説。確認問題と解答・解説）</p> <p>第8回 期末試験（第1回～7回） [授業形態] アクティブラーニング有（期末試験の解答と解説）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の前に教科書の該当部分を読み、項目を整理しておくこと。（130分程度） 2. 講義の後に講義資料及び教科書の該当部分を読み返し、指示された課題についてまとめておくこと。 3. 確認問題を解き理解を深めること。（2、3併せて130分程度） 3. 分からないことは質問し、繰り返し復習を行うこと。
教科書	「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」藤本秀二編著、目野郁子、小島夫美子著（南山堂）

	衛生学・公衆衛生学 改訂第6版 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修、鈴木庄亮他著（南江堂）
参考書	「シンプル微生物学」東匡伸、小熊恵二 編（南江堂） 「シンプル免疫学」中島泉ほか（南江堂） 「もっとよくわかる！免疫学」河本宏（羊土社）
成績評価	期末試験90%、小テスト10%とし、合計60点以上を合格とする。 出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室、1号館2階 教授室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日12:35-13:20
備考	この科目とディプロマポリシーの関連 : ◎-1 科目ナンバー : HJ-2-MM17-RS-L-1
	講義資料、確認問題、小テストはGoogle Classroom で配信する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
後藤 渉子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>[授業概要] 病理学は解剖学や生理学などの「正常な人体の構造や機能」を学んだ上で「病気の原因やその成り立ち」を理解するために学ぶ学問であり「基礎医学と臨床医学の架け橋」となっています。人はみな誰でも病気になる可能性があり「病気を治すあるいは上手に付き合っていく」ためには、この「病気の正体」をよく知る必要があります。</p> <p>この講義では「病気の原因には何があるのか」「何がどうなって身体に影響をおよぼすのか」「臓器や組織そして細胞がどのように変化するのか」について学びます。</p> <p>講義の前には「予習課題」を出しますので、教科書を見て作成し講義前日の23:00までにGoogleclassroomに提出してください。</p> <p>講義では、はじめに前回講義の復習として「小テスト」を行います。この「小テスト」で満点を取ることが目標です。そのために、その日の講義内容を理解しているかどうかを確認する「確認問題」を講義時間の最後に行います。また、その「確認問題」の解説を書いた「解説ノート」を作成してください。これは次回の「小テスト対策」や「定期試験対策」になり、ひいてはいずれ来る「国家試験対策」の練習になります。</p> <p>「リアクションペーパー」をGoogleformで毎回取ります。質問やわからなかったことを書いてもらおうとメリーや次回の講義でお答えします。これを疑問解消に利用して自立できる学習者となることを目指します。</p> <p>[到達目標] 臨床医学を理解していくために必要な「病気の原因やその成り立ち」を理解し説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 病理学とは、疾病の一般 [到達目標・学習目標] 「病理学とは」「疾病の一般」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「病理学とは（P1-4）」と「疾病の一般（P5-8）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p> <p>第2回 病因①（内因） [到達目標・学習目標] 「病因（内因）」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「病因のAとB（P127-132）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p> <p>第3回 病因②（外因） [到達目標・学習目標] 「病因（外因（栄養障害・物理的外因・化学的外因））」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「病因のC外因のうち①栄養障害②物理的外因③化学的外因（P133-145）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p> <p>第4回 病因③（生物学的外因） [到達目標・学習目標] 「病因（外因（生物学的外因））」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「病因のC外因のうち④生物学的外因（P146-150）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p>

第5回	<p>炎症①（炎症の一般） [到達目標・学習目標] 「炎症」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「炎症（P61-70）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p>
第6回	<p>炎症②（炎症の分類） [到達目標・学習目標] 「炎症」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「炎症（P61-70）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p>
第7回	<p>中間試験と試験振り返り [到達目標・学習目標] 講義前半の範囲（病理学とは、疾病の一般、病因、炎症）の試験を行う。合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） 「わからなかったところ、質問など」をGoogleformのリアクションペーパーで回収する。質問についてはメリーで回答する。 [備考] 復習：試験後の振り返りで「何点だったか！」だけではなく「わからなかった問題・間違えた問題」の正しい答えを理解しておくことが大切。</p>
第8回	<p>免疫異常・アレルギー①（免疫のしくみ・免疫不全） [到達目標・学習目標] 「免疫異常・アレルギー」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「免疫異常・アレルギー（P71-84）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p>
第9回	<p>免疫異常・アレルギー②（自己免疫疾患・アレルギー） [到達目標・学習目標] 「免疫異常・アレルギー」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「免疫異常・アレルギー（P71-84）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p>
第10回	<p>循環障害① [到達目標・学習目標] 「循環障害」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「循環障害（P29-47）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p>
第11回	<p>循環障害② [到達目標・学習目標] 「循環障害」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「循環障害（P29-47）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p>

	<p>第12回 循環障害③ [到達目標・学習目標] 「循環障害」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「循環障害（P29-47）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p> <p>第13回 細胞傷害①（退行性病変） [到達目標・学習目標] 「細胞傷害」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「細胞傷害（P9-27）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p> <p>第14回 細胞傷害②（代謝障害） [到達目標・学習目標] 「細胞傷害」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「細胞傷害（P9-27）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p> <p>第15回 期末試験と試験振り返り [到達目標・学習目標] 講義後半の範囲（免疫異常とアレルギー、循環障害、細胞傷害）の試験を行う。合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） 「わからなかったところ、質問など」をGoogleformのリアクションペーパーで回収する。質問についてはメリーで回答する。 [備考] 復習：試験後の振り返りで「何点だったか！」だけではなく「わからなかった問題・間違えた問題」の正しい答えを理解しておくことが大切。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習（120分） ①次の講義範囲の教科書を読み「予習課題」を作成しグーグルクラスルームに提出する。 復習（120分） ①「確認問題」を利用し「解説ノート」を作っておく。 ②教科書や配布資料を参考に「今日のまとめ（講義で提示）」を書いておく。 わからないことは、「リアクションペーパーに記入する」「メリーやメールで質問する」「教員に直に質問する」などして、必ず解消してください。
教科書	「病理学概論 改訂第3版」公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修 関根 一原著（医歯薬出版）
参考書	「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 第6版」大橋 健一他著（医学書院） 「こわいもの知らずの病理学講義」仲野 徹著（晶文社） 「解明 病理学 第3版」青笹克之総編集（医歯薬出版） 「新訂版クイックマスター病理学 第2版」堤 寛著（サイオ出版） 「病理学概論」公益社団法人 東洋療法学校協会編 滝澤 登一郎・畠山 茂著（医歯薬出版）
成績評価	定期試験（中間・期末）90%、その他（予習課題、確認問題、小テスト、リアクションペーパー）10%の割合で評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 後藤 涉子 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	①各学科の資格に関する実務経験の有無：実務経験あり。 臨床検査技師、細胞検査士（国内・国際）、2級甲類臨床検査士（病理学、循環生理学）、博士（医学） 市中病院、病理検査センター勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査、外来採血業務に従事する。その実務経験をもとに「病理学」について授業をすすめる。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1 ③科目ナンバー：HJ-2-MM18-RS-L-1 本授業科目（病理学総論）は後期に実施される病理学各論と合わせることによって、疾患概念を学ぶ「病理学概論」として成立する科目である。 授業の進行状態により、若干変更する可能性あり。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
後藤 渉子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>[授業概要] 病理学は解剖学や生理学などの「正常な人体の構造や機能」を学んだ上で「病気の原因やその成り立ち」を理解するために学ぶ学問であり「基礎医学と臨床医学の架け橋」となっています。人はみな誰でも病気になる可能性があり「病気を治すあるいは上手に付き合っていく」ためには、この「病気の正体」をよく知る必要があります。</p> <p>この講義では「病気の原因には何があるのか」「何がどうなって身体に影響をおよぼすのか」「臓器や組織そして細胞がどのように変化するのか」について学びます。</p> <p>講義の前には「予習課題」を出しますので、教科書を見て作成し講義前日の23:00までにGoogleclassroomに提出してください。</p> <p>講義では、はじめに前回講義の復習として「小テスト」を行います。この「小テスト」で満点を取ることが目標です。そのために、その日の講義内容を理解しているかどうかを確認する「確認問題」を講義時間の最後に行います。また、その「確認問題」の解説を書いた「解説ノート」を作成してください。これは次回の「小テスト対策」や「定期試験対策」になり、ひいてはいずれ来る「国家試験対策」の練習になります。</p> <p>「リアクションペーパー」をGoogleformで毎回取ります。質問やわからなかったことを書いてもらおうとメリーや次回の講義でお答えします。これを疑問解消に利用して自立できる学習者となることを目指します。</p> <p>[到達目標] 臨床医学を理解していくために必要な「病気の原因やその成り立ち」を理解し説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応 [到達目標・学習目標] 「進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応（P49-59）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p> <p>第2回 先天性異常①（先天性異常：総論） [到達目標・学習目標] 「先天性異常」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「先天性異常（P113-126）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p> <p>第3回 先天性異常②（奇形） [到達目標・学習目標] 「先天性異常」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「先天性異常（P113-126）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p> <p>第4回 腫瘍①（腫瘍の概念） [到達目標・学習目標] 「腫瘍」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「腫瘍（P85-111）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p> <p>第5回 腫瘍②（発癌の原因）</p>

	<p>[到達目標・学習目標] 「腫瘍」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：教科書の「腫瘍（P85-111）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p> <p>第6回 腫瘍③（腫瘍の分類）</p> <p>[到達目標・学習目標] 「腫瘍」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：教科書の「腫瘍（P85-111）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p> <p>第7回 腫瘍④（主要な癌）と試験範囲のまとめ</p> <p>[到達目標・学習目標] 「腫瘍」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：教科書の「腫瘍（P85-111）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③講義で提示する「今日のまとめ」をしておく。</p> <p>第8回 期末試験と試験振り返り</p> <p>[到達目標・学習目標] 全範囲（進行性病変、先天性異常、腫瘍）の試験を行う。合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） 「わからなかったところ、質問など」をGoogleformのリアクションペーパーで回収する。質問についてはメリーで回答する。</p> <p>[備考] 復習：試験後の振り返りで「何点だったか！」だけではなく「わからなかった問題・間違えた問題」の正しい答えを理解しておくことが大切。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>予習（120分） ①次の講義範囲の教科書を読み「予習課題」を作成しGoogleクラスルームに提出する。 復習（120分） ①「確認問題」を利用し「解説ノート」を作っておく。 ②教科書や配布資料を参考に「今日のまとめ（講義で提示）」を書いておく。</p> <p>わからないことは、「リアクションペーパーに記入する」「メリーやメールで質問する」「教員に直に質問する」などして、必ず解消してください。</p>
教科書	「病理学概論 改訂第3版」公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修 関根 一原著（医歯薬出版）
参考書	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 第6版」大橋 健一他著（医学書院） 「こわいもの知らずの病理学講義」仲野 徹著（晶文社） 「解明 病理学 第3版」青笹克之総編集（医歯薬出版） 「新訂版クイックマスター病理学 第2版」堤 寛著（サイオ出版） 「病理学概論」公益社団法人 東洋療法学校協会編 滝澤 登一郎・畠山 茂著（医歯薬出版）</p>
成績評価	定期試験（期末）90%、その他（予習課題、確認問題、小テスト、リアクションペーパー）10%の割合で評価します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 後藤 涉子 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>①各学科の資格に関する実務経験の有無：実務経験あり。 臨床検査技師、細胞検査士（国内・国際）、2級甲類臨床検査士（病理学、循環生理学）、博士（医学） 市中病院、病理検査センター勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査、外来採血業務に従事する。その実務経験をもとに「病理学」について授業をすすめる。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1 ③科目ナンバー：HJ-2-MM19-RS-L-1 本授業科目（病理学各論）は前期に実施される病理学総論と合わせることによって、疾患概念を学ぶ「病理学概論」として成立する科目である。 授業の進行状態により、若干変更する可能性あり。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
宮坂 卓治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義(対面、状況によりオンデマンド)	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標 (授業内容・到達目標)</p> <p>【授業内容】主に内科領域の診断学について、病因・病態、症状、検査所見、治療法・予後を系統的に講義します。柔道整復領域の外傷・障害の鑑別診断を行う上で重要な内容になるため、しっかり学習しましょう。</p> <p>単純な骨折と思っていたら、背景に重大な悪性腫瘍が存在していた、という様な事態は、現場では決して稀なことではありません。将来の医療従事者として、緊張感を持って講義に臨まれることを期待します。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内科的診断方法につき方法別にそのポイントが列挙できるようにしましょう。 2. 代表的な臨床症状を説明することができるようにしましょう。 3. 主要な疾患の主要徴候のを説明することができるようにしましょう。 4. 柔道整復師国家試験における一般臨床医学範囲の出題形式や問題内容を理解し正解を導く事ができるようにしましょう。
授業計画	<p>1回目 診察の意義、診察の進めかた</p> <p>【到達目標】 診察の意義、診察の進めかたについて説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 教科書 p 1－5までの予習し授業に臨みましょう。</p> <p>2回目 医療面接の意義と方法、視診の意義と方法</p> <p>【到達目標】 医療面接の意義と方法について説明できる。 視診の意義と方法について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 6－9までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>3回目 体格・体型、体位・姿勢、肥満とやせ、精神状態</p> <p>【到達目標】 体格・体型、体位・姿勢、肥満とやせ、精神状態について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 9－12までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>4回目 異常運動、歩行</p> <p>【到達目標】 異常運動および歩行について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 13－18までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>5回目 皮膚の状態、頭部・顔面部の視診</p> <p>【到達目標】 皮膚の状態について説明できる。 頭部・顔面部の視診について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 18－24までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>6回目 頸部、胸部、腹部、背部・腰部、上肢の視診</p> <p>【到達目標】 部、胸部、腹部、背部・腰部、四肢の視診について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】</p>

7回目	<p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 25-32までを予習し授業に臨みましょう。 下肢の視診、打診、聴診</p> <p>【到達目標】 下肢の視診、打診、聴診について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】</p>
8回目	<p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 32-41までを予習し授業に臨みましょう。 腹部の聴診、触診</p> <p>【到達目標】 腹部の聴診の意義について説明できる。 各部位の触診について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】</p>
9回目	<p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 42-50までを予習し授業に臨みましょう。 腹部の触診、生命徴候（体温、血圧）</p> <p>【到達目標】 腹部の触診について説明できる。 生命徴候（体温、血圧）とその検査法について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】</p>
10回目	<p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 50-57までを予習し授業に臨みましょう。 生命聴講（脈拍、呼吸）、感覚検査</p> <p>【到達目標】 生命徴候（脈拍、呼吸）とその検査法について説明できる。 感覚検査の意義と方法について説明できる。 表在感覚・深部感覚について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】</p>
11回目	<p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 57-64までを予習し授業に臨みましょう。 複合感覚の検査、反射検査、表在反射</p> <p>【到達目標】 複合感覚の検査について説明できる。 反射の種類、意義と注意事項について説明できる。 表在反射について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】</p>
12回目	<p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 64-68までを予習し授業に臨みましょう。 深部反射、病的反射、クローヌス</p> <p>【到達目標】 深部反射、病的反射、クローヌスについて説明できる。 発熱、出血傾向、リンパ節腫瘍、意識異常について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】</p>
13回目	<p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 69-73までを予習し授業に臨みましょう。 自律神経反射、代表的な臨床症状（発熱、出血傾向）</p> <p>【到達目標】 自律神経反射について説明できる。 発熱、出血傾向について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】</p>
14回目	<p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 74-79までを予習し授業に臨みましょう。 リンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼ、関節痛</p> <p>【到達目標】 リンパ節腫瘍、意識異常について説明できる。 チアノーゼ、関節痛について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】</p>

15回目	<p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 79-86までを予習し授業に臨みましょう。 まとめおよび試験</p> <p>【到達目標】 診察の概要を説明できる。 診察各論の各項目を説明できる。</p> <p>【授業形態】 試験と問題の解説およびグループワークを行います。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 教科書 p 1-86を予習し試験に臨みましょう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>(1)解剖学、生理学、病理学の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。</p> <p>(2) 復習が重要です。ノートは講義、スライドを書き写すのではなく、自分の言葉で噛みこなして記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを確認して下さい。</p> <p>予習：講義予定範囲の教科書を用いて30分程度の予習を行って下さい。教科書に記載されているわからない語句を事前に調べておくのも良い方法です。</p> <p>復習：小テストにおいて不正解の箇所、授業内容に疑問・理解不足な点につき教科書を用いて30分程度調べましょう。また次回的小テストに向け、授業のポイントをまとめましょう。</p>
教科書	「一般臨床医学 第3版」(公社)全国柔道整復学校協会 監修/奈良信雄・稲瀬直彦 ほか著(医歯薬出版)
参考書	The Merck Manual (世界的に有名な医学テキスト)の日本語訳が無料で閲覧できます： 「 http://merckmanual.jp/mmpej/index.html 」 X線画像等も無料で見ることができますので、ぜひ利用して下さい。
成績評価	<p>定期試験(90%)および前回の講義内容の小テストを毎回授業ごとに行い(10%)その結果により評価します。小テストの正解および解説は授業中にフィードバックします。尚、小テストの再試験は行いません。</p> <p>定期試験の正解および解説は掲示板等に提示しフィードバックします。</p> <p>また、授業形態が状況によりオンデマンドに変更する場合があります。その場合講義内小テストも予定回数行えなくなるため、小テストの評価に占める割合(10%)が少なくなります(小テストの回数により変化)。成績が60点(60%)に達しない場合、再試験を行います(1回)。試験に欠席した場合追試験を1回行いますが、追試験の再試験や追試験の追試験は行いません。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名： 宮坂卓治 役職： 柔道整復学科教授 研究室： 柔道整復学科棟4階 メールアドレス： t_miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー： 火曜日16:30~17:30</p>
備考	<p>①信州大学医学部内科学教室に在籍していました。その経験をもとに「診断学」について講義します。</p> <p>②「この授業とディプロマポリシーとの関連」：◎-1、○-2 科目ナンバー：HJ-2-MM20-RS-L-1</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
宮坂 卓治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：遠隔授業（オンデマンド、状況により対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業内容】 主に内科領域（呼吸器・循環器・消化器・内分泌器）の代表的疾患について、病因・病態、症状、検査所見、治療法・予後を系統的に講義します。柔道整復領域の外傷・障害の鑑別診断を行う上で重要な内容になるため、しっかり学習しましょう。 椎間関節の捻挫と違って、癌の骨転移だった。という様なケースは現場では決して稀なことではありません。将来の医療従事者として、緊張感を持って講義に臨まれることを期待します。</p> <p>【到達目標】 1. 代表的な内科的疾患を、主要臓器別に列挙できるようにしましょう。 2. これら内科的疾患の病態生理、診断、治療方法を説明することができるようにしましょう。 3. 現代医療における主要な課題について説明できるようにしましょう。 4. 柔道整復師国家試験における一般臨床医学範囲の出題形式や問題内容を理解し正解を導く事ができるようにしましょう。</p>
授業計画	<p>1回目 病的反射、クローズス、自律神経反射、代表的な臨床症状（発熱、出血傾向） 病的反射、クローズス、自律神経反射、代表的な臨床症状（発熱、出血傾向）について説明できる。 【授業形態】遠隔授業（オンデマンド）で行います。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 71-79までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>2回目 リンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼ、関節痛 リンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼ、関節痛について説明できる。 【授業形態】遠隔授業（オンデマンド）で行います。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 79-86までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>3回目 浮腫、肥満、やせ、検査法 浮腫、肥満、やせ、検査法について説明できる。 【授業形態】遠隔授業（オンデマンド）で行います。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 86-97までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>4回目 呼吸器疾患総論、各論（かぜからCOPDまで） 呼吸器疾患総論、各論（かぜからCOPDまで）について説明できる。 【授業形態】遠隔授業（オンデマンド）で行います。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 99-109までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>5回目 呼吸器疾患各論（肺癌から気胸まで）、循環器疾患総論 呼吸器疾患各論（肺癌から気胸まで）、循環器疾患総論について説明できる。 【授業形態】遠隔授業（オンデマンド）で行います。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 109-115までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>6回目 循環器疾患各論（うっ血性心不全から先天性心疾患まで） 呼吸器疾患各論（うっ血性心不全から先天性心疾患まで）について説明できる。 【授業形態】遠隔授業（オンデマンド）で行います。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 115-121までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>7回目 循環器疾患各論（高血圧から不整脈まで） 循環器疾患各論（高血圧から不整脈まで）について説明できる。 【授業形態】遠隔授業（オンデマンド）で行います。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 122-129までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>8回目 消化器疾患総論、各論（食道炎から胃癌まで） 消化器疾患総論、各論（食道炎から胃癌まで）について説明できる。 【授業形態】遠隔授業（オンデマンド）で行います。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 129-138までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>9回目 消化器疾患各論（潰瘍性大腸炎から急性肝炎まで） 消化器疾患各論（潰瘍性大腸炎から急性肝炎まで）について説明できる。</p>

	<p>【授業形態】遠隔授業（オンデマンド）で行います。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 138-144までを予習し授業に臨みましょう。 消化器疾患各論（慢性肝炎から慢性膵炎まで） 病的反射、クロームス、自律神経反射、代表的な臨床症状（発熱、出血傾向）について説明できる。</p> <p>【授業形態】遠隔授業（オンデマンド）で行います。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 144-154までを予習し授業に臨みましょう。 消化器疾患各論（膵癌から腹膜疾患まで）、代謝疾患総論、代謝疾患各論（糖尿病） 消化器疾患各論（膵癌から腹膜疾患まで）、代謝疾患総論、代謝疾患各論（糖尿病）について説明できる。</p> <p>【授業形態】遠隔授業（オンデマンド）で行います。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 154-165までを予習し授業に臨みましょう。 代謝疾患各論（脂質異常症から高尿酸血症まで） 代謝疾患各論（脂質異常症から高尿酸血症まで）について説明できる。</p> <p>【授業形態】遠隔授業（オンデマンド）で行います。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 165-172までを予習し授業に臨みましょう。 内分泌疾患総論、各論（間脳疾患から甲状腺疾患まで） 内分泌疾患総論、各論（間脳疾患から甲状腺疾患まで）について説明できる。</p> <p>【授業形態】遠隔授業（オンデマンド）で行います。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 172-181までを予習し授業に臨みましょう。 内分泌疾患各論（副甲状腺疾患から性腺疾患まで） 内分泌疾患各論（副甲状腺疾患から性腺疾患まで）について説明できる。</p> <p>【授業形態】遠隔授業（オンデマンド）で行います。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 181-185までを予習し授業に臨みましょう。 まとめおよび試験 【到達目標】 病的反射から内分泌疾患までの概要を説明できる。 診察各論の各項目を説明できる。 【授業形態】 試験と問題の解説およびペアワークを行います。</p> <p>【備考】 教科書 p 71-185までを予習し試験に臨みましょう。 授</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>(1)解剖学、生理学、病理学の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。 (2)復習が重要です。ノートは講義、スライドを書き写すのではなく、自分の言葉で噛みこなし記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを確認して下さい。 予習：講義予定範囲の教科書を用いて30分程度の予習を行って下さい。教科書に記載されているわからない語句を事前に調べておくのも良い方法です。 復習：小テストにおいて不正解の箇所、授業内容に疑問・理解不足な点につき教科書を用いて30分程度調べましょう。また次回的小テストに向け、授業のポイントをまとめましょう。</p>
教科書	「一般臨床医学 第3版」（公社）全国柔道整復学校協会 監修／奈良信雄・稲瀬直彦 ほか著（医歯薬出版）
参考書	The Merck Manual（世界的に有名な医学テキスト）の日本語訳が無料で閲覧できます： 「 http://merckmanual.jp/mmpej/index.html 」 X線画像等も無料で見ることができますので、ぜひ利用して下さい。
成績評価	<p>定期試験(100%)により評価します。 尚、対面授業となった場合、定期試験(90%)、小テスト(10%)にて評価します。 小テストの正解および解説は「Google classroom」でフィードバックします。対面授業となった場合、小テストの解説は授業にて行います。そうなった場合、小テストの再試験はしません。 定期試験の正解および解説は試験終了後フィードバックします。 定期試験の成績が60点(60%)未満の場合再試験を1回行います。また、追試験も1回行いますが、追試験の再試験、追試験の追試験及び、再試験の再試験は行いません。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名： 宮坂卓治 役職： 柔道整復学科教授 研究室： 柔道整復学科棟4階 メールアドレス： t_miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー： 火曜日16:30～17:30</p>
備考	<p>①信州大学医学部内科学教室に在籍していました。その経験をもとに「診断学」について講義します。 ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」：◎-1、○-2 科目ナンバー：HJ-2-MM21-RS-L-1</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
角谷 英治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	柔道整復師国家試験出題基準の外科学概論の範囲を網羅して(心肺蘇生法、麻酔、頭部外傷・脳神経疾患を除く)、外科学の基礎となる総論的な事項および、柔道整復師としての日常臨床の場で遭遇することの多い代表的な外科疾患に関する知識を習得し、柔道整復臨床における適応と禁忌について十分に理解することを目的とします。
授業計画	<p>第1回目 オリエンテーション、「外科学とは」、「損傷(熱傷を含む)」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・外科学とは：外科学の歴史、外科医の立場、現在の外科医療 ・損傷：損傷各種、熱傷 <p>第2回目 「炎症」と「外科的感染症」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炎症：院内感染と術後感染症 ・外科的感染症：外科的感染症各種、外科感染症の治療 <p>第3回目 「滅菌法と消毒法」、「腫瘍」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滅菌法と消毒法：必要性、種類 ・腫瘍：診断、治療法 <p>第4回目 「ショック」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショック：定義、発生機序による分類、症状、応急処置、合併症 <p>第5回目 「輸血と輸液」、「手術」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸血と輸液：輸血と輸液の目的、輸血の適用、輸血の種類、不適合輸血、副作用、輸液 ・手術：患者の病期からみた分類、手術侵襲度からみた分類、手術の根治性からみた分類、術式 <p>第6回目 「移植」、「出血と止血」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移植：種類、臓器移植、問題点 ・出血と止血：出血の種類、外出血、内出血、止血法 <p>第7回目 「胸部外傷」と「腹部外傷」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胸部外傷：胸壁の損傷、気管・気管支および肺の損傷、縦郭内損傷 ・腹部外傷：腹壁の損傷、腹腔内臓器の損傷 <p>第8回目 まとめ 全体のまとめ</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	授業内容のに関して、授業資料、教科書によく目を通しておいください。授業後には、授業内容の要点をよくまとめておいください。
教科書	「外科学概論 改訂第4版」全日本柔道整復学校協会監修(南江堂)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「柔道整復師 イエロー・ノート 臨床編」(メジカルビュー社) ・「柔道整復師 グリーン・ノート 臨床編」(メジカルビュー社)
成績評価	全授業の3/5以上の出席があり、最終筆記試験で60点以上の者を合格とします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 角谷 英治 研究室 : 鍼灸センター2階 鍼灸学部教員室 メールアドレス : e_sumiya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・木曜日(時間は随時)</p>
備考	<p>1. 医療人として相応しい人間性(知識・技能)の修得を目的に、全出席を基本とします。また、予測できない病気などで欠席する場合がありますので、日頃から全出席を心がけて下さい。無断での途中退出や早退は「欠席」となることがありますので注意して下さい。</p> <p>2. 教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い環境を構築して下さい。</p> <p>1. 実務経験 明治国際医療大学附属鍼灸センター、明治東洋医学院専門学校附属治療所にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに実習指導を行う。 2. ディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
武内勇人、萬代綾子、宮坂卓治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業内容】神経症状の多くはある日突然に痙攣、片麻痺、頭痛、歩行障害、めまい、意識障害、痴呆、しびれなどとして出現します。脳神経外科とはこのような症状を持つ患者さんの脳及び脊髄の異常を外科的に治療する分野です。接骨院に来院した患者の中には、ただのしびれだと思っていたら、背景に重大な疾病が存在していたというような事態は、決して稀なことではありません。将来の医療従事者として、緊張感をもって授業に臨まれることを期待します。</p> <p>【到達目標】 中枢神経系のしくみと障害を学び、人体の他の臓器と異なる脳に起こる病態を正確に理解する。また、柔道整復師として関わり合う、画像を含む各種脳神経外科疾患とその治療について具体的な手術法を含んで学ぶ。さらに、それら脳神経外科疾患の治療後にどのようなリハビリテーションが必要とされるかを自身で思考することができる能力を身につける。</p>
授業計画	<p>1回目 神経疾患概説、神経学的診察法（萬代） 【到達目標】神経疾患概説、神経学的診察法について理解し説明できる。 【授業形態】講義形式です。</p> <p>2回目 神経局在徴候と頭痛、めまいなどの神経疾患に伴う症状（武内） 【到達目標】神経局在徴候と頭痛、めまいなどの神経疾患に伴う症状を理解し説明できる。 【授業形態】講義形式です。</p> <p>3回目 脳神経疾患の画像診断（萬代） 【到達目標】脳神経疾患の画像診断について理解し説明できる。 【授業形態】講義形式です。</p> <p>4回目 脳腫瘍、頭部外傷（武内） 【到達目標】脳腫瘍、頭部外傷、てんかんについて理解し説明できる。 【授業形態】講義形式です。</p> <p>5回目 脳血管障害、出血性疾患（萬代） 【到達目標】脳血管障害、出血性疾患について理解し説明できる。 【授業形態】講義形式です。</p> <p>6回目 神経疾患（武内） 【到達目標】末梢神経障害、筋疾患・神経筋接合部疾患、脱髄・変性疾患、感染性疾患、認知症について理解し説明できる。 【授業形態】講義形式です。</p> <p>7回目 神経疾患（感染性疾患、神経変性疾患、神経免疫疾患）（宮坂） 【到達目標】感染性疾患、神経変性疾患、神経免疫疾患について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜グループワークを実施します。 【備考】教科書「一般臨床医学」P231-236を予習し授業に臨みましょう。</p> <p>8回目 まとめと試験 【到達目標】これまで行った授業のまとめと試験をします。 【授業形態】講義と試験を行います。 【備考】授業で配布した資料や一般臨床医学の教科書を用いて復習しましょう。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>(1) これまで学修した解剖学、生理学、病理学、一般臨床医学の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。</p> <p>(2) 復習が重要です。ノートは講義の板書やスライド等を写すのではなく、自分の言葉で噛みこなして記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストや資料を確認してください。</p> <p>予習：授業予定範囲の教科書や資料を用いて30分程度の予習を行って下さい。教科書や資料に記載されているわからない語句を事前に調べておくのも良い方法です。</p>
教科書	「一般臨床医学」3版 全国柔道整復学校協会監修
参考書	必要に応じ授業で紹介いたします。
成績評価	筆記試験（100％）により評価します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：武内勇人、萬代綾子、宮坂卓治の3名によるオムニバス形式の授業です。</p> <p>研究室：それぞれの研究室</p> <p>メールアドレス：武内勇人 h_takeuchi@meiji-u.ac.jp 萬代綾子 a_mandai@meiji-u.ac.jp 宮坂卓治 t_miyasaka@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：授業前30分と授業終了後30分</p>
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
宗友 宏行、勝見 泰和			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義形式	
添付ファイル			
整形外科学. pdf			

授業目標	種々の運動器の疾患・障害・外傷を学ぶ 運動器の傷害に対する整形外科的診察法・治療法を知る 運動器疾患の患者にとって最良の治療法を理解する 柔道整復学と整形外科学それぞれの傷害に対する適応性が理解できるようになる
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、整形外科について、運動器の基礎知識 【授業目標】 1. 授業の進め方と内容理解の方策を把握する。 2. 整形外科の意義と内容・項目を知る 3. 運動器の基礎知識を整理する。 【授業概要】 運動器の基礎知識を理解する。 【準備学習】 運動器に関する解剖学的用語を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>2回目 整形外科的診察法 【授業目標】 疾患把握に必要な姿勢、計測について説明できる。 【授業概要】 疾患把握に必要な姿勢、計測について学ぶ。 【準備学習】 身体計測の起点となる解剖学的部位をを予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>3回目 整形外科的検査法（画像検査法） 【授業目標】 画像（X-P、CT、MRI、造影検査）などについて説明できる。 【授業概要】 画像（X-P、CT、MRI、造影検査）などについて学ぶ。 【準備学習】 種々の検査法の概略を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>4回目 整形外科的治療法（そのほかの検査法） 【授業目標】 核医学検査・骨密度・関節鏡・超音波検査などについて説明できる。 【授業概要】 核医学検査・骨密度・関節鏡・超音波検査などについて学ぶ。 【準備学習】 を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>5回目 整形外科的治療法および感染性疾患 【授業目標】 整形外科で行われる保存療法・観血療法、急性化膿性骨髄炎について説明できる。 【授業概要】 整形外科で行われる保存療法・観血療法、急性化膿性骨髄炎について学ぶ。 【準備学習】 を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>6回目 感染性疾患および骨腫瘍 【授業目標】 慢性骨髄炎、脊椎カリエス、骨腫瘍の総論、骨肉腫、軟骨肉腫について説明できる。 【授業概要】 慢性骨髄炎、脊椎カリエス、骨腫瘍①（総論、骨肉腫、軟骨肉腫）について学ぶ。 【準備学習】 を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>7回目 軟部腫瘍 【授業目標】 運動器の軟部組織の悪性・良性腫瘍について説明できる。 【授業概要】 運動器の軟部組織の悪性・良性腫瘍について学ぶ。 【準備学習】 を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>8回目 非感染性疾患（OA、RA） 【授業目標】 変形性関節症・関節リウマチについて説明できる。 【授業概要】 変形性関節症・関節リウマチについて学ぶ。 【準備学習】 を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>9回目 非感染性疾患（痛風、離断性骨軟骨炎） 【授業目標】 痛風・偽性痛風、離断性骨軟骨炎について説明できる。 【授業概要】 痛風・偽性痛風、離断性骨軟骨炎について学ぶ。</p>

	<p>【準備学習】を予習しておく。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>10回目 非感染性疾患（その他の関節症、骨粗鬆症） 【授業目標】その他の関節症、骨粗鬆症について説明できる。 【授業概要】その他の関節症、骨粗鬆症について学ぶ。 【準備学習】を予習しておく。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>11回目 手の外科 【授業目標】手関節、手・手指の疾患概要について説明できる。 【授業概要】手関節、手・手指の疾患概要について学ぶ。 【準備学習】手関節、手・手指の疾患概要を理解するを予習しておく。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>12回目 全身性骨・軟部疾患（骨系、神経線維症、代謝・内分泌疾患） 【授業目標】骨系統疾患、神経線維腫症、代謝・内分泌疾患について説明できる。 【授業概要】骨系統疾患、神経線維腫症、代謝・内分泌疾患について学ぶ。 【準備学習】骨系統疾患、神経線維腫症、代謝・内分泌疾患を予習しておく。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>13回目 骨端症（ペルテス病、オスグッド・シュラッター病、プラント病） 【授業目標】骨系統疾患、神経線維腫症、代謝・内分泌疾患、骨端症について説明できる。 【授業概要】骨系統疾患、神経線維腫症、代謝・内分泌疾患、骨端症について学ぶ。 【準備学習】を予習しておく。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>14回目 まとめ1 【授業目標】本授業の内容が把握できる。 【授業概要】本授業の内容についてまとめる。 【準備学習】第1回から第13回までの授業内容を復習しておく。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>15回目 まとめ2 [到達目標] 1. 講義内容に対する理解度を知る 2. 確認・評価方法：柔道整復師国家試験に準じた筆記試験とする 3. 整形外科学（総論・各論）の授業で育んだ知識を医療人として十分に活用できるように努力する</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書を熟読すること（予習復習等） 各セクションごとにプリントを配布するので、それぞれの疾患・損傷の病態等を整理・区別する（復習）
教科書	「整形外科学」改訂第4版 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 松下 隆・福林 徹・田渕健一著（南江堂）
参考書	「標準整形外科学 第14版」井樋栄二著（医学書院）
成績評価	評価方法と評価割合（試験90%、その他授業態度・質問に対する呼応状況など10%評価する）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 勝見泰和、宗友宏行 オフィスアワー : 授業終了直後1時間</p> <p>担当教員名 : 秋津 知宏 研究室 : 8号館4F非常勤講師室 メールアドレス : t.akitsu@meiji-s.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p>
備考	<p>勝見 泰和：本学附属病院および他病院に勤務し、診療・教育・研究に従事、その実務経験をもとに授業を進める。</p> <p>宗友宏行：病院、接骨院、介護施設で臨床業務に従事し、その経験に基いて本講義の授業を行う。</p> <p>授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2 科目ナンバー：HJ-2-MM24-RS-L-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
奥田 正作			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	前年度修得した解剖学の知識を柔道整復師の臨床に活用するために、柔道整復師が臨床で遭遇する疾患を例にとり、机上の解剖学が現実の臨床ではどのように見えるのかを理解し、その構造と機能が正常であるか否かを判断できるようにする。
授業計画	<p>1回目</p> <p>オリエンテーション・運動の表し方・骨関節の基礎 [到達目標] 柔道整復師が臨床で遭遇する疾患により、実際の身体はどのように変化するのか、その具体的な状況などを説明することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：運動学」p5-8、p23-40を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>2回目</p> <p>骨格筋の構造と機能 [到達目標] 骨格筋の構造と機能について説明することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考] (授業時間外学習の指示) 教科書：運動学」p32-40を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>3回目</p> <p>上腕帯 [到達目標] 上肢帯の構造と機能について説明することができる。また、上肢帯の疾患における障害とメカニズムについて説明することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：柔道整復学・理論編」 p220-228、「教科書：運動学」p69-77を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>4回目</p> <p>肩関節 (1) [到達目標] 肩関節の構造と機能について説明することができる。また、腱板損傷の障害とメカニズムについて説明することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：柔道整復学・理論編」 p228-256、「教科書：運動学」p78-86を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>5回目</p> <p>肩関節 (2) 肘関節 (1) [到達目標] 二関節筋である上腕二頭筋について説明することができる。また、二関節筋の付着する肘・前腕関節の構造と機能について説明することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：柔道整復学・理論編」 p247-256、「教科書：運動学」p87-94を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>

6回目	<p>肘関節（2）</p> <p>〔到達目標〕 肘関節・前腕関節の構造と機能について説明することができる。また、上腕骨顆上骨折に伴う障害とメカニズムについて説明することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「教科書：柔道整復学・理論編」 p 263－279、「教科書：運動学」p 87－94を熟読しておくこと（予習35分）。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること（復習35分）。</p>
7回目	<p>手関節（1）</p> <p>〔到達目標〕 手関節の構造と機能について説明することができる。また、手根管症候群について障害とメカニズムについて説明することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「教科書：柔道整復学・理論編」 p 304－305、p 322－325、「教科書：運動学」p 95－113を熟読しておくこと（予習35分）。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること（復習35分）。</p>
8回目	<p>手関節（2）</p> <p>〔到達目標〕 指の構造と機能について説明することができる。手の機能について説明することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「教科書：柔道整復学・理論編」 p 304－305、p 322－325、「教科書：運動学」p 95－113を熟読しておくこと（予習35分）。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること（復習35分）。</p>
9回目	<p>股関節（1）</p> <p>〔到達目標〕 骨盤の構造と機能について説明することができる。股関節の構造と機能について説明することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「教科書：運動学」p 167－168、p114－124を熟読しておくこと（予習35分）。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること（復習35分）。</p>
10回目	<p>股関節（2）</p> <p>〔到達目標〕 股関節の構造と機能について説明することができる。また、大腿骨頸部骨折に伴う障害とメカニズムについて説明することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「教科書：柔道整復学・理論編」 p 356－366、、「教科書：運動学」p 114－124を熟読しておくこと（予習35分）。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること（復習35分）。</p>
11回目	<p>膝関節</p> <p>〔到達目標〕 膝関節の構造と機能について説明することができる。また、側靭帯や半月板損傷の障害とメカニズムについて説明することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「教科書：柔道整復学・理論編」 p 402－404、「教科書：運動学」p 125-130を熟読しておくこと（予習35分）。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること（復習35分）。</p>
12回目	<p>足関節・足部</p> <p>〔到達目標〕 足関節・足部の構造と機能について説明することができる。また、足関節捻挫やLauge-Hansenの分類などについて説明することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その</p>

	<p>感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：柔道整復学・理論編」 p 424-432、「教科書：運動学」 p 131-145を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>13回目 体幹・脊柱 [到達目標] 体幹と脊柱の構造と機能について説明することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：運動学」 p 146-176を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>14回目 復習 [到達目標] これまで学んだ柔道整復師に必要な運動機能解剖学の知識を自らの言葉で説明できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：講義内容を確認する試験を実施し、修得状況を確認するとともに、不十分な内容については再度講義する。 [備考] (授業時間外学習の指示) これまで学修した教科書のポイントを再度確認する (予習35分)。 確認試験で不明確だった部分を再度、教科書にて確認する (復習35分)。</p> <p>15回目 試験 定期試験の実施</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>授業計画に則り、授業内容の項に関する「柔道整復学・理論編」、「運動学」、「解剖学」の教科書を熟読しておくこと。(予習35分) 履修した内容を自らの身体、および友人、家族の身体を用いて反復学習を行うこと。 また学修した内容を、教科書にて再度、熟読しておくこと。(復習35分)</p>
教科書	<p>解剖学 改訂第2版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 運動学 改訂第3版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 柔道整復学・理論編 改訂第6版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂</p>
参考書	<p>身体運動学 関節の制御機構と筋機能 筆頭著者 市橋 則明 (編集) メジカルビュー社</p>
成績評価	<p>小テスト (20%)、定期試験 (80%)</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 奥田正作 研究室 : 8号館4階講師控え室 メールアドレス : si_okuda@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日16~17時</p>
備考	<p>20年間、病院に勤務。診療・教育・研究に従事した実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p>
	<p>「この授業とディプロマポリシーとの関連」 ◎-1</p>
	<p>資料はクラスルームにて配布する。授業の1回分はオンデマンドで講義を行う。</p>
	<p>科目ナンバー：HJ-2-JT5-RS-L-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
児玉 香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：	
添付ファイル			

授業目標	肩関節部周辺および上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷の発生機序、症状や治療法（判断、整復、固定、後療）に関して教授する。本講義を通して、肩関節部周辺および上肢の疾患に対する柔道整復術の適応と限界をみきわめ、柔道整復師として適切な処置を行なうための知識修得を目標とする。
授業計画	<p>第1回目 オリエンテーション 【内容・到達目標】 整復学Ⅱの授業の進め方について説明し、特に肩関節周辺の解剖について理解し、総論の範囲を含め基本となる治療方針・治療体系に関して理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 整復学総論Ⅰ（骨折）および整復学総論Ⅱ（脱臼・軟損）の範囲を予習（90分間）講義内容に関して復習（90分間）すること。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p> <p>第2回目 鎖骨の骨折 ① 【内容・到達目標】 鎖骨骨折の発生機序、分類、症状に関して理解する。 教科書 柔道整復学（理論編）P174～178</p> <p>【授業時間外学修の指示】 鎖骨骨折の発生機序、分類、症状、治療法を予習（90分間）講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p> <p>第3回目 鎖骨の骨折 ② 【内容・到達目標】 鎖骨骨折の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 教科書 柔道整復学（理論編）P174～178</p> <p>【授業時間外学修の指示】 鎖骨部の骨折の治療法、後療法を予習（90分間）講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p> <p>第4回目 鎖骨の脱臼 ① 【内容・到達目標】 鎖骨部の脱臼（胸鎖関節脱臼、肩鎖関節脱臼）の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 胸鎖関節脱臼 ・ 肩鎖関節脱臼 教科書 柔道整復学（理論編）P300～302</p> <p>【授業時間外学修の指示】 鎖骨部の脱臼から、その後療法にまで予習（45分間）講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p> <p>第5回目 鎖骨の脱臼 ② 【内容・到達目標】 鎖骨部の脱臼（胸鎖関節脱臼、肩鎖関節脱臼）の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 胸鎖関節脱臼 ・ 肩鎖関節脱臼 教科書 柔道整復学（理論編）P300～302</p> <p>【授業時間外学修の指示】 鎖骨部の脱臼から、その後療法にまで予習（90分間）講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p> <p>第6回目 肩甲骨の骨折 【内容・到達目標】 肩甲骨骨折の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 体部骨折（肩甲棘を含む） ・ 上・下角骨折 ・ 関節窩骨折</p>

第7回目	<p>教科書 柔道整復学（理論編）P179～181 【授業時間外学修の指示】 肩甲骨部の損傷から、その後療法までを予習（90分間） 講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有 上腕骨近位部の骨折 ① 【内容・到達目標】 上腕骨近位部の骨折の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 結節上骨折（骨頭骨折、解剖頸骨折） ・ 結節下骨折（外科頸骨折、大結節単独骨折、小結節単独骨折、結節部貫通骨折） ・ 骨端線離開</p> <p>教科書 柔道整復学（理論編）P181～188 【授業時間外学修の指示】 上腕骨近位部の損傷から、その後療法までを予習（90分間） 講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p>
第8回目	<p>アクティブラーニング：有 上腕骨近位部の骨折 ② 【内容・到達目標】 上腕骨近位部の骨折の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 結節上骨折（骨頭骨折、解剖頸骨折） ・ 結節下骨折（外科頸骨折、大結節単独骨折、小結節単独骨折、結節部貫通骨折） ・ 骨端線離開</p> <p>教科書 柔道整復学（理論編）P233～239 【授業時間外学修の指示】 上腕骨近位部の損傷から、その後療法までを予習（90分間） 講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p>
第9回目	<p>アクティブラーニング：有 上腕骨近位部の骨折 ③ 【内容・到達目標】 上腕骨近位部の骨折の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 結節上骨折（骨頭骨折、解剖頸骨折） ・ 結節下骨折（外科頸骨折、大結節単独骨折、小結節単独骨折、結節部貫通骨折） ・ 骨端線離開</p> <p>教科書 柔道整復学（理論編）P233～239 【授業時間外学修の指示】 上腕骨近位部の損傷から、その後療法までを予習（90分間） 講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p>
第10回目	<p>アクティブラーニング：有 肩関節脱臼 ① 【内容・到達目標】 肩関節脱臼の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 前方脱臼（烏口下脱臼、鎖骨下脱臼） ・ 後方脱臼（肩峰下脱臼、棘下脱臼） ・ 下方脱臼（腋窩脱臼、関節窩下脱臼） ・ 上方脱臼（烏口突起上脱臼）</p> <p>教科書 柔道整復学（理論編）P303～310 【授業時間外学修の指示】 上腕骨近位部の損傷から、その後療法までを予習（90分間） 講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p>
第11回目	<p>アクティブラーニング：有 肩関節脱臼 ② 【内容・到達目標】 肩関節脱臼の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 前方脱臼（烏口下脱臼、鎖骨下脱臼） ・ 後方脱臼（肩峰下脱臼、棘下脱臼） ・ 下方脱臼（腋窩脱臼、関節窩下脱臼） ・ 上方脱臼（烏口突起上脱臼）</p> <p>教科書 柔道整復学（理論編）P303～310 【授業時間外学修の指示】 上腕骨近位部の損傷から、その後療法までを予習（90分間） 講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p>
第12回目	<p>アクティブラーニング：有 肩関節周辺の軟部組織損傷 ① 【内容・到達目標】 肩関節周辺の軟部組織損傷の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 腱板断裂 ・ 長頭腱損傷 ・ ベネット損傷 ・ SLAP損傷 ・ インピンジメント症候群 ・ リトルリーガー肩</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動揺性肩関節 (loos shoulder) ・ 神経傷害 ・ 五十肩 教科書 柔道整復学 (理論編) P350～361 <p>【授業時間外学修の指示】 肩関節周辺の軟部組織損傷から、その後療法までを予習 (90分間) 講義内容に関して復習 (90分間) しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング : 有 肩関節周辺の軟部組織損傷 ②</p> <p>【内容・到達目標】 肩関節周辺の軟部組織損傷の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 腱板断裂 ・ 長頭腱損傷 ・ ベネット損傷 ・ SLAP損傷 ・ インピンジメント症候群 ・ リトルリーガー肩 ・ 動揺性肩関節 (loos shoulder) ・ 神経傷害 ・ 五十肩 教科書 柔道整復学 (理論編) P350～361 <p>【授業時間外学修の指示】 肩関節周辺の軟部組織損傷から、その後療法までを予習 (90分間) 講義内容に関して復習 (90分間) しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング : 有 肩関節周辺の軟部組織損傷 ③</p> <p>【内容・到達目標】 肩関節周辺の軟部組織損傷の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 腱板断裂 ・ 長頭腱損傷 ・ ベネット損傷 ・ SLAP損傷 ・ インピンジメント症候群 ・ リトルリーガー肩 ・ 動揺性肩関節 (loos shoulder) ・ 神経傷害 ・ 五十肩 教科書 柔道整復学 (理論編) P350～361 <p>【授業時間外学修の指示】 肩関節周辺の軟部組織損傷から、その後療法までを予習 (90分間) 講義内容に関して復習 (90分間) しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング : 有 まとめ・総合復習 筆記試験による評価 いままでの授業内容を総復習する。 その後、筆記試験を行なう。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	シラバスの指示に従い予習 (90分間) し、講義内での要点を復習 (90分間) しておくこと。確認テストを実施した場合には、その内容を復習しておくこと。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柔道整復学・理論編 改訂第7版 監修：(社) 全国柔道整復学校協会 南江堂 ・ 柔道整復学・実技編 改訂第2版 監修：(社) 全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準整形外科学 (医学書院) ・ 解剖学 第2版 監修：(社) 全国柔道整復学校協会 南江堂
成績評価	出席基準を満たした者について試験を実施し評価する (100%)。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 児玉香菜絵 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 16:30～17:30
備考	施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	◎-1、○-2 HJ-2-JT12-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
村迫 萌生			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	この科目では、上腕骨近位端部から肘関節、前腕周辺の骨折、脱臼、軟部組織損傷について学び、疾患の概要、症状、治療法の知識を深めることを目的とする。		
授業計画	第1回	<p>上腕骨の骨折①</p> <p>【内容・到達目標】 上腕骨骨幹部骨折について理解することができる 【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、整復学Ⅰの範囲、特に総論 骨折部分と整復学Ⅰの上腕骨近位端部の範囲の復習をしておくこと。 授業範囲の予習をしておくこと</p>	
	第2回	<p>上腕骨の骨折②</p> <p>【内容・到達目標】 上腕骨顆上骨折について理解することができる 【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。第1回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p>	
	第3回	<p>肘関節の脱臼①</p> <p>【内容・到達目標】 前腕両骨脱臼について理解することができ、かつ、上腕骨顆上骨折と鑑別することができる 【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。第2回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p>	
	第4回	<p>肘関節の脱臼②</p> <p>【内容・到達目標】 橈骨頭単独脱臼、肘内障について理解することができる 【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。第3回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p>	
	第5回	<p>上腕骨の骨折③</p> <p>【内容・到達目標】 上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折について理解することができる 【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。第4回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p>	
	第6回	<p>前腕骨近位部の骨折</p> <p>【内容・到達目標】 橈骨近位端部骨折・肘頭骨折について理解することができる 【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。第5回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p>	
	第7回	<p>前腕骨の骨折・脱臼①</p> <p>【内容・到達目標】 尺骨骨幹部骨折、モンテギア骨折、橈尺両骨骨幹部骨折について理解することができる 【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論、骨折・脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。第6回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p>	
	第8回	<p>前腕骨の骨折・脱臼②</p> <p>【内容・到達目標】 橈骨骨幹部骨折、ガレアジについて理解することができる 【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 骨折・脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。第7回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p>	
	第9回	<p>前腕骨の骨折・脱臼③</p> <p>【内容・到達目標】 橈・尺両骨骨幹部骨折について理解することができる 【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。第8回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p>	
	第10回	<p>肘関節部軟部組織損傷①</p> <p>【内容・到達目標】 側副靭帯損傷、野球肘について理解することができる 【備考】(授業時間外学習の指示等)</p>	

	<p>総論、特に総論 軟部組織部分の範囲の復習をしておくこと。第9回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと 肘関節部軟部組織損傷② 【内容・到達目標】 テニス肘、その他の疾患について理解することができる 【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 軟部組織部分の範囲の復習をしておくこと。第10回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと 肘関節部軟部組織損傷③ 【内容・到達目標】 腱交叉症候群、正中神経障害について理解することができる 【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 軟部組織部分の範囲の復習をしておくこと。第11回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと 肘関節部軟部組織損傷④ 【内容・到達目標】 橈骨神経障害、尺骨神経障害について理解することができる 【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 軟部組織部分の範囲の復習をしておくこと。第12回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと まとめ 【内容・到達目標】 第1～13回の全ての範囲の疾患に対し、鑑別することができる。 【備考】 第1～13回の全ての範囲の復習をしておくこと 第15回 筆記試験+解説 【内容・到達目標】 筆記試験を行い、本科目における理解度をはかり、上肢系の骨折、脱臼および軟部組織損傷について鑑別ができるようにする。 【備考】 筆記試験実施後に解説および再度総復習を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	シラバスを参考に、教科書の授業範囲を予習(20分)・復習(25分)してこること。 授業後は、配付資料・教科書を精読し、わからない箇所は調べ、それでもわからなければ質問するなど対応すること。また単元ごとに習熟度テストを行い、知識の整理を行う。
教科書	・柔道整復学(理論編) 社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第7版 南江堂
参考書	・柔道整復学(実技編) 社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編 改訂第2版 ・解剖学 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 第2版
成績評価	毎授業ごとに小テストを実施する。 出席基準を満たした者について、試験を行い評価する。 試験90%、小テスト10%で評価する。
担当教員の基本情報	村迫萌生：m_murasako@meiji-u.ac.jp 臨床の知識と国家試験合格に必要な知識を修得するための授業を行う。 オフィスアワー：授業終了後
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2 科目ナンバー：HJ-2-JT13-RS-L-1
	アクティブラーニング：有

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
沖 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：オンデマンド（試験対面）	
添付ファイル			

授業目標	この科目では、前腕遠位端部から手関節、指関節周辺の骨折、脱臼、軟部組織損傷について学ぶ。各疾患の概要、症状、治療法の知識を深く理解することを目的とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、前腕骨の骨折① 【内容・到達目標】 授業概要の説明。前腕部、手関節部、手指部の機能解剖について復習し、手関節部の損傷、前腕骨遠位端部骨折（コーレス骨折）について理解することができる 【備考】（授業時間外学習の指示等） 総論（特に骨折部分）の復習をしておくこと。授業範囲の予習をしておくこと アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない箇所を互いにフィードバックする。授業担当者はそれを確認する。 【備考】（授業時間外学習の指示等） 総論の復習をしておくこと。授業範囲の予習をしておくこと	
	第2回	前腕骨の骨折② 【内容・到達目標】 前腕骨遠位端部骨折（スミス骨折、 Barton骨折）について理解することができる 【備考】（授業時間外学習の指示等） 総論（特に骨折部分）の復習をしておくこと。第1回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない箇所を互いにフィードバックする。授業担当者はそれを確認する。	
	第3回	手根骨部の骨折① 【内容・到達目標】 舟状骨骨折について理解することができる 【備考】（授業時間外学習の指示等） 総論（特に骨折部分）の復習をしておくこと。第2回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない箇所を互いにフィードバックする。授業担当者はそれを確認する。	
	第4回	手根骨部の骨折② 【内容・到達目標】 三角骨骨折、有鉤骨骨折、豆状骨骨折について理解することができる 【備考】（授業時間外学習の指示等） 総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。第3回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない箇所を互いにフィードバックする。授業担当者はそれを確認する。	
	第5回	手、指部の骨折① 【内容・到達目標】 中手骨骨頭骨折、中手骨頸部骨折について理解することができる 【備考】（授業時間外学習の指示等） 総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。第7回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない箇所を互いにフィードバックする。授業担当者はそれを確認する。	
	第6回	手、指部の骨折② 【内容・到達目標】 中手骨骨幹部骨折、第1中手骨基部骨折、第5中手骨基部について理解することができる 中手指節関節の骨折について理解することができる 【備考】（授業時間外学習の指示等） 総論、特に総論 骨折・脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。第8回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない箇所を互いにフィードバックする。授業担当者はそれを確認する。	
	第7回	指骨の骨折 【内容・到達目標】 基節骨骨折・中節骨骨折・末節骨骨折・マレットフィンガーについて理解することができる	

	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 軟部組織損傷部分の範囲の復習をしておくこと。第10回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない箇所を互いにフィードバックする。授業担当者はそれを確認する。</p> <p>第8回 手関節部の脱臼① 【内容・到達目標】 遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、月状骨脱臼、月状骨周囲脱臼について理解することができる</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。第4回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない箇所を互いにフィードバックする。授業担当者はそれを確認する。</p> <p>第9回 手根中手関節の脱臼 【内容・到達目標】 手根中手関節脱臼について理解することができる</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。第9回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない箇所を互いにフィードバックする。授業担当者はそれを確認する。</p> <p>第10回 中手指節関節、指節間関節脱臼 【内容・到達目標】 第1指中手指節関節脱臼・第1指以外の中手指節関節脱臼・近遠位指節間関節脱臼について理解することができる</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 軟部組織損傷部分の範囲の復習をしておくこと。第11回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない箇所を互いにフィードバックする。授業担当者はそれを確認する。</p> <p>第11回 手関節部の軟部組織損傷 【内容・到達目標】 TFCC損傷、ドケルバン・末梢神経損傷について理解することができる 中手骨部の骨折(頭部から骨幹部まで)について理解することができる</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。第6回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない箇所を互いにフィードバックする。授業担当者はそれを確認する。</p> <p>第12回 手関節部の軟部組織損傷 【内容・到達目標】 キーンバック病・マーデルング変形について理解することができる</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 軟部組織の範囲の復習をしておくこと。第6回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない箇所を互いにフィードバックする。授業担当者はそれを確認する。</p> <p>第13回 手部・指部の軟部組織損傷 【内容・到達目標】 腱・靭帯の損傷・その他の手指部の変性等について理解することができる</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 軟部組織損傷部分の範囲の復習をしておくこと。第12回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない箇所を互いにフィードバックする。授業担当者はそれを確認する。</p> <p>第14回 総まとめ(予備日) 【内容・到達目標】 これまで学んだ内容について理解することができる</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 軟部組織損傷部分の範囲の復習をしておくこと。これまでの授業内容を復習しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない箇所を互いにフィードバックする。授業担当者はそれを確認する。</p> <p>第15回 評価とまとめ これまでに学んだ項目について対面にて筆記試験を実施し、その後解説を行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)に	シラバスを参考に、教科書の授業範囲の予習(45分)・復習(45分)をしてくること。授業後は、配付資料・教科書を精読し、わからない箇所は調べ、それでもわからなければ質問するなど対応す

ついて	ること。
教科書	・柔道整復学（理論編）社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第7版南江堂
参考書	・柔道整復学（実技編）社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編 改訂第2版
成績評価	出席基準を満たした者について、対面による試験を行い評価をする。
担当教員の基本情報	担当教員：沖 和久 研究室：8号館4階 講師室（沖） メールアドレス：k_oki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後
備考	実務経験の有無：クリニックや施術所、スポーツ現場等での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	科目ナンバー：HJ-2-JT14-RS-L-1 授業とディプロマポリシーとの関連：◎ー1、○ー2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
宗友 宏行			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：オンデマンド（評価は対面）	
添付ファイル			
整復学Ⅳ. pdf			

授業目標	柔道整復師が扱う骨盤部から膝部の領域における損傷について、発生機序、原因、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを習得することを目標とする。		
授業計画	第1講座	<p>大腿骨近位端部骨折（骨頭～頸部）</p> <p>【授業目標】 大腿骨近位端部骨折が理解できる。 【授業概要】 大腿骨近位端部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 大腿骨近位端部周辺の構造を予習しておく。 【授業形態】 オンデマンド（小テストを行いフィードバックする） アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p>	
	第2講座	<p>大腿骨近位端部骨折（転子部～）</p> <p>【授業目標】 大腿骨近位端部骨折が理解できる。 【授業概要】 大腿骨近位端部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 大腿骨近位端部周辺の構造を予習しておく。 【授業形態】 オンデマンド（小テストを行いフィードバックする） アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p>	
	第3講座	<p>大腿骨骨幹部骨折</p> <p>【授業目標】 大腿骨骨幹部骨折が理解できる。 【授業概要】 大腿骨骨幹部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 大腿骨骨幹部周辺の構造を予習しておく。 【授業形態】 オンデマンド（小テストを行いフィードバックする） アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p>	
	第4講座	<p>大腿骨遠位端部骨折</p> <p>【授業目標】 大腿骨遠位端部骨折が理解できる。 【授業概要】 大腿骨遠位端部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 大腿骨遠位端部周辺の構造を予習しておく。 【授業形態】 オンデマンド（小テストを行いフィードバックする） アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p>	
	第5講座	<p>膝蓋骨骨折</p> <p>【授業目標】 膝蓋骨骨折が理解できる。 【授業概要】 膝蓋骨骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 膝蓋骨部周辺の構造を予習しておく。 【授業形態】 オンデマンド（小テストを行いフィードバックする） アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p>	
	第6講座	<p>下腿骨近位端部骨折</p> <p>【授業概要】 下腿骨近位端部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 下腿骨近位端部周辺の構造を予習しておく。 【授業形態】 オンデマンド（小テストを行いフィードバックする） アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p>	
	第7講座	<p>股関節脱臼</p> <p>【授業目標】 股関節脱臼が理解できる。 【授業概要】 股関節脱臼の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 股関節周辺の構造を予習しておく。 【授業形態】 オンデマンド（小テストを行いフィードバックする） アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p>	

	<p>第8講座 膝蓋骨脱臼 【授業目標】 膝蓋骨脱臼が理解できる。 【授業概要】 膝蓋骨脱臼の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 膝蓋骨部周辺の構造を予習しておく。 【授業形態】 オンデマンド（小テストを行いフィードバックする） アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p> <p>第9講座 股関節の軟損（ペルテス病、大腿骨頭すべり症、鼠径部痛、弾発股、梨状筋症候群他） 【授業目標】 股関節の軟部組織損傷が理解できる。 【授業概要】 股関節の軟部組織損傷の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 股関節周辺の構造を予習しておく。 【授業形態】 オンデマンド（小テストを行いフィードバックする） アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p> <p>第10講座 大腿部の軟損（大腿部打撲、肉ばなれ、骨化性筋炎） 【授業目標】 大腿部の軟損が理解できる。 【授業概要】 大腿部の軟損の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 大腿部周辺の構造を予習しておく。 【授業形態】 オンデマンド（小テストを行いフィードバックする） アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p> <p>第11講座 膝関節の軟損 【授業目標】 膝関節の軟損が理解できる。 【授業概要】 膝関節の軟損の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 膝関節部周辺の構造を予習しておく。 【授業形態】 オンデマンド（小テストを行いフィードバックする） アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p> <p>第12講座 膝部周辺の注意すべき疾患 【授業目標】 膝部周辺の注意すべき疾患が理解できる。 【授業概要】 膝部周辺の注意すべき疾患の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 膝関節部周辺の構造を予習しておく。 【授業形態】 オンデマンド（小テストを行いフィードバックする） アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p> <p>第13講座 骨盤骨骨折 【授業目標】 骨盤骨骨折が理解できる。 【授業概要】 骨盤骨骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 骨盤部周辺の構造を予習しておく。 【授業形態】 オンデマンド（小テストを行いフィードバックする） アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p> <p>第14講座 まとめ 【授業目標】 本授業の内容が把握できる。 【授業概要】 本授業の内容についてまとめる。 【準備学習】 第1回から第13回までの授業内容を復習しておく。 【授業形態】 オンデマンド（小テストを行いフィードバックする） アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p> <p>第15講座 評価とまとめ 本授業で行った内容について評価・まとめを行う。 アクティブラーニング：学生同士で話し合い、理解できていない個所を互いにフィードバックする。授業担当者がそれを確認する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し（予習30分）し、講義で学修した内容をまとめてください（復習60分）。
教科書	柔道整復学・理論編 改訂第7版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会 編）
参考書	柔道整復学・実技編 改訂第2版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会 編） 整形外科学 改訂第4版（全国柔道整復学校協会監修、松下隆・福林 徹・田渊 健一 編） 参考資料はGoogle classroomで配布する。
成績評価	出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たしたのに対して試験を行う。 評価方法：筆記試験（小テスト20%、定期試験80%） 筆記試験で60%の理解ができた者を合格とする。
担当教員の基本情報	担当教員：宗友宏行 メールアドレス：h_munetomo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後

備考	宗友宏行：病院、接骨院、介護施設で臨床業務に従事し、その経験に基づいて本講義の授業を行う。 原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがある。 この授業とディプロマシーとの関連：◎-1 ○-2 HJ-2-JT15-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択
担当教員			
児玉 香菜絵、中川 達雄			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：	
添付ファイル			

授業目標	きちんと触診することができ、柔整の手技療法の一つであるトリガーポイント手技圧迫療法、モーションパルペーションを用いて治療ができるようになる。		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション</p> <p>【内容・到達目標】 本講義のオリエンテーションを行い概要を説明する。 徒手療法、モーションパルペーションを行う上での基本的な概念について理解することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 解剖学 骨筋の範囲について予習・復習しておくこと。 アクティブラーニングなし</p>	
	第2回	<p>手技療法の概念</p> <p>【内容・到達目標】 徒手療法、とくにトリガーポイントの概念について理解することができる。</p> <p>(授業時間外学習の指示等) 第1回の授業内容をもとに筋の走行について予習しておく。 徒手療法の概念についての復習しておくこと アクティブラーニングあり(小テストを行いフィードバックする)</p>	
	第3回	<p>肩、頸部の触察</p> <p>【内容・到達目標】 頸部や肩部の筋の走行について理解し、きちんと触察することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 頸部、肩周囲の筋の走行について予習しておく。 終了後ポイントをまとめ復習しておく。 アクティブラーニングあり(小テストを行いフィードバックする)</p>	
	第4回	<p>肩、頸部の手技療法</p> <p>【内容・到達目標】 頸部や肩部の筋の走行について理解し、適切な手技療法を行うことができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 頸部、肩周囲の筋の触察方法について予習しておく。 終了後ポイントをまとめ復習しておく。 アクティブラーニングあり(小テストを行いフィードバックする)</p>	
	第5回	<p>腰部の触察</p> <p>【内容・到達目標】 腰部の筋の走行について理解し、きちんと触察することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 腰部の筋の走行について予習しておく。 終了後ポイントをまとめ復習しておく。 アクティブラーニングあり(小テストを行いフィードバックする)</p>	
	第6回	<p>腰部の手技療法</p> <p>【内容・到達目標】 腰部の筋の走行について理解し、適切な手技療法を行うことができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 腰部の筋の触察方法について予習しておく。 終了後ポイントをまとめ復習しておく。 アクティブラーニングあり(小テストを行いフィードバックする)</p>	
	第7回	<p>四肢の触察、手技療法</p> <p>【内容・到達目標】 四肢の筋の走行について理解し、触察、適切な手技療法を行うことができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 四肢の筋の触察方法について予習しておく。 終了後ポイントをまとめ復習しておく。 アクティブラーニングあり(小テストを行いフィードバックする)</p>	
	第8回	<p>まとめと評価</p> <p>【内容・到達目標】 第2回から第7回までの内容を理解し、実施することができる。 どの程度理解し実施することができるのか実技試験にて評価する。 また、第2～7回までの内容を振り返りフィードバックを行う。</p>	

第9回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 復習：まとめの内容を理解し、自分なりにまとめておく。 予習：第2～7回までの内容について予習しておく アクティブラーニングなし モーション・パルペーション①</p> <p>【内容・到達目標】 徒手療法とは何か。これから学ぶ徒手療法、手技療法についての基礎的知識を理解することができる。 股関節の触診、モーション・パルペーションにおける注意事項の理解と検査技術を修得することができる。</p>
第10回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 復習：股関節周辺の解剖・体表解剖について復習しておく 予習：四肢のモーション・パルペーション(上巻) 回旋検査 P56-59 アクティブラーニングなし モーション・パルペーション②</p> <p>【内容・到達目標】 股関節内/外転検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法を修得することができる</p>
第11回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 復習：股関節内/外転検査とマイクロ・モービリゼーションを実技復習しておく 予習：四肢のモーション・パルペーション(上巻) 屈曲検査 P52-53 アクティブラーニングなし モーション・パルペーション③</p> <p>【内容・到達目標】 股関節屈曲検査とその治療法であるマイクロ・モービリゼーションを修得することができる</p>
第12回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 復習：股関節屈曲検査とマイクロ・モービリゼーションを実技復習しておく 予習：四肢のモーション・パルペーション(上巻) 伸展検査 P54-55 アクティブラーニングなし モーション・パルペーション④</p> <p>【内容・到達目標】 股関節伸展検査とその治療法であるマイクロ・モービリゼーションを修得することができる</p>
第13回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 復習：股関節伸展検査とマイクロ・モービリゼーションを実技復習しておく 予習：四肢のモーション・パルペーション(下巻) 肩関節 P2-39 予習：四肢のモーション・パルペーション(下巻) 肩関節 P16-21 アクティブラーニングなし モーション・パルペーション⑤</p> <p>【内容・到達目標】 肩関節の触診、モーション・パルペーションにおける注意事項、臨床に使える肩関節可動域検査を修得することができる 肩関節屈曲および伸展検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションを修得することができる</p>
第14回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 復習：肩関節の屈曲・伸展検査とモービリゼーションを実技復習しておく 予習：四肢のモーション・パルペーション(下巻) 肩関節 P26-27 予習：四肢のモーション・パルペーション(下巻) 肩関節 P28-31 予習：肩関節周囲の筋肉 アクティブラーニングなし モーション・パルペーション⑥</p> <p>【内容・到達目標】 肩関節内外転検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションを修得することができる 肩関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションを修得することができる</p>
第15回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 復習：第8回から14回の内容を復習しておくこと アクティブラーニングなし まとめと評価</p> <p>【内容・到達目標】 第9回から第14回までの内容を理解し、実施することができる。 どの程度理解し実施することができるのか実技試験にて評価する。 また、第9～14回までの内容を振り返りフィードバックを行う。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 復習：まとめの内容を理解し、自分なりにまとめておく。 予習：第9～14回までの内容について予習しておく アクティブラーニングなし</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	治療技術は、実際に臨床で使えなければならない。必ず、配布プリントの対応部分を精読し、実際に繰り返して練習をし、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして解決すること。シラバスを参考に、教科書の授業範囲を予習(90分)・復習(90分)してこよう。
教科書	四肢のモーション・パルペーション上巻 科学新聞社
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版 著：林典雄、監：青木隆明 機能解剖学的触診技術 下肢 改定第2版 著：林典雄、監：青木隆明 骨格筋の形と触察法 改訂第2版 著：河上敬介、磯貝香

成績評価	実技試験を行い評価する。中間評価50%、期末評価50%として総合評価する。 実技の授業を行う際にはKCの着用を原則とし、着用がない場合は授業態度の項目から減点するので注意すること。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 児玉香菜絵 メールアドレス : k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 16:30~17:30 担当教員名 : 中川達雄 メールアドレス : tatsu-naka@tumh.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間
備考	児玉香菜絵：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 中川達雄：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	©-2 HJ-2-JT21-ES-S-0

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
奥田 正作			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習と講義	
添付ファイル			

授業目標	前年度修得した解剖学の知識を柔道整復師の臨床に活用するために、現実の人体がどのように動いているのかを分析し、解剖学的な因子がどのように影響しているかを判断できるようになる。		
授業計画	1回目	<p>足関節・足部 1</p> <p>[到達目標]</p> <p>足関節・足部の構造と機能について説明することができる。また、足関節捻挫やLauge-Hansenの分類などについて説明することができる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>「教科書：柔道整復学・理論編」 p 424-432、「教科書：運動学」p 131-145を熟読しておくこと(予習35分)。</p> <p>講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること(復習35分)。</p>	
	2回目	<p>足関節・足部 2</p> <p>[到達目標]</p> <p>足関節・足部の構造と機能について説明することができる。また、足関節捻挫やLauge-Hansenの分類などについて説明することができる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>「教科書：柔道整復学・理論編」 p 424-432、「教科書：運動学」p 131-145を熟読しておくこと(予習35分)。</p> <p>講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること(復習35分)。</p>	
	3回目	<p>体幹・脊柱 1</p> <p>[到達目標]</p> <p>体幹と脊柱の構造と機能について説明することができる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>「教科書：運動学」p 146-176を熟読しておくこと(予習35分)。</p> <p>講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること(復習35分)。</p>	
	4回目	<p>体幹・脊柱 2</p> <p>[到達目標]</p> <p>体幹と脊柱の構造と機能について説明することができる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>「教科書：運動学」p 146-176を熟読しておくこと(予習35分)。</p> <p>講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること(復習35分)。</p>	
	5回目	<p>試験(座学)</p> <p>試験の実施</p>	
	6回目	<p>上肢帯 エコーと触診</p> <p>[到達目標]</p> <p>上肢帯 エコーと触診を理解する</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>基礎知識について復習しておく(予習35分)。</p> <p>正常と比較する方法を、自分の言葉でまとめておく(復習35分)。</p>	
	7回目	<p>肩関節1 エコーと触診</p> <p>[到達目標]</p> <p>肩関節 エコーと触診を理解する</p> <p>[授業形態]</p>	

8回目	<p>アクティブ・ラーニング有： [備考] (授業時間外学習の指示) 基礎知識について復習しておく (予習35分)。 正常と比較する方法を、自分の言葉でまとめておく (復習35分)。 肩関節 2 エコーと触診 [到達目標] 肩関節 エコーと触診を理解する [授業形態] アクティブ・ラーニング有： [備考] (授業時間外学習の指示) 基礎知識について復習しておく (予習35分)。 正常と比較する方法を、自分の言葉でまとめておく (復習35分)。</p>
9回目	<p>前腕 エコーと触診 [到達目標] 前腕の構造と機能について説明することができる。また、手根管症候群について障害とメカニズムについて説明することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：柔道整復学・理論編」 p 304-305、p 322-325、「教科書：運動学」p 95-113を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>
10回目	<p>足関節・足部 エコーと触診 [到達目標] 足関節・足部の構造と機能について説明することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：柔道整復学・理論編」 p 424-432、「教科書：運動学」p 131-145を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>
11回目	<p>膝関節 エコーと触診 [到達目標] 膝関節の構造と機能について説明することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：運動学」p 146-176を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>
12回目	<p>股関節 1 エコーと触診 [到達目標] 股関節の構造と機能について説明することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：運動学」p 146-176を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>
13回目	<p>股関節 2 エコーと触診 [到達目標] 股関節の構造と機能について説明することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：運動学」p 146-176を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>
14回目	<p>復習 [到達目標] 体の構造と機能について説明することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：運動学」p 146-176を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>

	15回目 試験 定期試験の実施
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業計画に則り、授業内容の項に関する解剖学の教科書および資料を熟読しておくこと。(予習35分) 履修した内容を自らの身体、および友人、家族の身体を用いて反復学習を行うこと。(復習35分)
教科書	解剖学 改訂第2版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 運動学 改訂第3版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 柔道整復学・理論編 改訂第6版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	特になし
成績評価	中間(40%)・本試験(60%)で評価する
担当教員の基本情報	担当教員名：奥田 正作 研究室：8号館4階講師控え室 メールアドレス：si_okuda@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー：16:00～17:00(水曜日) 担当教員名：吉元拓也 講師室：8号館4階講師室 メールアドレス：t_yoshimoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日16時半～17時半
備考	奥田正作：20年間、病院に勤務。診療・教育・研究に従事した実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	科目ナンバー：HJ-2-JT31-RS-P-1
	資料はクラスルームにて配布する。授業の1回分はオンデマンドで講義を行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
児玉 香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：対面	
添付ファイル			

授業目標	肩関節部周辺および上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷の発生機序、症状や治療法（判断、整復、固定、後療）に関して教授する。本実習を通して、肩関節部周辺および上肢の疾患に対する柔道整復術の適応と限界をみきわめ、柔道整復師として適切な処置を行なうための知識を理解・実践する。
授業計画	<p>第1回目 オリエンテーション 【内容・到達目標】 本講義の概要を説明し実施する。基本包帯法の肩周囲の方法について理解・実践する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 肩関節に対する基本包帯法を予習（90分間） 講義内容に関してポイントをまとめ復習（90分間）しておく。</p> <p>アクティブラーニング ： 有</p> <p>第2回目 鎖骨の骨折 ① 【内容・到達目標】 鎖骨骨折の知識を復習し、座位整復法と座位固定法（背側8字帯）に関して理解・実践する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 鎖骨部の損傷から、その後療法までを予習（90分間） 講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング ： 有</p> <p>第3回目 鎖骨の骨折 ② 【内容・到達目標】 鎖骨整復台を使用した整復法・固定法に関して理解・実践する。 鎖骨整復台を使用した背側8字帯が実践できる。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 鎖骨部の損傷から、その後療法までを予習（90分間） 講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング ： 有</p> <p>第4回目 鎖骨の骨折③ 【内容・到達目標】 鎖骨骨折の整復法と固定法であるデゾー包帯を巻くことができる。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 鎖骨部の脱臼から、その後療法までを予習（90分間） 講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング ： 有</p> <p>第5回目 肩鎖関節脱臼 ① 【内容・到達目標】 肩鎖関節脱臼の知識を復習し、整復法・固定法を理解・実践する。 ヴェルポー包帯、ジュール包帯に関して理解・実践する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 鎖骨部の脱臼から、その後療法までを予習（90分間） 講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング ： 有</p> <p>第6回目 肩鎖関節脱臼 ② 【内容・到達目標】 肩鎖関節脱臼の知識を復習し、整復法・固定法を理解・実践する。 ヴェルポー包帯、ジュール包帯に関して理解・実践する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 鎖骨部の脱臼から、その後療法までを予習（90分間） 講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング ： 有</p> <p>第7回目 肩鎖関節脱臼 ③ 【内容・到達目標】 肩鎖関節脱臼の整復法・固定法（ジュール包帯変法）を理解・実践する。 ヴェルポー包帯、ジュール包帯に関して理解・実践する。</p>

第8回目	<p>【授業時間外学修の指示】 鎖骨部の脱臼から、その後療法までを予習（45分間） 教科書 柔道整復学（理論編）P225～228 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有 上腕骨外科頸骨折の整復 【内容・到達目標】 上腕骨外科頸骨折の整復法および固定法を理解・実践する。</p>
第9回目	<p>【授業時間外学修の指示】 上腕骨外科頸骨折から、その後療法にまで予習（45分間） 教科書 柔道整復学（理論編）P233～236 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有 上腕骨外科頸骨折の固定 【内容・到達目標】 「上腕骨外科頸骨折①」の知識を復習し、上腕骨外科頸骨折の整復法および固定法を理解・実践する。 外科頸内転型骨折における外転副子固定（実技編P85～86）について理解・実践する。</p>
第10回目	<p>【授業時間外学修の指示】 上腕骨外科頸骨折から、その後療法にまで予習（45分間） 教科書 柔道整復学（理論編）P233～236 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有 肩関節前方脱臼の整復 【内容・到達目標】 肩関節脱臼の整復法について理解する。 肩関節脱臼の知識を復習し、整復法を理解・実践することができる。</p>
第11回目	<p>【授業時間外学修の指示】 肩関節の脱臼から、その後療法までを予習（90分間） 講義内容に関してポイントをまとめ復習（90分間）しておく。</p> <p>アクティブラーニング：有 肩関節前方脱臼の整復・固定 【内容・到達目標】 肩関節脱臼の整復法と固定法について理解する。 肩関節脱臼の知識を復習し、整復法・固定法を理解・実践する。</p>
第12回目	<p>【授業時間外学修の指示】 肩関節の脱臼から、その後療法までを予習（90分間） 講義内容に関してポイントをまとめて復習（45分間）しておく。</p> <p>アクティブラーニング：有 肩関節部の軟部組織損傷① 【内容・到達目標】 肩関節部の軟部組織損傷の知識を復習し、その病態把握に関して理解・実践する。 徒手検査法に関して理解・実践する。</p> <p>臨床徒手検査法 ペインフルアークサイン ドロップアームサイン ヤーガゾンテスト スピードテスト インピンジメントサイン ハイアークサイン リフトオフテスト に関して理解・実践する。</p>
第13回目	<p>【授業時間外学修の指示】 肩関節部の軟部組織損傷から、その後療法にまで予習（90分間） 講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有 肩関節部の軟部組織損傷② 【内容・到達目標】 肩関節部の軟部組織損傷の知識を復習し、その病態把握に関して理解・実践する。 徒手検査法に関して理解・実践する。</p> <p>臨床徒手検査法 ペインフルアークサイン ドロップアームサイン ヤーガゾンテスト スピードテスト インピンジメントサイン ハイアークサイン リフトオフテスト に関して理解・実践する。</p>

	<p>【授業時間外学修の指示】 肩関節部の軟部組織損傷から、その後療法にまで予習（90分間） 講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>第14回目 肩関節部の軟部組織損傷③ 【内容・到達目標】 肩関節部の軟部組織損傷の知識を復習し、その病態把握に関して理解・実践する。 徒手検査法に関して理解・実践する。</p> <p>臨床徒手検査法 ペインフルアークサイン ドロップアームサイン ヤーガソンテスト スピードテスト インピンジメントサイン ハイアークサイン リフトオフテスト に関して理解・実践する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 肩関節部の軟部組織損傷から、その後療法にまで予習（90分間） 講義内容に関して復習（90分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>第15回 まとめ・評価 いままでの授業内容を総復習する。 その後、実技試験・口頭試問を行なう。</p> <p>アクティブラーニング：有</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	シラバスの指示に従い予習（90分間）し、講義内での要点を復習（90分間）しておくこと。 実習の要点を中心に復習しておくこと。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柔道整復学・実技編 改訂第2版 監修：（社）全国柔道整復学校協会 南江堂 ・ 柔道整復学・理論編 改訂第7版 監修：（社）全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準整形外科学（医学書院） ・ 解剖学 第2版 監修：（社）全国柔道整復学校協会 南江堂
成績評価	出席基準を満たした者について実技試験および口頭試問を実施し評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：児玉 香菜絵 研究室：8号館4階 講師室 メールアドレス：k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：16：30～17：30</p>
備考	<p>◎-2、○-5 HJ-2-JT33-RS-P-1 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
村迫 萌生			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	この科目では、柔道整復師が診る上で重要な肘関節周辺の外傷である骨折、脱臼、軟部組織損傷について学び、疾患の概要、症状、治療法の知識を深めることを目的とする。		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション・上肢包帯法 上肢(肩関節・肘関節)における基本の包帯法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 肩関節・肘関節における包帯法を実施することができる。 【準備学習について】 肩関節・肘関節の基本包帯法について予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第2回	<p>上腕骨骨幹部骨折① 上腕骨骨幹部骨折における整復法を学び、上腕骨骨幹部骨折における固定法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 上腕骨骨幹部骨折における整復法・固定法(ミッテルドルフ三角副子固定)を実施することができる。 【準備学習について】 上腕骨骨幹部骨折における固定法(ミッテルドルフ三角副子固定)について予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第3回	<p>上腕骨骨幹部骨折② 上腕骨骨幹部骨折における整復法、固定法(クラーメル副子固定)について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 上腕骨骨幹部骨折における整復法・固定法(クラーメル副子)を実施することができる。 【準備学習について】 上腕骨骨幹部骨折における整復法・固定法(クラーメル副子)について予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第4回	<p>肘頭骨折 肘頭骨折における整復法、固定法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 肘頭骨折における整復法、固定法を行う事ができる。 【準備学習について】 肘頭骨折における整復法、固定法について予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第5回	<p>肘関節の骨折の固定法 第1～4回の内容を復習し、上腕骨骨幹部骨折、肘頭骨折における固定法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 上腕骨骨幹部骨折、肘頭骨折における固定法を実施することができる。 【準備学習について】 上腕骨骨幹部骨折、肘頭骨折について第1～4回の授業をまとめ予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第6回	<p>肘関節脱臼① 肘関節脱臼における診察、整復法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 肘関節脱臼(後方脱臼)における診察、背臥位での整復法を実施することができる。 【準備学習について】 肘関節脱臼における診察、整復法について予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第7回	<p>肘関節脱臼② 肘関節脱臼における固定法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 肘関節脱臼における固定法を実施することができる。 【準備学習について】 肘関節脱臼における固定法について予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第8回	<p>肘内障、上腕骨顆上骨折、橈骨近位端部骨折 肘内障、上腕骨顆上骨折、橈骨近位端部骨折についての診察、整復を実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 肘内障、上腕骨顆上骨折、橈骨近位端部骨折における診察、整復法を実施することができる。 【準備学習について】 肘関節、上腕骨顆上骨折、橈骨近位端部骨折における診察、整復法について予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第9回	<p>肘関節部の脱臼 第6～8回の内容を復習し、肘関節部の脱臼における診察、整復法、固定法について実技を交えて学ぶ。</p>	

第10回	<p>【到達目標】 肘関節脱臼、肘内障の診察、整復法、固定法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】 肘関節脱臼、肘内障について第6～8回の授業をまとめ予習をしておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p> <p>上腕骨骨折・肘関節部の脱臼の固定法のまとめと評価 上腕骨骨折、肘関節脱臼における固定法、治療法についてまとめを行い、評価(実技試験)を行う</p>
第11回	<p>【到達目標】 上腕骨骨折、肘関節脱臼の固定法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】 上腕骨骨折、肘関節脱臼の固定法や治療法について第1～8回の授業をまとめ予習をしておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p> <p>肘関節部の軟部組織損傷 肘関節内側副靭帯損傷、テニス肘など肘関節部の軟部組織損傷における診察、徒手検査、治療法について実技を交えて学ぶ。</p>
第12回	<p>【到達目標】 肘関節内側副靭帯損傷、テニス肘における診察、徒手検査、治療法を行う事が出来る。</p> <p>【準備学習について】 肘関節内側副靭帯損傷、テニス肘における診察、徒手検査、治療法について予習をしておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p> <p>肘部管症候群、前骨間神経麻痺 肘部管症候群や前骨間神経麻痺など肘関節周辺の神経損傷について実技を交えて学ぶ。</p>
第13回	<p>【到達目標】 肘関節の神経損傷の診察、徒手検査を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】 肘部管症候群、前骨間神経麻痺における診察、徒手検査について予習をしておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p> <p>肘関節部の脱臼、軟部組織損傷の整復法、診察、徒手検査 肘関節部の脱臼、肘内障、軟部組織損傷の診察、整復法、徒手検査、治療法について実技を交えて学ぶ。</p>
第14回	<p>【到達目標】 肘関節の脱臼、肘内障、軟部組織損傷の診察、整復法、徒手検査、治療法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】 肘関節脱臼、肘内障、軟部組織損傷における診察、整復法、徒手検査、治療法についての授業をまとめ予習をしておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p> <p>整復学Ⅱ実習の内容に関するまとめ 肘関節部の骨折、脱臼、軟部組織損傷における診察、整復法、徒手検査、治療法についてまとめを行い、総合的に評価(実技試験)を行う。</p>
第15回	<p>【到達目標】 肘関節部の骨折、脱臼、軟部組織損傷における診察、徒手検査、整復法、治療法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】 第1～13回までの内容に関して復習し理解して定期試験に臨む。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p> <p>定期試験 本科目で学習した内容について総合的に評価(実技試験)を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習100分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習100分)。
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
参考書	柔道整復学・理論編 改訂第7版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
成績評価	出席基準(欠席届などの手続き重視)を満たした者に対して試験を実施する。 2度の試験を実施し各50%程度の割合とし総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村迫 萌生 研究室 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : m_murasako@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後
備考	村迫 萌生: 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2, ○-5
	HJ-2-JT33-RS-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
沖 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習（一部オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	整復学Ⅲで学んだ内容の整復法、固定法、合併症などについて知識を習得し、診察・整復・固定の手順を把握することを目的とする。また、整復法や固定法が実践できるようになる。		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション</p> <p>【内容・到達目標】 前腕～手指までの機能解剖の復習を行い、理解し説明することができる。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） 予習（45分）：柔道整復学理論編 総論について予習しておくこと。 復習（45分）：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>	
	第2回	<p>コーレス骨折①</p> <p>【内容・到達目標】 コーレス骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 概要の復習と厚紙副子の作成、整復法①</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） 予習（45分）：柔道整復学理論編 コーレス骨折の項目について予習しておくこと。 復習（45分）：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>	
	第3回	<p>コーレス骨折②</p> <p>【内容・到達目標】 コーレス骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 整復法②、熱可塑性副子の作成</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） 予習（45分）：柔道整復学理論編 コーレス骨折の項目について予習しておくこと。 復習（45分）：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>	
	第4回	<p>コーレス骨折③</p> <p>【内容・到達目標】 コーレス骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 診察から整復、固定までの一連の流れを学ぶ</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） 予習（45分）：柔道整復学理論編 コーレス骨折の項目について予習しておくこと。 復習（45分）：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>	
	第5回	<p>スミス骨折①</p> <p>【内容・到達目標】 スミス骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） 予習（45分）：柔道整復学理論編 スミス骨折の項目について予習しておくこと。 復習（45分）：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>	
	第6回	<p>スミス骨折②、舟状骨骨折①</p> <p>【内容・到達目標】 スミス骨折と舟状骨骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 スミス骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ 舟状骨骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） 予習（45分）：柔道整復学理論編 スミス骨折、舟状骨骨折の項目について予習しておくこと。 復習（45分）：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>	
	第7回	<p>舟状骨骨折②、ベネット骨折①</p> <p>【内容・到達目標】 舟状骨骨折とベネット骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。</p>	

第8回	<p>舟状骨骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ ベネット骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 舟状骨骨折、ベネット骨折の項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 ベネット骨折②、中手骨骨幹部骨折①</p> <p>【内容・到達目標】 ベネット骨折と中手骨骨幹部骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 ベネット骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ 中手骨骨幹部骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p>
第9回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 ベネット骨折、中手骨骨幹部骨折の項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 中手骨骨幹部骨折②、中手骨頸部骨折①</p> <p>【内容・到達目標】 中手骨骨幹部骨折、中手骨頸部骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 中手骨頸部骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ 中手骨骨幹部骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p>
第10回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 中手骨骨幹部骨折、中手骨頸部骨折の項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 中手骨頸部骨折②、指骨骨折①</p> <p>【内容・到達目標】 中手骨頸部骨折、指骨骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 中手骨頸部骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ 指骨骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p>
第11回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 中手骨頸部骨折、指骨骨折の項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 指骨骨折②</p> <p>【内容・到達目標】 指骨骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 指骨骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p>
第12回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 指骨骨折の項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 PIP関節脱臼(背側脱臼)、第1MP関節脱臼(背側脱臼)</p> <p>【内容・到達目標】 PIP関節脱臼(背側脱臼)、第1MP関節脱臼(背側脱臼)の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 PIP関節脱臼(背側脱臼)：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ 第1MP関節脱臼(背側脱臼)：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p>
第13回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 第1MP関節脱臼(背側脱臼)の項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 ロッキングフィンガー、指側副靭帯損傷</p> <p>【内容・到達目標】 ロッキングフィンガー、指側副靭帯損傷の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 ロッキングフィンガー：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ 指側副靭帯損傷：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p>
第14回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 ロッキングフィンガー、指側副靭帯損傷の項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 マレットフィンガー</p> <p>【内容・到達目標】</p>

	<p>マレットフィンガーの概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 マレットフィンガー：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 マレットフィンガーの項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 総復習</p> <p>【内容・到達目標】 第1回から第14回までの内容を理解し、整復法・固定法を実践することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 マレットフィンガーの項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>技術は反復練習により修得されるものである。そのためシラバスを参考に、予習復習を行うように努める。 予習(45分)：シラバスから授業で行う範囲を確認し、配布したプリント(データによる配布)を基に自主練習を行う。 復習(45分)：授業で行った内容を確認しながら、自主練習を行う。</p>
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版：柔道整復学校協会監修
参考書	柔道整復学・理論編 改訂第7版：柔道整復学校協会監修
成績評価	<p>成績評価は、出席基準を満たした者に対して、授業時間内に実技試験を行い評価する。 実習態度等も加味し総合評価とする。 授業中はKCと名札の着用を原則とし、着用していない場合は実習態度の項目から減点対象とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>沖 和久 【場所】8号館4階講師室 【オフィスアワー】授業直後 【アドレス】k_oki@meiji-u.ac.jp</p>
備考	<p>クリニックや施術所、スポーツ現場等での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p> <p>授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○-5 科目ナンバー：HJ-2-JT34-RS-P-1</p>
	この科目は原則として対面の実習形式にて実施するが、一部オンデマンド授業に変更されることがある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
宗友 宏行			
配当学科：柔道整復学科	時間数：45時間	授業形態：	
添付ファイル			
臨実 I . pdf			

授業目標	<p>本学附属病院外来の診療各科において、医師の診察、診断と治療の過程を見学し、現代医学的診療法および患者様に対する接し方、対応の仕方を理解するとともに、各診療科の特徴を把握する。</p> <p>また、看護師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士など、病院内における医療スタッフの業務を見学し、理解するとともに附属施設(臨床検査部などの中央診療施設等)も見学し、臨床検査、放射線科に関する画像診断法などについても理解を深め、それぞれの施設での器具、備品などの配置や施設空間の有効な利用法を学ぶ。</p> <p>医師や他の医療スタッフと適切な連携ができるように、そのあり方を学び、各診療科や検査部門等において診断、治療の行程及び検査技術等の見修を行う。</p>
授業計画	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生を8班に班分けし、1班を2～3名編成しローテーションする。 2. 午前9時20分までには8号館1階ロビーに集合し、出席確認をする。(時間厳守) 3. 午前9時30分～午後13時00分の間で行う。 <p>出席状況</p> <p>「附属病院実習出席簿」の該当する期日欄に必ず担当教員の出席確認を受ける。 ※出席簿は全ての実習が終了した時点で実習簿より切り離し、レポートの最終ページに添付すること。</p> <p>レポート提出</p> <p>(1) 提出要領</p> <ol style="list-style-type: none"> ① レポートは各診療科がはっきり分かるように区分して記載する。 ② 各見修内容別に市販のA4サイズの横書きレポート用紙(またはワープロ打ちでA4用紙に印刷)で各科1, 200字程度にまとめ、表紙を必ず付けて提出すること。 ③ 提出期限について 別途案内をする。 ※欠席等で振替日に実習を行った者については3月17日(火)17時までとする。 提出先：6号館 学生受付 <p>なお、レポートの課題はオリエンテーション時に指示があった内容とし、単に教科書を写したものや他人のものを写したレポートは評価の対象とならないので注意すること。</p> <p>(2) 記入する内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各診療科においてレポート内容の指示がある場合はその内容について記入し、特に指示がない場合はオリエンテーションの課題内容を参考に実習で得られた知見を追記し、レポートを完成させてください。 ② レポート内容については評価後、書き直しを要求される場合がある。 また、書き直しの場合には、指定された期日までにレポートを再提出する。 <p>(3) レポート提出が必要な診療科及び担当教員 内科(浅沼教授)、外科(糸井啓純教授)、整形外科(糸井恵教授)、脳神経外科・MR(樋口教授)、眼科(山田教授)、泌尿器科(高羽准教授)、病理検査(後藤講師)、放射線科(北村技師長)</p> <p>各科における事前レポート</p> <p><内科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病について ・慢性閉塞肺疾患について ・高血圧・動脈硬化症について <p><放射線科・MR></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レントゲン画像とCT画像の違いについて ・MRIの原理とMRI画像(T1強調画像とT2強調画像の違い)について <p><整形外科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関節リウマチについて ・変形性関節症について ・腰部ヘルニアについて ・椎管狭窄症について <p>その他</p> <p>見学する診療科の実習日変更、実習レポートの書き直しのための呼出等の連絡は、メール等にて行うので見落としのないように留意する。</p>

	<p>留意事項</p> <p>1. 携帯品 (1) 筆記用具（ボールペン、ノート等）のみとする。 ※ バッグ等は8号館の各自のロッカーに収納する。 (2) 実習に必要なテキスト、参考書、プリント等 (3) 実習簿は常に携帯する。 (4) ネーム（病院内では必ず本学指定のネームをつける。）</p> <p>2. 服装及びマナー (1) 「附属病院外来」における実習時は、必ず実習用白衣を着用し、ネクタイ等医療人としてふさわしい服装を着用すること。 (2) ジーンズ、ジャージ、サンダル及び白衣・ケーシーの下に柄のあるシャツの着用等、ふさわしくない服装は禁じ、実習への参加は認めない。 (3) 常に頭髪（髪型、茶髪）、爪、服装、男性の場合は髭を伸ばさず、清潔に保つこと。 頭髪のカラーはカラースケールの『6』以下であること。 (4) 手指の消毒を怠らないように注意すること。 (5) 特に疾患や病態などについては患者様の前で話さないこと。また「おはようございます」「お大事に」などの声かけはせずに会釈で済ませる。 (6) 常に担当教員等の指示に従い、速やかに行動すること。</p> <p>3. その他注意事項 (1) 決められた時間は厳守する（遅れた場合は実習に参加できない）。 (2) 実習施設内では学生は一切禁煙であるので注意する。 (3) 体の不調等を起こした者は、直ちに担当教員にその旨を告げ指示に従う。 (4) 備え付けの物品は大切に扱い、破損、紛失のないように心掛け、勝手に使用しない。 (5) 使用した備品は、必ず元の場所へ返却する。 (6) その他細部あるいは不明な点については担当教員等の指示に従う。 (7) 医療人としての自覚を持ち、諸規則を厳守する。 (8) やむを得ず実習を欠席する場合は、必ず事前に事務局教務担当まで連絡し欠席届を提出する（欠席理由を明確にする）。 (9) 昼食時は、患者様等の利用を配慮し、病院のレストランは使用しない。 (10) 実習中は、携帯電話を所持しない。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	実習は単なる見学ではなく、臨床講義で学んだ知識が実際の臨床現場でいかに活用されているかを実感として学ぶ貴重な経験の場であるので、真摯な態度で臨まなければならない。各科を回ることになるが、事前課題学習として、該当する各科の講義で学んだ臨床的知識を復習して実習に臨むこと。
教科書	全国柔道整復学校協会監修教科書 一般臨床医学 第2版
参考書	指定なし
成績評価	出席回数を満たしていること。出席基準を満たした者に対して評価を行う。
担当教員の基本情報	内科（浅沼教授）、外科（糸井啓純教授）、整形外科（糸井恵教授）、脳神経外科・MR（樋口教授）、眼科（山中講師）、泌尿器科（高羽准教授）、病理検査（後藤講師）、放射線科（北村技師長）
備考	この授業とディプロマシーとの関連：◎-2 ○-5 科目ナンバー：HJ-2-JT46-RS-P-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択
担当教員			
村川 増代			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	健康とは心身共に健やかで活気に満ちた状態であり、複雑な現代社会で生活を送るために、健康は基本的に自分で管理し守るものである。近年、社会人の健康管理への関心も高く、健康に関する情報が錯綜する今、健康を維持・増進するための正しい知識を身に付け、自分で健康づくりの施策ができるようその概要について論じる。この授業は、健康の三原則（栄養・運動・休養）について学び、健康と栄養のかかわりを理解し、健康に関連する生活習慣病を予防するための身体活動の質と量を、講義の中で実践する体力測定から評価する。そこからさらに発展させ、健康づくりと運動プログラミングの要点を修得する。また、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上を本時の中で目指すことを目標とする。
授業計画	<p>第1講 健康づくりの施策概論（健康と生活習慣病とその予防、メディカルチェック） [到達目標] 健康と生活習慣病とその予防、メディカルチェックについて理解できる [授業形態] 演習 予習：健康と生活習慣について考える（45分） 復習：健康と生活習慣について説明できるように、学んだことを理解しておく（45分）</p> <p>第2講 健康と飲酒・喫煙 [到達目標] お酒と健康的な付き合い方。喫煙は「百害あって一利なし」を科学的に理解できる [授業形態] 演習（グループワークをする） 予習：健康と飲酒・喫煙の影響について考える（45分） 復習：健康と飲酒・喫煙について学んだことを理解しておく（45分）</p> <p>第3講 健康の概念、我が国の現状と健康づくり [到達目標] 健康の概念、我が国の現状と健康づくりについて具体的に説明できる [授業形態] 演習（ディスカッションをする） 予習：健康とは何か考えてくる（45分） 復習：健康と体力の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）</p> <p>第4講 健康づくりと運動プログラム [到達目標] 目標設定、運動のプログラミング（運動処方）ができる [授業形態] 演習（グループワークをする） 予習：健康づくりとは何か考えてくる（45分） 復習：健康づくりで学んだ内容を日々の生活習慣に取り入れ実践する（45分）</p> <p>第5講 「肥満とやせの評価」 [到達目標] 肥満とやせの判定について関心を持つことができる [授業形態] 演習（ディスカッションをする） 予習：BMI とその他の体脂肪量測定方法について調べておく（45分） 復習：肥満とやせの評価で学んだことを理解しておく（45分）</p> <p>第6講 体力の特性 [到達目標] 「行動体力」と「防衛体力」を兼ね備えた基礎体力について考えることができる [授業形態] 演習（ディスカッションをする） 予習：体力とは何か考えてくる（45分） 復習：体力について学んだことを理解しておく（45分）</p> <p>第7講 体力測定と体力の評価 [到達目標] 新体力測定と体力の評価について学んだことを理解できる [授業形態] 演習 予習：新体力テストの測定方法とその評価について調べておく（45分） 復習：新体力測定と体力の評価について学んだことを復習しておく（45分）</p> <p>第8講 健康づくりと運動プログラム（運動プログラムの基本的考え方、身体活動指針・指針の具体例） [到達目標] 健康増進のための運動効果、身体活動指針・指針の具体例について理解できる [授業形態] 演習（グループワークをする） 予習：今まで行ってきたトレーニング内容を振り返り、気をつけていたことをまとめておく（45分） 復習：トレーニング効果について復習しておく（45分）</p> <p>第9講 体力の加齢変化 [到達目標] 体力の発育・発達と、加齢による体力の衰えについて解析できる [授業形態] 演習 予習：体力があるとはどのようなことか、またどのような方法で測定できるか考える（45分） 復習：自分の体力をさまざまな観点から評価してみる（45分）</p> <p>第10講 フィットネスと健康管理（フィットネスと体調、体調チェックの意義と方法） [到達目標] フィットネスと体調について関心を持つことができる [授業形態] 演習（ディスカッションをする） 予習：体調チェックの意義と方法について考えてくる（45分） 復習：体調チェックの意義と方法について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）</p> <p>第11講 運動と健康</p>

	<p>[到達目標] 運動と健康の関係について具体的に説明できる [授業形態] 演習 (ディスカッションをする) 予習: 運動は健康に良いといわれているが、科学的な根拠を考えておく (45分) 復習: 健康と運動の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す (45分)</p> <p>第12講 スポーツに関する医科学的知識「栄養 (食事) ・運動・休養」のバランス</p> <p>[到達目標] 栄養・運動・休養、この順番の重要性について学習した内容を理解できる [授業形態] 演習 予習: 栄養・運動・休養について考えておく (45分) 復習: 栄養・運動・休養のバランスについて学習した内容を復習しておく (45分)</p> <p>第13講 スポーツに関する医科学的知識 (フィットネスと健康管理)</p> <p>[到達目標] 体調チェックの意義と方法について理解できる [授業形態] 演習 予習: 体調チェックについて調べておく (45分) 復習: 体調チェックについて学んだことを復習しておく (45分)</p> <p>第14講 健康づくりと運動プログラム (トレーニングの原理、健康増進のための運動効果)</p> <p>[到達目標] 健康増進のための運動効果、身体活動指針・指針の具体例について理解できる [授業形態] 演習 予習: 健康のための運動について調べておく (45分) 復習: 身体活動指針について復習すること (45分)</p> <p>第15講 総括 (定期試験)</p> <p>[到達目標] 講義のまとめ・第1講～第14講をまとめて理解できる [授業形態] 演習 (定期試験) 予習: 第1講～第14講をまとめておく (45分) 復習: 定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること (45分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	各講義項目の内容を事前学習 (予習30分) し、講義で学習した内容をまとめておく (復習30分)。自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連: ◎-3, 関心・意欲, ○-5, 技能・表現。
	③ 科目ナンバー: HJ-2-HA3-ES-S-0

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択
担当教員			
村川 増代			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実技 対面	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業は、健康運動実践指導者の資格取得を目標とする。エアロビックダンスは、若い人を中心に子どもから高齢者まで幅広い層が楽しめる健康づくり運動として人気である。エアロビックダンスの特性を理解した上で、エアロビックダンスの基本的な技術を習得し、リズムに乗って仲間と楽しく身体運動の喜びに触れることを目的として実践を中心とした授業を展開する。また、グループ指導能力の修得を通し、人間性と教養を身に付け医療人に求められているコミュニケーション力の向上、基本的技術、正しい動作、指導技術を修得することをねらいとする。さらに、自身のからだを知り、健康に対して意識を高めることで健康維持と体力向上のための橋掛かりとなることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 エアロビックダンスとは [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解できる。 [授業形態] 講義と実習</p> <p>第2講 エアロビックダンスとは何か事前に調べ（予習）、本時内容をまとめる（復習）。 エアロビックダンスの効果と運動強度 [到達目標] リズムカルな全身運動の構成ポイントについて理解し、課題運動ができるようになる。 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第3講 ウォーミングアップとクールダウン [到達目標] ウォーミングアップにリズムカルな全身運動を取り入れ、エクササイズ後のクールダウン動作を習得できる。 [授業形態]実習 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第4講 エアロビックダンスの基本姿勢と動作 [到達目標] エアロビックダンスの基本姿勢やテンポ、動作を習得できる。 4カウントの規定ルーティーンができるようになる。 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第5講 ローインパクト① [到達目標] 基本姿勢でウォームアップの目的と内容（ステップ名）の説明を習得できる。 [授業形態]実習 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第6講 ローインパクト② [到達目標] メインエクササイズの目的、強度調整、プログラミングを習得できる。 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第7講 ローインパクト③ [到達目標] 筋コンデショニングの目的、内容を習得できる。 [授業形態]実習 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第8講 ハイローインパクト① [到達目標] 健康づくり運動の実際の目的、内容、プログラミングを習得できる。 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第9講 ハイローインパクト② [到達目標] グループワーク練習で規定の課題運動ができる。 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第10講 目的別のエアロビックダンス [到達目標] 64カウントの規定ルーティーンのキューイング方法を習得できる。 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第11講 対象別エアロビックダンス [到達目標] グループワークでルーティーン練習ができる。</p>

	<p>第12講 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。 チームエアロビックダンスの創作①</p> <p>[到達目標] グループ練習でコンビネーション作成ができる。</p> <p>第13講 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。 チームエアロビックダンスの創作②</p> <p>[到達目標] エアロビックダンスにおけるフィットネスプログラムの実際を理解できる。</p> <p>第14講 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。 チームエアロビックダンスの実際①</p> <p>[到達目標]実習のまとめ①。 実践指導ができるようになる。</p> <p>第15講 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。 チームエアロビックダンスの実際②</p> <p>[到達目標]実習のまとめ②。 第1講～第13講を総括した実践指導ができるようになる。 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	資料を集め、エアロビックダンスの自分のルールブックを作成する。 プログラム作成後は、指導練習を含めた練習を行うこと。 また、授業の予習（30分）、授業後の復習（30分）を行うこと。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布します。
参考書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団
成績評価	実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度（探究心の総合評価）30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：村川 増代 研究室：体育館・教員室 メールアドレス：m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 服装は、運動に適した服装。 ② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。
	③ HJ-3-HA4-ES-P-0

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
村川 増代			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義(遠隔:オンデマンド授業)	
添付ファイル			

授業目標	本授業では、スポーツと社会との関係について、健康論、社会科学等の視点・論点から講義し、スポーツの社会的意義について学習する。また、スポーツと社会との関わりについて具体的な事例をあげ、スポーツ、社会、健康等の観点から考察していく。さらに、現代社会における、諸問題を理解し、ライフスタイルに適した運動・スポーツの必要性を理解し、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上も目指すことを目標とする。		
授業計画	第1講	<p>オリエンテーション、スポーツの歴史と概念</p> <p>[到達目標] 概念、歴史、スポーツについて理解できる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：身近にあふれているスポーツとつく言葉を集めてみる。またスポーツの歴史について考える</p> <p>復習：スポーツの歴史・概念について説明できるように、学んだことを理解しておく</p>	
	第2講	<p>現代社会の特徴から見たスポーツの意義と価値</p> <p>[到達目標] スポーツの必要性について理解できる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：なぜ現代社会ではスポーツの必要性が問われているのか考える</p> <p>復習：スポーツの意義と価値について説明できるように、学んだことを理解しておく</p>	
	第3講	<p>現場・環境に応じたコーチング（スポーツ組織のマネジメント）</p> <p>[到達目標] スポーツ組織のマネジメントについて考えることができる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：スポーツ組織のマネジメントとは何か考えてくる</p> <p>復習：スポーツ組織のマネジメントについて具体的に説明できるように学習した内容を見直す</p>	
	第4講	<p>総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的意義</p> <p>[到達目標] 地域スポーツクラブの必要性について解析できる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：なぜ現代社会では地域スポーツクラブの必要性が問われているのか考える</p> <p>復習：地域スポーツクラブの必要性について説明できるように、学んだことを理解しておく</p>	
	第5講	<p>コーチングを理解（スポーツのインテグリティ）</p> <p>[到達目標] スポーツのインテグリティについて考えることができる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：スポーツのインテグリティとは何か考えてくる</p> <p>復習：スポーツのインテグリティについて学習した内容を見直す</p>	
	第6講	<p>社会の中のスポーツ</p> <p>[到達目標] スポーツの産業化、地域生活とスポーツのあり方について解析できる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：地域生活とスポーツの関係について考える</p> <p>復習：スポーツの産業化、地域生活とスポーツの関係について学習した内容を見直す</p>	
	第7講	<p>コーチングを理解（スポーツの価値を守るスポーツ権）</p> <p>[到達目標] スポーツの価値を守るスポーツ権について考えることができる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：スポーツの価値を守るスポーツ権の必要性が問われているのか考える</p> <p>復習：スポーツの価値を守るスポーツ権について学んだことを理解しておく</p>	
	第8講	<p>コーチングを理解（スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任）</p> <p>[到達目標] スポーツ事故におけるスポーツ指導者の危機管理と責任について理解できる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：スポーツ事故における危機管理体制の大切さを考える</p> <p>復習：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の危機管理体制について学んだことを理解しておく</p>	
	第9講	<p>コーチングを理解（スポーツ仲裁）</p> <p>[到達目標] スポーツ仲裁について解析できる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：スポーツ仲裁について考える</p> <p>復習：スポーツ仲裁について学習内容を理解しておく</p>	
	第10講	<p>コーチングを理解（スポーツ倫理）</p> <p>[到達目標] スポーツ倫理について考えることができる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：スポーツ倫理について考える</p> <p>復習：スポーツ倫理について学習内容を理解しておく</p>	
	第11講	<p>暴力・ハラスメントの根絶</p> <p>[到達目標] 暴力・ハラスメントの根絶について理解できる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：暴力・ハラスメントの根絶とは何か考えておく</p> <p>復習：暴力・ハラスメントの根絶について学習内容を見直す</p>	
	第12講	<p>オリンピックと経済</p>	

	<p>[到達目標] オリンピックと経済の関係について解析できる。 [授業形態] 講義 予習：オリンピックと経済の関係について考えておく 復習：オリンピックと経済の関係について学んだ内容を理解しておく スポーツの自治（ガバナンス）</p> <p>第13講</p> <p>[到達目標] スポーツの自治について理解できる。 [授業形態] 講義 予習：スポーツガバナンスについて調べておく 復習：スポーツガバナンスについて学習内容を理解しておく</p> <p>第14講</p> <p>スポーツと法</p> <p>[到達目標] スポーツと法について理解できる。 [授業形態] 講義 予習：スポーツと法について調べておく 復習：スポーツと法について学習内容を理解しておく</p> <p>第15講</p> <p>総括（定期試験） [到達目標] 講義のまとめ・第1講～第14講をまとめて理解できる。 [授業形態] 講義 予習：第1講～第14講をまとめておく 復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	前学習（予習30分）し、講義で学習した内容をまとめておく（復習30分）。 自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1 知識・理解，○-3 関心・意欲。
	③ 科目ナンバー：HE-2-HA17-ES-L-0。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
齊藤 昌久			
配当学科：保健医療学部 柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面、ハイフレックス方式）	
添付ファイル			
シラバス2023_スポーツ心理学_柔整.xlsx		シラバス：スポーツ心理学_柔道整復学科	

授業目標	<p>授業概要】 スポーツ心理学では、グループワークなどのアクティブラーニング手法を用いて、コーチングの基本である次のことについて理解を深めます。</p> <p>①「より良い人間関係の構築」するのに必要な知識やスキル ②自分自身を知り客観的に見つめることのできる知識やスキル ③スポーツが個人の人格形成に及ぼす効果 ④個人の性格や環境などがスポーツの選択やパフォーマンスに影響すること ⑤スポーツへの動機づけの具体的な方法に関すること ⑥コーチング評価の原理・原則から具体的な方法論に関すること。</p> <p>毎回授業の終わりに課題・小テスト（Googleフォーム）を実施します。課題・小テストには、授業開始時に設定したその日の個人の授業到達目標、その到達率と気づきを記入してもらいます。</p> <p>【授業目標】 授業内容を十分に理解し、実践知識として臨床・教育・スポーツなどのコーチング現場で、有効活用できることを目標とします。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、スポーツ、コーチング、心理学、スポーツ心理学とは 【到達目標】 1) スポーツ心理学について概説できる。 2) スポーツの心理的効果について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 授業形態：対面方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。 【備考】（予習項目） スポーツ、心理。 教科書（リファレンスブック）第1章 1（p.2～4）を熟読。</p> <p>第2講 対他者力を磨こう！-1：コミュニケーション・リーダーシップ・プレゼンテーションスキル 【到達目標】 16) スポーツにおける集団要因（リーダーシップ・チームワーク）が説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 授業形態：対面方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。 【備考】（予習項目） コミュニケーションスキル、リーダーシップスキル、プレゼンテーションスキル。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 1～3（p.33～45）を熟読。</p> <p>第3講 対他者力を磨こう！-2：チームビルディング（オンデマンド） 【到達目標】 18) チームビルディングについて説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 授業形態：オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。 【備考】（予習項目） ファシリテーションスキル、チームビルディング。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 4～5（p.45～55）を熟読。</p> <p>第4講 対自己力を磨こう！：コーチの学び、セルフマネジメント 【到達目標】 13) スポーツが個人の人間形成（自己概念、ライフスキル獲得）に及ぼす影響が概説できる。 23) ストレス、ストレッサーについて説明できる。 24) ストレスマネジメントについて説明できる。 【授業形態】 授業形態：対面方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。 【備考】（予習項目） コーチの学び、セルフマネジメント、思考法・伝達法。教科書（リファレンスブック）第1章 5.（p.56～70）を熟読。</p> <p>第5講 レビュー-1：対他者力・対自己力を磨こう 【到達目標】 16) スポーツにおける集団要因（リーダーシップ・チームワーク）が説明できる。 17) コーチング計画がたてられ、説明ができる。 18) チームビルディングについて説明できる。 23) ストレス、ストレッサーについて説明できる。 24) ストレスマネジメントについて説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 【授業形態】 授業形態：対面方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。 【備考】（予習項目）</p>

第6講	<p>教科書（リファレンスブック）第2章 4. 1～5（p.33～70）と、資料（H0）をを熟読。 心のトレーニング-1：行動としてのスポーツ、動機づけ</p> <p>【到達目標】</p> <p>6) 内発的動機づけと外発的動機づけの違いが説明できる。 7) 動機づけや目標設定について説明できる。 8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 19) バーンアウトについて説明できる。 20) 運動の参加継続について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：対面方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） 行動としてのスポーツ、動機づけ。教科書（リファレンスブック）第2章 4. 1～2（p.203～211）を熟読。</p>
第7講	<p>心のトレーニング-2：運動感覚、運動学習、フィードバック、心理サポート・集中力</p> <p>【到達目標】</p> <p>10-1) モデリング（観察学習）や言語的指導について説明できる。 10-2) 効率的なフィードバックの与え方について説明できる 11) 運動学習の制御について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：対面方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） 運動感覚、運動学習、フィードバック。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 7～10（p.217～225）を熟読。</p>
第8講	<p>心のトレーニング-3：目標達成ツール等</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 33) わかりやすい発表ができる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：対面方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） マンダラート、マインドマップ。 Web等で調べておくこと。</p>
第9講	<p>レビュー-3：動機づけ、フィードバック、目標達成ツール</p> <p>【到達目標】</p> <p>7) 動機づけや目標設定について説明できる。 8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 10-1) モデリング（観察学習）や言語的指導について説明できる。 10-2) 効率的なフィードバックの与え方について説明できる 11) 運動学習の制御について説明できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 33) わかりやすい発表ができる。32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：対面方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） 運動感覚、運動学習、動機づけ、目標達成ツール。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 1～2（p.203～211）7～10（p.217～225）を熟読。</p>
第10講	<p>心のトレーニング-4：イメージトレーニング、あがり・プレッシャー・スランプ</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 14) パーソナリティの特徴について説明できる。 14-2) 情動（緊張・不安）の状態が説明できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：対面方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） イメージトレーニング、スランプ、サイキングアップ、セルフトーク。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 11～12（p.225～231）を熟読。</p>
第11講	<p>心のトレーニング-5：性格/自己概念、心理的コンディショニング</p> <p>【到達目標】</p> <p>5) 自己決定理論の構成要素が説明できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 27) 基本的な心理スキル構造について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：対面方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） 性格・自己概念、心理的コンディショニング。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 13～14（p.231～236）を熟読。</p>
第12講	<p>レビュー-4：イメージトレーニング、心理的コンディショニング</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 14) パーソナリティの特徴について説明できる。 14-2) 情動（緊張・不安）の状態が説明できる。</p>

	<p>15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。</p> <p>29) させる理論・実際・課題が説明できる。</p> <p>31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。</p> <p>32) わかりやすい発表ができる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：対面方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） イメージトレーニング、スランプ、サイキングアップ、セルフトーク、心理的コンディショニング。 教科書（リファレンスブック）第1章 4. 11～14 (p. 225～236)、ハンドアウトを熟読。 マンダラート、マインドマップについては、Web等で調べておくこと。</p> <p>スポーツ・運動における行動変容-1（オンデマンド）</p> <p>【到達目標】 20) 運動の参加継続について説明できる。</p> <p>21-1) セルフエフィカシーについて説明できる。</p> <p>32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） セルフエフィカシー、行動変容、行動変容ステージ。 Web等で調べておくこと。</p> <p>スポーツ・運動における行動変容-2</p> <p>20) 運動の参加継続について説明できる。</p> <p>21-2) 行動変容について説明できる</p> <p>21-3) 行動変容ステージが説明できる。</p> <p>32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：対面方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） 行動変容、行動変容ステージ。 Web等で調べておくこと。</p> <p>レビュー-5：行動変容と、これまでの授業内容の総合的な復習（質問に答えて）と練習問題</p> <p>【到達目標】 21-1) セルフエフィカシーについて説明できる。</p> <p>21-2) 行動変容について説明できる</p> <p>21-3) 行動変容ステージが説明できる。</p> <p>31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。</p> <p>32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：対面方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>授業内容で理解のできなかった項目、疑問点を抜き出しておくこと。</p>
第13講	
第14講	
第15講	
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>・教科書（リファレンスブック）は、各講義項目の該当ページを前もって熟読する（予習35分）。理解できない箇所（事柄）があれば、参考書を熟読するか、課題・小テストのコメント（フリートーク）に記入する。次回の授業でフィードバックします。</p> <p>・講義資料（ハンドアウト）は、講義ノートと共に必ず整理してください。授業の復習は、必ず確実にしてください。不明な点があれば次回の講義で発言するか、コメント（フリートーク）に記入してください（記憶に焼き付けられようように）（復習35分）。</p> <p>・ハンドアウトやオンデマンドコンテンツは、ClassRoom（Googleドライブ）にアップする。ハンドアウト等は紙での（印刷物）配布は行いません。</p>
教科書	「Reference Book」（リファレンスブック）公益財団法人日本スポーツ協会（JSP0） [この本はJSP0のスポーツライセンス関連科目で共通のテキストとして使用されます。]
参考書	<p>1) 「勝負脳の鍛え方」林 成之著（講談社現代新書）（902円）</p> <p>2) 「スラムダンク勝利学」辻 秀一著（集英社インターナショナル）（1000円＋税）</p> <p>3) 「まんがでわかる ドラッカーのリーダーシップ論」藤屋伸二（監修）（宝島社）（917円＋税）</p>
成績評価	<p>①出席：毎回の課題・小テストの解答・提出を出席とします。出席、遅刻・早退の取扱は「学生便覧」に準じます。</p> <p>②評価：100点法により行います。</p> <p>③合格点：評価点が60点以上を合格とします。</p> <p>④評価点の算出・内訳：課題・小テスト 80%、 その他（課題等の提出状況、遅れた場合は減点）20%</p> <p>⑤アセスメントとフィードバック： アセスメント；課題・小テスト結果、提出状況等 フィードバック課題・小テスト結果公表（個別）、コメントの質疑応答（動画・Melly等）による双方向にて行う。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：齊藤 昌久</p> <p>研究室：8号館4階 齊藤（スポーツ運動科学）研究室</p> <p>メールアドレス：ma_saito@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：月・火・木曜日 16:30～17:30</p>
備考	<p>授業とディプロマ・ポリシーとの関係：◎-1. 知識・理解、○-2. 思考・判断と5. 技能・表現</p> <p>科目ナンバー：「HJ-2-HA-19-ES-L-0」</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
桑原 彩			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：	
添付ファイル			

授業目標	人体の身体活動の基礎となる各種栄養素、および健康増進や疾病予防のための栄養学の基本を学習する。更にスポーツ活動に密着した具体的な食事のあり方を学習し、実践的な食事と関連付けて理解する。		
授業計画	第1講	<p>スポーツと保健栄養学入門</p> <p>[到達目標] 日本人の食生活の変遷を踏まえ、健康増進と疾病予防のための栄養学の全体像を把握する。</p> <p>[授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカード (Googleフォーム) に必要事項を記入する。</p> <p>[必要な準備] シラバスの内容を確認するとともに、必要な場合は参考書を購入しておく。(30分)</p>	
	第2講	<p>栄養素の働き 糖質</p> <p>[到達目標] 糖質の代謝について理解し、生体内での役割及び適切な摂取方法を把握する。</p> <p>[授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカード (Googleフォーム) に必要事項を記入する。</p> <p>[必要な準備] 前回の内容について配布した資料を用いて復習する。(30分)</p>	
	第3講	<p>栄養素の働き 脂質</p> <p>[到達目標] 脂質の代謝を理解し、生体内での役割及び適切な摂取方法を把握する。</p> <p>[授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカード (Googleフォーム) に必要事項を記入する。</p> <p>[必要な準備] 前回の内容について配布した資料を用いて復習する。(30分)</p>	
	第4講	<p>栄養素の働き タンパク質</p> <p>[到達目標] タンパク質の代謝を理解し、生体内での役割及び適切な摂取方法を把握する。</p> <p>[授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカード (Googleフォーム) に必要事項を記入する。</p> <p>[必要な準備] 前回の内容について配布した資料を用いて復習する。(30分)</p>	
	第5講	<p>栄養素の働き ビタミン/ミネラル</p> <p>[到達目標] ビタミン、ミネラルの代謝を理解し、生体内での役割及び適切な摂取方法を把握する。</p> <p>[授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカード (Googleフォーム) に必要事項を記入する。</p> <p>[必要な準備] 前回の内容について配布した資料を用いて復習する。(30分)</p>	
	第6講	<p>水分補給と熱中症</p> <p>[到達目標] 水分の役割を理解し、水分補給の重要性を把握する。正しい熱中症対策を理解する。</p> <p>[授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカード (Googleフォーム) に必要事項を記入する。</p> <p>[必要な準備] 前回の内容について配布した資料を用いて復習する。(30分)</p>	
	第7講	<p>食事バランスガイド/ジュニア期の食事</p> <p>[到達目標] 日本人の食事摂取基準および食事バランスガイドの概要を理解する。ジュニア期に必要な栄養について理解する。</p> <p>[授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカード (Googleフォーム) に必要事項を記入する。</p> <p>[必要な準備] 前回の内容について配布した資料を用いて復習する。(30分)</p>	
	第8講	<p>シニア期の食事/試合期の食事</p> <p>[到達目標] シニア期に必要な栄養について理解する。アスリートの試合期の食事について理解する。</p> <p>[授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカード (Googleフォーム) に必要事項を記入する。</p> <p>[必要な準備] 前回の内容について配布した資料を用いて復習する。(30分)</p>	
	第9講	<p>ウエイトコントロールの食事</p> <p>[到達目標] ウエイトコントロールについて理解し、適切な食事摂取量、摂取方法を把握する。</p> <p>[授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカード (Googleフォーム) に必要事項を記入する。</p> <p>[必要な準備] 前回の内容について配布した資料を用いて復習する。(30分)</p>	
	第10講	<p>障害予防の食事</p> <p>[到達目標] 骨折や貧血等を予防、回復するために必要な栄養素について理解し、適切な食事摂取方法を把握する。</p> <p>[授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカード (Googleフォーム) に必要事項を記入する。</p>	

	<p>る。 [必要な準備] 前回の内容について配布した資料を用いて復習する。(30分) 栄養指導媒体作成 [到達目標] 対象者に理解させるための栄養指導媒体を作成できる。 [授業形態] 指定されたテーマに沿った媒体を作成し提出する。 [必要な準備] 前回の内容について配布した資料を用いて復習する。(30分)</p> <p>第12講 サプリメントとドーピング・外食の活用等 [到達目標] サプリメント及びドーピングについて理解し、正しい利用法を把握する。外食の活用方法などについて学ぶ。 [授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカード(Googleフォーム)に必要事項を記入する。 [必要な準備] 前回の内容について配布した資料を用いて復習する。(30分)</p> <p>第13講 食のリスクマネジメント [到達目標] 食におけるリスクとして、食品衛生について理解する。 [授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカード(Googleフォーム)に必要事項を記入する。 [必要な準備] 前回の内容について配布した資料を用いて復習する。(30分)</p> <p>第14講 アセスメント [到達目標] 栄養指導に必要なアセスメントについて理解する。安全な食事を供給するための食品衛生の知識を得る。 [授業形態] 指定されたテーマに沿って栄養指導計画を作成し提出する。 [必要な準備] 1~13回までの内容について配布した資料を用いて復習する(30分)</p> <p>第15講 総括(評価を含む) [到達目標] 第1回目から第14回目までの内容について理解する。 [授業形態] formによる理解度確認テストを行う。 [必要な準備] 1回から14回に配布した資料を用いて復習する。(45分)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	配信資料及び参考資料等を復習する。講義内容を踏まえて適切な食生活を実践する。
教科書	特定の教科者は使用しない。必要に応じて資料を配付する。
参考書	「栄養の基礎がわかる図解辞典」 中村丁次監修 (成美堂出版) 「スポーツ栄養学」 田中紀子/平野直美 編 (化学同人) Q&Aでわかる食事・運動指導のエビデンス50 鈴木志保子、宮地元彦編著 (中央法規)
成績評価	出席基準に達した者に対し、各回Googleformの提出状況及び提出物にて評価する。(提出物評価100%) ・配信資料は自己責任で保管する(プリント配布は行わない)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 桑原 彩 研究室 : メールアドレス : a_kuwabara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後もしくはメールにて質問を受け付ける
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-3

講義科目名称： 医療人のための英語 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
智原 栄一			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	医療における危機的な場面で外国語が母語の人とどのようにして必要不可欠な情報のやり取りをするのかを初歩的な英語を材料に考える。英語の内容は高校まで（主に中学校レベル）のものの復習で基礎を固めるとともに、医療分野の基礎的な専門用語や現代の社会問題を話題にする際に必要な基礎単語の語彙を増やし将来外国人スタッフとコミュニケーションするための準備を行う。同時に英文の段落の構成などの基本を知りある程度の説明的な英文を読み取る能力を養う。
授業計画	<p>第1回（オンデマンド） 現場で使えるようになるには英語とどう取り組むのか 外国人とのコミュニケーションツールとして英語をどのように学習すべきかについてのアイデアを理解し、自分に適した方法を考える。外国語としての英語の特徴を知り日本語や他の言語との比較を理解することができる。中学校程度の英語の基礎文法の確認。</p> <p>第2回（オンデマンド） 英語になじむためのヒントを見つける 英語の略号やカタカナ語になった英語 有名な歌詞などを例に出し、どのようにして自分の好きなジャンルと英語を結びつけていくかを考えてみる。NATO phonetic code から英語の音になじむ。日常の中にある英語由来の言葉に気づく。</p> <p>第3回 確認テスト#1 NATO phonetic code、日本語として使うカタカナ英語。 中学校基礎文法#1 などが出題範囲。 試験後解説を行う。</p> <p>第4回（オンデマンド） 身体と生理的な状態を英語で説明する。基本的な動詞（look, help） 頭からつま先まで英語で自分の身体部位を表現できる。快不快や楽しい悲しいなど基本的な精神状態が英語で説明できる。基本的な動詞（look, help）について基本例文と共に理解する。</p> <p>第5回（オンデマンド） 外傷部位と病的な状態を英語で説明する。基本的な動詞（let, make） 怪我に関する英語表現や身体症状を表す基本的な英語表現を学習する。基本的な動詞（let, make）について基本例文と共に理解する</p> <p>第6回（オンデマンド） 家族や社会的状態を英語で説明する。基本的な動詞（compare、excite） 患者の家族状況や社会的状況を表現する基本的な英語表現を学習する。基本的な動詞（compare、excite）について基本例文と共に理解する</p> <p>第7回 確認テスト#2 第4回から第6回の内容に沿って身体部位や状態を英語で表現できるか、基本的な動詞が適切に使えるかなどについて試験する。試験後解説を行う。</p> <p>第8回（オンデマンド） Introduction to Medical English Chapter#1 Circulatory system Explain how the blood goes around your body? Why the heart is so important? What is the pulmonary circulation?</p> <p>第9回（オンデマンド） Introduction to Medical English Chapter#2 Nervous System Explain the difference of central nervous system and perioheral nervous system. How the brain control our body? What is the role of peripheral nervous system?</p> <p>第10回（オンデマンド） Introduction to Medical English Chapter#3 Respiratory System How do you breathe? How the oxgen is taken into the body? Explain the anatomical structure of breathing both in macroscopic and microscopic aspects.</p> <p>第11回（オンデマンド） Introduction to Medical English Chapter#4 Digestive System Why eating and drinking is important for us? How the food turn into the nutrients? Explain some disorders of the digestive system.</p> <p>第12回 確認テスト#3 第8回から第11回の内容についての基本的な人体の整理・解剖構造が英語で理解できているかを試験する。試験後解説を行う。</p>

	<p>第13回 (オンデマンド) 英文読解に挑む (paragraphをまるごと理解する)</p> <p>知らない単語があっても文脈(context) から重要性や同じ意味の表現をみつけ推測しながら全体を理解する方法を理解する。英語の医学関係教科書に触れる。</p> <p>第14回 (オンデマンド) My (exciting) days in the hospital レポート作成</p> <p>自分が怪我をして、救急車で運ばれ、入院し検査・治療・手術 (全身麻酔) をうけ退院するまでの1週間を英文日記にしてみる。</p> <p>第15回 最終確認テスト # 4 第1回から第14回までの内容全体を含むテストを行い。試験後解説を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	講義予定に従い予習を行う。GoogleClassroom に上げた課題を自分で解いてみる (40分) 前回講義の内容を復習し、与えられた英文テキストや授業に用いた教科書の単元を数回音読し、1回以上書写する (40分)。
教科書	必要な授業資料は 適宜GoogleClassroomにあげるのので、事前に自分で確認すること。
参考書	やさしい医学英語 Introduction to medical English 青野淳子 編 医学書院 中学高校時に使用した英語文法の教科書、英和・和英辞書
成績評価	授業内に行う複数回の確認テスト(各20%x3)。第15回目に行う最後の確認テスト(40%)の成績が最も重視される。
担当教員の基本情報	担当教員名：智原 栄一 (ちはら えいいち) 英語検定1級 通訳技能検定2級 海外医学部在籍経験あり。 研究室：6号館 2F メールアドレス：e_chihara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日16:30-17:30
備考	diploma policy ⑤◎ ①○ ③○ 科目ナンバー：HE-3-LI3-ES-S-0
	確認テストの回 (授業計画参照、変更されることがあるので注意) は対面で実施するので 必ず出席して試験を受けること。 アクティブラーニング：授業内で出された課題に対して都度出題されるGoogleFormsなどで回答する。
	オンデマンドの授業は各回終了後にGoogleformsで授業内容に関するテストを行いそれに対する回答をもって出席とする。 ※友人による代行など架空もしくは不正出席は重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとする。
	課題のフィードバックは授業内に口頭で行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
智原 栄一			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	医療における危機的な場面で外国語が母語の人とどのようにして必要不可欠な情報のやり取りをするのかを初歩的な英語を材料に考える。英語の内容は高校まで（主に中学校レベル）のものの復習で基礎を固めるとともに、医療分野の基礎的な専門用語や現代の社会問題を話題にする際に必要な基礎単語の語彙を増やし将来外国人スタッフとコミュニケーションするための準備を行う。同時に英文の段落の構成などの基本を知りある程度の説明的な英文を読み取る能力を養う。
授業計画	<p>第1回 現場で使えるようになるには英語とどう取り組むのか 外国人とのコミュニケーションツールとして英語をどのように学習するべきかについてのアイデアを理解し、自分に適した方法を考える。外国語としての英語の特徴を知り日本語や他の言語との比較を理解することができる。中学校程度の英語の基礎文法の確認。</p> <p>第2回 英語になじむためのヒントを見つける 英語の略号やカタカナ語になった英語 有名な歌詞などを例に出し、どのようにして自分の好きなジャンルと英語を結びつけていくかを考えてみる。NATO phonetic code から英語の音になじむ。日常の中にある英語由来の言葉に気づく。</p> <p>第3回 確認テスト#1 NATO phonetic code、日本語として使うカタカナ英語。 中学校基礎文法#1 などが出題範囲。 試験後解説を行う。</p> <p>第4回 身体と生理的な状態を英語で説明する。基本的な動詞 (look, help) 頭からつま先まで英語で自分の身体部位を表現できる。快不快や楽しい悲しいなど基本的な精神状態が英語で説明できる。基本的な動詞 (look, help)について基本例文と共に理解する。</p> <p>第5回 外傷部位と病的な状態を英語で説明する。基本的な動詞 (let, make) 怪我に関する英語表現や身体症状を表す基本的な英語表現を学習する。基本的な動詞 (let, make)について基本例文と共に理解する。</p> <p>第6回 家族や社会的状態を英語で説明する。基本的な動詞 (compare, excite) 患者の家族状況や社会的状況を表現する基本的な英語表現を学習する。基本的な動詞 (compare, excite)について基本例文と共に理解する。</p> <p>第7回 確認テスト#2 第4回から第6回の内容に沿って身体部位や状態を英語で表現できるか、基本的な動詞が適切に使えるかなどについて試験する。試験後解説を行う。</p> <p>第8回 Introduction to Medical English Chapter#1 Circulatory system Explain how the blood goes around your body? Why the heart is so important? What is the pulmonary circulation?</p> <p>第9回 Introduction to Medical English Chapter#2 Nervous System Explain the difference of central nervous system and perioheral nervous system. How the brain control our body? What is the role of peripheral nervous system?</p> <p>第10回 Introduction to Medical English Chapter#3 Respiratory System How do you breathe? How the oxgen is taken into the body? Explain the anatomical structure of breathing both in macroscopic and microscopic aspects.</p> <p>第11回 Introduction to Medical English Chapter#4 Digestive System Why eating and drinking is important for us? How the food turn into the nutrients? Explain some disorders of the digestive system.</p> <p>第12回 確認テスト#3 第8回から第11回の内容についての基本的な人体の整理・解剖構造が英語で理解できているかを試験する。試験後解説を行う。</p> <p>第13回 英文読解に挑む (paragrahをまるごと理解する) 知らない単語があっても文脈(context) から重要性や同じ意味の表現をみつけ推測しながら全体を理解する方法を理解する。英語の医学関係教科書に触れる。</p> <p>第14回 My (exciting) days in the hospital レポート作成 自分が怪我をして、救急車で運ばれ、入院し検査・治療・手術（全身麻酔）をうけ退院するまでの1週間を英文日記にしてみる。</p> <p>第15回 最終確認テスト#4 第1回から第14回までの内容全体を含むテストを行い。試験後解説を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義予定に従い予習を行う。GoogleClassroom に上げた課題を自分で解いてみる（40分） 前回講義の内容を復習し、与えられた英文テキストや授業に用いた教科書の単元を数回音読し、1回以上書写する（40分）。
教科書	必要な授業資料は 適宜GoogleClassroomにあげるのので、事前に自分で確認すること。
参考書	やさしい医学英語 Introduction to medical English 青野淳子 編 医学書院 中学高校時に使用した英語文法の教科書、英和・和英辞書

成績評価	授業内に行う複数回の確認テスト(各20%x3)。第15回目に行う最後の確認テストの成績が最も重視される(40%)。
担当教員の基本情報	担当教員名：智原 栄一（ちはら えいいち）英語検定1級 通訳技能検定2級 海外医学部在籍経験あり。 研究室：6号館 2F メールアドレス：e_chihara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日16:30-17:30
備考	diploma policy ⑤◎ ②○ ③○ 科目ナンバー：HE-3-LI3-ES-S-0
	アクティブラーニング：授業内で出された課題に対して都度出題されるGoogleFormsなどで回答する。
	※架空もしくは不正出席は重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとする。
	課題のフィードバックは授業内に口頭で行う。

講義科目名称： 応急救急処置実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
智原 栄一、坪倉 寛明			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	救急車到着前にバイスタンダーが応急処置を実施することは、傷病者の救命率及び機能予後の改善のためには重要である。 本授業では、傷病者に単に処置を実施できるようになるだけではなく、その処置が必要かどうかの判断、及び傷病の理解を深め、医療従事者として必要な応急手当を実施できることを目標とする。		
授業計画	1回	応急処置の必要性 [到達目標] 応急処置の必要性を理解する。 授業形態：アクティブラーニング無 予習：参考書・インターネット等を活用し、誰もが実施可能な応急手当について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)	
	2回	応急処置に必要な人体について(解剖・生理) [到達目標] 応急処置に必要な解剖・生理について理解する。 授業形態：アクティブラーニング無 予習：参考書・インターネット等を活用し、循環器、呼吸器について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)	
	3回	生命兆候・バイタルサインについて [到達目標] 基本的なバイタルサインについて理解し測定できる。 アクティブラーニング無 予習：参考書・インターネット等を活用し、バイタルサインの種類を調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)	
	4回	止血の原理・三角巾の使用法 [到達目標] 出血による病態の変化を理解し止血法、三角巾の使用について理解し、実践できる。 授業形態：アクティブラーニング有(止血等応急手当実施後、フィードバックを行う。 予習：参考書・インターネット等を活用し、出血時の止血法について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)	
	5回	骨折の固定の原理・処置法 [到達目標] 骨折に対しての固定法を理解し、段ボール等、日用品を用いた固定が実施できる。 授業形態：アクティブラーニング有(固定処置実施後、フィードバックを行う。 予習：参考書・インターネット等を活用し、骨折時の固定方法について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)	
	6回	徒手搬送の原理と実技 [到達目標] 徒手搬送の種類を理解し、病態に対して適切な搬送法を理解し実践できる。 授業形態：アクティブラーニング有(症状に適した搬送方をデスカッションする) 予習：参考書・インターネット等を活用し、徒手搬送について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)	
	7回	心肺蘇生法(呼吸停止の病態生理を含む) [到達目標] 呼吸停止・心停止時に体に起こる病態生理を時間軸と共に理解する。また、AEDを含む心肺蘇生法の必要性を理解し、正しく実施できる。 授業形態：アクティブラーニング有心肺蘇生実施後フィードバックを行う。 予習：参考書・インターネット等を活用し、窒息の解除法、心配蘇生法について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)	
	8回	心肺蘇生法(窒息の解除を含む) [到達目標] AEDを含む心肺蘇生法の必要性を理解し、正しく実施できる。 授業形態：アクティブラーニング有心肺蘇生実施後フィードバックを行う。 予習：参考書・インターネット等を活用し、再度心配蘇生法について調べる。(30分) 復習：実技において指導を受けた内容を再度確認し訓練を実施する。(30分)	
	9回	【心肺蘇生法実技試験】とフィードバック [到達目標] AEDを含む心肺蘇生法の必要性を理解し、正しく実施できる。 授業形態：アクティブラーニング有(試験実施後フィードバックを行う) 予習：7・8回での講義・実技をもとに救急実習室において、心肺蘇生の訓練を行う。(30分) 復習：実技試験において指導を受けた内容を再度確認し訓練を実施する。(30分)	
	10回	小児の応急処置(小児の心肺蘇生を含む) [到達目標]	

	<p>小児の救急疾患について理解し、心肺蘇生が実施できる。 授業形態：アクティブラーニング無 予習：参考書・インターネット等を活用し、小児特有の救急疾患について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分) 外傷(頭部外傷・脊椎損傷)</p> <p>[到達目標] 脊髄損傷・頭部外傷の病態について理解し、処置・対応を判断し実施できる。 授業形態：アクティブラーニング無 予習：参考書・インターネット等を活用し、脊椎損傷、頭部外傷について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分) 外傷(全身固定)</p> <p>[到達目標] 脊髄損傷に対する全身固定の重要性を判断し全身固定が実施できる。 授業形態：アクティブラーニング有(全身固定終了後、フィードバックを行う) 予習：参考書・インターネット等を活用し、全身固定が必要な症状と方法について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分) 大規模災害時における医療</p> <p>[到達目標] 大規模災害時における医療について理解し、柔道整復師として災害時何が出来るかを考える力を身に付ける。 授業形態：アクティブラーニング無 予習：参考書・インターネット等を活用し、災害時における「自助・共助・公助」を調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分) 環境障害</p> <p>[到達目標] 熱中症・低体温の知識を身につけ実践できる。 授業形態：アクティブラーニング無</p> <p>【筆記試験】 [到達目標] 医療従事者として救急時に必要な知識を有し、応急手当を実施できることを目標とする。 授業形態：アクティブラーニング無 予習：これまで行った講義・実技のまとめを行う。(30分) 復習：筆記試験の問題を再度確認する。(30分)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	参考書、インターネットを活用し自主学習を実施する。
教科書	特になし。
参考書	<p>応急手当で標準テキスト(東京法令出版) JPTECガイドブック よくわかるみんなの救急(大修館書店) 柔道整復師のための救急医学</p>
成績評価	<p>講義演習の4/5以上の出席 心肺蘇生法の合格(第9回実施予定) かつ 筆記試験(第15回実施予定)60%以上が成績評価の対象となる。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 智原栄一 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : e_tihara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示研究室</p> <p>担当教員名 : 坪倉寛明 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : h_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p>
備考	<p>智原栄一：長年にわたり麻酔科医師として勤務し、経験及び知識をもとに講義、実技をおこなう。 坪倉寛明：消防士として現場経験37年、内救急救命士歴21年とJPTEC及びICLS、MCLSのインストラクター資格を有し、経験及び知識をもとに講義、実技を行う。</p>
	授業とディプロマポリシーとの関係 ◎-2
	課題等に対し、フィードバックが必要な場合は次回の講義時に行う。

講義科目名称： 関係法規

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
田中 健吾			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義(オンデマンド)	科目ナンバー HJ-3-JJ1-RS-L-1
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】現代法は禁止・罰則のためだけのものではなく、社会における人の権利を守ることが目的であり、医療の分野においても、安心して安全な医療を享受・提供する上で法律を学ぶことは必要不可欠である。柔道整復師として業務に従事する上で、必要な法令を学ぶ。</p> <p>【到達目標】柔道整復師として業務に従事するうえで必要な柔道整復師法、医事福祉法規等を理解し説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・法の基礎 【到達目標】法の解釈を理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第2回 法の意義・法の体系 【到達目標】法の意義と役割、法の体系を理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第3回 患者の権利 【到達目標】患者の権利と医療従事者の義務を理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第4回 リスクマネジメント等 【到達目標】医療事故の定義、個人情報の保護に関する法律を理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第5回 柔道整復師法① 【到達目標】柔道整復師の免許資格要件を理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第6回 柔道整復師法② 【到達目標】柔道整復師名簿を理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第7回 柔道整復師法③ 【到達目標】柔道整復師免許を理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第8回 柔道整復師法④ 【到達目標】柔道整復師の業務を理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第9回 柔道整復師法⑤ 【到達目標】施術所の開設等の要件を理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第10回 柔道整復師法⑥ 【到達目標】柔道整復師の広告制限について理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第11回 柔道整復師法⑦ 【到達目標】柔道整復師の罰則を理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第12回 身分法 【到達目標】医師法他を理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第13回 医療法 【到達目標】医療法を理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p> <p>第14回 社会福祉・社会保険関係法規 【到達目標】社会保険の関係法規を理解する。 【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし 【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>

	<p>第15回 まとめ</p> <p>【到達目標】 第1～14回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。</p> <p>【授業形態】 筆記試験（50分）＋講義（アクティブラーニングあり）（50分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>事前に各講義項目を調べて当該ページを熟読する。（予習35分）</p> <p>授業内での疑問点は次回までに担当教員に質問する、調べる等の復習を行う。（復習35分）</p>
教科書	「関係法規 2024年度版」公益財団法人全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社
参考書	必要に応じて資料を配布する。
成績評価	評価方法は筆記試験とし、その結果にて評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：田中健吾</p> <p>研究室：8号館4F 講師室</p> <p>メールアドレス：k_tanaka@tch.meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：水曜日16:40～17:30</p>
備考	施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	資料・課題の配布はClassroomを利用します。パソコン、スマートフォン、タブレット端末などのインターネットへ接続できる機器・環境を用意してください。
	この科目は、原則としてオンデマンド形式にて実施するが、適宜、対面講義形式に変更されることがあります。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1

講義科目名称： 運動学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
奥田 正作			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	前年度修得した運動機能解剖学・運動機能解剖学実習の知識を柔道整復師の臨床に活用するために、運動のメカニズムを理解し、傷害の発生機序、整復方法、固定方法、後療法へと適応できるようになる。		
授業計画	1回目	<p>運動学の目的</p> <p>[到達目標]</p> <p>運動学を学ぶ目的を理解し、専門用語で著された動作解析の内容を自らの言葉で説明することができる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：専門用語を含んだ動作解析に関する50文字程度の文章の説明を、講義の内容をもとに自分の言葉で表現して提出し、その記述内容から、学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>「教科書：運動学」p 1-12を熟読しておくこと (予習35分)。</p> <p>講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>	
	2回目	<p>身体運動と力学</p> <p>[到達目標]</p> <p>人体における単一機械構造、運動の法則、仕事と力学的エネルギーについて、内容を自らの言葉で説明することができる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：「運動学の目的」、「運動の表し方」、「身体運動と力学」の基本的用語とその意味を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>「教科書：運動学」p 13-22を熟読しておくこと (予習35分)。</p> <p>講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>	
	3回目	<p>骨格筋の構造と機能</p> <p>[到達目標]</p> <p>骨格筋の構造と機能を理解し、その内容を自らの言葉で説明できるとともに、柔道整復師の治療範囲である筋挫傷のメカニズムやそれに対する処置・後療法を理解し応用することができる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：「骨格筋の構造と機能」、「筋疾患」、「筋疾患に対する柔道整復師としての後療法」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>「教科書：運動学」p 32-40を熟読しておくこと (予習35分)。</p> <p>講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>	
	4回目	<p>神経の構造と機能</p> <p>[到達目標]</p> <p>神経の構造と機能および反射について理解し、その内容を自らの言葉で説明できるとともに、外傷によって生じる神経損傷に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：「神経の構造と機能」、「末梢神経損傷」、「神経疾患に対する柔道整復師としての対応」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>「教科書：運動学 p 41-45, p57-63を熟読しておくこと (予習35分)。</p> <p>講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>	
	5回目	<p>末梢神経損傷</p> <p>[到達目標]</p> <p>末梢神経損傷について理解し、その内容を自らの言葉で説明できるとともに、外傷によって生じる末梢神経損傷に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：「末梢神経損傷」、「末梢神経損傷に対する電気生理学検査」、「神経疾患に対する柔道整復師としての対応」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>「教科書：運動学 p 41-45を熟読しておくこと (予習35分)。</p> <p>講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>	
	6回目	<p>中枢神経</p>	

	<p>[到達目標] 中枢神経の構造と機能について理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、中枢神経疾患によって生じる中枢神経症状に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有：「中枢神経の構造と機能」、「中枢神経損傷」、「中枢神経疾患に対する柔道整復師としての対応」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：運動学 p 46-50を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>
7回目	<p>随意運動 1</p> <p>[到達目標] 随意運動のメカニズムについて理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、中枢神経疾患によって生じる中枢神経症状に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有：「随意運動のメカニズム」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：運動学 p 65-68を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>
8回目	<p>随意運動 2</p> <p>[到達目標] 随意運動のメカニズムについて理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、中枢神経疾患によって生じる中枢神経症状特に高次脳機能障害に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有：「高次脳機能」、「高次脳機能障害」、「高次脳機能障害に対する柔道整復師としての対応」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：運動学 p 65-68を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>
9回目	<p>運動発達</p> <p>[到達目標] 「神経組織の成熟」、「乳幼児期の運動発達」について理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、乳幼児期に生じる疾患に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有：「神経組織の成熟」、「乳幼児期の運動発達」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：運動学 p 213-224を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>
10回目	<p>姿勢 正常歩行</p> <p>[到達目標] 「姿勢に関する基本的用語」、「姿勢制御に関連するメカニズム」、「正常歩行」について理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、外傷により生じる姿勢異常に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有：「姿勢に関する基本的用語」、「姿勢制御に関連するメカニズム」、「正常歩行」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：運動学 p 177-205を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>
11回目	<p>歩行分析</p> <p>[到達目標] 「正常歩行の変化」、「異常歩行の見方」、「原因別による異常歩行」について理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、外傷により生じる異常歩行に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有：「姿勢に関する基本的用語」、「姿勢制御に関連するメカニズム」、「正常歩行」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：運動学 p 206-212を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>
12回目	<p>運動学習 1</p> <p>[到達目標] 「学習」、「運動技能と運動能力」、「運動技能学習の過程」について理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、外傷の後療法において柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有：「学習」、「運動技能と運動能力」、「運動技能学習の過程」の基本的内</p>

	<p>容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。 [備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：運動学 p 225-230を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。 運動学習 2 [到達目標] 「動機づけ」、「学習の転移」、「記憶」について理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、外傷の後療法において柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：「動機づけ」、「学習の転移」、「記憶」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。 [備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：運動学 p 225-230を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。 14回目 運動学の応用 [到達目標] 13回の運動学に関する内容を自らの言葉で説明することができるとともに、柔道整復師の職業において行うべき対応について理解し応用することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：これまでの内容を試験にて評価し、学生の理解できていない部分をフィードバックする。 [備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：これまでの講義内容を再度確認しておくこと (予習35分)。 試験および試験後の講義内容を再度確認しておくこと (復習35分)。 15回目 本試験 [到達目標] 運動学について第3者へ説明することができる。 [授業形態] 筆記試験。筆記試験後、解説を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	授業計画に則り、授業内容の項に関する「柔道整復学・理論編」、「運動学」、「解剖学」の教科書を熟読しておくこと。(予習35分) また学修した内容を、教科書にて再度、熟読しておくこと。(復習35分)
教科書	解剖学 改訂第2版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 運動学 改訂第3版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 柔道整復学・理論編 改訂第6版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	身体運動学 関節の制御機構と筋機能 筆頭著者 市橋 則明 (編集) メジカルビュー社
成績評価	小テスト (20%)、本試験 (80%)
担当教員の基本情報	担当教員名：奥田正作 研究室：8号館4階講師控え室 メールアドレス：si_okuda@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日16:00-17:00
備考	20年間病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」 ◎ー1
	科目ナンバー：HJ-3-MM13-RS-L-1
	資料はクラスルームにて配布する。授業の1回分はオンデマンドで講義を行う。

講義科目名称： 老年科学・介護論演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
林 知也、森下 大亮、木村 篤史			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習，講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	本科目では老年科学と介護論について学修し、知識を深めるとともに、柔道整復師が介護の現場に必要な機能訓練に関わる高齢者のトレーニング方法を学び、実践できるようになることを授業目標とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション・高齢者の生理学的特徴：林担当 【到達目標】 ・高齢者の生理学的特徴について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：なし 【備考】 自主学習の課題：高齢者の生理学的特徴についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。	
	第2回	運動と加齢：林担当 【到達目標】 ・加齢による歩行機能，平衡機能等の変化について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：なし 【備考】 自主学習の課題：運動と加齢についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。	
	第3回	発達と老化の理解1：森下担当 【到達目標】 ・老年期の発達と成熟，及びエイジング理論について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 本授業の内容について授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。 【備考】 自主学習の課題：発達と老化の理解についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。	
	第4回	発達と老化の理解2：森下担当 【到達目標】 ・高齢者と健康について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 本授業の内容について授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。 【備考】 自主学習の課題：発達と老化の理解についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。	
	第5回	認知症の理解：森下担当 【到達目標】 ・認知症について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 認知症になると生活や家族にとってどのような障害がしようじるのか授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。 【備考】 自主学習の課題：認知症の理解についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。	
	第6回	柔道整復師と介護保険・介護保険制度：森下担当 【到達目標】 ・介護保険制度について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 本授業の内容について授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。 【備考】 自主学習の課題：柔道整復師と介護保険・介護保険制度についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。	
	第7回	介護の過程：森下担当 【到達目標】 ・介護の過程について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 本授業の内容について授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。 【備考】 自主学習の課題：介護の過程についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。	

	<p>第8回 高齢者介護とICF、介護予防と生活機能の向上：森下担当 【到達目標】 ・高齢者介護とICF、介護予防と生活機能の向上について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 本授業の内容について授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。 【備考】 自主学習の課題：高齢者介護とICF、介護予防と生活機能の向上についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。</p> <p>第9回 介護予防・日常生活支援総合事業、ロコモティブシンドローム：森下担当 【到達目標】 ・介護予防・日常生活支援総合事業、ロコモティブシンドローム。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 本授業の内容について授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。 【備考】 自主学習の課題：介護予防・日常生活支援総合事業、ロコモティブシンドロームについての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。</p> <p>第10回 高齢者自立支援の理解：森下担当 【到達目標】 ・高齢者自立支援について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 【備考】 自主学習の課題：高齢者自立支援の理解についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。</p> <p>第11回 機能訓練指導員に必要な知識1：木村担当 【到達目標】 ・機能訓練指導員の定義と必要な知識について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 【備考】 自主学習の課題：機能訓練指導員の定義と必要な知識についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。</p> <p>第12回 機能訓練指導員に必要な知識2：木村担当 【到達目標】 ・機能訓練指導員の定義と必要な知識について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 【備考】 自主学習の課題：機能訓練指導員の定義と必要な知識についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。</p> <p>第13回 機能訓練で提供する運動と要点1：木村担当 【到達目標】 ・器具を用いない運動について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 【備考】 自主学習の課題：機能訓練で提供する運動と要点についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。</p> <p>第14回 機能訓練で提供する運動と要点2：木村担当 【到達目標】 ・様々な器具を用いた運動について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 【備考】 自主学習の課題：機能訓練で提供する運動と要点についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。</p> <p>第15回 総合復習（まとめ） 【到達目標】 ・第1～14回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 【授業形態】 ・筆記試験 ・アクティブラーニングの有無：なし 【備考】 ・第1～14回までの学習範囲の内容を説明できるように自己学習を進めること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習45分） 各講義後、配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。（復習45分）
教科書	1. 生理学 改訂第4版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂 2. 柔道整復師と機能訓練指導 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	目で見てわかる最新介護術 著：北田信一 成美堂出版 ISBN-10: 4415321518 2016出版
成績評価	出席日数の基準を満たしている者に対して評価を行う。評価は学期末試験において100%の評価を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○林 知也 研究室 : 8号館4階林（知）教授室 メールアドレス : tomoya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業日の16:30～17:30

	担当教員名 : 森下 大亮 オフィスアワー : 授業終了直後 担当教員名 : 木村 篤史 研究室 : 附属病院総合リハビリテーションセンター メールアドレス : a_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールにて事前連絡の後、随時調整する。
備考	ディプロマポリシーとの関連 : ◎-①、○-⑤ 科目ナンバー : HJ-3-MM14-RS-S-1 Classroomの活用 : 授業資料の配布, 授業内アンケート (森下担当授業)

講義科目名称： リハビリテーション論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
木村 篤史			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 リハビリテーションとは“単に「歩く訓練」や「筋力トレーニング」を行うことである”という誤った理解をされることが多い。リハビリテーションとは、多くの職種が協力して患者が社会復帰し、新たな人生の再構築をするための「取り組み」の全てのことを指しており、柔道整復師もその一役を担う重要な職種である。したがって、柔道整復師を目指す諸君はリハビリテーションについて正しい理解をする必要があるとともに、患者が社会復帰するにあたって問題となっている理由を見つけ、それらを解決するための適切な方法を見出す能力を身につける必要がある。そのような背景のもと、授業計画にあるような内容を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①リハビリテーションとは？という問いに対して正しく答えることができる。 ②各疾患によって生じる「障害」の理解・分類・解決に導くための考え方を理解できる。 ③各単元の終了時には、アクティブラーニングとしてその単元の内容を含む小テストを用いた課題解決型学習を行い、各単元の学習内容の習熟度を高める。</p>
授業計画	<p>第1回 リハビリテーションの理念と障害者の実態 [授業概要] リハビリテーションの理念、リハビリテーションの対象と障害者の実態について学習する。 [到達目標] リハビリテーションの理念、リハビリテーションの対象と障害者の実態について理解することができる。</p> <p>第2回 障害の階層とアプローチ [授業概要] 障害の階層とアプローチについて学習する。 [到達目標] 障害の階層とアプローチについて理解することができる。</p> <p>第3回 リハビリテーション評価学1 [授業概要] 身体計測、関節可動域、身体所見、小児運動発達評価、ADL評価、心理的評価について学習する。 [到達目標] 身体計測、関節可動域、身体所見、小児運動発達評価、ADL評価、心理的評価について理解することができる。</p> <p>第4回 リハビリテーション評価学2 [授業概要] 認知症の評価、電気生理学的検査、画像診断、運動失調について学習する。 [到達目標] 認知症の評価、電気生理学的検査、画像診断、運動失調について理解することができる。</p> <p>第5回 リハビリテーション障害学1 [授業概要] リハビリテーションの各障害について学習する。 [到達目標] リハビリテーションの各障害について理解することができる。</p> <p>第6回 リハビリテーション障害学2 [授業概要] リハビリテーションの各障害について学習する。 [到達目標] リハビリテーションの各障害について理解することができる。</p> <p>第7回 リハビリテーション治療学 [授業概要] リハビリテーションの各障害に対する治療学について学習する。 [到達目標] リハビリテーションの各障害に対する治療学について理解することができる。</p> <p>第8回 リハビリテーション医学の関連職種 [授業概要] リハビリテーション医学の関連職種について学習する。 [到達目標] リハビリテーション医学の関連職種について理解することができる。</p> <p>第9回 リハビリテーション治療技術1 [授業概要] 理学療法、作業療法について学習する。 [到達目標] 理学療法、作業療法について理解することができる。</p> <p>第10回 リハビリテーション治療技術2 [授業概要] 言語聴覚療法、補装具療法について学習する。 [到達目標]</p>

	<p>言語聴覚療法, 補装具療法について理解する。 リハビリテーションの実際 1</p> <p>[授業概要] 脳卒中のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 脳卒中のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>第12回 リハビリテーションの実際 2</p> <p>[授業概要] パーキンソン病, 高齢者のリハビリテーション (フレイル, ロコモ, サルコペニア) について学習する。 [到達目標] パーキンソン病, 高齢者のリハビリテーション (フレイル, ロコモ, サルコペニア) について理解する。</p> <p>第13回 高齢者の自立支援と機能訓練指導員</p> <p>[授業概要] 高齢者の自立支援と機能訓練指導員について学習する。 [到達目標] 高齢者の自立支援と機能訓練指導員について理解する。</p> <p>第14回 第1回～第13回までの講義のまとめ</p> <p>[授業概要] 第1回～第13回までの講義内容を網羅した国家試験形式の問題を基に総復習を行う。 [到達目標] 第1回～第13回までの講義内容を網羅した国家試験形式の問題の解答を導き出せる。</p> <p>第15回 評価・総括</p> <p>[授業概要] 上記の学習内容の理解度を確認するための評価として筆記試験を実施する。 評価実施後に筆記試験の設問に対する解答について解説を行う。 [到達目標・学習目標] 評価として筆記試験を受けることで、これまでの学習内容の到達度を確認することが出来る。また、筆記試験の設問に対する解説を聞くことで、本講の全体的な復習となる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	準備学習として、次の講義に該当する教科書の項目と配布資料を予め熟読すること (予習時間45分)。終了した講義の内容について、教科書の該当する項目の熟読と課題の見直しをすること (復習時間45分)。解決しない場合は担当教員にメール等で連絡し、オフィスアワーに質問すること。
教科書	「リハビリテーション医学」全国柔道整復学校協会 (監修) 栢森良二 (編) (南江堂) 「柔道整復師と機能訓練指導」全国柔道整復学校協会 (監修) 遠藤英俊/細野昇 (編) (南江堂) *各講義開始前に講義資料をGoogle Classroomに掲載する。
参考書	「リハビリテーション医学 (PT・OTビジュアルテキスト専門基礎)」 安保雅博 (監修) (羊土社) 「リハビリテーションビジュアルブック第2版」 落合慈之 (監修) (学研メディカル秀潤社)
成績評価	第15回目の筆記試験の得点により評価する。得点が合格点に達しない場合は追試験を実施する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 木村 篤史 研究室 : 附属病院総合リハビリテーションセンター メールアドレス : a_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールにて事前連絡の後、随時調整する。
備考	①病院のリハビリテーションセンターにて理学療法士として27年間の実務経験を有する。その実務経験を基にリハビリテーション医学に関する内容について授業を進める。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連: DP-1 ◎, DP-2 ○ 科目ナンバー: HJ-3-MM25-RS-L-1 ③アクティブラーニングの有無: 有り。具体的には各単元の終了時に小テストを用いた課題解決型学習を通じて、自発的に問題解決に取り組む。 ④課題に対するフィードバックの方法: 講義時間内に口頭にて実施する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	2	必修
担当教員			
宮坂 卓治、児玉 香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標（授業内容・到達目標）</p> <p>【授業内容】 柔道整復師はその臨床において、外傷・障害の鑑別診断が的確に行えなければなりません。そのためには柔道整復学の知識だけではなく、運動器疾患、さらには内科学・外科学・整形外科学などの臨床科目の理解を深めることが重要になります。</p> <p>本講義では、鑑別診断に必要な柔道整復学、臨床医学（外科学、整形外科学、内科学など）の臨床科目の理解を深めるとともに、診断学の基本的事項を体系的に講義します。加えて、鑑別診断には欠かせないX線、CT・MRI・超音波エコーなどの原理や画像解析も学んでいきます。</p> <p>近年、接骨院・整骨院での超音波エコーの普及が進んできました。しかし、超音波エコーの機器があっても、それを使って診断できなければ、自ずと使用頻度も減り、診断能力も低下してしまいます。それらの診断機器が有効に使用できることも、これからの柔道整復師にとって重要な能力になると思います。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床医学における各疾患の概要について、説明することができるようにしましょう。 2. 損傷に類似した症状を示す疾患について、理解し説明することができるようにしましょう。 3. 病的骨折や脱臼についての判断や対応を理解し説明することができるようにしましょう。 4. 医用画像を理解し、その概要を説明することができるようにしましょう。 5. 柔道整復師国家試験における柔整理論、一般臨床医学の出題範囲の出題形式や問題内容を理解し、正解を導く事ができるようにしましょう。
授業計画	<p>第1回（児玉） 柔道整復師が取り扱う疾患の適否（担当：児玉）</p> <p>【到達目標】 柔道整復師が取り扱う疾患の適否を理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 アクティブラーニングあり 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、講義内容をまとめましょう。復習60分 教科書 施術の適応と医用画像の理解 P.1～8までを予習しましょう。予習60分</p> <p>第2回（児玉） 損傷に類似した症状を示す疾患1（担当：児玉）</p> <p>【到達目標】 損傷に類似した症状を示す疾患を理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 アクティブラーニングあり 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、講義内容をまとめましょう。復習60分 教科書 施術の適応と医用画像の理解 P.9-23までを予習しましょう。予習60分</p> <p>第3回（児玉） 損傷に類似した症状を示す疾患2（担当：児玉）</p> <p>【到達目標】 損傷に類似した症状を示す疾患を理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 アクティブラーニングあり 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、講義内容をまとめましょう。復習60分 教科書 施術の適応と医用画像の理解 P.9-23までを予習しましょう。予習60分</p> <p>第4回（児玉） 血管障害を伴う損傷、末梢神経損傷を伴う損傷1（担当：児玉）</p> <p>【到達目標】 血管障害を伴う損傷について理解し説明できる。 末梢神経損傷を伴う損傷について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 アクティブラーニングあり 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、講義内容をまとめましょう。復習60分 教科書 施術の適応と医用画像の理解 P.23-36までを予習しましょう。予習60分</p> <p>第5回（児玉） 末梢神経損傷を伴う損傷2（担当：児玉）</p> <p>【到達目標】</p>

第6回 (児玉)	<p>末梢神経損傷を伴う損傷について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 アクティブラーニングあり 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、講義内容をまとめましょう。復習60分 教科書 施術の適応と医用画像の理解 P. 28-36までを予習しましょう。予習60分 脱臼骨折、外出血を伴う損傷、病的骨折および脱臼 (担当：児玉)</p>
第7回 (児玉)	<p>【到達目標】 脱臼骨折、外出血を伴う損傷、病的骨折および脱臼について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 アクティブラーニングあり 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、講義内容をまとめましょう。復習60分 教科書 施術の適応と医用画像の理解 P. 37-51までを予習しましょう。予習60分 意識障害、脊髄症状のある損傷 (担当：児玉)</p>
第8回 (児玉)	<p>【到達目標】 意識障害を伴う損傷について理解し説明できる。 脊髄症状のある損傷について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 アクティブラーニングあり 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、講義内容をまとめましょう。復習60分 教科書 施術の適応と医用画像の理解 P. 53-58までを予習しましょう。予習60分 呼吸運動障害を伴う損傷 (担当：児玉)</p>
第9回 (児玉)	<p>【到達目標】 呼吸運動障害を伴う損傷について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 アクティブラーニングあり 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、講義内容をまとめましょう。復習60分 教科書 施術の適応と医用画像の理解 P. 67-72までを予習しましょう。予習60分 内臓損傷の合併が疑われる損傷 (担当：児玉)</p>
第10回 (児玉)	<p>【到達目標】 内臓損傷の合併が疑われる損傷について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 アクティブラーニングあり 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、講義内容をまとめましょう。復習60分 教科書 施術の適応と医用画像の理解 P. 73-79までを予習しましょう。予習60分 高エネルギー外傷、まとめ (担当：児玉)</p>
第11回 (児玉)	<p>【到達目標】 高エネルギー外傷について理解し説明できる。 第1回～第9回までの内容について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 アクティブラーニングあり 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、講義内容をまとめましょう。復習60分 教科書 施術の適応と医用画像の理解 P. 80-82までを予習しましょう。予習60分 医用画像の理解、X線撮影の実際 (担当：児玉)</p>
第12回 (児玉)	<p>【到達目標】 放射線の概要、X線発生装置の概要、一般撮影法の概要について理解し説明できる。 肩関節、肘関節、手関節、膝関節、足関節、股関節、体幹の各関節の撮影方法を理解し、説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 アクティブラーニングあり 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、講義内容をまとめましょう。復習60分 教科書 施術の適応と医用画像の理解 P. 85-104までを予習しましょう。予習60分 画像のデジタル化、X線CT、磁気共鳴検査 (担当：児玉)</p>
	<p>【到達目標】</p>

第13回 (児玉)	<p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 アクティブラーニングあり 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、講義内容をまとめましょう。復習60分 教科書 施術の適応と医用画像の理解 P.89-104までを予習しましょう。予習60分 高エネルギー外傷 (担当：児玉)</p>
第14回 (児玉)	<p>【到達目標】 高エネルギー外傷患者の判断と対応について説明できる。 放射線の概要が説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 79-81までを予習し授業に臨みましょう。 超音波画像装置の概要 (担当：児玉)</p>
第15回 (児玉)	<p>【到達目標】 超音波画像装置の原理、特徴について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 P.121-132までを予習し授業に臨みましょう。 まとめおよび定期試験 (担当：児玉)</p>
第16回 (宮坂)	<p>【到達目標】 1～14講義の内容を理解し、国家試験形式の問題に対応できる。</p> <p>【授業形態】 定期試験および問題解説 (講義形式)、グループワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 これまでの講義内容をまとめましょう。 教科書、施術の適応と医用画像の理解P.1-132に記載されている内容と授業ノートを復習し授業に臨みましょう。 代謝疾患 (糖尿病) (担当：宮坂)</p>
第17回 (宮坂)	<p>【到達目標】 糖尿病について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 教科書 一般臨床医学 p 156-162までを予習し授業に臨みましょう。 代謝疾患 (糖尿病の合併症、脂質異常症) (担当：宮坂)</p>
第18回 (宮坂)	<p>【到達目標】 糖尿病の合併症および脂質異常症について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 163-168までを予習し授業に臨みましょう。 代謝疾患 (肥満症、メタボリックシンドローム、高尿酸血症)、内分泌疾患 (概要) (担当：宮坂)</p>
第19回 (宮坂)	<p>【到達目標】 肥満症、メタボリックシンドローム、高尿酸血症について、正常と異常を理解し説明できる。 内分泌器およびホルモンの作用機序について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 168-176までを予習し授業に臨みましょう。 内分泌疾患 (間脳疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患) (担当：宮坂)</p>
第20回 (宮坂)	<p>【到達目標】 間脳疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 176-182までを予習し授業に臨みましょう。 内分泌疾患 (副腎皮質疾患、性腺疾患) (担当：宮坂)</p> <p>【到達目標】</p>

<p>第21回 (宮坂)</p>	<p>医用画像と一般撮影法について理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 86-91までを予習し授業に臨みましょう。 血液・造血管疾患総論 (担当：宮坂)</p>
<p>第22回 (宮坂)</p>	<p>【到達目標】 血液・造血管疾患の主要徴候について理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 185-187までを予習しましょう。 血液・造血管疾患各論1 (担当：宮坂)</p>
<p>第23回 (宮坂)</p>	<p>【到達目標】 赤血球疾患、白血球疾患の主な疾患について理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 188-195までを予習し授業に臨みましょう。 血液・造血管疾患各論2 (担当：宮坂)</p>
<p>第24回 (宮坂)</p>	<p>【到達目標】 リンパ系疾患、出血性素因、血漿蛋白異常について理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 194-197までを予習し授業に臨みましょう。 腎・尿路疾患1 (担当：宮坂)</p>
<p>第25回 (宮坂)</p>	<p>【到達目標】 腎・尿路疾患の主要徴候について理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 198-202までを予習し授業に臨みましょう。 腎・尿路疾患2 (担当：宮坂)</p>
<p>第26回 (宮坂)</p>	<p>【到達目標】 腎・尿路疾患の各疾患 (慢性腎炎等) 主要徴候について理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 202-205までを予習し授業に臨みましょう。 腎・尿路疾患3 (担当：宮坂)</p>
<p>第27回 (宮坂)</p>	<p>【到達目標】 腎・尿路疾患の各疾患、透析について理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 205-209までを予習し授業に臨みましょう。 腎・尿路疾患4 (担当：宮坂)</p>
<p>第28回 (宮坂)</p>	<p>【到達目標】 尿路感染症、泌尿器科的疾患について理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p>

<p>第29回 (宮坂)</p> <p>第30回 (宮坂)</p>	<p>教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 215-220までを予習し授業に臨みましょう。 神経疾患・感染症・リュウマチ・膠原病・アレルギー (担当:宮坂)</p> <p>到達目標】神経疾患・感染症・リュウマチ・膠原病・アレルギーについて理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 220-265までを予習し授業に臨みましょう。 まとめおよび定期試験 (担当:宮坂)</p> <p>【到達目標】16~29回までの講義について理解し、それらの内容の国家試験形式問題が解ける。 【授業形態】定期試験および問題解説 (講義形式)、グループワークを実施します。 【備考】これまでの講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 156-265に記載されている内容と授業ノートを復習し授業に臨みましょう。</p>
<p>授業時間外の学習 (準備学習等) について</p>	<p>時間外の学習 (準備学習等について) (1)解剖学、生理学、病理学、一般臨床医学の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。(2)復習が重要です。ノートは講義、スライドを書き写すのではなく、自分の言葉で噛みこなし記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを確認して下さい。 予習:講義の範囲の教科書を用いて30分程度の予習を行って下さい。教科書に記載されているわからない語句を事前に調べておくのも良い方法です。 復習:小テストにおいて不正解部分や授業内容に疑問、理解不足な点につき教科書などを用いて30分程度調べましょう。また次回小テストに向け、授業のポイントをまとめましょう。</p>
<p>教科書</p>	<p>(公社)全国柔道整復学校協会監修 「一般臨床医学 (改訂第3版)」 (医歯薬出版) (公社)全国柔道整復学校協会監修 「施術の適応と医用画像の理解」 (南江堂)</p>
<p>参考書</p>	<p>The Merck Manual (世界的に有名な医学テキスト)の日本語訳が無料で閲覧できます: 「http://merckmanual.jp/mmpej/index.html」 X線画像等も無料で見ることが出来ますので、ぜひ利用して下さい。 資料等はGoogle classroomに適宜アップします。</p>
<p>成績評価</p>	<p>定期試験 (90%)および前回の講義内容の小テストを毎回授業ごとに行い (10%) その結果により評価します。定期試験は前期1回、後期1回行います。成績は前期、後期ともに100点満点 (小テストの結果も含む) 中60点以上取得で合格とします。 小テストの正解および解説は授業中にフィードバックします。小テストの追試験はおこないません。 定期試験の正解および解説は試験終了後にフィードバックします。 前期・後期各定期試験で60点 (60%) 以下の者は再試験を受験してください。再試験の再試験は行いません。 追試験の再試験や追試験の追試験も行いません。 また、授業形態が状況によりオンデマンドに変更する場合があります。その場合講義内小テストも予定回数行えなくなるため、小テストの評価に占める割合 (10%) が少なくなります (小テストの回数により変化)。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員の基本事項 担当教員名: 宮坂卓治 (代表) 役職: 柔道整復学科教授 研究室: 柔道整復学科棟4階 メールアドレス: t_miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 火曜日16:30~17:30</p> <p>担当教員名: 児玉香菜絵 役職: 柔道整復学科 助教 研究室: 柔道整復学科棟4階講師室 メールアドレス: k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 授業終了後</p>
<p>備考</p>	<p>①信州大学医学部内科学教室に在籍していました。その経験をもとに「臨床鑑別診断学総論」について講義します。 ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」:◎-1、○-2 科目ナンバー: HJ-3-MM26-RS-L-1</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
奥田 正作			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	関節評価法 I は、前年度履修した「運動機能解剖学」と「運動機能解剖学実習」の知識・技術を柔道整復師の臨床に活用するためにさらに磨きあげるためのものである。したがって授業目標は、外傷により生じる関節損傷のメカニズムを運動学により理解し、各関節の損傷に応じてどのような処置を行うのか、どのような後療法を行うのかなど、論理的に説明できかつ実践応用できることである。
授業計画	<p>1 回目 オリエンテーション、評価に必要な用語 [到達目標] 本演習の目的を具体的に述べることができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有： [備考] (授業時間外学習の指示) 「運動機能解剖学」「運動機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく (予習35分)。 関節の評価方法の概要が説明できるようにまとめておく (復習35分)。</p> <p>2 回目 ROM (頸部・体幹) [到達目標] ROM (体幹・頸部) : 評価の基礎と外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有： [備考] (授業時間外学習の指示) ROMの基本知識を予習しておく (予習35分)。 疾患のメカニズムについて、理解を深めておく (復習35分)。</p> <p>3 回目 ROM (頸部・体幹) [到達目標] ROM (体幹・頸部) : 評価の基礎と外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有： [備考] (授業時間外学習の指示) ROMの基本知識を予習しておく (予習35分)。 疾患のメカニズムについて、理解を深めておく (復習35分)。</p> <p>4 回目 ROM (頸部・体幹) [到達目標] ROM (体幹・頸部) : 評価の基礎と外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有： [備考] (授業時間外学習の指示) ROMの基本知識を予習しておく (予習35分)。 疾患のメカニズムについて、理解を深めておく (復習35分)。</p> <p>5 回目 ROM (上肢) について [到達目標] ROM (上肢) : 評価の基礎と外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有： [備考] (授業時間外学習の指示) ROMの基本知識を予習しておく (予習35分)。 疾患のメカニズムについて、理解を深めておく (復習35分)。</p> <p>6 回目 MMT (上肢) について [到達目標] ROM (上肢) : 評価の基礎と外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有： [備考] (授業時間外学習の指示) ROMの基本知識を予習しておく (予習35分)。 疾患のメカニズムについて、理解を深めておく (復習35分)。</p> <p>7 回目 MMT (上肢) について [到達目標] ROM (体幹・頸部) : 評価の基礎と外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。 [授業形態] [到達目標] ROM (上肢) : 評価の基礎と外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p>

	<p>8回目</p> <p>〔 授業形態 〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） ROMの基本知識を予習しておく（予習35分）。 疾患のメカニズムについて、理解を深めておく（復習35分）。 MMT（上肢）について</p> <p>〔 到達目標 〕 ROM（上肢）：評価の基礎と外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>9回目</p> <p>〔 授業形態 〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） ROMの基本知識を予習しておく（予習35分）。 疾患のメカニズムについて、理解を深めておく（復習35分）。 MMT（上肢）について</p> <p>〔 到達目標 〕 ROM（上肢）：評価の基礎と外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>10回目</p> <p>〔 授業形態 〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） ROMの基本知識を予習しておく（予習35分）。 疾患のメカニズムについて、理解を深めておく（復習35分）。 ROM（下肢）について</p> <p>〔 到達目標 〕 ROM（上肢）：評価の基礎と外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>11回目</p> <p>〔 授業形態 〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） ROMの基本知識を予習しておく（予習35分）。 疾患のメカニズムについて、理解を深めておく（復習35分）。 ROM（下肢）について</p> <p>〔 到達目標 〕 ROM（上肢）：評価の基礎と外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>12回目</p> <p>〔 授業形態 〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） ROMの基本知識を予習しておく（予習35分）。 疾患のメカニズムについて、理解を深めておく（復習35分）。 ROM（下肢）について</p> <p>〔 到達目標 〕 ROM（上肢）：評価の基礎と外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>13回目</p> <p>〔 授業形態 〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） ROMの基本知識を予習しておく（予習35分）。 疾患のメカニズムについて、理解を深めておく（復習35分）。 ROM（下肢）について</p> <p>〔 到達目標 〕 ROM（上肢）：評価の基礎と外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>14回目</p> <p>〔 授業形態 〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） ROMの基本知識を予習しておく（予習35分）。 疾患のメカニズムについて、理解を深めておく（復習35分）。 ROM（下肢）について</p> <p>〔 到達目標 〕 ROM（上肢）：評価の基礎と外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>15回目</p> <p>〔 授業形態 〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） ROMの基本知識を予習しておく（予習35分）。 疾患のメカニズムについて、理解を深めておく（復習35分）。 実技試験</p> <p>〔 到達目標 〕 全ての関節の構造とメカニズムを理解し、全ての関節において生じる外傷性の疾患に対してその理論を応用した処置を想起することができる。</p> <p>〔 授業形態 〕 実技試験を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業計画に則り、授業内容の項に関する「柔道整復学・理論編」、「運動学」、「解剖学」の教科書を熟読しておくこと。（予習35分） また学修した内容を、教科書にて再度、熟読しておくこと。（復習35分）
教科書	「PT・OTのための測定評価シリーズ ROM」 伊藤俊一 三輪書店
参考書	特になし

成績評価	実技試験（頸部・体幹30点、上肢40点、下肢30点）で評価する
担当教員の基本情報	担当教員名：奥田 正作 研究室：8号館4階講師控え室 メールアドレス：si_okuda@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日16:00-17:00
備考	20年間、病院に勤務。診療・教育・研究に従事した実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」 ◎ー1 ○ー5
	科目ナンバー：HJ-3-JT10-RS-S-1
	資料はクラスルームにて配布する。授業の1回分はオンデマンドで講義を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
奥田 正作			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	関節評価法Ⅱでは、前期に修得した「関節評価法Ⅰ」の知識と技術を柔道整復師の実際の臨床で用いることができるように、さらに実践的な内容として角度計を用いた関節角度の評価方法を修学し、臨床に応用できるようにする。		
授業計画	1回目	オリエンテーション 〔到達目標〕 2年次の「運動機能解剖学」「運動機能解剖学実習」および三年前期の「関節評価法Ⅰ」の知識・技術を関係付けて理解した上で、関節評価の目的と意義について具体的に説明できる。 〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「運動機能解剖学」「運動機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく（予習35分）。 関節の評価方法の概要が説明できるようにまとめておく（復習35分）。	
	2回目	MMT（体幹・頸部） 〔到達目標〕 適切に筋出力の評価を行うことができる。代償を予測することができる。 〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） 徒手筋力検査の内容を復習しておく（予習35分）。 徒手筋力検査の模倣練習を行っておく（復習35分）。	
	3回目	MMT（体幹・頸部） 〔到達目標〕 適切に筋出力の評価を行うことができる。代償を予測することができる。 〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） 徒手筋力検査の内容を復習しておく（予習35分）。 徒手筋力検査の模倣練習を行っておく（復習35分）。	
	4回目	MMT（体幹・頸部） 〔到達目標〕 適切に筋出力の評価を行うことができる。代償を予測することができる。 〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） 徒手筋力検査の内容を復習しておく（予習35分）。 徒手筋力検査の模倣練習を行っておく（復習35分）。	
	5回目	MMT（体幹・頸部） 〔到達目標〕 適切に筋出力の評価を行うことができる。代償を予測することができる。 〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） 徒手筋力検査の内容を復習しておく（予習35分）。 徒手筋力検査の模倣練習を行っておく（復習35分）。	
	6回目	MMT（上肢）について 〔到達目標〕 適切に筋出力の評価を行うことができる。代償を予測することができる。 〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） 徒手筋力検査の内容を復習しておく（予習35分）。 徒手筋力検査の模倣練習を行っておく（復習35分）。	
	7回目	MMT（上肢）について 〔到達目標〕 適切に筋出力の評価を行うことができる。代償を予測することができる。 〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有： 〔備考〕（授業時間外学習の指示） 徒手筋力検査の内容を復習しておく（予習35分）。 徒手筋力検査の模倣練習を行っておく（復習35分）。	
	8回目	MMT（上肢）について 〔到達目標〕 適切に筋出力の評価を行うことができる。代償を予測することができる。 〔授業形態〕	

	<p>アクティブ・ラーニング有： [備考]（授業時間外学習の指示） 徒手筋力検査の内容を復習しておく（予習35分）。 徒手筋力検査の模倣練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>9回目 MMT（上肢）について [到達目標] 各筋の徒手筋力検査を測定することができる。 [授業形態] [到達目標] 適切に筋出力の評価を行うことができる。代償を予測することができる。 [授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有： [備考]（授業時間外学習の指示） 徒手筋力検査の内容を復習しておく（予習35分）。 徒手筋力検査の模倣練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>10回目 MMT（上肢）について [到達目標] 各筋の徒手筋力検査を測定することができる。 [授業形態] [到達目標] 適切に筋出力の評価を行うことができる。代償を予測することができる。 [授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有： [備考]（授業時間外学習の指示） 徒手筋力検査の内容を復習しておく（予習35分）。 徒手筋力検査の模倣練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>11回目 MMT（下肢）について [到達目標] 各筋の徒手筋力検査を測定することができる。 [授業形態] [到達目標] 適切に筋出力の評価を行うことができる。代償を予測することができる。 [授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有： [備考]（授業時間外学習の指示） 徒手筋力検査の内容を復習しておく（予習35分）。 徒手筋力検査の模倣練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>12回目 MMT（下肢）について [到達目標] 各筋の徒手筋力検査を測定することができる。 [授業形態] [到達目標] 適切に筋出力の評価を行うことができる。代償を予測することができる。 [授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有： [備考]（授業時間外学習の指示） 徒手筋力検査の内容を復習しておく（予習35分）。 徒手筋力検査の模倣練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>13回目 MMT（下肢）について [到達目標] 適切に筋出力の評価を行うことができる。代償を予測することができる。 [授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有： [備考]（授業時間外学習の指示） 徒手筋力検査の内容を復習しておく（予習35分）。 徒手筋力検査の模倣練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>14回目 MMT（下肢）について [到達目標] 適切に筋出力の評価を行うことができる。代償を予測することができる。 [授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有： [備考]（授業時間外学習の指示） 徒手筋力検査の内容を復習しておく（予習35分）。 徒手筋力検査の模倣練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>15回目 その他の試験 [到達目標] その他の関節評価の測定することができる。 [授業形態] 実技試験 [備考]（授業時間外学習の指示） 正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく（予習35分）（復習35分）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業計画に則り、授業内容の項に関する「柔道整復学・理論編」、「運動学」、「解剖学」の教科書を熟読しておくこと。（予習35分） また学修した内容を、教科書にて再度、熟読しておくこと。（復習35分）
教科書	「PT・OTのための測定評価シリーズMMT 体幹・下肢」 伊藤俊一 三輪書店 「PT・OTのための測定評価シリーズMMT 上肢」 伊藤俊一 三輪書店
参考書	特になし
成績評価	3回の実技試験を実施する。 （頸部・体幹30点、上肢40、下肢30点）

担当教員の基本情報	担当教員名：奥田 正作 研究室：8号館4階講師控え室 メールアドレス：si_okuda@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日16～17時
備考	20年間、病院に勤務。診療・教育・研究に従事した実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」 ◎ー1 ○ー5
	科目ナンバー：HJ-3-JT11-RS-S-1
	資料はクラスルームにて配布する。授業の1回分はオンデマンドで講義を行う。

講義科目名称： 整復学Ⅴ（下肢系）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
宗友 宏行			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			
整復学Ⅴ. pdf			

授業目標	<p>”（授業内容） 様々な外傷・障害の診察や鑑別診断の基礎となる柔道整復学の下肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について学ぶ。 （到達目標） 1. 下肢の主な骨折・脱臼・軟部組織損傷の原因、症状、鑑別診断、治療法を理解し説明できる。 2. 保存療法の限界を知り、業務範囲の判別ができる。 3. 臨床の見地で骨、筋、関節の作用を理解できる。 4. 柔道整復師国家試験における柔道整復学の出題範囲・形式、問題内容を理解し、正解を導く事ができる。”</p>
授業計画	<p>第1回 膝関節の軟部組織損傷（半月板損傷、靭帯損傷） 【授業目標】 半月板損傷、靭帯損傷が理解できる。 【授業概要】 半月板損傷、靭帯損傷の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 膝関節の軟部組織の構造、柔道整復学 理論編P. 386～388を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第2回 膝関節の軟部組織損傷（発育期の膝関節障害ほか） 【授業目標】 発育期の膝関節障害、脛骨靭帯炎、鷲足炎、膝蓋大腿関節障害が理解できる。 【授業概要】 発育期の膝関節障害、脛骨靭帯炎、鷲足炎、膝蓋大腿関節障害の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 膝関節の軟部組織の構造、柔道整復学 理論編P. 388～392を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第3回 膝関節の軟部組織損傷（膝周囲の関節包・滑液包の異常ほか） 【授業目標】 膝周囲の関節包・滑液包の異常、注意すべき疾患が理解できる。 【授業概要】 膝周囲の関節包・滑液包の異常、注意すべき疾患の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 膝関節の軟部組織の構造、柔道整復学 理論編P. 392～394を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第4回 下腿部の損傷（下腿骨骨幹部骨折） 【授業目標】 下腿部骨幹部骨折が理解できる。 【授業概要】 下腿部骨幹部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 下腿部骨幹部周辺の構造、柔道整復学 理論編P. 265～270を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第5回 下腿部の損傷（下腿遠位部の骨折） 【授業目標】 下腿遠位部の骨折が理解できる。 【授業概要】 下腿遠位部の骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 下腿遠位部周辺の構造、柔道整復学 理論編P. 278～283を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第6回 足根骨部の骨折（距骨、踵骨の骨折） 【授業目標】 距骨、踵骨の骨折が理解できる。 【授業概要】 足根骨の骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 足根骨部周辺の構造、柔道整復学 理論編P. 283～288を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>

	<p>第7回 足根骨部の骨折（その他の足根骨の骨折） 【授業目標】 舟状骨、立方骨、楔状骨の骨折が理解できる。 【授業概要】 足根骨部の骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 足根骨部周辺の構造、柔道整復学 理論編P. 288～290を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第8回 足趾部の損傷 【授業目標】 中足骨・趾骨の骨折が理解できる。 【授業概要】 足趾部の骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 足趾部周辺の構造、柔道整復学 理論編P. 290～292を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第9回 膝関節と足部の脱臼 【授業目標】 膝関節と足部の脱臼が理解できる。 【授業概要】 膝関節と足部の脱臼の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 膝関節、足部周辺の構造、柔道整復学 理論編P. 332～336を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第10回 下腿部の損傷 【授業目標】 下腿部の軟部組織損傷が理解できる。 【授業概要】 下腿部の軟部組織損傷の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 下腿部の軟部組織周辺の構造、柔道整復学 理論編P. 394～396を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第11回 足関節部の軟部組織損傷（足関節捻挫、二分靭帯損傷） 【授業目標】 足関節捻挫、二分靭帯損傷が理解できる。 【授業概要】 足関節部の軟部組織損傷の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 足関節、足趾部周辺の構造、柔道整復学 理論編P. 396～405を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第12回 足関節部の軟部組織損傷（類似疾患） 【授業目標】 足関節捻挫の類似鑑別疾患が理解できる。 【授業概要】 足関節部の軟部組織損傷の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 足部周辺の構造、柔道整復学 理論編P. 396～402、整形外科学P.90、105、112、131～133、135、253、外科学P.29を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第13回 足・足趾部の軟部組織損傷 【授業目標】 足・足趾部の軟部組織損傷が理解できる。 【授業概要】 足・足趾部の軟部組織損傷の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。 【準備学習】 足部周辺の構造、柔道整復学 理論編P. 402～406を予習しておく。 を予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第14回 まとめ 1 【授業目標】 本授業の内容が把握できる。 【授業概要】 本授業の内容についてまとめる。 【準備学習】 第1回から第13回までの授業内容を復習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第15講 まとめ 2 本授業で行った内容について評価・まとめを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	”教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習30分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習60分)。”
教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第7版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会 編）

参考書	柔道整復学・実技編 改訂版第2版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会 編） 外科学 改訂第4版（全国柔道整復学校協会監修、炭山 嘉信 編） 整形外科学 改訂第4版（全国柔道整復学校協会監修、松下隆・福林 徹・田渕 健一 編） 参考資料はGoogle classroomで配布する。
成績評価	出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たしたものに対して試験を行う。 評価方法：筆記試験（小テスト20%、定期試験80%）
担当教員の基本情報	担当教員 : 宗友宏行 メールアドレス : h_munetomo@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後
備考	宗友宏行：病院、接骨院、介護施設で臨床業務に従事し、その経験に基づいて本講義の授業を行う。 原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがある。 この授業とチプロマシーとの関連：◎-1 ○-2 科目ナンバー : HJ-3-JT16-RS-L-1

講義科目名称： 整復学VI（頭部・顔面・脊椎）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
吉元 拓也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	頭部・顔面・脊椎に生じる骨折・脱臼・軟部組織損傷について理解し、それらに対する発生機序、症状、検査法、治療法などを習得することを目標とする。		
授業計画	第1回	<p>頭部・顔面部の骨折（頭蓋骨骨折）</p> <p>”【授業目標】頭蓋骨骨折が理解できる。</p> <p>【授業概要】頭蓋骨骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。</p> <p>【準備学習】頭蓋骨部の構造を予習しておく。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>	
	第2回	<p>脊椎部の骨折</p> <p>【授業目標】脊椎部の骨折が理解できる。</p> <p>【授業概要】脊椎部の骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。</p> <p>【準備学習】脊椎部の構造を予習しておく。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>	
	第3回	<p>頭部・顔面部の脱臼</p> <p>【授業目標】頭部・顔面の脱臼が理解できる。</p> <p>【授業概要】頭部・顔面の脱臼の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。</p> <p>【準備学習】頭部・顔面の脱臼の構造を予習しておく。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>	
	第4回	<p>脊椎部の脱臼</p> <p>【授業目標】脊椎部の脱臼が理解できる。</p> <p>【授業概要】脊椎部の脱臼の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。</p> <p>【準備学習】脊椎部の構造を予習しておく。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>	
	第5回	<p>体幹の軟部組織損傷（むち打ち症・TOS）</p> <p>【授業目標】体幹の軟部組織損傷（むち打ち症・TOS）が理解できる。</p> <p>【授業概要】体幹の軟部組織損傷（むち打ち症・TOS）の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。</p> <p>【準備学習】頭部・体幹の構造を予習しておく。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>	
	第6回	<p>体幹の軟部組織損傷（胸・背部）</p> <p>【授業目標】体幹の軟部組織損傷（胸・背部）が理解できる。</p> <p>【授業概要】体幹の軟部組織損傷（胸・背部）の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、施術上の注意ならびに生活指導について学ぶ。</p> <p>【準備学習】体幹の構造を予習しておく。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>	
	第7回	<p>第7回目 　　まとめ 1</p> <p>【授業目標】本授業の内容が把握できる。</p> <p>【授業概要】本授業の内容についてまとめる。</p> <p>【準備学習】第1回から第6回までの授業内容を復習しておく。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>	
	第8回	<p>まとめ 2</p> <p>本授業で行った内容について評価・まとめを行う。</p>	

授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習30分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習60分)。
教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第7版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会 編)
参考書	柔道整復学・実技編 改訂版第2版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会 編) 外科学 改訂第4版(全国柔道整復学校協会監修、炭山 嘉信 編) 整形外科学 改訂第4版(全国柔道整復学校協会監修、松下隆・福林 徹・田渕 健一 編)
成績評価	出席基準(欠席届などの手続き重視)を満たしたものに対して試験を行う。 評価方法:筆記試験(定期試験90%、小テスト10%) 筆記試験で60%の理解ができた者を合格とする。
担当教員の基本情 報	担当教員 : 吉元拓也 メールアドレス : t_yoshimoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日16時40分～17時30分
備考	山形大学医学部医学科解剖学第一講座に所属し且つ接骨院、臨床実習で臨床業務に従事し、その経験に基づいて本講義の授業を行う。 原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがある。
	ディプロマポリシーとの関連:◎-1 ○-2 科目ナンバー:HJ-3-JT17-RS-L-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
奥田 正作			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	本科目では物理療法の種類、効果、使用方法、禁忌について学び、使用方法を正しく理解し、行えることを目標とする。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・物理療法とは 【到達目標】 物理療法の種類・分類について理解する。 【授業概要】 物理療法の種類・分類について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>2回目 温熱療法（湿性ホットパック） 【到達目標】 ・温熱療法の効果、方法、禁忌について理解する。 ・温熱療法のホットパックの使用を正しく行うことができる。 【授業概要】 ホットパックについて 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>3回目 温熱療法（パラフィン浴療法） 【到達目標】 ・パラフィン浴療法の効果、方法、禁忌について理解する。 ・温熱療法のホットパックの使用を正しく行うことができる。 【授業概要】 パラフィン浴療法について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>4回目 水治療法（交代浴）・輻射熱療法（赤外線療法） 【到達目標】 ・水治療法（交代浴）・輻射熱療法（赤外線療法）の効果、方法、禁忌について理解する。 ・水治療法（交代浴）・輻射熱療法（赤外線療法）の使用を正しく行うことができる。 【授業概要】 水治療法（交代浴）・輻射熱療法（赤外線療法）について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>5回目 極超短波 【到達目標】 ・変換熱療法（極超短波）の効果、方法、禁忌について理解する。 ・変換熱療法（極超短波）の使用を正しく行うことができる。 【授業概要】 水治療法（交代浴）・輻射熱療法（赤外線療法）について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>6回目 変換熱療法（超音波治療器）・光線療法（レーザー療法） 【到達目標】 ・変換熱療法（超音波治療器）・光線療法（レーザー療法）の効果、方法、禁忌について理解する。 ・変換熱療法（超音波治療器）・光線療法（レーザー療法）の使用を正しく行うことができる。 【授業概要】 変換熱療法（超音波治療器）・光線療法（レーザー療法）について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>7回目 寒冷療法（アイスパック・クライオ治療器） 【到達目標】 ・寒冷療法（アイスパック・クライオ治療器）効果、方法、禁忌について理解する。 ・寒冷療法（アイスパック・クライオ治療器）の使用を正しく行うことができる。 【授業概要】 寒冷療法（アイスパック・クライオ治療器）について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>8回目 牽引療法（頸椎牽引・腰椎牽引） 【到達目標】 ・牽引療法（頸椎牽引・腰椎牽引）の効果、方法、禁忌について理解する。 ・牽引療法（頸椎牽引・腰椎牽引）の使用を正しく行うことができる。 【授業概要】 牽引療法（頸椎牽引・腰椎牽引）について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>9回目 牽引療法（頸椎牽引・腰椎牽引） 【到達目標】 ・牽引療法（頸椎牽引・腰椎牽引）の効果、方法、禁忌について理解する。 ・牽引療法（頸椎牽引・腰椎牽引）の使用を正しく行うことができる。 【授業概要】 牽引療法（頸椎牽引・腰椎牽引）について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>10回目 電気療法総論 【到達目標】 低・中・高周波電気療法の効果、方法、禁忌について理解する。 【授業概要】 電気療法総論について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>11回目 機能的電気刺激 【到達目標】</p>

12回目	<ul style="list-style-type: none"> ・機能的電気刺激の効果、方法、禁忌について理解する。 ・機能的電気刺激を正しく行うことができる。 <p>【授業概要】 機能的電気刺激について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>機能的電気刺激と歩行</p> <p>【到達目標】 機能的電気刺激を歩行時に使用するため、歩行について理解することができる。 【授業概要】 機能的電気刺激について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有</p>
13回目	<p>総合復習</p> <p>【到達目標】 1～10回までの内容を復習し、物理療法の理解を深めることを目的とする。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p>
14回目	<p>実技試験①</p> <p>【到達目標】 実技試験を行い、解説を行う。各自不十分な点を確認する。 【授業概要】 実技試験を行い、授業内に解説を行う。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：無し</p>
15回目	<p>実技試験②</p> <p>【到達目標】 実技試験を行い、解説を行う。各自不十分な点を確認する。 【授業概要】 実技試験を行い、授業内に解説を行う。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：無し</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各授業に復習や授業内課題をおおよそ60分程度行うこと。
教科書	理学療法テキスト 物理療法学 吉田英樹 MEDICAL VIEW
参考書	EBM物理療法 原著第4版 原著：Michelle H. Cameron 訳：渡部一郎
成績評価	出席基準を満たした者に評価を行う。評価は小テスト（20%、）本試験（80%）総合的に評価する
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 奥田正作 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : s_okuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日16～17時</p>
備考	20年間、病院に勤務。診療・教育・研究に従事した実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	ディプロマポリシーとの関連について「1-◎」「2-○」
	科目ナンバー：HJ-3-JT19-RS-S-1
	資料はクラスルームにて配布する。授業の1回分はオンデマンドで講義を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
中川 達雄、児玉 香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>基礎医学、柔道整復学などで学習した内容を基礎として、さらに専門的観点から臨床に応用できるように、柔道整復施術の業務範囲における各種傷害に対して、徒手による検査法そして施術法などを教授する。</p> <p><教育概要> 柔道整復師として、日常の臨床でよく遭遇する関節の問題、特に関節機能障害に焦点を当て、どのような調整が最も適切で安全な施術法であるかを考察、選択する。さらに柔道整復師としてどのように施術にあたればよいのかを関連させながら講義を行う。解剖学（特に骨学、関節、筋肉、神経に焦点を当て）と整形学を基礎とし、人体構造、特に四肢（下肢および上肢）の関節機能障害に対する徒手検査法であるスタティック・パルペーションとモーション・パルペーションを用いて四肢関節の歪みや可動性異常を正確に検査する。それによって、関節がどのような問題を呈しているか鑑別診断を行い、考察を行う。次に、その診断に基づき、関節の問題、特に関節機能障害に焦点を当て、どのような調整が最も適切であるかを考察し、安全かつ有効な施術法であるマイクロ・モービリゼーション、マイクロ牽引法を教授する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション：股関節検査と治療の総復習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 股関節検査と治療の授業についての総括を行う。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻）</p> <p>2回目 肩関節後方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの解説 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肩関節検査に必要な解剖学的部位が正確に触診できるようになる。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：肩関節の解剖学</p> <p>3回目 肩関節回旋・外方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの解説 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肩関節検査に必要な解剖学的部位が正確に触診できるようになる。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：肩関節の解剖学</p> <p>4回目 肩関節可動性検査と治療法のまとめ アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肩関節検査に必要な解剖学的部位が正確に触診できるようになる。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：肩関節の解剖学</p> <p>5回目 膝関節回旋・屈曲可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの解説 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 膝関節検査に必要な解剖学的部位が正確に触診できるようになる。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：膝関節の解剖学</p> <p>6回目 膝関節屈曲・脛骨前方後方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼー</p>

	<p>ジョンの解説 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 膝関節検査に必要な解剖学的部位が正確に触診できるようになる。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：膝関節の解剖学</p>
7回目	<p>大腿骨前方後方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの解説 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 大腿骨可動性検査に必要な解剖学的部位が正確に触診できるようになる。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：大腿骨の解剖学</p>
8回目	<p>膝関節外方・内方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの解説 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 膝関節外方、内方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの修得</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝P80-99</p>
9回目	<p>肘関節1：肘関節の触診実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肘関節検査に必要な解剖学的部位が正確に触診できるようになる。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：肘関節の解剖学</p>
10回目	<p>肘関節2：肘関節屈曲検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肘関節屈曲検査法とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの習得</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘屈曲検査P102-103</p>
11回目	<p>肘関節3：肘関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肘関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘回旋検査P110-115</p>
12回目	<p>肘関節4：肘関節伸展検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肘関節伸展可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘伸展検査P104-105</p>
13回目	<p>肘関節5：肘関節内方・外方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肘関節内方・外方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習</p>
14回目	<p>総復習 【内容・到達目標】 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正</p>

第15回	<p>確 さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 2回目～13回目の授業についての総括を行う。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習：2回目から13回目までの授業内容 まとめ</p> <p>【内容・到達目標】 2回目～13回目の授業についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習：2回目から13回目までの授業内容</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	<p>シラバスを参考に、予習復習を行うように努める。</p> <p>1. 予習 (90分) : 授業予定である教科書内容を熟読すること。</p> <p>2. 復習 (90分) : 検査法、治療技術は、実際に臨床で使えなければならない。必ず、配布プリントの対応部分を精読し、実際に繰り返して練習をし、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして解決すること。患者は、人によって異なる関節の動きを呈する。症状も患者によって微妙に異なる。これを理解し、よき柔道整復師になるためには、繰り返して練習することが重要なことであり、近道である。</p>
教科書	<p>1. 四肢のモーション・パルペーション (上巻) 下肢編 中川貴雄編著 科学新聞社</p> <p>2. 四肢のモーション・パルペーション (下巻) 上肢編 中川貴雄編著 科学新聞社</p>
参考書	<p>1. 機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版 著：林典雄 メディカルビュー</p> <p>2. 機能解剖学的触診技術 下肢 改定第2版 著：林典雄 メディカルビュー</p>
成績評価	筆記試験45%、実技試験45%、ワークシート・授業参加態度10%で評価を行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 中川達雄 メールアドレス : tatsu-naka@tumh.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 児玉香菜絵 メールアドレス : k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p>
備考	<p>中川達雄：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p> <p>児玉香菜絵：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p>
	<p>この授業のディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-2 ナンバリング : HJ-3-JT22-ES-S-0</p>

講義科目名称： スポーツ柔道整復学概論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
沖 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義（一部オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	スポーツ医学における関節運動や関節力学の理解を深め、スポーツ傷害との結びつきを理解する。また、各関節の損傷や障害に対して行う手技について基本理念を理解し、技術の習得につなげる準備をする。
授業計画	<p>1回目 肩の機能解剖・スポーツ傷害 【授業概要・到達目標】 肩関節の機能解剖を理解し、説明することができる。 肩関節のスポーツ傷害について理解し、説明することができる。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>2回目 肘の機能解剖・スポーツ傷害 【授業概要・到達目標】 肘関節の機能解剖を理解し、説明することができる。 肘関節のスポーツ傷害について理解し、説明することができる。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>3回目 手・手指の機能解剖・スポーツ傷害 【授業概要・到達目標】 手・手指の機能解剖を理解し、説明することができる。 手・手指のスポーツ傷害について理解し、説明することができる。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>4回目 股関節～大腿の機能解剖・スポーツ傷害 【授業概要・到達目標】 股関節～大腿の機能解剖を理解し、説明することができる。 股関節～大腿のスポーツ傷害について理解し、説明することができる。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>5回目 膝の機能解剖・スポーツ傷害 【授業概要・到達目標】 膝関節の機能解剖を理解し、説明することができる。 膝関節のスポーツ傷害について理解し、説明することができる。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>6回目 下腿の機能解剖・スポーツ傷害 【授業概要・到達目標】 下腿の機能解剖を理解し、説明することができる。 下腿のスポーツ傷害について理解し、説明することができる。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>7回目 足関節の機能解剖・スポーツ傷害 【授業概要・到達目標】 足関節の機能解剖を理解し、説明することができる。 足関節のスポーツ傷害について理解し、説明することができる。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>8回目 総合評価（まとめ） これまでに学んだ項目について筆記試験を行い評価する。その後解説を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	機能解剖学は臨床において必要な知識であるため、事前学習（45分）、復習（45分）をしておくこと。
教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」公益社団法人全国柔道整復学校協会 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」公益社団法人全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	教員の自作資料
成績評価	成績評価は、出席基準を満たした者に対して、授業時間内に実技試験を行い評価する。実習態度等も加味し総合評価とする。授業中はKCと名札の着用を原則とし、着用していない場合は実習態度の項目から減点対象とする。
担当教員の基本情報	担当教員名：沖 和久 メールアドレス：k_oki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2 ○-1 科目ナンバー：HJ-3-JT25-RS-L-1
	実務経験：スポーツ現場や施術所での臨床業務に従事し、その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。
	この科目は原則として対面の実習形式にて実施するが、一部オンデマンド授業に変更されることがある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
宗友 宏行			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			
臨整実習Ⅳ. pdf			

授業目標	<p>柔道整復師が扱う、骨盤部から大腿部および膝部の領域における損傷の診察法と柔道整復施術における整復法、固定法を実習を通して理解する。</p> <p>骨盤部から大腿部および膝部の領域における損傷に対する柔道整復術の適応と限界をみきわめ、医療人として適切な処置を講ずるための技能を修得することを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・下肢の理学評価法 【授業目標】 下肢の理学評価法が理解できる。 【授業概要】 下肢の関節可動域検査法、徒手筋力検査法を理解し、実践することができる。 【準備学習】 下肢の理学評価法を予習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第2回 股関節脱臼（回転法） 【授業目標】 股関節脱臼の症状・鑑別方法・整復方法（回転法）を理解し実践することができる。 【授業概要】 股関節脱臼の内容確認と整復方法（回転法）について実践して学ぶ。 【準備学習】 股関節脱臼の復習をしておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第3回 股関節脱臼（牽引法、スティムソン法） 【授業目標】 股関節脱臼の症状・鑑別方法・整復方法（牽引法・スティムソン法）を理解し実践することができる。 【授業概要】 股関節脱臼の内容確認と整復方法（牽引法・スティムソン法）について実践して学ぶ。 【準備学習】 股関節脱臼の復習をしておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第4回 大腿骨骨折（大腿骨近位端部骨折、骨幹部骨折、遠位端部骨折） 【授業目標】 大腿骨骨折の症状・鑑別方法・整復方法・固定法を理解し実践することができる。 【授業概要】 大腿骨骨折の内容確認と整復方法・固定法について実践して学ぶ。 【準備学習】 大腿骨骨折を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第5回 膝蓋骨骨折 【授業目標】 膝蓋骨骨折の症状・鑑別方法を理解し実践することができる。 【授業概要】 膝蓋骨骨折の確認と整復方法について実践して学ぶ。 【準備学習】 膝蓋骨骨折の復習をしておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第6回 膝蓋骨脱臼 【授業目標】 膝蓋骨脱臼の症状・鑑別方法・整復方法を理解し実践することができる。 【授業概要】 膝蓋骨脱臼の確認と整復方法について実践して学ぶ。 【準備学習】 膝蓋骨脱臼の復習をしておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第7回 膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼 【授業目標】 膝蓋骨骨折・脱臼の固定方法（厚紙副子・リング副子）を理解し実践することができる。 【授業概要】 膝蓋骨骨折・脱臼の固定方法（厚紙副子・リング副子）について実践して学ぶ。 【準備学習】 膝蓋骨脱臼（リング副子）の範囲の復習をしておくこと。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第8回 まとめ1（中間評価）下腿骨骨折（近位端・骨幹） 【授業目標】 1～7回目までの授業を復習し、理解を高める。 下腿骨骨折（近位端・骨幹）の症状・鑑別方法・整復方法・固定法を理解し実践することができる。 【授業概要】 個別に問題点が解消できるよう実践を交えて学ぶ。 下腿骨骨折（近位端・骨幹）の症状・鑑別方法・整復方法・固定法について実践して学ぶ。 【準備学習】 1～7回目までの授業、下腿骨骨折（近位端・骨幹）の復習をしておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第9回 膝関節脱臼 【授業目標】 膝関節脱臼の症状・鑑別方法・整復方法を理解し実践することができる。</p>

	<p>【授業概要】 膝関節脱臼の症状・鑑別方法・整復方法について実践して学ぶ。</p> <p>【準備学習】 膝関節脱臼の復習をしておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第10回 下腿骨骨折(近位端・骨幹)、膝関節脱臼</p> <p>【授業目標】 下腿骨骨折(近位端・骨幹)、膝関節脱臼の固定方法(金属副子)を理解し実践することができる。</p> <p>【授業概要】 下腿骨骨折(近位端・骨幹)、膝関節脱臼を実践して学ぶ。</p> <p>【準備学習】 下腿骨骨折(近位端・骨幹)、膝関節脱臼の復習をしておくこと。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第11回 股関節軟部組織損傷1</p> <p>【授業目標】 股関節軟部組織損傷の症状・徒手検査法を理解し実践することができる。</p> <p>【授業概要】 股関節軟部組織損傷の症状・徒手検査法を理解し実践して学ぶ。</p> <p>【準備学習】 股関節軟部組織損傷の復習をしておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第12回 股関節軟部組織損傷2</p> <p>【授業目標】 股関節軟部組織損傷の症状・固定法(包帯)を理解し実践することができる。</p> <p>【授業概要】 股関節軟部組織損傷の症状・固定法(包帯)を理解し実践して学ぶ。</p> <p>【準備学習】 股関節軟部組織損傷の復習をしておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第13回 股関節軟部組織損傷3</p> <p>【授業目標】 股関節軟部組織損傷の症状・固定法(テーピング)を理解し実践することができる。</p> <p>【授業概要】 股関節軟部組織損傷の症状・固定法(テーピング)を理解し実践して学ぶ。</p> <p>【準備学習】 股関節軟部組織損傷の復習をしておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>【授業目標】 本授業の内容が把握できる。</p> <p>【授業概要】 本授業の内容についてまとめる。</p> <p>【準備学習】 第1回から第13回までの授業内容を復習しておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第15回 まとめ・最終評価</p> <p>本授業で行った内容について評価・まとめを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（各約45分程度）を行ってください。講義時内で理解できない場合はすぐに質問しに来てください。
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
参考書	柔道整復学・理論編 改訂版第6版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編) 参考資料はGoogle classroomで配布する。
成績評価	出席基準を満たした者について、実技試験を行い評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 宗友 宏行 メールアドレス : h_munetomo@meiji-a.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時
備考	宗友 宏行：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-2 ○-5 科目ナンバー : HJ-3-JT35-RS-P-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
宗友 宏行			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			
臨整実習V.pdf			

授業目標	下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷（体幹含む）で、柔道整復師の業務範囲の判別・鑑別を行えるようになる。保存療法の限界を知り、範疇の損傷についての処置を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・顎関節脱臼 【授業目標】 顎関節脱臼の徒手検査・後療法を実施することができる。 【授業概要】 顎関節脱臼の疾患の診かた・後療法について実践して学ぶ。 【準備学習】 顎関節脱臼の復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第2回 肋骨骨折 【授業目標】 肋骨骨折の徒手検査・後療法を実施することができる。 【授業概要】 肋骨骨折の疾患の診かた・後療法について実技を交えて学ぶ。 【準備学習】 肋骨骨折の復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第3回 果部骨折 【授業目標】 果部骨折の徒手検査・後療法を実施することができる。 【授業概要】 果部骨折の疾患の診かた・後療法について実践して学ぶ。 【準備学習】 果部骨折を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第4回 踵骨骨折 【授業目標】 踵骨骨折の徒手検査・後療法を実施することができる。 【授業概要】 踵骨骨折の疾患の診かた・後療法について実践して学ぶ。 【準備学習】 踵骨骨折の復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>第5回 中足骨骨折（固定法） 【授業目標】 中足骨骨折の徒手検査・後療法を実施することができる。 【授業概要】 中足骨骨折の疾患の診かた・後療法について実践して学ぶ。 【準備学習】 中足骨骨折の復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第6回 中足骨骨折（後療法） 【授業目標】 中足骨骨折の徒手検査・後療法を実施することができる。 【授業概要】 中足骨骨折の疾患の診かた・後療法について実践して学ぶ。 【準備学習】 中足骨骨折の復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第7回 足趾の骨折、脱臼 【授業目標】 足趾の骨折、脱臼の徒手検査・後療法を実施することができる。 【授業概要】 足趾の骨折、脱臼の疾患の診かた・後療法について実技を交えて学ぶ。 【準備学習】 足趾の骨折、脱臼の復習しておくこと。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第8回 まとめ1（中間評価） 【授業目標】 1～6回目までの授業を復習し、理解を高める。 中足骨骨折の徒手検査・後療法を実施することができる。 【授業概要】 個別に問題点が解消できるよう実践して学ぶ。</p> <p>第9回 足関節捻挫（鑑別法） 【授業目標】 足関節損傷時の鑑別法を習得することができる。 【授業概要】 足関節U字ギブスの作成、副子使用での応用包帯、足関節の徒手検査を実践して学ぶ。 【準備学習】 足関節損傷を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>第10回 足関節捻挫（厚紙副子固定法）</p>

	<p>【授業目標】 足関節損傷時の鑑別法、固定法を習得することができる。</p> <p>【授業概要】 足関節厚紙副子の作成、副子使用での応用包帯、足関節の徒手検査を実践して学ぶ。</p> <p>【準備学習】 足関節損傷を復習しておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p>
第11回	<p>足関節捻挫（テーピング固定法）</p> <p>【授業目標】 足関節損傷時の鑑別法、固定法を習得することができる。</p> <p>【授業概要】 足関節厚紙副子の作成、副子使用での応用包帯、足関節の徒手検査を実践して学ぶ。</p> <p>【準備学習】 足関節損傷を復習しておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p>
第12回	<p>下肢軟部組織損傷の疾患：アキレス腱断裂</p> <p>【授業目標】 下肢軟部組織損傷の徒手検査・後療法を実施することができる。</p> <p>【授業概要】 下肢軟部組織損傷の疾患の診かた・後療法について実技を交えて学ぶ。</p> <p>【準備学習】 下肢軟部組織損傷の疾患：アキレス腱断裂の復習をしておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p>
第13回	<p>下肢軟部組織損傷の疾患：下腿三頭筋肉離れ</p> <p>【授業目標】 下肢軟部組織損傷の徒手検査・後療法を実施することができる。</p> <p>【授業概要】 下肢軟部組織損傷の疾患の診かた・後療法について実技を交えて学ぶ。</p> <p>【準備学習】 下肢軟部組織損傷の疾患：下腿三頭筋肉離れの復習をしておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p>
第14回	<p>まとめ 2</p> <p>【授業目標】 本授業の内容が把握できる。</p> <p>【授業概要】 本授業の内容についてまとめる。</p> <p>【準備学習】 第1回から第13回までの授業内容を復習しておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p>
第15講	<p>総合評価</p> <p>本授業で行った内容について評価・まとめを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習30分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習60分)。
教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第7版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会 編）
参考書	柔道整復学・実技編 改訂版第2版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会 編） 参考資料はGoogle classroomで配布する。
成績評価	出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たしたのに対して実技試験を行う。 小テスト（20%）、期末試験（80%）で評価する。
担当教員の基本情報	メールアドレス : h_munetomo@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後
備考	宗友宏行：病院、接骨院、介護施設で臨床業務に従事し、その経験に基いて本講義の授業を行う。 原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがある。 ディプロマポリシーとの関連：◎-2 ○-5 科目ナンバー：HJ-3-JT36-RS-P-1

講義科目名称： 実践整復学Ⅰ（上肢）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
沖 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習（一部オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では、整復学Ⅰから整復学Ⅵまでで学習した内容を踏まえ、さらに臨床的な技術や知識を学ぶ科目である。 本科目の目的は、上肢に関する骨折・脱臼・軟部組織損傷における臨床的な知識と技術習得である。 特に本科目においては、日常の接骨院業務およびスポーツトレーナー等で最も使用頻度が高く、かつ技術力の高さが求められる手技療法に焦点をあてる。加えて、柔道整復師およびスポーツトレーナーの使用頻度の高い伸縮テーブの技術を修得する。</p>		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション、手技療法・基本型①</p> <p>[到達目標]これから学ぶ内容について理解する。手技療法の基本①型を理解し実践する。 【備考】（授業時間外学習の指示等） 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p>	
	第2回	<p>手技療法・基本型②</p> <p>[到達目標]手技療法の基本②型を理解し実践する。 【備考】（授業時間外学習の指示等） 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p>	
	第3回	<p>腰背部</p> <p>[到達目標]腰背部に対する手技療法を理解し実践する。 【備考】（授業時間外学習の指示等） 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p>	
	第4回	<p>頸部の手技療法</p> <p>[到達目標]頸部に対する手技療法を理解し実践する。 【備考】（授業時間外学習の指示等） 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p>	
	第5回	<p>肩甲帯部の手技療法</p> <p>[到達目標]肩甲帯部に対する手技療法を理解し実践する。 【備考】（授業時間外学習の指示等） 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p>	
	第6回	<p>肘部の手技療法</p> <p>[到達目標]肘部に対する手技療法を理解し実践する。 【備考】（授業時間外学習の指示等） 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p>	
	第7回	<p>手・指部の手技療法</p> <p>[到達目標]手・指部に対する手技療法を理解し実践する。 【備考】（授業時間外学習の指示等） 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p>	
	第8回	<p>まとめ、中間評価</p> <p>[到達目標]これまでの授業範囲を復習する。 どの程度理解し実施することができるのか実技試験にて評価する。 【備考】（授業時間外学習の指示等） 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p>	
	第9回	<p>テーピングの総論、腰背部のテーピング法</p> <p>[到達目標]テーピングの総論を理解する。腰背部に対するテーピング法を理解し実践する。 【備考】（授業時間外学習の指示等） 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p>	
	第10回	<p>頸部のテーピング法</p> <p>[到達目標]頸部のテーピング法を理解し実践する。 【備考】（授業時間外学習の指示等） 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p>	
	第11回	<p>肩甲帯部のテーピング法</p> <p>[到達目標]肩甲帯部のテーピング法を理解し実践する。 【備考】（授業時間外学習の指示等） 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p>	

	<p>第12回 肘部のテーピング法 [到達目標]肘部のテーピング法を理解し実践する。 【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p> <p>第13回 手・指部のテーピング法 [到達目標]手・指部のテーピング法を理解し実践する。 【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p> <p>第14回 まとめ・評価 [到達目標]テーピング法の授業範囲を復習する。 テーピング法をどの程度理解し実施することができるのか実技試験にて評価する。 【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p> <p>第15回 総まとめ 【内容・到達目標】 第1回から第14回までの内容を理解し実践する。 【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	シラバスを参考に、教科書の授業範囲を予習(45分)・復習(45分)してくる。授業後は、配布資料・教科書をよく読み、わからない箇所は調べ、それでもわからなければ担当者に質問するなどの対応をすること。
教科書	・柔道整復学(理論編) 社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第7版 ・柔道整復学(実技編) 社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第2版
参考書	授業時間内に必要に応じ指示する。
成績評価	成績評価は、出席基準を満たしたものに対して授業時間内に実技試験を行う。実習態度等も加味した総合評価とする。授業中はKCと名札の着用を原則とし、着用していない場合は実習態度の項目から減点対象とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 沖 和久 研究室 : 8号館4階非常勤講師室(沖) オフィスアワー : 講義終了後
備考	実務経験：クリニックや施術所、スポーツ現場等での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○-5 科目ナンバー：HJ-3-JT37-RS-P-1
	この科目は原則として対面の実習形式にて実施するが、一部オンデマンド授業に変更されることがある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
宗友 宏行			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			
実践整復学Ⅱ. pdf			

授業目標	本科目では、整復学Ⅰから整復学Ⅵ（学校協会柔道整復理論編の全内容）までで学習した内容を踏まえ、さらに臨床的な技術や知識を修得する。 本科目の目的は、下肢における骨折・脱臼・軟部組織損傷における臨床的な知識と技術習得である。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・手技療法の基礎 【授業目標】 疼痛が説明できる。 【授業概要】 疼痛を学ぶ。 【準備学習】 疼痛について予習する。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第2回 腰臀部の病態と触診 【授業目標】 腰臀部の病態を理解して触診ができるようになる。 【授業概要】 腰臀部の病態を理解して触診を実践して学ぶ。 【準備学習】 腰臀部の解剖を予習する。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第3回 腰臀部の手技療法 【授業目標】 腰臀部の手技療法を習得することができる。 【授業概要】 腰臀部の手技療法を実践して学ぶ。 【準備学習】 腰臀部の解剖を予習する。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第4回 股関節領域の病態と触診 【授業目標】 股関節領域の病態と触診を実施することができる。 【授業概要】 股関節領域の病態と触診について実践して学ぶ。 【準備学習】 股関節領域の解剖を予習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第5回 股関節領域の手技療法 【授業目標】 股関節領域の手技療法を実施することができる。 【授業概要】 股関節領域の手技療法について実践して学ぶ。 【準備学習】 股関節領域疾患の復習をしておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第6回 膝関節部領域の病態と触診 【授業目標】 膝関節部領域の病態を理解して触診ができるようになる。 【授業概要】 膝関節部領域の病態を理解して触診について実践して学ぶ。 【準備学習】 膝関節部疾患の復習をしておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第7回 膝関節部領域の手技療法 【授業目標】 膝関節部領域の手技療法を実施することができる。 【授業概要】 膝関節部領域の手技療法について実践して学ぶ。 【準備学習】 膝関節部疾患の復習をしておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第8回 足関節及び足領域の病態と触診 【授業目標】 足関節及び足領域の病態を理解して触診ができるようになる。 【授業概要】 足関節及び足領域の病態を理解して触診について実践して学ぶ。 【準備学習】 足関節及び足領域疾患の復習をしておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第9回 足関節及び足領域の手技療法 【授業目標】 足関節及び足領域の手技療法を実施することができる。 【授業概要】 足関節及び足領域の手技療法を実践して学ぶ。 【準備学習】 足関節及び足領域疾患の復習をしておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第10回 まとめ 1 【授業目標】 1～9回目までの授業を復習し、理解を高める。 【授業概要】 個別に問題点が解消できるよう実践して学ぶ。 【授業形態】 実習</p> <p>第11回 腰臀部の筋力増強法 【授業目標】 腰臀部の筋力増強法を実施することができる。 【授業概要】 腰臀部の筋力増強法について実技を交えて学ぶ。 【準備学習】 腰臀部疾患の復習をしておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p>

	<p>第12回 股関節部の筋力増強法 【授業目標】 股関節部の筋力増強法を実施することができる。 【授業概要】 股関節部の筋力増強法について実技を交えて学ぶ。 【準備学習】 股関節部疾患の復習をしておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第13回 膝関節部領域の筋力増強法 【授業目標】 膝関節部領域の筋力増強法を実施することができる。 【授業概要】 膝関節部領域の筋力増強法について実技を交えて学ぶ。 【準備学習】 膝関節部領域疾患の復習をしておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第14回 足関節及び足領域の筋力増強法 【授業目標】 足関節及び足領域の筋力増強法を実施することができる。 【授業概要】 足関節及び足領域の筋力増強法について実技を交えて学ぶ。 【準備学習】 足関節及び足領域疾患の復習をしておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第15回 まとめ 総合評価 本授業で行った内容について評価・まとめを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し（予習30分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習60分）。
教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第7版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会 編）
参考書	柔道整復学・実技編 改訂版第2版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会 編）
成績評価	出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たしたのに対して実技試験を行う。 期末試験（筆記試験）で評価する。
担当教員の基本情報	担当教員 : 宗友宏行 メールアドレス : h_munetomo@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後 担当教員 : 宗友宏行 メールアドレス : h_munetomo@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後
備考	宗友宏行：病院、接骨院、介護施設で臨床業務に従事し、その経験に基いて本講義の授業を行う。 原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがある。 ディプロマポリシーとの関連：◎-2 ○-5 科目ナンバー：HJ-3-JT38-RS-P-1

講義科目名称： 実践整復学Ⅲ（体幹）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
中川 達雄、児玉 香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>基礎医学、柔道整復学などで学習した内容を基礎として、さらに専門的観点から臨床に応用できるように、柔道整復術の業務範囲における腰部損傷に対して、徒手による検査法そして施術法などを教授する。</p> <p><教育概要> 柔道整復師として、日常の臨床でよく遭遇する腰部の問題、特に関節機能障害に焦点を当て、どのような調整が最も適切で安全な施術法であるかを考察、選択する。さらに柔道整復師としてどのように施術にあたればよいのかを関連させながら講義を行う。解剖学（特に骨学、関節、筋肉、神経に焦点を当て）と整形外科学を基礎とし腰部疾患の理学検査や、人体構造、特に体幹（骨盤・腰椎）の関節機能障害に対する徒手検査法であるスタティック・パルペーションとモーション・パルペーションを用いて関節の歪みや可動性異常を正確に検査する。それによって、関節がどのような問題を呈しているか把握し、考察を行う。次に、その検査結果に基づき、どのような施術法が最も適切であるかを考察し、安全かつ有効な施術法であるマイクロ・モービリゼーション、筋弛緩法、マイクロ牽引法等を用い、腰部損傷に対する施術法を修得する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション、腰部周辺の鑑別触診 これから学ぶ腰部損傷に対する理学検査、徒手療法、手技療法についての概説と腰部周辺の鑑別触診を学ぶ。</p> <p>[備考] 予習：骨盤と腰椎の解剖学 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>2回目 仙腸関節障害1：概要、理学検査 仙腸関節障害による腰痛の概要と理学検査を学ぶ。</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.82～89 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>3回目 仙腸関節障害2：仙腸関節触診 ギャッピング検査、PI腸骨、AS腸骨のスタティックパルペーション</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.82～89 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>4回目 仙腸関節障害3：腸骨モーションパルペーション PI腸骨、AS腸骨モーションパルペーション(検査法)とモービリゼーション（治療法）</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.90～94 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>5回目 仙腸関節障害4：腸骨モーションパルペーション IN腸骨、EX腸骨モーションパルペーション(検査法)とモービリゼーション（治療法）</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.107～113 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>6回目 仙腸関節障害5：仙骨モーションパルペーション 仙骨モーションパルペーション(検査法)とモービリゼーション（治療法）</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.130 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>7回目 椎間関節障害1：腰椎スタティックパルペーション 腰椎触診、スプリング検査</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.130～143</p>

8回目	<p>アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>椎間関節障害2：腰椎スタティックパルペーション 腰椎モーションパルペーション(検査法)とモービリゼーション(治療法)</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：筋膜性腰痛について アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
9回目	<p>筋膜性腰痛 概要と触診、腸腰筋、腰方形筋等の弛緩法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：腰椎椎間板ヘルニアについて アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
10回目	<p>腰椎椎間板ヘルニア 腰椎椎間板ヘルニアの概要と理学検査、手技療法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱管狭窄症について アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
11回目	<p>脊柱管狭窄症 脊柱管狭窄症の概要と理学検査、手技療法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：腰椎分離すべり症について アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
12回目	<p>腰椎分離すべり症 腰椎分離すべり症の概要と理学検査、手技療法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：梨状筋症候群について アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
13回目	<p>梨状筋症候群 梨状筋症候群の概要と理学検査、手技療法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：授業範囲の復習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
14回目	<p>総まとめ</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：授業範囲の復習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
15回目	<p>まとめと評価 1回目から14回目までに学んだ項目について、実技による評価を行う。</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：授業範囲の復習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>1. 予習：授業予定である教科書内容を熟読すること。 2. 復習：検査法、治療技術は、実際に臨床で使えなければならない。必ず、配布プリントの対応部分を精読し、実際に繰り返して練習をし、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして解決すること。患者は、人によって異なる関節の動きを呈する。症状も患者によって微妙に異なる。これを理解し、よき柔道整復師になるためには、繰り返して練習することが重要なことであり、近道である。シラバスを参考に、教科書の授業範囲を予習(45分)・復習(45分)してこること。</p>
教科書	<p>1. 脊柱モーション・パルペーション 中川貴雄編著 科学新聞社</p>
参考書	<p>1. 機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版 著：林典雄 メディカルビュー 2. 機能解剖学的触診技術 下肢 改定第2版 著：林典雄 メディカルビュー</p>
成績評価	<p>筆記試験45%、実技試験45%、ワークシート・授業参加態度10%で評価を行う。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 中川達雄 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : tatsu-naka@tumh.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時1時間</p> <p>担当教員名 : 沖 和久 研究室 : 8号館4階・講師室</p>

	メールアドレス : k_oki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間
備考	授業開始から30分以内を遅刻とする。以降の入室は欠席とする。遅刻は累積2回で欠席1回とする。 ①各学科の資格に関する実務経験の有無： 中川達雄：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 児玉香菜絵：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○-5 ナンバリング：HJ-3-JT39-RS-P-1

講義科目名称： スポーツテーピング実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
石倉 舞香			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
村迫 萌生			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	柔道整復師の業務における問診や視診、触診等の診察から、必要な徒手筋力検査などの動的な診察や、徒手検査、神経学的検査などを選定し、その結果から治療プログラムの設定、後療法に至るまでの一連の流れを自身で実践することができる。また、問診、診察から得られた事項を施術録に記録する方法を理解する。
授業計画	<p>第1回 時期による分類と問診の復習 【内容・到達目標】 診察の初期・中間・最終の時期ごとの役割が理解できる。 基本的な問診を実践することができる。 【予習】：45分 医療面接で学んだ内容を自主学習しておくこと 【復習】：45分 授業中の注意点を基に復習しておくこと 【アクティブラーニング】有</p> <p>第2回 身体診察【問診・視診】 【内容・到達目標】 腰部の軟部組織損傷を例に、問診の復習と視診でのポイントや注意点について理解する。 【予習】：45分 医療面接で学んだ内容を自主学習しておくこと 【復習】：45分 授業中の注意点を基に復習しておくこと 【アクティブラーニング】有</p> <p>第3回 身体診察【触診】 【内容・到達目標】 腰部の軟部組織損傷を例に、触診でのポイントや注意点について理解する。 【予習】：45分 医療面接で学んだ内容を自主学習しておくこと 【復習】：45分 授業中の注意点を基に復習しておくこと 【アクティブラーニング】有</p> <p>第4回 身体診察【動的な診察・神経学的評価・徒手検査】 【内容・到達目標】 腰部の軟部組織損傷を例に、動的な診察や徒手検査についてのポイントや注意点について理解する。 【予習】：45分 医療面接で学んだ内容を自主学習しておくこと 【復習】：45分 授業中の注意点を基に復習しておくこと 【アクティブラーニング】有</p> <p>第5回 治療プログラムの設定と施術 【内容・到達目標】 腰部の軟部組織損傷を例に、治療プログラムの設定ができる。 【予習】：45分 医療面接で学んだ内容を自主学習しておくこと 【復習】：45分 授業中の注意点を基に復習しておくこと 【アクティブラーニング】有</p> <p>第6回 各部位への手技療法① 【内容・到達目標】 身体各部位への手技療法が実践できる。 【予習】：45分 柔道整復学で学んだ軟部組織損傷についての内容を自主学習しておくこと 【復習】：45分 授業中の注意点を基に復習しておくこと 【アクティブラーニング】有</p> <p>第7回 各部位への手技療法② 【内容・到達目標】 身体各部位への手技療法が実践できる。 【予習】：45分 柔道整復学で学んだ軟部組織損傷についての内容を自主学習しておくこと 【復習】：45分 授業中の注意点を基に復習しておくこと 【アクティブラーニング】有</p> <p>第8回 運動療法 【内容・到達目標】 腰部の軟部組織損傷を例に、運動療法についてのポイントや注意点について理解する。 【予習】：45分 柔道整復学で学んだ運動療法についての内容を自主学習しておくこと 【復習】：45分 授業中の注意点を基に復習しておくこと 【アクティブラーニング】有</p> <p>第9回 上肢の観察① 【内容・到達目標】 上肢の診察が実践できる。 【予習】：45分 上肢の骨・筋の解剖学についての内容を自主学習しておくこと 【復習】：45分 授業中の注意点を基に復習しておくこと 【アクティブラーニング】有</p> <p>第10回 上肢の観察② 【内容・到達目標】 上肢の診察が実践できる。 【予習】：45分 上肢の骨・筋の解剖学についての内容を自主学習しておくこと</p>

	<p>【復習】：45分 授業中の注意点を基に復習しておくこと 【アクティブラーニング】有</p> <p>第11回 下肢の観察① 【内容・到達目標】 下肢の診察が実践できる。 【予習】：45分 下肢の骨・筋の解剖学についての内容を自主学習しておくこと 【復習】：45分 授業中の注意点を基に復習しておくこと 【アクティブラーニング】有</p> <p>第12回 下肢の観察② 【内容・到達目標】 下肢の診察が実践できる。 【予習】：45分 下肢の骨・筋の解剖学についての内容を自主学習しておくこと 【復習】：45分 授業中の注意点を基に復習しておくこと 【アクティブラーニング】有</p> <p>第13回 問診～治療プログラムの設定 復習 【内容・到達目標】 問診から治療プログラムの設定に至るまで、自身で行うことができる。 【予習】：45分 第1回から第12回までの授業内容について自主学習しておくこと 【復習】：45分 この授業でできたこととできなかったことをまとめておくこと 【アクティブラーニング】有</p> <p>第14回 手技療法～運動療法 復習 【内容・到達目標】 手技療法から運動療法に至るまで、自身で行うことができる。 【予習】：45分 第1回から第13回までの授業内容について自主学習しておくこと 【復習】：45分 この授業でできたこととできなかったことをまとめておくこと 【アクティブラーニング】有</p> <p>第15回 総復習 【内容・到達目標】 第13, 14回の授業での反省を踏まえ、問診から運動療法に至るまで自身で行うことができる。 【予習】：45分 第1回から第14回までの授業内容について自主学習しておくこと 【復習】：45分 この授業で出来つようになったことと今後に生かしたいことをまとめておくこと 【アクティブラーニング】有</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	問診や診察などの技術は反復により修得されるものである。そのためシラバスを参考に、予習復習を行うように努める。 予習(45分)：シラバスから授業で行う範囲を確認し、配布したプリントを基に自主練習を行う。 復習(45分)：授業で行った内容を確認しながら、自主練習を行う。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学(理論編) 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 改訂第6版 南江堂 ・柔道整復学 実技編 柔道整復学校協会監修
参考書	<p>授業中に適宜プリントを配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践・臨床推論 根拠に基づく柔道整復術を目指して 錦房株式会社 ・運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略 医学書院 <p>上記2冊は購入する必要はないが、参考にするとわかり良い。</p>
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。 授業ごとのレポートによる評価：80% 授業態度による評価：20%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：村迫萌生 研究室：8号館4階講師室 メールアドレス：m_murasako@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後</p>
備考	介護施設や施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-5、○-2
	HJ-3-JT42-RS-P-1
	本授業は感染症の流行等やむを得ない状況の場合は、オンデマンドに切り替える可能性がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
宗友 宏行			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			
臨シミュ実習 I .pdf			

授業目標	【授業概要】 柔道整復師の業務範囲である骨折・脱臼・軟部組織損傷の損傷発生時の診察から整復・検査までの一連動作を適切に実施することを可能にするための科目である。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・診察手順について 【授業目標】 診察手順である問診、視診、触診について実践できる。 【授業概要】 患者及び助手役を分担し模擬診察を行う。 【準備学習】 医療面接等の実施方法を確認する。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第2回 鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼 【授業目標】 鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の診察及び整復法を習得することができる。 【授業概要】 鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の診察及び整復法を実践して学ぶ。 【準備学習】 鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>第3回 上腕骨外科頸外転型骨折 【授業目標】 上腕骨外科頸外転型骨折の診察及び整復法を習得することができる。 【授業概要】 上腕骨外科頸外転型骨折の診察及び整復法を実践して学ぶ。 【準備学習】 上腕骨外科頸外転型骨折を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>第4回 コーレス骨折 【授業目標】 コーレス骨折の診察及び整復法を習得することができる。 【授業概要】 コーレス骨折の診察及び整復法を実践して学ぶ。 【準備学習】 コーレス骨折を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>第5回 肩関節烏口下脱臼 【授業目標】 肩関節烏口下脱臼の診察及び整復法を習得することができる。 【授業概要】 肩関節烏口下脱臼の診察及び整復法を実践して学ぶ。 【準備学習】 肩関節烏口下脱臼を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>第6回 肘関節後方脱臼、肘内障 【授業目標】 肘関節後方脱臼、肘内障の診察及び整復法を習得することができる。 【授業概要】 肘関節後方脱臼、肘内障の診察及び整復法を実践して学ぶ。 【準備学習】 肘関節後方脱臼、肘内障を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>第7回 まとめ 1（中間評価） 【授業目標】 1～6回目までの授業を復習し、理解を高める。 【授業概要】 個別に問題点が解消できるよう実践して学ぶ。 【準備学習】 1～6回目までの授業を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>第8回 腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷 【授業目標】 腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察及び整復法を習得することができる。 【授業概要】 腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察及び整復法を実践して学ぶ。 【準備学習】 腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>第9回 ハムストリングス損傷、下腿三頭筋損傷 【授業目標】 ハムストリングス損傷、下腿三頭筋損傷の診察及び整復法を習得することができる。 【授業概要】 ハムストリングス損傷、下腿三頭筋損傷の診察及び整復法を実践して学ぶ。 【準備学習】 ハムストリングス損傷、下腿三頭筋損傷を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>第10回 大腿四頭筋打撲 【授業目標】 大腿四頭筋打撲の診察及び整復法を習得することができる。 【授業概要】 大腿四頭筋打撲の診察及び整復法を実技を交えて学ぶ。</p>

第11回	<p>【準備学習】 大腿四頭筋打撲を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>膝関節半月板損傷</p> <p>【授業目標】 膝半月板損傷の診察及び整復法を習得することができる。 【授業概要】 膝半月板損傷の診察及び整復法を実技を交えて学ぶ。 【準備学習】 膝半月板損傷の復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p>
第12回	<p>膝関節十字靭帯損傷、膝関節側副靭帯損傷</p> <p>【授業目標】 膝関節十字靭帯損傷、膝関節側副靭帯損傷の診察及び整復法を習得することができる。 【授業概要】 膝関節十字靭帯損傷、膝関節側副靭帯損傷の診察及び整復法を実技を交えて学ぶ。 【準備学習】 膝関節十字靭帯損傷、膝関節側副靭帯損傷を復習しておく。</p>
第13回	<p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>足関節外側側副靭帯損傷</p> <p>【授業目標】 足関節外側側副靭帯損傷の診察及び整復法を習得することができる。 【授業概要】 足関節外側側副靭帯損傷の診察及び整復法を実技を交えて学ぶ。</p>
第14回	<p>【準備学習】 足関節外側側副靭帯損傷を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>第14回目 まとめ 1</p> <p>【授業目標】 本授業の内容が把握できる。 【授業概要】 本授業の内容についてまとめる。 【準備学習】 第1回から第13回までの授業内容を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p>
第15回	<p>まとめ 2</p> <p>【授業目標】 本授業の内容が把握できる。 【授業概要】 本授業の内容についてまとめる。 【準備学習】 第1回から第13回までの授業内容を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習30分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習60分)。授業時間中に前回の理解度を確認する小テストを行います。
教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第7版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会 編）
参考書	柔道整復学・実技編 改訂版第2版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会 編） 参考資料はGoogle classroomで配布する。
成績評価	出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たしたものに対して実技試験を行う。 小テスト（20%）、中間評価（20%）期末評価（60%）とし、60点以上を合格とする。
担当教員の基本情報	宗友宏行：病院、接骨院、介護施設で臨床業務に従事し、その経験に基いて本講義の授業を行う。 原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがある。 この授業とディプロマシーとの関連：◎-2 科目ナンバー：HJ-3-JT43-RS-P-1
備考	

講義科目名称： 臨床実習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	1	必修
担当教員			
宮坂卓治、齋藤昌久、宗友宏行、沖 和久、奥田正作、田中健吾、村迫萌生、児玉香菜絵、吉元拓也			
配当学科：柔道整備学科	時間数：45時間	授業形態：実習	
添付ファイル			
臨実Ⅱ. pdf			

授業目標	<p>本科目はスポーツ現場に赴きスポーツ外傷の応急処置の実際を見学する。また、スポーツ外傷・障害のためのケアを地域マラソン大会等の選手に行い、選手とコミュニケーションを取りながらケアの実践を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ外傷の応急処置の実践を理解することができる。 ・スポーツケアの方法を理解し、実践することができる。 ・スポーツ選手とコミュニケーションをとることができる。
授業計画	<p>実施概要</p> <p>実習概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南丹トライアスロン ケア実習 (7月) 場所：南丹市八木町 運動公園、実習参加人数：30名 実習内容：大会参加選手へのケア (ストレッチ等) ・京都嵐山耐熱リレーマラソン ケア実習 (8月) 場所：京都市 嵐山東公園、実習参加人数：30名 実習内容：大会参加選手へのケア (ストレッチ等) ・丹波ロードレース ケア実習 (11月) 場所：丹波自然公園実習、実習参加人数：30名 実習内容：大会参加選手へのケア (ストレッチ等) ・亀岡マラソン大会 ケア実習 (12月) 場所：亀岡運動公園、実習参加人数：30名 実習内容：大会参加選手へのケア (ストレッチ等) ・福知山マラソン大会 ケア実習 (11月) 場所：福知山 三段池公園、実習参加人数：30名 実習内容：大会参加選手へのケア (ストレッチ等) ・京都学生柔道大会 (5月) 場所：亀岡市 実習参加人数：6名 実習内容：応急処置の補助 見学 ・京都学生柔道段別体重別選手権 (5月) 場所：京都市 実習参加人数：6名 実習内容：応急処置の補助 見学 ・京都十二大学親善柔道大会 (11月) 場所：本校 実習参加人数：15名 実習内容：応急処置の補助 見学 ・京都学生柔道段別体重別選手権 (12月) 場所：京都市 実習参加人数：6名 実習内容：応急処置の補助 見学 ・余呉高原スキー場 応急処置実習 場所：ヨゴコーゲンリゾートヤップ、グランスノー奥伊吹 (2025年1~2月) 実習内容：スキー場内 パトロール室横 応急処置の補助 見学 実習参加人数：7名/回 <p>全体オリエンテーションは4月の初旬に行い、各実習の前にグループに分かれ実習前オリエンテーションを行う。</p> <p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 携帯品 <ol style="list-style-type: none"> (1) 筆記用具 (ボールペン、ノート等) ※ バッグ等は8号館の各自のロッカーに収納する。 (2) 実習に必要なテキスト、参考書、プリント等 (3) 実習簿は常に携帯する。 (4) ネーム (病院内では必ず本学指定のネームをつける。) 2. 服装及びマナー <ol style="list-style-type: none"> (1) ジーンズ、サンダル及ふさわしくない服装は禁じ、実習への参加は認めない。 (2) 常に頭髪 (髪型、茶髪)、爪、服装、男性の場合は髭を伸ばさず、清潔に保つこと。 (3) 頭髪のカラーはカラースケールの『6』以下であること。 (4) 手指の消毒を怠らないように注意すること。 (5) 特に疾患や病態などについては患者様の前で話さないこと。 (6) 常に担当教員等の指示に従い、速やかに行動すること。 3. その他注意事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 決められた時間は厳守する (遅れた場合は実習に参加できない)。 (2) 実習施設内では学生は一切禁煙であるので注意する。 (3) 体の不調等を起こした者は、直ちに担当教員にその旨を告げ指示に従う。 (4) 備え付けの物品は大切に扱い、破損、紛失のないように心掛け、勝手に使用しない。 (5) 使用した備品は、必ず元の場所へ返却する。 (6) その他細部あるいは不明な点については担当教員等の指示に従う。 (7) 医療人としての自覚を持ち、諸規則を厳守する。 (8) やむを得ず実習を欠席する場合は、必ず事前に事務局教務担当まで連絡し欠席届を提出する (欠席理由を明確にする)。 (9) 昼食時は、患者様等の利用を配慮し、病院のレストランは使用しない。
授業時間外の学習 (準備学習等) について	事前学習にて学んだ応急処置の方法やストレッチを復習しておくこと。
教科書	教科書指定なし
参考書	IDストレッチ：平野 幸伸 (著)、鈴木 敏和 (著)、鈴木 重行 (編集) 三輪書店 ISBN-13: 978-4895902397

成績評価	実習内評価（40％）、実習後レポート（60％）によって評価を行う。
担当教員の基本情報	宮坂卓治、宗友宏行、沖和久、田中健吾、奥田正作、児玉香菜絵、村迫萌生、吉元拓也、金川陽亮 実習調整者：宗友宏行 メールアドレス：h_munetomo@meiji-u.ac.jp 質問等あれば、上記のメールアドレスまたはメリーにて連絡ください。
備考	実習簿をよく読み、実習中の服装、注意点を確認するようにしておくこと。 原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがある。 ディプロマポリシーとの関連 ◎-2, ○-5 科目ナンバー：HJ-3-JT47-RS-P-1

講義科目名称： 臨床実習Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	1	必修
担当教員			
宮坂 卓治、宗友 宏行			
配当学科：柔道整復学科	時間数：45時間	授業形態：実習	
添付ファイル			
臨床実習 Ⅲ. pdf			

授業目標	<p>本科目では学外実習として接骨院における実習、老人介護施設（未定）における実習を行う。また、本学附属病院でのリハビリテーション科での実習を行う。</p> <p>目標</p> <p>《接骨院実習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接骨院での業務を把握することができる。 ・患者と施術者の医療面接、施術の方法を理解することができる。 ・症例報告を行うことができる。 <p>《老人介護施設》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の介護予防プログラムを理解することができる。 ・機能訓練指導員として役割、業務を理解することができる。 ・高齢者施設で働く介護業務を理解することができる。 ・高齢者施設の利用者の状態を把握することができる。 <p>《附属病院リハビリテーション》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外傷・障害におけるリハビリテーションの方法を理解することができる。 ・脳卒中・片麻痺患者のリハビリテーションの方法を理解することができる。 ・リハビリテーション業務を把握することができる。
授業計画	<p>オリエンテーション・実習内容・実習先</p> <p>本科目での実習は、クラスごとに班編成を行い、日時を指定し所定の施設で行う。実習先は本学と連携する接骨院、福祉施設、本学附属病院でリハビリテーションの実習を行う。</p> <p>なお、詳細内容に関してはオリエンテーション時に説明を行う。</p> <p>オリエンテーション概要 オリエンテーションはセクションごとに実施する。</p> <p>実習先一覧 Jルーム 学外接骨院 はぎの里 明治国際医療大学付属病院 リハビリテーション科 ※なお、実習先においては、状況により変更することがあります。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	実習要項に沿って学修すること。
教科書	柔道整復学校協会監修 柔道整復学・理論編改訂第6版
参考書	全国柔道整復学校協会監修 競技者のための外傷予防 医歯薬出版 ISBN: 978-4-263-24160-8 柔道整復師と機能訓練指導：機能訓練指導員養成テキスト 南江堂 ISBN: 978-4-524-25759-1
成績評価	実習を既定の時間修了した者に対して評価を行う。 実習内評価（50%）、実習レポート（50%）によって評価を行う。
担当教員の基本情報	実習調整者：宗友宏行 メールアドレス：h_munetomo @tch.meiji-u.ac.jp 質問等あれば、上記のメールアドレスまたはメリーにて連絡ください。
備考	ディプロマポリシーとの関連 2-◎ 5-○ 科目ナンバー：HJ-3-JT48-RS-P-1
	※実習先での事故に備え、大学が指定する保険に加入することを推奨します。

講義科目名称： 健康スポーツ実習 I (運動療法・体操)

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>○医療現場で行われている生活習慣病予防と改善のための運動療法を体験理解し、健康づくりのための楽しい運動を理解できるようになる。</p> <p>○医療人として集団運動指導ができる技術とコミュニケーション能力が向上する。</p>
授業計画	<p>1 回目 ガイダンス 体育館に運動・スポーツに適した服装に着替えて室内シューズで集合してください。 ◎医療現場で行われている生活習慣病予防と改善、転倒予防、介護予防、認知症予防のための運動療法を体験理解できる。また、健康づくりのための楽しい運動習慣確立を目指す集団指導テクニックについて体験理解できる。毎回、共通運動種目又は体操を体験できる。オンデマンド授業の説明。</p> <p>2 回目 運動療法1(ウォーキング・ジョギング) 体育館に集合してください。 ◎到達目標 生活習慣病予防と改善のための健康ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>3 回目 運動療法2(ボール運動1.) ◎到達目標 布ボール、軽量ハンドボール、2kgメディシンボールを使い筋力・巧緻性向上運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>4 回目 運動療法3(ボール運動2) 到達目標 ◎バッティング系(ノックと野球)から筋力・巧緻性向上運動を体験理解できる。 ○集団バドミントンから体力づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>5 回目 運動療法4(手作り用具使用1) 到達目標 ◎シートウォーキングから健康づくりのための転倒予防運動を体験理解できる。 ○集団バドミントンから体力づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>6 回目 運動療法5(手作り用具使用2) 到達目標 ◎スクエアシートから転倒予防・認知症予防運動を体験理解できる。 ○集団バドミントンから体力づくりのための楽しい運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>7 回目 運動療法6(ドッジビー・輪投げ) 到達目標 ◎ドッジビー・輪投げを使用して健康づくりのための集団運動を体験理解できる。 ○ソフトバレーボールゲームから楽しい集団運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>8 回目 運動療法7(マット運動) 到達目標 ◎マット運動から筋力・バランス運動を体験理解できる。 ○ソフトバレーボールゲームから楽しい集団運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>9 回目 運動療法8(ミニハードル) 到達目標 ◎ミニハードル走からリズムとバランス運動を体験理解できる。 ○卓球・ソフトバレーボールから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>1 0 回目 運動療法9(パターゴルフ) 到達目標 ◎パターゴルフから楽しい健康づくりのための運動を体験理解できる。 ○集団バドミントンから体力づくりのための楽しい運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>1 1 回目 運動療法10(グラウンドゴルフ・ターゲットバードゴルフ) 到達目標 ◎グラウンドゴルフ・ターゲットバードゴルフから健康づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>1 2 回目 運動療法11(ノルディックウォーキング) 到達目標 ◎ノルディックウォーキングから健康づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p>

	<p>1 3 回目 運動療法12(フロートR・ボルタリング) 到達目標 ◎フロートR(円形・三角形)とボルタリングから健康づくりのための運動を体験理解できる。 ○ソフトバレーボールゲームから楽しい集団健康運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>1 4 回目 集団ゲーム1 到達目標 ◎ソフトバレーボールゲームから楽しい集団ゲームを体験理解できる。 「どうすれば楽しくチームワークが向上するか」をテーマとしたグループワーク①を体験できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>1 5 回目 集団ゲーム2 到達目標 ◎ソフトバレーボールゲームから楽しい集団ゲームを体験理解できる。 「どうすれば楽しくチームワークが向上するか」をテーマとしたグループワーク②を体験できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義前後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習(予習30分)し、実技で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	出席状況と授業の取り組み姿勢と態度、コミュニケーション・スキル、服装・シューズなどを加味して総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名:池本 敬博 研究室:体育館・教員室 メールアドレス:iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー:授業の前後
備考	健康運動指導士として医療機関における運動療法教室5,000回と外部連藤指導・講演2,000回の実務経験をもとに、健康運動実践について実技指導を行う。 服装は運動に適した服装、室内シューズ。
	この授業のディプロマポリシーは◎ - 1
	HJ9-HA-ES-P-0

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
村川 増代			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業は、「健康運動実践指導者資格取得」を目標とする。生涯を通じて健康維持増進を図ることへの関心が高まって以来久しいが、健康運動指導に必要な知識と有酸素運動の特性を理解した上で、水中運動の基本的な技術を習得し、仲間と楽しく身体運動の喜びに触れることを目的として、実践を中心とした授業を展開する。すなわち、グループ指導能力の繰り返し実践を通し、人間性と教養を身につけコミュニケーション力の向上、基本的技術、正しい動作、指導技術を修得することをねらいとする。また、他者の健康管理と健康指導に従事しようとする医療人に求められている、自分のからだの仕組みを知り自身の健康に対する意識を常に高める習慣づくりとは何かを体得する。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解することができる。 [授業形態] 講義と実習 水中運動とは何か事前に調べ（予習35分）、本時内容をまとめる（復習35分）。</p> <p>第2講 健康づくり運動の実際 水中運動の課題運動① [到達目標] 水の特性（浮力・水抵抗・水圧・水温）について解説できるようになる。 [授業形態] 講義と実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第3講 健康づくり運動の実際 水中運動の課題運動② [到達目標] 水中運動の基本姿勢やテンポ、動作を習得し、リズムカルに動けるようになる。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第4講 健康づくり運動の実際 水中運動の課題運動③ [到達目標] 前歩き・横歩き・後ろ歩き・回旋歩きを習得し教示できるようにする。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第5講 健康づくり運動の実際 水中レジスタンス運動① [到達目標] 水中レジスタンス運動の特性・目的・内容について理解し、説明できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第6講 健康づくり運動の実際 水中レジスタンス運動② [到達目標] 課題とした基本姿勢・動作確認に習熟し、指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第7講 健康づくり運動の実際 水中レジスタンス運動③ [到達目標] 運動強度の考えかた、実施における留意点などを理解し、解説できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第8講 健康づくり運動の実際 水中運動および水中レジスタンス運動 [到達目標] 水中運動・水中レジスタンス運動のグループワークを習熟し、水の抵抗を利用した筋の強化運動のグループワークを指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第9講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導① [到達目標] 「規定の課題運動」を、グループワークにて指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第10講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導② [到達目標] グループワーク指導で、キューイング法とステップ動作指導ができるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第11講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導③ [到達目標] グループワーク指導で、課題ステップ動作を実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第12講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導④ [到達目標] 運動プログラム作成・実践指導：プールに於いて「課題運動」の運動の目的と内容を説明でき、実演できる能力を身につける。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第13講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導⑤ [到達目標] 対象者の健康状態に即した運動プログラム作成・実践指導を、プールに於いて実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p>

	<p>第14講 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導⑥</p> <p>[到達目標] 課題運動の内容が説明でき、実践指導ができるようになる。</p> <p>[授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>第15講 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導⑦</p> <p>[到達目標]（実習のまとめ）。第1講～第14講を総括した 実践指導ができるようになる。</p> <p>[授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	資料を集め、水中運動の要点をまとめた自分のハンドブックを作成する。プログラム作成後は、それに基づいた指導練習を行う。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布する。
参考書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団
成績評価	実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度（探究心の総合評価）30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 村川増代</p> <p>研究室 : 体育館・教員室</p> <p>メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業前後、木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。</p>
備考	<p>① 服装は、運動に適した服装、体育館シューズ。プールで実施する時は、水着の準備をする。</p> <p>② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。</p> <p>③ この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-5 技能・表現，○-1 知識・理解。</p>

講義科目名称： スポーツ医学基礎

授業コード：

英文科目名称： Sport Medicine Basic

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
吉田 行宏、齋藤 昌久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義(オンデマンド) AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 「スポーツ医学 基礎」では、グッドコーチに求められる医・科学的知識（トレーニング科学、スポーツ医・科学）を学修する。その目的は、コーチング（スポーツ・運動指導）対象者のスポーツ活動を円滑に進めるために、また彼らのパフォーマンスの向上・改善が円滑・効率的に進めるために必要な知識を学修することである。また、授業内容に関連した問題を解き、質疑応答形式でその解説を行うなどして双方向型授業（アクティブラーニング）を目指す。</p> <p>なお、この科目は、2年後期に開設される「スポーツ医学応用」とともに、JATAC-ATCや健康運動実践指導者、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学部は、「スポーツプログラマー」、保健医療学部は、「スポーツプログラマー」と「ジュニアスポーツ指導員」を取得するための科目である。</p> <p>【授業目標】 スポーツ医・科学的知識の習得を目標とする。具体的には、スポーツ外傷と障害の予防、救急処置、アンチ・ドーピング、アスリートの健康管理、スポーツによる精神障害と対策、およびトレーニングの基本的考え方・理論体系（スポーツパフォーマンス構造論）である。</p>
授業計画	<p>1回目 (担当：吉田行宏) ガイダンス、スポーツに関する医学的知識：スポーツと健康、アスリートの健康管理 【到達目標】 1. ガイダンスにて本科目「スポーツ医学基礎」の概要を理解する。 2. スポーツと健康について理解し説明できる。 3. アスリートの健康管理について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP262-269までを熟読しておくこと。</p> <p>2回目 (担当：吉田行宏) スポーツに関する医学的知識：アスリートの内科的障害と対策 【到達目標】 アスリートの内科的障害とその対策について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP269-276までを熟読しておくこと。</p> <p>3回目 (担当：吉田行宏) スポーツに関する医学的知識：女性アスリートの障害と対策、スポーツにおける精神障害と対策 【到達目標】 女性アスリートの障害とその対策について理解し説明できる。 スポーツにおける精神障害とその対策について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP276-282までを熟読しておくこと。</p> <p>4回目 (担当：吉田行宏) スポーツに関する医学的知識：外傷、障害の予防 【到達目標】 スポーツで起こる外傷・障害とその予防について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP282-292までを熟読しておくこと。</p> <p>5回目 (担当：吉田行宏) スポーツに関する医学的知識：コンディショニングの手法 【到達目標】 コンディショニングの手法について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP292-297までを熟読しておくこと。</p> <p>6回目 (担当：吉田行宏) スポーツに関する医学的知識：救急処置(救急蘇生法)、救急処置(外科的応急処置) 【到達目標】 救急蘇生法について理解し説明できる。</p>

7回目	<p>外科的応急処置について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP297-310までを熟読しておくこと。 (担当：齊藤昌久) スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系-1、スポーツパフォーマンス構造論 【到達目標】 1) 自らがコーチングしているスポーツ種目のパフォーマンスがどのようなものであるかについて、明確な階層構造的要因として(設計図のように)理解・説明ができ、活用できる。 2) 目指すパフォーマンスをどこに設定するか、またそのための課題は何かについて、時間資源を考慮しながら設定することができる。 3) 設定課題を解決するためのトレーニング手段を選択し、それら数種類を組み合わせるトレーニング方法を設定することができる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。 【備考】(予習項目) スポーツトレーニングサイクル、スポーツパフォーマンス構造論。リファレンスブック：p. 132-139。</p>
8回目	<p>(担当：齊藤昌久) スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系-1、スポーツトレーニングの基本設計図 【到達目標】 ・目標設定(SMART)が説明できる。 ・SWOT分析が説明でき、AWOT分析表を書くことができる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。 【備考】(予習項目) リファレンスブック熟読：p. 132-139。SWOT、SMARTをWEBで調べて情報を得ておく。</p>
9回目	<p>(担当：齊藤昌久) スポーツに関する医学的知識：スポーツと健康 【到達目標】 21-01) 体力が身体の健康に深く関わっていることが説明できる。 21-02) スポーツ活動・運動が身体に及ぼす様々な効果について説明できる。 21-01) 体力が身体の健康に深く関わっていることが説明できる。 21-02) スポーツ活動・運動が身体に及ぼす様々な効果について説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。 【備考】(予習項目) 健康の定義、WHOが示す身体活動のガイドライン、生活習慣病他。リファレンスブック熟読：p. 262-265。</p>
10回目	<p>(担当：齊藤昌久) スポーツに関する医学的知識：アスリートの健康管理 【到達目標】 21-01) 運動が身体の健康に深く関わっていることが説明できる。 ・スポーツへの「オーバートレーニング」「睡眠」の関わりについて説明できる。 21-02) スポーツ活動・運動が身体に及ぼす様々な効果について説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。 【備考】(予習項目) 健康の定義、WHOが示す身体活動のガイドライン、生活習慣病他。教科書熟読：p. 262-265。</p>
11回目	<p>(担当：齊藤昌久) スポーツに関する医学的知識：スポーツによる精神障害と対策 【到達目標】 ・スポーツによる精神障害が説明できる。 ・主な精神障害の一般的疾患について説明できる。 ・スポーツによる主な精神障害の一般的疾患とその対策が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。 【備考】(予習項目) オーバートレーニング症候群、精神障害の一般的疾患。教科書熟読：p. 278-282。</p>
12回目	<p>(担当：齊藤昌久) グッドコーチに求められる医科学的知識：スキルトレーニング-1 【到達目標】 15) 技術トレーニングの課題は、技術の理論的理解、能力に応じた技術のモデル化、技術の改善や最適化、新しい技術の創造などにあることが説明できる。 16) 技術を観察・分析・評価する方法には、定量的なバイオメカニクス的方法と、定性的な質的観察法(自己観察、他者観察)などの方法が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。 ・スキルトレーニングの特性・方法について説明できる。 ・必要な課題を自ら発見できる 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式)。フィードバックは、授業終了後の課題・小テストから、次の授業等(双方向授業、アクティブラーニング)で行う。ゲストスピーカーが担当する場合がある。</p>

13回目	<p>【備考】（予習項目） スキルとスポーツ技術・技能、スキルトレーニングの時期・手段・方法。教科書（リファレンスブック）熟読：p.192-196。 （担当：齊藤昌久）グッドコーチに求められる医科学的知識：スキルトレーニング-2</p> <p>【到達目標】 21) コーチング対象者に必要とされる技術トレーニングの目標と課題、具体的な手段や方法を選択し、トレーニングを計画し、説明できる。 ・スキル向上のメカニズムが説明できる。 ・「錯視」について説明できる 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。ゲストスピーカーが担当する場合がある。</p>
14回目	<p>【備考】（予習項目） スキル向上のメカニズム、スキルトレーニングの効果 教科書熟読：p.196-197。 （担当：吉田行宏）アンチ・ドーピング①：アンチドーピングとは一スポーツ指導者の役割</p> <p>【到達目標】 アンチドーピングについて理解し説明できる。</p>
15回目	<p>【備考】（予習項目） スキル向上のメカニズム、スキルトレーニングの効果 教科書熟読：p.196-197。 （担当：吉田行宏）アンチ・ドーピング②：アンチドーピングとは一スポーツ指導者の役割</p> <p>【到達目標】 アンチドーピングについて理解し説明できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>・教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること（予習30分）。理解できない事柄（事項）があれば、メモを取り、参考書を熟読するか、授業での質疑応答は積極的な参加を求めます。 ・配付資料（ハンドアウト）は、講義ノートとともに必ず整理すること。授業の復習は、記憶に焼き付けられるように、必ず、確実にすること（復習30分）。</p>
教科書	「Reference Book」（リファレンスブック） 公益財団法人日本スポーツ協会
参考書	なし
成績評価	<p>出席が3/5以上の者を対象に評価を実施する。 ①合格点：各回の講義終了後に実施する小テストを集計して評価し、全講義回数(15回)の合計点が満点の6割以上を合格とする。 ②評価点が9割以上を秀、8割以上を優、7割以上を良、6割以上を可とする。 ③アセスメントとフィードバック： アセスメント：小テスト結果 フィードバック：小テスト結果の発表、メリーを用いた質疑応答を行う。</p> <p>※成績評価における注意事項 ①課題提出の締め切り日時を過ぎた場合は「出席」にはならず、その単元の小テストの点数は0点となります。 ②提出物の内容によっては出席扱いにならず、小テストの点数も0点となります。 例「氏名のみで内容が無いまま提出」、「他人の内容をコピー提出」、「課題と明らかに異なる内容で提出」、「自分の意見ではなくAIを使用している」など。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：吉田行宏 研究室：附属鍼灸センター2F 教員室 メールアドレス：y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 16:30-17:30</p> <p>担当教員名：齊藤 昌久 研究室：8号館4階 齊藤（スポーツ運動科学）研究室 メールアドレス：ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月・火・木曜日 16:30～17:30</p>
備考	<p>実務経験： 吉田行宏：資格（はり師・きゅう師、博士(鍼灸学)、日本赤十字社救急法指導員）、鍼灸臨床歴20年、教員歴11年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験を基に学習指導を行う。</p> <p>齊藤昌久：前任校（大阪医科薬科大学、旧 大阪医科大学 ～2021年3月まで）では、非常勤講師として「スポーツ健康科学」の実技・講義、専任で生理学教室に在籍中「生理学」の講義とリハビリテーション医学教室に在籍中は「運動生理学とCPR」の講義を受け持っていた。</p>
	<p>アクティブラーニング： 小テスト結果及びその内容のフィードバックは、必要に応じて全体もしくは個別に対して行う。 メリーを用いた質疑への返答は原則的にオフィスアワー時間に行う。</p>
	<p>ディプロマ・ポリシーとの関係；◎-5. 技能・表現、○-1. 知識・理解 科目ナンバー：「SS-2-HA11-ES-L-0」</p>
	授業動画及び課題等はGoogle Classroomに公開します。

講義科目名称： 生活習慣病と運動障害

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
浅沼 博司			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	生活習慣病への対策は現在重要な課題のひとつである。本科目では、生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について学習する。学習目標は、将来臨床で活躍するための臨床感覚と資格試験に必要な知識の習得である。
授業計画	<p>1回目 生活習慣病概論 生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>2回目 高血圧 高血圧の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>3回目 脂質異常症 脂質異常症の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>4回目 慢性腎臓病（CKD） 慢性腎臓病の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>5回目 糖尿病 糖尿病の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>6回目 メタボリック症候群 メタボリック症候群の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>7回目 高尿酸血症 高尿酸血症の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う） 単位取得にかかる試験を実施する。</p> <p>8回目 まとめと筆記試験 前半にまとめの講義を行い、後半に筆記試験による成績評価を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義時間中に知識の習得、定着を目指す点は参考書での復習や教員に質問するように。講義で学修した内容をまとめて下さい（予習90分、復習90分）。
教科書	特に指定の教科書はない。
参考書	特に指定の参考書はない。
成績評価	学期末に試験を行い評価する。評価方法（試験100%）。私語は厳に慎むこと。
担当教員の基本情報	担当教員名：浅沼博司 役職：臨床医学講座教授、附属病院 病院長（併）内科部長 病院長室：病院2階 オフィスアワー：火曜午後 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp
備考	大阪大学医学部附属病院(循環器内科学教室)、近畿大学医学部附属病院(救急医学教室)、京都府立医科大学附属病院(循環器・腎臓病内科学教室)での勤務を経て、現在、明治国際医療大学附属病院に勤務し、各病院で内科および循環器内科の診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに「生活習慣病とその予防」について授業をすすめる。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2

講義科目名称： スポーツ医学応用

授業コード：

英文科目名称： Sport Medicine Apply

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択
担当教員			
齋藤 昌久、吉田 行宏			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド）AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 「スポーツ医学応用」では以下の内容を学修する。 ①公認スポーツ指導者養成講習会共通科目：現場・環境に応じたコーチングー1. コーチング環境の特徴、3. スポーツ組織のマネジメント、4. 障がい者とスポーツ ②公認スポーツプログラマー：Ⅱ. フィットネスプログラムの実際ー3) 女性のフィットネスプログラム、4) 障がい者のフィットネスプログラム ③JATAC-AT：発育発達論 なお、この科目は、2年前期に開設される「スポーツ医学基礎」とともに、JATAC-ATCや健康運動実践指導者、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学科と柔道整復学科は、JATAC-ATC、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、救急救命学科は保健医療学部は、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員を取得するために必要な科目である。</p> <p>【授業目標】 その目的は、ジュニアや中高年、女性、障がい者のスポーツを円滑かつ効果的に実践するために、必要な知識を学修することである。 また、授業内容に関連した問題を解き、質疑応答形式でその解説を行うなどして双方向型授業（アクティブラーニング）を目指す。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、コーチング環境の特徴：.ジュニア期のコーチングの留意点（担当：吉田行宏） [到達目標] 1. ガイダンスにて本科目「スポーツ医学応用」の概要を理解する。 2. ジュニア期のコーチングの留意点について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP322-324までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。</p> <p>2回目 コーチング環境の特徴：年齢区分からみたコーチングの留意点（担当：吉田行宏） [到達目標] 年齢区分からみたコーチングの留意点について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP324-326までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。</p> <p>3回目 コーチング環境の特徴：トレーニングの至適年齢、遺伝の影響、運動部活動でのコーチングの留意点（担当：吉田行宏） [到達目標] 1. トレーニングの至適年齢について理解し説明できる。 2. 遺伝の影響について理解し説明できる。 3. 運動部活動でのコーチングの留意点について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP326-331までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。</p> <p>4回目 コーチング環境の特徴：中高年者へのコーチング(運動指導)の留意点1（担当：吉田行宏） [到達目標] 運動と老化(老化循環促進説、加齢変化、運動が心身に及ぼす影響)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP331-333までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。</p> <p>5回目 コーチング環境の特徴：中高年者へのコーチング(運動指導)の留意点2（担当：吉田行宏） [到達目標] 運動プログラム(運動プログラムの目標設定、中高年者に適した運動方法)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンス</p>

6 回目	<p>ブックP333-336までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。 コーチング環境の特徴：中高年者へのコーチング(運動指導)の留意点3 (担当：吉田行宏)</p> <p>[到達目標] 運動プログラム(有疾患者に対する留意点、運動プログラムの一例、指導の際の注意点)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP336-338までを熟読しておくこと。</p>
7 回目	<p>JATAC-AT：発育発達論を含む。 コーチング環境の特徴：性別の考慮1 (担当：吉田行宏)</p> <p>[到達目標] 性別の考慮(月経の基礎知識、女性アスリート三主徴、コンディションに影響を与える月経随伴症状、月経随伴症状への対策法、妊娠・出産から競技復帰まで～マタニティ期のスポーツ)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP338-342までを熟読しておくこと。</p>
8 回目	<p>公認スポーツプログラマー：Ⅱ. フィットネスプログラムの実際-3) 女性のフィットネスプログラムを含む。 コーチング環境の特徴：性別の考慮2 (担当：吉田行宏)</p> <p>[到達目標] 性別の考慮(女性アスリートのフィジカルトレーニング、性別の考慮/性的マイノリティ(LGBT)に対するコーチングの留意点、多様な文化的背景を考慮したコーチング)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP342-354までを熟読しておくこと。</p>
9 回目	<p>公認スポーツプログラマー：Ⅱ. フィットネスプログラムの実際-3) 女性のフィットネスプログラムを含む。 (担当：齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ-1：障がいの理解とスポーツ (担当：齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ：障がいの理解とスポーツ</p> <p>[到達目標] ・障がいの概要(定義や種別)とその特性を理解し、説明できる。 ・障がいに応じたコーチング上の留意点やルール・用具などの工夫、配慮することにより誰でもスポーツが親しめることの理解を深め、説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する(Googleフォーム)。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p>
10 回目	<p>テキスト(リファレンスブック)を熟読のこと;p. 385-388。 ハンドアウト(配付資料)があれば精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください(質問の解答が遅れることもあります)。 (担当：齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ-2：障がい者にとってのスポーツ(現状と課題)(ゲストスピーカーを予定) (担当：齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ：障がいの理解とスポーツ(ゲストスピーカーを予定)</p> <p>[到達目標] ・障がいの概要(定義や種別)とその特性を理解し、説明できる。 ・障がいに応じたコーチング上の留意点やルール・用具などの工夫、配慮することにより誰でもスポーツが親しめることの理解を深め、説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する(Googleフォーム)。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p>
11 回目	<p>テキスト(リファレンスブック)を熟読のこと;p. 385-388。 ハンドアウト(配付資料)があれば精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください(質問の解答が遅れることもあります)。 (担当：齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ-3：障がい者にとってのスポーツ(現状と課題)(ゲストスピーカーを予定) (担当：齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ：障がいの理解とスポーツ(ゲストスピーカーを予定)</p> <p>[到達目標] ・障がいの概要(定義や種別)とその特性を理解し、説明できる。 ・障がいに応じたコーチング上の留意点やルール・用具などの工夫、配慮することにより誰でもスポーツが親しめることの理解を深め、説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する(Googleフォーム)。練習問題のフィードバックは問題が送信され</p>

	<p>たときに自動的にします。</p> <p>テキスト（リファレンスブック）を熟読のこと；p. 385-388。 ハンドアウト（配付資料）があれば精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください（質問の解答が遅れることもあります）。</p> <p>1 2 回目 （担当：齊藤昌久）4. 障がい者とスポーツ-4：障がい者のフィットネスプログラム-1（ゲストスピーカーを予定） [到達目標] ・障がい（身体、知的、精神）分類、障がい分類別のスポーツコーチンの留意点の理解を深め、コーチングに活かすことができる。 ・コーチング対象者の障がい特性に応じ、「できること」や「障がいを補った動き」を伸ばしていく視点に立ち、適切なコーチングができる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する（Googleフォーム）。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p> <p>1 3 回目 テキスト（リファレンスブック）を再度熟読のこと；p. 385-390。 ハンドアウト（配付資料）も精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください（質問の解答が遅れることもあります）。 （担当：齊藤昌久）4. 障がい者とスポーツ-5：障がい者のフィットネスプログラム-2（ゲストスピーカーを予定） [到達目標] ・障がい（身体、知的、精神）分類、障がい分類別のスポーツコーチンの留意点の理解を深め、コーチングに活かすことができる。 ・コーチング対象者の障がい特性に応じ、「できること」や「障がいを補った動き」を伸ばしていく視点に立ち、適切なコーチングができる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する（Googleフォーム）。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p> <p>1 4 回目 テキスト（リファレンスブック）を再度熟読のこと；p. 385-390。 ハンドアウト（配付資料）も精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください（質問の解答が遅れることもあります）。 （担当：齊藤昌久）4. 障がい者とスポーツ-6：レビュー（スポーツプログラム：医科学支援） [到達目標] ・コーチング対象者の障がい特性に応じ、「できること」や「障がいを補った動き」を伸ばしていく視点に立ち、適切なコーチングができる。 ・障がい者のスポーツ指導者の育成や(公財)日本障がい者スポーツ協会のビジョンを理解し、コーチングに活かすことができる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する（Googleフォーム）。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p> <p>15回目 テキスト（リファレンスブック）を熟読のこと；p. 390-393。 ハンドアウト（配付資料）も精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください（質問の解答が遅れることもあります）。 （担当：吉田行宏）スポーツ現場におけるトレーナー活動 [到達目標] スポーツにおいてアスリートを支えるトレーナーの活動内容について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にインターネット等でトレーナーに関する情報を収集しておくこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること（予習35分）。理解できない事柄（事項）があれば、メモをとり、参考書を熟読するか、授業での質疑応答は積極的な参加を求めます。 ・配付資料（ハンドアウト）は、講義ノートとともに必ず整理すること。授業の復習は、記憶に焼き付けられるように、必ず、確実にすること（復習35分）。 ・試験は、基本的に授業を行った範囲から出題する。しかし、関連する科目や授業外の内容も出題する場合があります。
教科書	「Reference Book」（リファレンスブック） 公益財団法人日本スポーツ協会
参考書	なし
成績評価	<p>出席が3/5以上の者を対象に評価を実施する。</p> <p>①合格点：各回の講義終了後に実施する小テストを集計して評価し、全講義回数(15回)の合計点が満点の6割以上を合格とする。</p> <p>②評価点が9割以上を秀、8割以上を優、7割以上を良、6割以上を可とする。</p> <p>③アセスメントとフィードバック： アセスメント；小テスト結果 フィードバック；小テスト結果の発表、メリーを用いた質疑応答を行う。</p> <p>※成績評価における注意事項 ①課題提出の締め切り日時を過ぎた場合は「出席」にはならず、その単元の小テストの点数は0点となります。 ②提出物の内容によっては出席扱いにならず、小テストの点数も0点となります。 例「氏名のみで内容が無いまま提出」、「他人の内容をコピペし提出」、「課題と明らかに異なる内容で提</p>

	出」、「自分の意見ではなくAIを使用している」など。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田行宏 研究室 : 附属鍼灸センター2F 教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (要Mellyでの事前連絡)</p> <p>担当教員名 : 齊藤 昌久 研究室 : 8号館4階 齊藤 (スポーツ運動科学) 研究室 メールアドレス : ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月・火・木曜日 16:30~17:30</p>
備考	<p>ディプロマ・ポリシーとの関係 ; ◎-5. 技能・表現、○-1. 知識・理解 科目ナンバー : 「HJ-3-HA22-ES-L-0」</p>
	<p>実務経験 ; 吉田行宏 : 資格 (はり師・きゅう師、博士(鍼灸学)、日本赤十字社救急法指導員)、鍼灸臨床歴20年、教員歴12年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験を基に学習指導を行う。 齊藤昌久 : 前任校 (大阪医科薬科大学、旧 大阪医科大学 ~2021年3月まで) では、非常勤講師として「スポーツ健康科学」の実技・講義、専任で生理学教室に在籍中「生理学」の講義とリハビリテーション医学教室在籍中は「運動生理学とCPR」の講義を受け持っていた。</p>
	<p>アクティブラーニング ; 小テスト結果及びその内容のフィードバックは、必要に応じて全体もしくは個別に対して行う。 メリーを用いた質疑への返答は原則的にオフィスアワー時間に行う。</p>
	授業動画及び課題等はGoogle Classroomに公開します。

講義科目名称： トレーニング論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	「人間の持つ機能は全て、使わなければ退化、使い過ぎれば委縮、適度に使えば発達する。」これは、ウィリアム・ルー（ドイツ）の言葉である。トレーニングにおける理論と方法論を科学的にとらえるとともに スポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じた処方に関する知識と理解を深めることを目標とする。
授業計画	<p>第1講 スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系① 「体力の概論・体力要素」 [到達目標] 体力の概念・体力要素についての理解ができる。 予習:体力の概念・体力の要素とはどういうものなのか調べてみる。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第2講 スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系② 「トレーニングの原理・原則」 [到達目標] 原理・原則を学習することにより、トレーニングの意味と目的を理解することができる。 予習:トレーニングの原理・原則を調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第3講 体力測定理論と方法 [到達目標] 体力測定の必要性和正確性のある測定方法を理解することができる。 予習:体力測定について事前に調べ、授業時の理解速度を高める努力をしておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第4講 体力測定結果の処理について [到達目標] 体力測定の結果処理、また科学的に理解し、活用度を高めることができる。 予習:体力テスト総合評価基準表・体力年齢評価表を調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第5講 運動プログラムの基本的な考え方・目標設定 [到達目標] 競技力を向上させるための体力要素別トレーニングを理解する。 予習:体力要素別トレーニングについて調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第6講 ウォーミングアップとクーリングダウン 全身持久力について [到達目標] ウォーミングアップとクーリングダウンの必要性和処方を理解することができる。 予習:ウォーミングアップとクーリングダウンについて調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第7講 全身持久力トレーニング [到達目標] 呼吸機能・循環機能・末梢の筋機能の総合的な能力について理解することができる。 予習:全身持久力と健康の関連性について調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第8講 筋持久力系のトレーニング [到達目標] 同じ動作の繰り返しが要求される場で発揮される筋持久力トレーニングを科学的に理解することができる。 予習:筋持久力トレーニングについて調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第9講 柔軟性・調整力を高めるトレーニング [到達目標] 柔軟性向上、バランス、敏捷性向上のための重要ポイントが理解できる。 予習:柔軟性について調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第10講 筋力トレーニング① (正しいトレーニングを実施するための負荷設定) [到達目標] 正しいトレーニングを実施するための負荷設定を科学的に理解することができる。 予習:筋力トレーニング・負荷設定について調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第11講 筋力トレーニング② (効果的に行うための順序) [到達目標] 効果的に行うためのトレーニング順序を理解する。 予習:筋力トレーニングの順序について調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第12講 トレーニングプログラムを作成するための要点① (目的に応じたプログラム作成) [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<①></p>

	<p>予習:トレーニングプログラムについて調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分) トレーニングプログラムを作成するための要点②(目的に応じたプログラム作成)</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<②> 予習:トレーニングプログラムについて調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分) トレーニングプログラムを作成するための要点③(目的に応じたプログラム作成)</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<③> 予習:トレーニングプログラムについて調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第15講 総括(定期試験) [到達目標] 講義のまとめ・第1講～第14講をまとめて理解できる。 予習:第1講～第14講をまとめて理解できる。(120分) 復習:定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照し全体を復習すること。(120分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に資料を配布する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験60%、授業時の小テスト20%、努力・意欲の度合い20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 体育館教員室 メールアドレス : s_miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後に質問等を受け付ける。
備考	①科目ナンバー HJ-3-HA23-ES-P-0 ②この授業とディプロマポリシーとの関係 ◎-1(知識・理解) ○-2(思考・判断) ③アクティブラーニング(課題を主体的に解決する力(思考・判断)を育てる内容を実施。

講義科目名称： トレーニング実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>「人間の持つ機能は全て、使わなければ退化、使い過ぎれば委縮、適度に使えば発達する。」これは、ウィリアム・ルー（ドイツ）の言葉である。トレーニングにおける理論と方法論を科学的にとらえるとともにスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じた処方に関する内容を運動・実践することにより学習することを目標とする。</p> <p>また、安全かつ効果的なトレーニングプログラム作成（目的に応じたプログラム作成）できるようにする。</p>		
授業計画	第1講	<p>安全なトレーニングのために。</p> <p>[到達目標] 安全にトレーニングを実施するための知識を深めながら実践学習ができる。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第2講	<p>体力測定（新体力テスト）の実際①</p> <p>[到達目標] 体力測定の安全で正しい実施方法を理解するとともに、計測方法を実践学習することができる。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第3講	<p>体力測定（新体力テスト・その他の体力テスト）の実際②</p> <p>[到達目標] 体力測定の安全で正しい実施方法を理解するとともに、計測方法を実践学習することができる。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第4講	<p>ウォーミングアップとクーリングダウン</p> <p>[到達目標] 安全かつ効果的な運動効果を得るための正しい実施方法と考え方を実践を通して学習できる。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第5講	<p>柔軟性・調整力を高めるトレーニングについて</p> <p>[到達目標] 柔軟性向上、バランス、敏捷性向上のための重要ポイントの理解と実践学習ができる。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第6講	<p>全身持久力（身体組成）を高めるトレーニング</p> <p>[到達目標] 全身持久力の鍵となるのは酸素摂取能力である。呼吸循環器系能力と代謝能力について学習し、負荷パターンによるトレーニング分類の理解と実践学習ができる。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第7講	<p>筋持久力トレーニングを高めるトレーニング</p> <p>[到達目標] 同じ動作の繰り返しが要求される場面で発揮される筋持久力トレーニングの理解と実践ができる。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第8講	<p>レジスタンス・エクササイズ トレーニング①</p> <p>[到達目標] 安全かつ効果的なトレーニング処方を科学的に考察し理解するとともに実践学習することができる。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第9講	<p>レジスタンス・エクササイズ トレーニング②</p> <p>[到達目標] 安全かつ効果的なトレーニング処方を科学的に考察し理解するとともに実践学習することができる。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第10講	<p>レジスタンス・エクササイズ トレーニング③</p>	

	<p>第11講</p> <p>[到達目標] 安全かつ効果的なトレーニング処方を科学的に考察し理解するとともに実践学習することができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと。(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) レジスタンス・エクササイズ トレーニング④</p> <p>第12講</p> <p>[到達目標] 安全かつ効果的なトレーニング処方を科学的に考察し理解するとともに実践学習することができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) トレーニングプログラムを作成・実践(目的に応じたプログラム作成・実践)①</p> <p>第13講</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成に関する知識を身に付けるとともに、適切なプログラムを実際に作成することにより実践力を身に付けることができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) トレーニングプログラムを作成・実践(目的に応じたプログラム作成・実践)②</p> <p>第14講</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成に関する知識を身に付けるとともに、適切なプログラムを実際に作成することにより実践力を身に付けることができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) トレーニングプログラムを作成・実践(目的に応じたプログラム作成・実践)③</p> <p>第15講</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成に関する知識を身に付けるとともに、適切なプログラムを実際に作成することにより実践力を身に付けることができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) トレーニングプログラムを作成・実践(目的に応じたプログラム作成・実践)④</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成に関する知識を身に付けるとともに、適切なプログラムを実際に作成することにより実践力を身に付けることができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	自学自習の課題は、授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業毎に配布する資料をもとに実施。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	プログラム作成テスト50%、授業時の努力・意欲の度合い50%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 体育館職員室 メールアドレス : s_miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後に質問等を受け付ける。
備考	①科目ナンバー HJ-3-HA24-ES-P-0 ②服装は運動に適した服装、体育館シューズを準備する。 ③水分補給は各自で準備し、体調管理に努める。 ④貴重品については自己管理を徹底する。 ⑤この授業のディプロマポリシーとの関係 ◎-2 (思考・判断) ○-5 (技能・表現)

講義科目名称： コーチング論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	スポーツ全般に関する認識を深め、各世代におけるスポーツ技術向上への手順や方法を身につけ、将来、指導的立場となった場合には、各世代毎の各種の指導プログラムが作成できる資質を備えることを目標とする。		
授業計画	1回目	<p>スポーツとは：概念とその歴史について</p> <p>[到達目標] 「スポーツ」を正しく理解して指導に当たる重要性を認識することができる。 予習：シラバスを通して第1講～第15講までの内容を把握する。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	2回目	<p>運動と健康</p> <p>[到達目標] 健康と運動実践、必要とされる指導者のあるべき姿を理解することができる。 予習：それぞれが「理想とする指導者像」を整理しておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	3回目	<p>スポーツプログラマーの役割と、フィットネス・エクササイズ・体力等の基本的な理念について</p> <p>[到達目標] スポーツプログラマーとしての基本的な事項を正しく理解できる。 予習：「スポーツプログラマー」の在り方を整理しておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	4回目	<p>フィットネス・エクササイズの理論と実際について（1）</p> <p>[到達目標] 体力とは？体力の分類と各トレーニング実施上の留意事項を理解することができる。 予習：「体力」区分とトレーニング法を整理しておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	5回目	<p>フィットネス・エクササイズの理論と実際について（2）</p> <p>[到達目標] マシントレーニング、ヘルスエクササイズの目的や方法を理解することができる。 予習：マシントレーニングとはどういうものか事前に調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	6回目	<p>フィットネス・エクササイズと健康管理について（1）</p> <p>[到達目標] 体調のチェックの重要性・意義が理解できる。 予習：体調チェックの具体的な内容を十分理解しておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	7回目	<p>フィットネス・エクササイズと健康管理について（2）</p> <p>[到達目標] 準備・整理運動の重要性とその効果や内容を理解することができる。 予習：準備・整理運動について調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	8回目	<p>フィットネス・プログラムの実際（1）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜子供1＞ 予習：子どものフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	9回目	<p>フィットネスプログラムの実際（2）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜子供2＞ 予習：子どものフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	10回目	<p>フィットネスプログラムの実際（3）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜中年＞＜高齢者1＞ 予習：中・高齢者のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	11回目	<p>フィットネスプログラムの実際（4）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜高齢者2＞＜女性1＞ 予習：女性のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	12回目	<p>フィットネスプログラムの実際（5）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜女性2＞＜障がい者＞ 予習：障がい者のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	

	<p>13回目 スポーツ相談の実際 [到達目標] スポーツ相談の意義・留意点等を理解することができる。 予習:スポーツ相談の留意事項を調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p> <p>14回目 体力測定と評価 [到達目標] 体力測定の方法と結果処理、個々の体力の課題や対応法を知ることができる。 予習:体力測定結果の処理方法について調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p> <p>第15講 総括(定期試験) 到達目標] 講義のまとめ・第1講～第14講をまとめて理解できる。 予習:第1講～第14講をまとめて理解しておく。(120分) 復習:定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照し全体を復習する(120分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	テキストを中心として、「授業の内容等」に関連の深い以下の分野の本を読むこと ・発育発達学 ・運動生理学 ・身体運動学
教科書	毎時プリント配布。
参考書	財団法人 日本スポーツ協会；公認スポーツプログラマー専門科目テキスト
成績評価	出席状況や受講態度、試験により、総合的に評価する。 定期試験60%、授業時の小テスト20%、努力・意欲の度合い20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 メールアドレス : s_miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後に質問等を受け付ける。
備考	①科目ナンバー HJ-3-HA25-ES-L-0 ②この授業とディプロマポリシーとの関係 ◎-5(技能・表現) ○-1(知識・理解) ③アクティブラーニング(課題を主体的に解決する力(思考・判断)を育てる内容を実施。

講義科目名称： アスレチックリハビリテーション

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
川西 弘晃			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>落ち込んだ選手に対するリハビリテーションには集中力や意識など精神面を強化が特に必要になります。これまでこのような局面に遭遇したことがない学生たちに集中力や意識、モチベーション（意志）など心理学ではなく大脳生理学的に理解し、選手の心のサポートができる考え方やトレーニング法を理解することを目的とする。また、アスレチックリハビリテーションを通じてメンタル面をサポートし競技復帰後、選手が能力を発揮できるよう指導できるようになることを最終目的とする。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・精神面のサポートとは [到達目標] 心技体の相関関係など肉体的サポートの他に心のサポートについて何を理解しなければいけないのかが分かる。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>2回目 大脳と小脳の働き [到達目標] それぞれの役割から勉強とスポーツの反省の仕方や習得/理解の方法を学ぶ。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>3回目 集中力の理解 [到達目標] 集中力について、大脳生理学から集中状態とはどのような状態（アルファ波、シータ波、ベータ波など）かを理解する。ただ集中力が”ある” ”ない”と言う捉え方ではなく、”意識の分散”であることとこととを知り、一点にフォーカスできるトレーニングをすれば集中できるようになることを選手にアドバイスできることを目的とする。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>4回目 脳と身体つながり [到達目標] 脳の無意識領域について学ぶ。外界からの刺激で感情が働き体内での自律神経に無意識的に直接影響を及ぼす。外界から落ち着いた刺激を入れるトレーニングを継続することで自律神経も安定する。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>5回目 大脳のプログラム [到達目標] なぜ、人間は同じように勉強やスポーツをしているのにできる人とできない人、上達する人となかなか上達しない人に分かれるのか？と言う疑問に対して、そのメカニズムと改善方法を習得する。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>6回目 エネルギー（やる気）の理解 [到達目標] 人間を知るには心理学ではなく、エネルギー理論に基づいて科学的に人間を捉えることが大切。脳からの電気エネルギー、エネルギー生産で発生する熱エネルギー、動作に変換される運動エネルギー。ここに外界からの刺激が感覚情報処理システムを介して様々な情動反応へと表現される流れを理解して初めて人間を客観的に見ることができると知る。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>7回目 自主性と主体性 [到達目標] 自主独立について、行動学から人間の行動には3つの段階が存在します。治療家として利他的に行動できる物事の考え方や捉え方を理解して、まずは自分なりにやってみる。その結果、様々な経験を通じて患者さんに対してこころのサポートができるようになる。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>8回目 意識の働き [到達目標]意識が高い、低いと表現しますが、それがどのような状態を指すのか？3つの意識から自分でコントロールできる意識を知る 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	前回の授業範囲の予習(45分)復習(45分)行う。
教科書	担当講師作成資料
参考書	特になし
成績評価	レポートにて評価を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 川西 弘晃NATA-ATC 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : sports_stay_focus@yahoo.co.jp

	オフィスアワー : 授業直後
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-3 科目ナンバー: HJ-3-HA27-ES-L-0
	スポーツ現場や施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。

講義科目名称： アスレチックリハビリテーション実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
川西 弘晃			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	アスレチックリハビリテーションの講義にて理解したことを実践できることを目的とする。また部位別にケガからの復帰までの段階的なプログラム及び基本的な考え方を習得することを最終目的とする。		
授業計画	1回目	オリエンテーション・アスレチックリハビリテーションに必要な基礎知識 [到達目標] リハビリテーションを行う上で必要な障害・外傷評価法の手順や考え方を理解する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	2回目	足関節1 [到達目標] 足関節評価法・ステージ1、固定テーピングなど復帰に向けての準備において漸進的アプローチと悪化/再発防止の手順を理解する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	3回目	足関節2 [到達目標] ステージ3・復帰テスト、バリエーションテーピングなど競技復帰直前から復帰後の経過観察において安全に全力が出せる状態を構築できる方法が身に付く 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	4回目	足底筋膜炎 [到達目標]]足底筋膜炎アスレチックリハビリテーション競技復帰までのプログラム及びテーピングを習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	5回目	ハムストリングス [到達目標] ハムストリングス肉離れ、第1ステージから競技復帰までのプログラム及びテーピングを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	6回目	内転筋 [到達目標] 内転筋肉離れ、第1ステージから競技復帰までのプログラムを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	7回目	膝関節1 [到達目標] 様々な膝関節評価法とテーピングを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	8回目	膝関節2 [到達目標] 膝関節前十字靭帯損傷第1～第2ステージプログラムの習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	9回目	膝関節3 [到達目標] 膝関節前十字靭帯第3ステージから競技復帰プログラム及びテーピングの習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	10回目	肘関節 [到達目標] テニス肘の評価法及び第1ステージから競技復帰までのプログラムを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	11回目	肩関節1 [到達目標] 様々な肩関節評価法と脱臼予防のテーピングを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	12回目	肩関節2 [到達目標] 腱板損傷第1～第2ステージプログラムの習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	13回目	肩関節3 [到達目標]]腱板損傷第3ステージから競技復帰プログラムの習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	14回目	腰部 [到達目標] ヘルニアリハビリプログラムからの競技復帰を習得	

	<p>【授業形態】実習（アクティブラーニング） 15回目 実技評価・まとめ [到達目標] 膝関節リハビリテーションステージ別に5種目ずつ（イラスト、回数、セット数）解説する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>前回の授業範囲の予習の予習(45分)復習(45分)行う。 部活動や学生間で学んだテーピングやリハビリを実施してする。感じたことや気づきについて次の講義で質問し、部活動で生かす。</p>
教科書	<p>担当講師作成資料</p>
参考書	<p>特になし</p>
成績評価	<p>出席基準を満たした者に対して評価を行う。 評価は筆記試験で行う。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 川西 弘晃NATA-ATC 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : sports_stay_focus@yahoo. co. jp オフィスアワー : 授業直後</p>
備考	<p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1, ○-2</p>
	<p>川西弘晃：スポーツ現場や施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 科目ナンバー：HJ-3-HA28-ES-P-0</p>

講義科目名称： ジュニアスポーツ指導の実際 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	スポーツとの「出会い」の時期となるジュニア期は、その後のスポーツライフスタイルや大人になってからの生活習慣を左右する大切な時期となる。それだけにジュニアスポーツ指導員に求められる役割や理解しておくべき知識や事柄は多岐にわたる。 本授業では、テキストを用いて「スポーツ好き」の子ども達を増やし、将来アスリートとなるための土台づくりを行うために、指導の基本となる知識を学んでいく。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標] 子どもたちの運動・スポーツ実施状況、体力・運動能力の現状と課題、発育発達に応じた適切な運動・スポーツ活動の重要性について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第2講	概論1 スポーツ指導者とは [到達目標] スポーツの意義と価値についてその役割と、ジュニアスポーツ指導員に求められる資質について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第3講	指導者の心構えと視点 [到達目標] 指導者のコミュニケーションスキル、ジュニア期のコーチングについて理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第4講	アスリートの発掘と育成 [到達目標] トップアスリートの育成指導実践について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第5講	トレーニング論1 [到達目標] 体力の概念について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第6講	トレーニング論2 [到達目標] トレーニングの原理と原則、処方について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第7講	スポーツ指導者に必要な医学的知識1 [到達目標] スポーツと健康について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第8講	スポーツ指導者に必要な医学的知識2 [到達目標] スポーツ活動中に多いケガや病気(内科)について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第9講	スポーツ指導者に必要な医学的知識3 [到達目標] スポーツ活動中に多いケガや病気(外科)について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第10講	スポーツ指導者に必要な医学的知識4 [到達目標] スポーツ活動中に多いケガや病気の救急処置について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第11講	指導計画と安全管理 [到達目標] スポーツ指導計画の重要性と立案について実践理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第12講	ジュニア期のスポーツ [到達目標] 発育発達期の身体的特徴と心理的特徴について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第13講	発育発達期のプログラム [到達目標] 発育発達に応じた指導について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第14講	地域のスポーツ振興と行政のかかわり [到達目標]	

	我が国のスポーツ行政のねらいとしくみについて理解できる。 アクティブラーニングの有無：有 検定試験について [到達目標] 公認ジュニアスポーツ指導員専門科目検定試験の実践経験ができる。 アクティブラーニングの有無：有
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義のタイトルを事前学習(予習70分)するとともに、受講後に学習したことを配布したプリントをもとにまとめる(復習70分)。
教科書	特定の教科書は使用しない。 必要に応じて資料を配付する。
参考書	公益財団法人日本スポーツ協会 「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」
成績評価	出席状況、小テスト、授業態度で総合評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名： 池本 敬博 研究室： 体育館健康スポーツ学ユニット メールアドレス： iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー： 授業の前後
備考	ディプロマ・ポリシーとの関連； ◎-1 ○-2
	HJ-3-HA-ES-L-1

講義科目名称： 卒業研究

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期～前期	3-4	2	必修
担当教員			
宮坂卓治、齋藤昌久、林 知也、糸井マナミ、渡邊康晴、小島奈名子、奥田正作、木村篤史、沖 和久、田中健吾、赤澤 淳、宗友宏行、吉元拓也、児玉香菜絵、村迫萌生			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
宮坂 卓治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	将来の夢を実現するために何が必要かを考え、夢をかなえるために必要な情報を整理・学習することができる。 特に、キャリアデザインの立て方、その各種必要な情報の整理、さらには就職等にあたり、履歴書の書き方、先方へのアポイントの取り方、面接の受け方、見学・面接後の対応が行えるようになる。
授業計画	<p>1回目 キャリアデザインって何？（討論） [到達目標] キャリアデザインとは何かを理解し、自身の将来像を想像できる。 [備考] 自身の将来像を、夢と現実を考えながら想像してみる。</p> <p>2回目 就活準備スタートアップ講座 [到達目標] 現在の就職環境・就職活動の流れを理解して、これから何をすればいいかを理解できる。 [備考] ①現在の就職環境 ②就職活動の流れ ③これからできる準備、を考える。 （学外講師のオンデマンド教材を使用）</p> <p>3回目 インターンシップ・1day仕事体験選考準備講座 [到達目標] 一般企業の選考方法と準備方法を知り、実際に自己PRを作成して選考対策を進める。 [備考] ①インターンシップ・1day仕事体験の選考方法 ②エントリーシート準備 ③面接準備、を考える （学外講師のオンデマンド教材を使用）</p> <p>4回目 施術所の開院方法を理解しよう [到達目標] 鍼灸・整骨院を開院する際に必要な事項が理解できる [備考] 鍼灸・整骨院を開院する際に必要な事柄について具体的に考える （学外講師のオンデマンド教材を使用）</p> <p>5回目 社会保険制度について [到達目標] 就職の際に必要な社会保険制度が理解できる [備考] 社会保障制度を学ぶことで就職先を選ぶ際の基準作りを具体的に考える （学外講師のオンデマンド教材を使用）</p> <p>6回目 自己分析・他者分析 [到達目標] 自分自身を自己評価や他人評価することで客観的に観察できる。 [備考] 自分の長所や短所を知り、自分の将来を参考にする。</p> <p>7回目 キャリアデザインを再考しよう 1 [到達目標] 理想の医療や柔道整復師、さらには自分像を知ったうえで、現段階での履歴書やキャリアプランを作 成することができる。 [備考] 自分の理想の将来像を考えよう。</p> <p>8回目 キャリアデザインを再考しよう 2 [到達目標] 理想の医療や柔道整復師、さらには自分像を知ったうえで、現段階での履歴書やキャリアプランを作 成することができる。 [備考] 自分の理想の将来像を考えよう。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	それぞれのテーマについて30分程度関連の分野の書籍、資料、インターネットを調べ、知識を深めておく。 また、授業後は30分程度、授業を行った内容を復習し、質問があるときは次回の授業の際に行う。
教科書	PLCMENT GUIDE 2020（各自持参） 資料等はGoogle classroomに適宜アップします。
参考書	「大学生のためのキャリア講義」山本直人 インデックスコミュニケーション
成績評価	オンデマンド講義形式を見てクラスルームの課題（レポート）に答えた後に、各個人・グループでディスカッション（アクティブラーニング）する。また、課題については授業内でフィードバックする。なお、外部講師の授業は講義（オンデマンド）のみで、討論はない。

	出席日数は、3/5以上を受験資格とする。 なお、評価はレポートと出席で行い、レポート60%、出席（発表を含む）40%で評価する。 評価は、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 宮坂卓治 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : t_miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 質問等がある場合はメールの上、事前予約をお願いします。
備考	DPとの関係 : 3 : 関心・意欲-○ 4 : 態度・人間性-◎ 科目ナンバー : HJ-4-HS11-RS-L-1
	宮坂卓治 : 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	注意事項 本講義は学外の講師にお願いする部分もあるため、講義の順番や時間に変更になる場合があります。その際は事前に連絡を行うので、各自確認を行うようにしてください。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
今西 二郎			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：遠隔授業（オンデマンド）・対面授業	
添付ファイル			

授業目標	<p>医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と心身医学、⑤統合医療と先端医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。さらに、看護における統合医療の必要性についても理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補完・代替医療および統合医療の概念について理解すること 2. 近代医学の特徴および長所と短所を理解すること 3. 伝統医学、CAMの特徴および長所と短所を理解すること 4. 統合医療の意義、理念および形態について考えること 5. 統合医療における伝統医療の役割について考えること
授業計画	<p>1回目 統合医療と補完・代替医療 [到達目標] 統合医療とは何かを理解し、その構成要素である補完・代替医療を理解し、概説できるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 1-101</p> <p>2回目 漢方医学 [到達目標] 漢方医学での病態の捉え方を理解し、診断法を知る。さらに生薬と漢方方剤を理解する。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 6-13 入門漢方医学（参考書1）</p> <p>3回目 サプリメント [到達目標] サプリメント、特定保健食品、栄養機能食品、機能性表示食品を理解し、サプリメントの有用性、副作用など概説できるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 18-21</p> <p>4回目 植物療法 [到達目標] メディカル・アロマセラピーおよびハーブ療法を含む植物療法とは何か、それらの手法、応用について理解を得られるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 27-29、38-40</p> <p>5回目 温泉療法 [到達目標] 温泉療法、温浴療法とは何か、それらの手法、応用について理解を得られるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 43-48</p> <p>6回目 環境を利用した統合医療 [到達目標] 環境を利用した統合医療である森林療法、地形療法、スパセラピー、タラソセラピーなどを理解できるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 48-54</p> <p>7回目 次世代型および健康創生型統合医療 7回目： [到達目標] 統合医療の将来、現行型、次世代型、健康創生型統合医療について概説できるようにする。また、統合医療についての受講者の考え方をまとめる [備考] 統合医療（テキスト）p. 108-133</p> <p>8回目 まとめ（※対面授業で開講）</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書、参考書をあらかじめ読んでおくこと 教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。
教科書	今西二郎著：統合医療改訂2版、金芳堂、2015.
参考書	1. 入門漢方医学、日本東洋医学会学術教育委員会編集、南江堂、2002. 2. 『統合医療 基礎と臨床』Part1. 基礎編、日本統合医療学会、2007. 3. 今西二郎著：メディカル・アロマセラピー改訂3版、金芳堂、2015. 4. 今西二郎著：医療従事者のための補完代替医療第2版、金芳堂、2009.
成績評価	評価方法と評価割合：レポート80%、授業内演習20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 今西 二郎 研究室 : メールアドレス : imanishi-micro@nifty.com オフィスアワー :
備考	毎回、課題を与え、学生にそれについてのプレゼンテーションを行ってもらうなどのアクティブラーニングにより、講義内容の深化を図る。
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-5, ○-2・4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	選択必修
担当教員			
深田 實江子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 看護の本質と看護活動の実際を学ぶ 看護学の基礎概念である人間、環境、健康、看護の概要と概念構造について学習し「看護学」に対する基礎的知識を得る</p> <p>【到達目標】 看護学の基礎概念である人間、環境、健康、看護の概念と、看護援助の本質について理解できる 医療専門職としての看護の役割と看護活動の実際が理解できる 医療専門職との協働の仕方について考察を深めることができる</p>
授業計画	<p>1回目 導入／オリエンテーション [到達目標] ・救急救命学科にあつて看護学概論を学ぶ意義がわかる ・DVD「九死に一生」の視聴を通して、医療チームとしての医師・看護師・救急救命士等の役割を理解する [授業形態] 講義形式+グループワーク</p> <p>2回目 看護の本質 [到達目標] ・マーガレット・ミードの論文の読み合わせとディスカッションに参加することができる ・看護とは何か、看護の本質について考えることができる [授業形態] 講義形式+読み合わせ+ディスカッション</p> <p>3回目 看護の変遷（日本の看護・アメリカの看護） [到達目標] ・看護の歴史的発展過程と社会背景との関連がわかる ・看護を歴史・教育・制度の側面から理解することができる [授業形態] 講義形式+映像視聴</p> <p>4回目 変化している看護 [到達目標] ・疾患中心からヘルスプロモーションへ、施設内看護から地域基盤の看護へと変化する看護と、継続の必要性が分かる ・ノーマライゼーションの理念を理解することができる [授業形態] 講義形式</p> <p>5回目 看護実践の概念 [到達目標] ・F. ナイチンゲールと、V. ヘンダーソンについて知り、看護実践の概念が理解できる ・看護実践における看護技術の特徴を理解する ・看護技術における安全性・安楽性・自立支援を理解する [授業形態] 講義形式+映像視聴</p> <p>6回目 看護の機能と役割 [到達目標] ・F. ナイチンゲールと、V. ヘンダーソンについて知り、看護実践の概念が理解できる ・看護実践における看護技術の特徴を理解する ・看護技術における安全性・安楽性・自立支援を理解する [授業形態] 講義形式+映像視聴</p> <p>7回目 看護実践を支えるもの [到達目標] ・看護にかかわる制度・行政・労働環境の概要を理解する ・看護の教育・技能・組織など専門職としての要件の概要を理解する [授業形態] 講義形式</p> <p>8回目 チーム医療と看護 [到達目標] ・チーム医療の目的・意義を検討し、看護職の役割を理解する ・多職種専門職者の中でパートナーシップの関係を構築し活動を展開する連携・協同の意義を理解する [授業形態] 講義形式+グループワーク</p> <p>9回目 国際社会と健康 [到達目標] ・世界的なAIDS/HIV拡大の現状と看護の役割（スタンダードプリコーション成立）の関連を知ることができる ・わが国のAIDS医療体制（薬害エイズ、保障、サポート体制など）性感染症（B型肝炎含む）の現状がわかる ・エイズ・性感染症を予防するための予防教育の必要性が理解できる ・看護の活動範囲の広がりについて理解できる [授業形態] 講義形式（パワーポイント）+グループワーク</p> <p>10回目 看護の対象</p>

	<p>[到達目標] ・映画「折り梅」観賞を通して、看護の対象である個人・家族関係・社会資源について考えることができる [授業形態] 映像視聴+グループワーク 個人・家族・地域</p> <p>11回目</p> <p>[到達目標] ・総合体としての人間についての理解ができる ・健康とウェルネス、健康の概念について理解することができる ・家族とその機能について知り、家庭の価値について理解することができる ・地域を基盤に展開される看護について学ぶことができる [授業形態] 講義形式+グループワーク</p> <p>12回目</p> <p>看護実践の心理・社会的理解</p> <p>[到達目標] ・自己と他者（看護ケアの質は看護する者の質や人間性に大きく左右される）について学ぶことができる ・ストレス/コーピング・ストレスマネジメント・ソーシャルサポートについて理解できる ・医療の現場におけるスピリチュアリティ、看護師の死生観について考えることができる [授業形態] 講義形式+ディスカッション</p> <p>13回目</p> <p>看護における倫理・法律/医療安全</p> <p>[到達目標] ・看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みが理解できる ・保健師助産師看護師法について理解し、看護における役割を考えることができる ・看護の責任と医療安全について考えることができる [授業形態] 講義形式</p> <p>14回目</p> <p>総まとめ</p> <p>[到達目標] ・講義全体の総まとめを行い理解する。 [授業形態] 講義形式</p> <p>15回目</p> <p>まとめ（評価）</p> <p>[到達目標] ・講義全体（評価）のまとめができる。</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	講義内で課題を提示するので、期限を守って必ずレポートを提出すること なお、提出されたレポートはすべて成績評価の対象とする
教科書	「看護学原論 改訂第3版」南江堂
参考書	1) 「対訳 看護覚え書」うぶすな書院 2) 「看護の基本となるもの」日本看護協会出版社 3) 「新版・看護の本質」現代社
成績評価	1) 授業への出席が全体の3/5以上であること 2) 筆記試験70%，授業への参加度10%，レポート提出の内容20%を踏まえて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 深田 實江子 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 講義終了後に相談すること
備考	①京大病院の循環器内科勤務と市中病院の訪問看護ステーション勤務。その実務経験と25年間の看護教育経験をもとに看護学概論の授業を行う ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」→「◎-2, ○-1, ○-3」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
村迫 萌生			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	本科目では国家試験において特に重要な柔道整復学理論の範囲について学び、理解することを目標とする。		
授業計画	第1講	<p>上肢【骨折】について</p> <p>【到達目標】 上肢の骨折についてそれぞれの特徴と鑑別点を理解する。</p> <p>【授業概要】 上肢の骨折についての特徴、鑑別について</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第2講	<p>下肢【骨折】について</p> <p>【到達目標】 下肢の骨折についてそれぞれの特徴と鑑別点を理解する。</p> <p>【授業概要】 下肢の骨折についての特徴、鑑別について</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第3講	<p>頭部・体幹【骨折】について</p> <p>【到達目標】 頭部・体幹の骨折についてそれぞれの特徴と鑑別点を理解する。</p> <p>【授業概要】 頭部・体幹の骨折についての特徴、鑑別について</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第4講	<p>上肢【脱臼】について</p> <p>【到達目標】 上肢の脱臼についてそれぞれの特徴と鑑別点を理解する。</p> <p>【授業概要】 上肢の脱臼についての特徴、鑑別について</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第5講	<p>下肢および頭部・体幹【脱臼】について</p> <p>【到達目標】 下肢および頭部・体幹の脱臼についてそれぞれの特徴と鑑別点を理解する。</p> <p>【授業概要】 下肢および頭部・体幹の脱臼についての特徴、鑑別について</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第6講	<p>上肢【軟部組織損傷】について</p> <p>【到達目標】 上肢の軟部組織損傷についてそれぞれの特徴と鑑別点を理解する。</p> <p>【授業概要】 上肢の軟部組織損傷についての特徴、鑑別について</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第7講	<p>下肢および頭部・体幹【軟部組織損傷】について</p> <p>【到達目標】 下肢および頭部・体幹の軟部組織損傷についてそれぞれの特徴と鑑別点を理解する。</p> <p>【授業概要】 下肢および頭部・体幹の軟部組織損傷についての特徴、鑑別について</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第8講	<p>筆記試験+解説</p> <p>【到達目標】 本講義で学習した範囲の骨折、脱臼および軟部組織損傷について理解し、鑑別できる。</p> <p>【授業概要】 筆記試験による評価および解説を行う。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p>	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各授業に復習や授業内課題をおおよそ60分程度行うこと。		
教科書	・柔道整復学・理論改定第6版 南江堂		
参考書	・ブルーノート (メジカルビュー社) ・イエローノート (メジカルビュー社)		
成績評価	出席基準を満たした者に評価を行う。評価は筆記試験(100%)で評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村迫 萌生 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : m_murasako@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後		
備考	村迫萌生：接骨院で臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 ポリシーとの関連について「◎-1」「○-2」		
	HJ-4-JT3-RS-L-1		

講義科目名称： 総合演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
宮坂 卓治、林 知也、田中健吾、沖 和久、宗友宏行、奥田正作、糸井マナミ、児玉香菜絵、村迫萌生、吉元拓也、渡辺康晴、赤澤 淳、木村篤史			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、既に学習した柔道整復学と現代医学系臨床科目について演習を通して総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目の柔道整復師国家試験合格レベルの知識を総合的に活用できる。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1～2回 柔道整復学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な柔道整復学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第3～4回 知識の確認（確認テストとその解説） 到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目に関する柔道整復師国家試験レベルの内容がどの程度習得できているか確認するとともに、それら科目のベースとなる「基礎系総合演習」の内容に関する知識も確認する。</p> <p>第5～6回 柔道整復学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、柔道整復学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第7～8回 一般臨床医学の応用的知識の習得 到達目標：柔道整復師に必要な一般臨床医学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第9～10回 外科学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、外科学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第11～12回 整形外科の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、整形外科の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第13回 リハビリテーション医学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、リハビリテーション医学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第14回 まとめと評価1</p> <p>第15回 まとめと評価2</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習60分） 各講義後、教科書と参考書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。（復習60分）
教科書	「2024 第22回～第31回 徹底攻略 国家試験過去問題集 柔道整復師用」（学）明治東洋医学院編集委員会編集（医道の日本社）
参考書	その他資料等はGoogle classroomに適宜アップする。
成績評価	(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。 (2) 期末試験（100%）で評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名（代表）：宮坂 卓治 研究室：8号館4階教授室 オフィスアワー：火曜日 16：30～17：30</p> <p>オムニバス担当教員名： 専門基礎、専門領域の各ユニット・講座の担当教員が分担するので、各先生方については、授業終了後に質問すること。 なお、他の時間が必要な場合は、宮坂が調整する。</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連</p> <p>◎-1 科目ナンバー：HJ-4-JT7-ES-S-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
宮坂 卓治、林 知也、田中健吾、沖 和久、宗友宏行、奥田正作、糸井マナミ、児玉香菜絵、村迫萌生、吉元拓也、渡辺康晴、赤澤 淳、木村篤史			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、既に学習した解剖学、生理学、病理学を中心に演習を通して総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標：解剖学、生理学、病理学の柔道整復師国家試験合格レベルの知識を総合的に活用できるとともに、「臨床系総合演習」の内容とのリンクができること。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1～10回 解剖学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体の構造学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 備考：事前に配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行うこと。</p> <p>第11～20回 生理学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体の機能学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 備考：事前に配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行うこと。</p> <p>第21～29回 病理学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、病理学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第30回 まとめ 到達目標：基礎医学系科目と関係法規に関する柔道整復師国家試験レベルの内容を説明することができ、「臨床系総合演習」の内容とリンクできるようにする。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習60分） 各講義後、教科書と参考書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。（復習60分）
教科書	解剖学改訂第2版 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-24155-4 生理学改訂第4版 南江堂 ISBN:978-4-524-24029-6 病理学概論改訂第3版 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-24158-5 ブルー・ノート 基礎編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1459-6 イエロー・ノート 臨床編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1460-2
参考書	「2024 第21回～第30回 徹底攻略 国家試験過去問題集 柔道整復師用」（学）明治東洋医学院編集委員会編集（医道の日本社）
成績評価	(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。 (2) 実力試験と期末試験の両方で評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名（代表）：宮坂 卓治 研究室：8号館4階教授室 オフィスアワー：水曜日 16：30～17：30</p> <p>オムニバス担当教員名： 専門基礎、専門領域の各ユニット・講座の担当教員が分担するので、各先生方については、授業終了後に質問すること。 なお、他の時間が必要な場合は、宮坂が調整する。</p>
備考	「当該教科とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1 科目ナンバー：HJ-4-JT8-ES-S-1

講義科目名称： 基礎系総合演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	必修
担当教員			
宮坂 卓治、林 知也、田中健吾、沖 和久、宗友宏行、奥田正作、糸井マナミ、児玉香菜絵、村迫萌生、吉元拓也、渡辺康晴、赤澤 淳、木村篤史			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、既に学習した解剖学、生理学を中心とした基礎医学系科目と関係法規について演習を通して総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標：基礎医学系科目と関係法規の柔道整復師国家試験合格レベルの知識を総合的に活用できるとともに、「臨床系総合演習」の内容とのリンクができること。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1～5回 解剖学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体の構造学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 備考：事前に配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行うこと。</p> <p>第6～10回 生理学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体の機能学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 備考：事前に配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行うこと。</p> <p>第11～14回 病理学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体の機能学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 備考：事前に配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行うこと。</p> <p>第15回 知識の確認（確認テストとその解説） 到達目標：基礎医学系科目と関係法規に関する柔道整復師国家試験レベルの内容がどの程度習得できているか確認するとともに、「臨床系総合演習」の内容とどの程度リンクできているか確認する。</p> <p>第16～18回 解剖学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、解剖学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第20, 21回 生理学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、生理学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第22, 23回 病理学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、病理学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第24, 25回 運動学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、運動学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第26, 27回 衛生学・公衆衛生学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、衛生学・公衆衛生学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第28, 29回 関係法規の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、関係法規の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第30回 まとめ 到達目標：基礎医学系科目と関係法規に関する柔道整復師国家試験レベルの内容を説明することができ、「臨床系総合演習」の内容とリンクできるようにする。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習60分） 各講義後、教科書と参考書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。（復習60分）
教科書	解剖学改訂第2版 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-24155-4 生理学改訂第4版 南江堂 ISBN:978-4-524-24029-6 病理学概論改訂第3版 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-24158-5 運動学改訂第3版 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-24157-8 衛生学・公衆衛生学改訂第6版 南江堂 ISBN:978-4-524-26198-7 関係法規 2021年版 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-24164-6 ブルー・ノート 基礎編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1459-6 イエロー・ノート 臨床編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1460-2
参考書	「2021 第21回～第30回 徹底攻略 国家試験過去問題集 柔道整復師用」（学）明治東洋医学院編集委員会編集（医道の日本社） 資料等はGoogle classroomに適宜アップする。

成績評価	(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。 (2) 実力試験と期末試験の両方で評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名（代表）：宮坂 卓治 研究室：8号館4階教授室 オフィスアワー：水曜日 16：30～17：30</p> <p>オムニバス担当教員名： 専門基礎，専門領域の各ユニット・講座の担当教員が分担するので，各先生方については，授業終了後に質問すること。 なお，他の時間が必要な場合は，宮坂が調整する。</p>
備考	「当該教科とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎－1 科目ナンバー：HJ-4-JT9-ES-S-1

講義科目名称： 傷害鑑別診断学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
田中 健吾			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義(オンデマンド)	科目ナンバー HJ-4-JT18-RS-L-1
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】骨、関節、軟部組織傷害を対象とし、柔道整復術の適応、禁忌の症例を適格に把握できる能力を身につけるための知識・技術を教授する。また各傷害に対する観血的治療、非観血的施術の判断に必要な次項、応急処置について教授する。</p> <p>【到達目標】柔道整復術の業務範囲である骨折・脱臼・打撲・挫傷を対象として適応外傷か否かを適格に判断できる。</p>		
授業計画	第1講	<p>オリエンテーション・柔道整復師の業務</p> <p>【到達目標】柔道整復師の業務を理解する。</p> <p>【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>	
	第2講	<p>柔道整復師の適応疾患</p> <p>【到達目標】柔道整復師の適応疾患を理解する。</p> <p>【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>	
	第3講	<p>損傷に類似した症状を示す疾患①</p> <p>【到達目標】損傷に類似した症状を示す疾患を理解する。</p> <p>【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>	
	第4講	<p>損傷に類似した症状を示す疾患②</p> <p>【到達目標】損傷に類似した症状を示す疾患を理解する。</p> <p>【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>	
	第5講	<p>血流障害を伴う損傷</p> <p>【到達目標】血流障害を伴う損傷を理解する。</p> <p>【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>	
	第6講	<p>末梢神経損傷を伴う損傷</p> <p>【到達目標】末梢神経損傷を伴う損傷を理解する。</p> <p>【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>	
	第7講	<p>脱臼骨折</p> <p>【到達目標】脱臼骨折を理解する。</p> <p>【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>	
	第8講	<p>外出血を伴う損傷</p> <p>【到達目標】外出血を伴う損傷を理解する。</p> <p>【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>	
	第9講	<p>病的骨折及び脱臼</p> <p>【到達目標】病的骨折及び脱臼を理解する。</p> <p>【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>	
	第10講	<p>意識障害を伴う損傷</p> <p>【到達目標】意識障害を伴う損傷を理解する。</p> <p>【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>	
	第11講	<p>脊髄症状のある損傷</p> <p>【到達目標】脊髄症状のある損傷を理解する。</p> <p>【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>	
	第12講	<p>呼吸運動障害を伴う疾患</p> <p>【到達目標】呼吸運動障害を伴う疾患を理解する。</p> <p>【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>	
	第13講	<p>内臓損傷の合併が疑われる損傷</p> <p>【到達目標】内臓損傷の合併が疑われる損傷を理解する。</p> <p>【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>	
	第14講	<p>高エネルギー外傷</p> <p>【到達目標】高エネルギー外傷を理解する。</p> <p>【授業形態】講義(オンデマンド)アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】ホームワークとして本講義の内容の課題を配布する。</p>	

	<p>第15講 　　まとめ</p> <p>【到達目標】 1～14回の学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。</p> <p>【授業形態】 筆記試験（50分）＋講義（アクティブラーニングあり）（40分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>事前に各講義項目を調べて当該ページを熟読する。（予習35分）</p> <p>授業内での疑問点は次回までに担当教員に質問する、調べる等の復習を行う。（復習35分）</p>
教科書	「医療の中の柔道整復 第1版」公益財団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）
参考書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」公益社団法人柔道整復学校協会（南江堂） 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」公益社団法人柔道整復学校協会（南江堂）
成績評価	評価方法は筆記試験とし、その結果にて評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：田中健吾</p> <p>研究室：8号館4F 講師室</p> <p>メールアドレス：k_tanaka@tch.meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：水曜日16:40～17:30</p>
備考	<p>施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p> <p>資料・課題の配布はClassroomを利用します。パソコン、スマートフォン、タブレット端末などのインターネットへ接続できる機器・環境を用意してください。</p> <p>この科目は、原則としてオンデマンド形式にて実施するが、適宜、対面講義形式に変更されることがあります。</p> <p>この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
奥田 正作			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	本科目では運動器疾患の後療法について学び、理解することを目標とする。		
授業計画	第1講	オリエンテーション・肩複合体の後療法技術について 【到達目標】 肩複合体触診、評価、後療法技術について理解し、模倣ができる 【授業概要】 肩複合体の触診・評価・後療法について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り	
	第2講	肩甲上腕関節の後療法技術について 【到達目標】 肩甲上腕関節の触診、評価、後療法技術について理解し、模倣ができる 【授業概要】 肩甲上腕関節の触診・評価・後療法について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り	
	第3講	肩甲胸郭関節・肩鎖・胸鎖関節の後療法技術について 【到達目標】 肩甲胸郭関節・肩鎖・胸鎖関節の触診、評価、後療法技術について理解し、模倣ができる 【授業概要】 肩甲胸郭関節・肩鎖・胸鎖関節の触診・評価・後療法について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り	
	第4講	前腕の後療法技術について 【到達目標】 前腕の触診、評価、後療法技術について理解し、模倣ができる 【授業概要】 前腕の触診・評価・後療法について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り	
	第5講	腰部の後療法技術について1 【到達目標】 腰部の触診、評価、後療法技術について理解し、模倣ができる 【授業概要】 腰部の触診・評価・後療法について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り	
	第6講	腰部の後療法技術について2 【到達目標】 腰部の触診、評価、後療法技術について理解し、模倣ができる 【授業概要】 腰部の触診・評価・後療法について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り	
	第7講	股関節の後療法技術について1 【到達目標】 股関節の触診、評価、後療法技術について理解し、模倣ができる 【授業概要】 股関節の触診・評価・後療法について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り	
	第8講	股関節の後療法技術について2 【到達目標】 股関節の触診、評価、後療法技術について理解し、模倣ができる 【授業概要】 股関節の触診・評価・後療法について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り	
	第9講	膝関節の後療法技術について1 【到達目標】 膝関節の触診、評価、後療法技術について理解し、模倣ができる 【授業概要】 膝関節の触診・評価・後療法について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り	
	第10講	膝関節の後療法技術について2 【到達目標】 膝関節の触診、評価、後療法技術について理解し、模倣ができる 【授業概要】 膝関節の触診・評価・後療法について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り	
	第11講	足関節の後療法技術について1 【到達目標】 足関節の触診、評価、後療法技術について理解し、模倣ができる 【授業概要】 足関節の触診・評価・後療法について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り	
	第12講	足関節の後療法技術について2 【到達目標】 足底板について理解し、模倣ができる 【授業概要】 足底板の作成 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り	
	第13講	足関節の後療法技術について3 【到達目標】 足底板について理解し、模倣ができる 【授業概要】 足底板の作成 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り	
	第14講	全講義のまとめ（上肢） 【到達目標】 1～12講義の内容を再確認する 【授業概要】 全講義のまとめ 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り	
	第15講	全講義のまとめ（下肢） 【到達目標】 1～12講義の内容を再確認する	

	【授業概要】 全講義のまとめ 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各授業に復習や授業内課題をおおよそ60分程度行うこと。
教科書	・柔道整復学・理論改定第6版 南江堂
参考書	・運動器疾患の機能解剖学に基づく評価と解釈 : 林典雄 ・運動のつながりから導く肩の理学療法: 千葉慎一 文光堂
成績評価	出席基準を満たした者に評価を行う。評価はオンデマンドの提出物で評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 奥田正作 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : si_okuda@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 16~17時
備考	20年間、病院に勤務。診療・教育・研究に従事した実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	ポリシーとの関連について「1-◎」「2-○」
	科目ナンバー：HJ-4-JT20-RS-S-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
児玉 香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	運動器疾患の画像診断としては、単純X線写真が広く普及している。詳細な画像診断にはCT、MRIが用いられている。しかしながら、機器の価格、検査料ともに高額であり、検査の待ち時間の長さや被曝の問題から短期間での繰り返し検査ができないのが現状である。近年、著しい技術開発により超音波画像診断装置がデジタル化され、高周波プローブが出現したことによって、CT、MRIを上回る高分解能画像が簡便に得られるようになってきた。さらに、本機器の特徴であるリアルタイム性を応用することで、運動器の損傷状態、動態、血流、組織弾性の評価が可能となってきた。本講では、柔道整復領域に普及しつつある超音波画像診断の有用性について、他の画像（単純X線画像、MRI画像など）と対比しながら教授する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション [授業概要] 様々な外傷・障害を想定した関節評価法、エコー観察、徒手検査法、整復法、指導管理など実際の臨床現場で役立つ知識・技能を総合的に学習する。また、運動器外傷・障害のエコー画像について読影ポイントの学習を交え、より実践的な診察・治療技術の向上を目的とする。 [到達目標] 授業の概要について理解し実践できる。 シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。 [時間外学修の指示] 参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>第2回 アクティブラーニング：有 肩関節の画像観察法（1） [授業概要] 肩関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。 [到達目標] 肩関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。 [時間外学修の指示] 参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>第3回 アクティブラーニング：有 肩関節の画像観察法（2） [授業概要] 肩関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。肩関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。 [到達目標] 肩関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。 肩関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。 [主な描出箇所] ・ 結節間溝 ・ 長頭腱 ・ 大結節 ・ 小結節 ・ 肩甲下筋（肩関節を外旋して描出） ・ 棘上筋腱板 [時間外学修の指示] 参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>第4回 アクティブラーニング：有 肘関節の画像観察法（1） [授業概要] 肘関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。 [到達目標] 肘関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。 [時間外学修の指示] 参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>第5回 アクティブラーニング：有 肘関節の画像観察法（2） [授業概要] 肘関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明</p>

	<p>する。肘関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。 [到達目標] 肘関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。 肘関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。 [主な描出箇所] ・ 橈骨頭（前腕回内・回外して描出） ・ 上腕骨小頭（前面・後面アプローチ） ・ 内側側副靭帯（前斜走靭帯） [時間外学修の指示] 参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。 アクティブラーニング : 有</p> <p>第6回 膝関節の画像観察法 (1) [授業概要] 膝関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。 [到達目標] 膝関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。 [時間外学修の指示] 参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。 アクティブラーニング : 有</p> <p>第7回 膝関節の画像観察法 (2) [授業概要] 膝関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。膝関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。 [到達目標] 膝関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。 膝関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。 [主な描出箇所] ・ 内側半月板（膝関節を屈曲・伸展して後方から描出） ・ 膝蓋骨 ・ 膝蓋腱 ・ 脛骨粗面 [時間外学修の指示] 参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。 アクティブラーニング : 有</p> <p>第8回 足関節の画像観察法 (1) [授業概要] 足関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。 [到達目標] 足関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。 [時間外学修の指示] 参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。 アクティブラーニング : 有</p> <p>第9回 足関節の画像観察法 (2) [授業概要] 足関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。足関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。 [到達目標] 足関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。 足関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。 [主な描出箇所] ・ 前距腓靭帯（ATFL）前方に引き出ししながら描出 ・ 腓骨下端 ・ 脛骨下端 ・ 二分靭帯（第4趾を長軸方向にたどり踵骨前方突起を描出） [時間外学修の指示] 参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。 アクティブラーニング : 有</p> <p>第10回 手指・手関節の画像観察法 (1) [授業概要] 手関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。 [到達目標] 手関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。 [時間外学修の指示] 参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。 アクティブラーニング : 有</p> <p>第11回 手指・手関節の画像観察法 (2) [授業概要]</p>
--	--

	<p>手関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。手関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。</p> <p>[到達目標]</p> <p>手関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。</p> <p>手関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。</p> <p>[主な描出箇所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各手根骨 ・ 各手指の関節部 ・ 橈骨（長軸） ・ 橈骨（短軸・リスター結節と長母指伸筋腱） ・ 手の舟状骨（手関節部橈側から尺屈させながら描出） ・ 伸筋腱の第1区画（de Quervain's病と関連） <p>[時間外学修の指示]</p> <p>参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。</p> <p>授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
第12回	<p>体幹・脊柱の画像観察法 (1)</p> <p>[授業概要]</p> <p>体幹・脊柱に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。</p> <p>[到達目標]</p> <p>体幹・脊柱関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。</p> <p>[時間外学修の指示]</p> <p>参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。</p> <p>授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
第13回	<p>体幹・脊柱の画像観察法 (2)</p> <p>[授業概要]</p> <p>体幹・脊柱に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。手関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。</p> <p>[到達目標]</p> <p>体幹・脊柱のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。</p> <p>体幹・脊柱のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。</p> <p>[主な描出箇所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 肋骨 ・ 胸骨 ・ 脊柱棘突起 ・ 脊柱起立筋 <p>[時間外学修の指示]</p> <p>参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。</p> <p>授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
第14回	<p>まとめ・総合復習 レポート作成の要点を指導</p> <p>[授業概要]</p> <p>いままで講義した内容の総括</p> <p>肩関節部、肘関節部、膝関節部、足関節部、手指・手関節部、体幹・脊柱に関するエコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を総括・復習する。各部のエコー描出・観察ルーティンを総括・復習する。レポートの作成要点に関して説明する。</p> <p>[到達目標]</p> <p>肩関節部、肘関節部、膝関節部、足関節部、手指・手関節部、体幹・脊柱のエコー描出・観察ルーティンの要点を理解・実践できる。</p>
第15回	<p>アクティブラーニング : 有</p> <p>レポート発表</p> <p>[授業概要]</p> <p>作成したレポートに基づきプレゼンテーションを行う。</p> <p>[到達目標]</p> <p>前回の授業で作成したレポートをもとに他の人に説明することができる。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>参考資料などを使用して、事前に与えられたテーマについて予習すること。</p> <p>予習・復習ノートを作成して学習した事項を管理すること。</p> <p>ノートの提出義務はありません。</p>
教科書	<p>柔道整復学・理論編 改訂第6版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂</p>
参考書	<p>運動器の超音波 木野達司 南山堂</p>
成績評価	<p>出席基準を満たした者に対して評価を行う。</p> <p>レポート課題での評価 = 100%</p> <p>授業中に教授した実習内容に関し、それをまとめて卒後も臨床上役立つ資料として完成させる。</p> <p>レポート作成の素材として画像が必要な場合には、授業中に写真撮影して、そのデータを使用してもよい。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 児玉 香菜絵</p> <p>研究室 : 8号館4F講師室</p> <p>メールアドレス : k_kodama@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 講義終了後</p>
備考	<p>施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p>
	<p>◎-2</p>

講義科目名称： 伝承整復術演習 ※未開講

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
宮坂 卓治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	本授業は柔道整復術における伝統的な技法である整復法、固定法、後療法について学び、技術の応用力を養うことを目的とする。
授業計画	<p>第1-2講義 歴史、鑑別疾患（宮坂 卓治） 【到達目標】柔道整復師の歴史、鑑別疾患、柔道整復師が診ることの多い肩関節脱臼、顎関節脱臼について授業を行う。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第3-4講義 トレーニング、テーピング1（長尾淳彦） 【到達目標】柔道整復師が行ってきた手技療法を学び、トレーニング方法、テーピングの巻き方を学び、実践で使用できることを目標とする。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第5-6講義 柔道整復における手技療法（田邊美彦） 【到達目標】柔道整復師が行ってきた手技療法を学び、基本的な考え方や方法を学び、実践できることを目標とする。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第7-8講義 肩関節脱臼、顎関節脱臼について（伊部正記） 【到達目標】柔道整復師が行ってきた肩関節脱臼、顎関節脱臼の整復法を学び、実践できることを目標とする。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第9-10講義 柔道整復における手技療法（田邊美彦） 【到達目標】柔道整復師が行ってきた手技療法を学び、基本的な考え方や方法を学び、実践できることを目標とする。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第11-12講義 柔道整復における手技療法（五反田重夫） 【到達目標】柔道整復師がみるよくある骨折、レントゲン解説、コーレス骨折等の整復などを学び、実践できることを目標とする。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第13-14講義 トレーニング、テーピング2（長尾淳彦） 【到達目標】柔道整復師が行ってきた手技療法を学び、トレーニング方法、テーピングの巻き方を学び、実践で使用できることを目標とする。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第15講義 これからの柔道整復学（宮坂卓治） 【到達目標】これからの柔道整復学はどうあるべきかを、ディスカッションし、各自考えをまとめることを目標とする。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業内に課題を出すため、その課題に沿って復習を行う。
教科書	「柔道整復学（理論編）改訂第6版」 社団法人柔道整復学校協会 編集（南江堂） 「柔道整復学（実技編）改訂第2版」 社団法人柔道整復学校協会 編集（南江堂）
参考書	参考書の指定なし
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。レポート課題（100%）によって総合評価を行う。
担当教員の基本情報	オフィスアワー：授業終了後1時間 場所：8号館4F講師室または非常勤講師室、講師室
備考	各先生の臨床経験にもとづいて本講義を行う。 ディプロマポリシーとの関連「◎-3」、「○-4」 日程については、各担当教員によって異なります。授業順についても前後する可能性があります。

講義科目名称： 臨床セミナー

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
宮坂 卓治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では、臨床現場で柔道整復師として活躍している方を招き、評価、整復、固定方法等について教授する。また、海外の現場等での実際や日本の伝統的な医療の実際についても教授する。</p> <p>本科目では、臨床現場で大切な知識や学びとは何かを把握し、1～3年次で学んだ内容から発展させた知識を得ることを目的とする。</p> <p>本科目では講義の中で小グループにわかれ、アクティブラーニングを主体とした学びを展開する。各授業では教員からの課題や質問を自ら考え、グループ内でワークを行う。</p>
授業計画	<p>第1回 伝統的な整復術の伝承 座学：伊部正記 【到達目標】 タイトルの示すように伝承されるべき、されたい柔道整復術を理解する。 【授業概要】 「理論知」ならびに施術現場としての「臨床知」について 【授業形態】 アクティブラーニング：有り 1コマ目は、座学を主として講義する。</p> <p>第2回 伝統的な整復術の伝承 実技：伊部正記 【到達目標】 伝承されるべき、されたい柔道整復術を理解し実習をする。 【授業概要】 施術現場として「臨床知」の実際について 【授業形態】 アクティブラーニング：有り 1コマ目の座学を踏まえて実技の学習をする。</p> <p>第3回 超音波画像観察装置の基礎：梶谷大和 【到達目標】 超音波画像観察装置に対して、基礎を理解し、興味を深める。 【授業概要】 超音波画像観察装置の概要、利点、欠点、法的裏付け、多数の症例を紹介し、同機器について学生の基礎的理解を深める。ひいては、もっと同機器に触れたい、将来的に臨床で使用してみたいと学生が能動的に思えるための動機づけになり得る講義を行う。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第4回 超音波画像観察装置の実際：梶谷大和 【到達目標】 超音波画像観察装置を用いて、実際に橈骨遠位端部（舟状骨、月状骨を含む）、腓骨外果部、前距腓靭帯(ATFL)、踵腓靭帯(CFL)、後距腓靭帯(PFL)を反復して描出できることを到達目標とする。 【授業概要】 受傷部位に骨折が存在するか否かを、超音波画像観察装置を用いて判断する際のpointとして、施術者が骨、軟部組織の正常像を正しく描出できる能力を有することが挙げられる。正常像の描出を繰り返すことで、骨折等の急性外傷時に起こる骨、靭帯の連続性の離断、不整像、炎症像を描出し判断することにつながる。そこで、临床上、柔道整復師が遭遇することが比較的多く、骨折か否かの判断が重要な、「橈骨遠位端骨折」、「外果骨折」を課題にprobe操作での橈骨の連続した線上高エコー像、舟状骨、lister結節等をランドマークとして用い、上記周辺部位の正常像を描出可能な能力獲得をひとつの到達目標とする。しかし、学生が実際に臨床の現場で超音波観察装置を使用するまでには、何年かのintervalが想定されるため、上述した到達目標は、あくまで学生が能動的に外傷疾患に興味を持つためのひとつのツールであるという認識の下で講義を行う。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第5回 海外における日本の伝統医療の実際：五反田重夫 【到達目標】 日本における伝統医療と海外における日本の伝統医療の役割について理解し、伝統医療における知識をより深める 【授業概要】 自身の経験から日本における伝統医療と海外における日本の伝統医療の役割、普及に至るまでを講義する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第6回 レントゲンフィルムの読影について：五反田重夫 【到達目標】 レントゲンフィルムの読影の仕方を理解する 【授業概要】 レントゲンフィルムの読影について 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第7回 腰痛について考える1：岩崎秀昭 【到達目標】 腰痛に関する治療を理解できる。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 授業で学んだトレーニング方法をペアで実践し、効果を考える。 備考】 自主学習の課題：授業内容をまとめ課題レポート作成のための準備を行う。</p> <p>第8回 腰痛について考える2：岩崎秀昭 【到達目標】 腰痛に関する治療を理解できる。 【授業形態】</p>

	<p>アクティブラーニングの有無：あり 授業で学んだトレーニング方法をペアで実践し、効果を考える。 備考】 自主学習の課題：授業内容をまとめ課題レポート作成 のための準備を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	授業内で学んだ内容をおおむね60分ほど復習し、レポート課題作成時間にあてる。
教科書	授業内の配布プリントを使用する。 「柔道整復学（理論編）改訂第6版」 社団法人柔道整復学校協会 編集（南江堂） 「柔道整復学（実技編）改訂第2版」 社団法人柔道整復学校協会 編集（南江堂）
参考書	資料等はGoogle classroomに適宜アップする。
成績評価	各授業内容において得られた知識をまとめ、レポートとして提出する。 評価は出席率を満たした者に対して評価を行い、レポートにより評価（100%）を行う。
担当教員の基本情 報	<p>担当教員名（代表）：宮坂 卓治 研究室：8号館4階教授室 メールアドレス：t_miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業日の16:30～17:30</p> <p>担当教員名：非常勤講師 研究室：8号館4階講師室 メールアドレス： オフィスアワー：授業終了後</p>
備考	<p>ディプロマポリシーとの関連：「③-○」「④-○」 科目ナンバー：HJ-4-JT26-RS-L-1</p>

講義科目名称： 臨床系総合演習 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
宮坂 卓治、林 知也、田中健吾、沖 和久、宗友宏行、奥田正作、糸井マナミ、児玉香菜絵、村迫萌生、吉元拓也、渡辺康晴、赤澤 淳、木村篤史			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：既に学習した柔道整復学について演習を通して理解を深める。</p> <p>到達目標：柔道整復学の柔道整復師国家試験合格レベルの知識を総合的に活用できる。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1～29回 柔道整復学の基本的な復習</p> <p>到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な柔道整復学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。</p> <p>授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。</p> <p>授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第30回 まとめ</p> <p>到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目に関する柔道整復師国家試験レベルの内容を説明することができるとともに、それら科目のベースとなる「基礎系総合演習」で学んだ内容についても説明することができる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。(予習65分) 各講義後、教科書と参考書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。(復習65分)
教科書	<p>柔道整復学・実技編改訂第2版 南江堂 ISBN:978-4-524-25034-9</p> <p>柔道整復学・理論編改訂第6版 南江堂 ISBN:978-4-524-25943-4</p> <p>ブルー・ノート 基礎編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1459-6</p> <p>イエロー・ノート 臨床編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1460-2</p>
参考書	「2024 第22回～第31回 徹底攻略 国家試験過去問題集 柔道整復師用」(学) 明治東洋医学院編集委員会 編集(医道の日本社) 資料等はGoogle classroomに適宜アップする。
成績評価	<p>(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。</p> <p>(2) 実力試験と期末試験の両方で評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 宮坂 卓治</p> <p>研究室 : 8号館4階教授室</p> <p>オフィスアワー : 火曜日 16:30～17:30</p> <p>オムニバス担当教員名 : 専門基礎、専門領域の各ユニット・講座の担当教員が分担するので、各先生方については、授業終了後に質問すること。 なお、他の時間が必要な場合は、宮坂が調整する。</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連</p> <p>◎-1</p> <p>科目ナンバー：HJ-4-JT27-ES-S-1</p>

講義科目名称： 臨床系総合演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	必修
担当教員			
宮坂 卓治、林 知也、田中健吾、沖 和久、宗友宏行、奥田正作、糸井マナミ、児玉香菜絵、村迫萌生、吉元拓也、渡辺康晴、赤澤 淳、木村篤史			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、既に学習した柔道整復学と現代医学系臨床科目について演習を通して総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目の柔道整復師国家試験合格レベルの知識を総合的に活用できる。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1～15回 柔道整復学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な柔道整復学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第16回 知識の確認（確認テストとその解説） 到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目に関する柔道整復師国家試験レベルの内容がどの程度習得できているか確認するとともに、それら科目のベースとなる「基礎系総合演習」の内容に関する知識も確認する。</p> <p>第17～19回 一般臨床医学の応用的知識の習得 到達目標：柔道整復師に必要な一般臨床医学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第20, 21回 外科学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、外科学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第22, 23回 整形外科の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、整形外科の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第24, 25回 リハビリテーション医学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、リハビリテーション医学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第26～29回 柔道整復学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、柔道整復学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第30回 まとめ 到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目に関する柔道整復師国家試験レベルの内容を説明することができるのと同時に、それら科目のベースとなる「基礎系総合演習」で学んだ内容についても説明することができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習65分） 各講義後、教科書と参考書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。（復習65分）
教科書	<p>柔道整復学・理論編改訂第6版 南江堂 ISBN:978-4-524-25943-4</p> <p>柔道整復学・実技編改訂第2版 南江堂 ISBN:978-4-524-25034-9</p> <p>一般臨床医学改訂第3版 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-24159-2</p> <p>リハビリテーション医学改訂第4版 南江堂 ISBN:978-4-524-24123-1</p> <p>外科学概論改訂第4版 南江堂 ISBN:978-4-524-26475-9</p> <p>整形外科改訂第4版 南江堂 ISBN:978-4-524-25944-1</p> <p>ブルー・ノート 基礎編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1459-6</p> <p>イエロー・ノート 臨床編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1460-2</p>
参考書	「2024 第22回～第31回 徹底攻略 国家試験過去問題集 柔道整復師用」（学）明治東洋医学院編集委員会編集（医道の日本社） 資料等はGoogle classroomに適宜アップする。
成績評価	<p>(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。</p> <p>(2) 実力試験と期末試験の両方で評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 宮坂 卓治 研究室 : 8号館4階教授室 オフィスアワー : 火曜日 16:30～17:30</p> <p>オムニバス担当教員名 : 専門基礎、専門領域の各ユニット・講座の担当教員が分担するので、各先生方については、授業終了後に質問すること。 なお、他の時間が必要な場合は、宮坂が調整する。</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連</p> <p>◎-1 科目ナンバー：HJ-4-JT28-ES-S-1</p>

講義科目名称： 外傷・障害予防論実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
村迫 萌生、松元 隆司、岩内 和也			
配当学科：柔道整備学科	時間数：30時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業内容】 競技者と高齢者に発生する外傷・障害についての治療法だけではなく予防や患者に対する啓蒙も含め、これまでの実習では補えなかった広い範囲の実習を行います。これまでの講義・実技で学んだ知識をより深めた上で、より実践的な内容になります。しっかり学修しましょう。</p> <p>【到達目標】 1. 運動競技者のメディカルチェックを説明し、実践できるようにしましょう。 2. アライメント計測、セルフケア、テーピング、筋力トレーニング等を実践できるようにしましょう。 3. 高齢者に対する外傷・障害予防の啓蒙のための資料を作成できるようにしましょう。</p>
授業計画	<p>第1回 運動競技者の外傷予防のための実技（メディカルチェック）① 【授業目標】 全身関節弛緩性テスト、筋タイトネステストについて理解し実践することができる。 【授業概要】 全身関節弛緩性テスト、筋タイトネステストについて理解し実践して学ぶ。 【準備学習】 全身関節弛緩性テスト、筋タイトネステストを予習しておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第2回 運動競技者の外傷予防のための実技（メディカルチェック）② 【授業目標】 アライメント測定について理解し実践することができる。 【授業概要】 アライメント測定について理解し実践して学ぶ。 【準備学習】 アライメント測定について予習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第3回 外傷予防に必要な筋力トレーニングの実際 【授業目標】 外傷予防に必要な筋力トレーニングについて理解し実践することができる。 【授業概要】 外傷予防に必要な筋力トレーニングについて理解し実践して学ぶ。 【準備学習】 外傷予防に必要な筋力トレーニングについて予習しておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第4回 柔道における外傷予防 【授業目標】 柔道における外傷予防に必要なトレーニングについて理解し実践することができる。 【授業概要】 柔道における外傷予防に必要なトレーニングについて理解し実践して学ぶ。 【準備学習】 柔道における外傷予防に必要なトレーニングについて予習しておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第5回 水泳における外傷予防 【授業目標】 水泳における外傷予防に必要なトレーニングについて理解し実践することができる。 【授業概要】 水泳における外傷予防に必要なトレーニングについて理解し実践して学ぶ。 【準備学習】 水泳における外傷予防に必要なトレーニングについて予習しておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第6回 バasketボール、サッカーにおける外傷予防 【授業目標】 Basketball、サッカーにおける外傷予防に必要なトレーニングについて理解し実践することができる。 【授業概要】 Basketball、サッカーにおける外傷予防に必要なトレーニングについて理解し実践して学ぶ。 【準備学習】 Basketball、サッカーにおける外傷予防に必要なトレーニングについて予習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第7回 成長期、高齢者の外傷予防とまとめ 【授業目標】 成長期、高齢者における外傷予防に必要なトレーニングについて理解し実践することができる。 【授業概要】 成長期、高齢者における外傷予防に必要なトレーニングについて理解し実践して学ぶ。 【準備学習】 成長期、高齢者における外傷予防に必要なトレーニングについて予習しておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第8回 スポーツ競技可能な足関節の固定 【授業目標】 硬性材料を用いて各種スポーツで競技を行える足関節の固定を理解し実践することができる。</p>

	<p>【授業概要】 硬性材料を用いて各種スポーツで競技を行える足関節の固定を理解し実践して学ぶ。</p> <p>【準備学習】 各種スポーツの競技特性を予習しておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第9回 スポーツ競技可能な足部の固定</p> <p>【授業目標】 硬性材料を用いて各種スポーツで競技を行える足部の固定を理解し実践することができる。</p> <p>【授業概要】 硬性材料を用いて各種スポーツで競技を行える足部の固定を理解し実践して学ぶ。</p> <p>【準備学習】 各種スポーツの競技特性を予習しておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第10回 キネシオテーピング1</p> <p>【授業目標】 キネシオテーピングを用いて下肢の筋をサポートするテーピングを実施することができる。</p> <p>【授業概要】 キネシオテーピングを用いて下肢の筋をサポートするテーピングを実施して学ぶ。</p> <p>【準備学習】 キネシオロジーの予習をしておくこと。大腿部から遠位が出せるズボン</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第11回 キネシオテーピング2</p> <p>【授業目標】 キネシオテーピングを用いて上肢・体幹筋をサポートするテーピングを実施することができる。</p> <p>【授業概要】 キネシオテーピングを用いて上肢・体幹筋をサポートするテーピングを実施して学ぶ。</p> <p>【準備学習】 キネシオロジーの予習をしておくこと。肩から遠位が出せる上着</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第12回 キネシオテーピング3</p> <p>【授業目標】 キネシオテーピングを用いたサポートテーピングを実施することができる。</p> <p>【授業概要】 キネシオテーピングを用いたサポートテーピングを実施して学ぶ。</p> <p>【準備学習】 キネシオロジーの予習をしておくこと。肩及び大腿部から遠位が出せる服装</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第13回 ダイナミック・スタティックストレッチングによる運動パフォーマンス向上</p> <p>【授業目標】 適切なストレッチング方法について理解・実践することができる。</p> <p>【授業概要】 適切なストレッチング方法について理解・実践して学ぶ。</p> <p>【準備学習】 ストレッチング方法について予習しておくこと。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第14回 まとめ1</p> <p>【授業目標】 本授業の内容が把握できる。</p> <p>【授業概要】 本授業の内容についてまとめる。</p> <p>【準備学習】 第1回から第13回までの授業内容を復習しておく。</p> <p>【授業形態】 実習（アクティブラーニング）</p> <p>第15回 まとめ2・最終評価</p> <p>本授業で行った内容について評価・まとめを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習30分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習60分)。
教科書	競技者の外傷予防 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修、小林直行・高橋康輝著、医歯薬出版
参考書	柔道整復学・実技編 改訂版第2版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会 編） ストレッチング 有限会社 ナップ スポーツリハビリテーションの臨床 メディカル・サイエンス・インターナショナル
成績評価	オムニバスの授業です。各先生がそれぞれ評価し、授業時間に見合った割合で合計し全体の評価とします。各先生の評価内容は下記の通りです。授業時間中に実技試験（100%）を実施し評価します。
担当教員の基本情報	保健医療学部 村迫萌生 m_murasako@meiji-u.ac.jp オフィスアワー 授業前30分と授業終了後30分
備考	村迫萌生：接骨院、介護施設で臨床業務に従事し、その経験に基づいて本講義の授業を行う。 原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがある。 この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-4
	HJ-4-JT41-RS-P-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
沖 和久			
柔道整復学科	30時間	実習（一部オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 柔道整復師の業務範囲である骨折・脱臼・打撲・挫傷を対象として、各外傷発生時の診察から処置までの一連動作を適切に実施することを可能にするための科目である。</p> <p>【到達目標】 柔道整復領域の外傷(骨折・脱臼・打撲・挫傷)について診察・検査・整復・固定を行うことができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・鎖骨骨折の固定 【到達目標】 鎖骨骨折の固定を実践することができる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、鎖骨骨折の整復・固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>第2回 上腕骨骨幹部骨折の固定 【到達目標】 上腕骨骨幹部骨折の固定を実践することができる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、上腕骨骨幹部骨折の整復・固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>第3回 コーレス Colles 骨折固定 【到達目標】 Colles 骨折の固定を実践することができる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、Colles 骨折の整復・固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>第4回 第5中手骨頸部骨折の固定 【到達目標】 第5中手骨頸部骨折の固定を実践することができる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、第5中手骨頸部骨折の整復・固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>第5回 下腿骨骨幹部骨折の固定 【到達目標】 下腿骨骨幹部骨折の固定を実践することができる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、下腿骨骨幹部骨折の固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>第6回 肋骨骨折の固定 【到達目標】 肋骨骨折の固定を実践することができる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、肋骨骨折の固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>第7回 肩鎖関節脱臼の固定 【到達目標】 肩鎖関節脱臼の固定を実践することができる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、肩鎖関節脱臼の整復・固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>第8回 肩関節前方脱臼の固定 【到達目標】 肩関節前方脱臼の固定を実践することができる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、肩関節前方脱臼の整復・固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>第9回 肘関節脱臼(両前腕骨後方脱臼)の固定 【到達目標】 肘関節脱臼(両前腕骨後方脱臼)の固定を実践することができる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、肘関節脱臼の整復・固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>第10回 手第2指PIP関節背側脱臼の固定 【到達目標】 手第2指PIP関節背側脱臼の固定を実践することができる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、手第2指PIP関節背側脱臼の整復・固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>第11回 アキレス腱断裂の固定 【到達目標】 アキレス腱断裂の固定を実践することができる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、アキレス腱断裂の整復・固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>第12回 足関節外側側副靭帯損傷の固定(局所副子固定) 【到達目標】 足関節外側側副靭帯損傷の固定(局所副子固定)を実践することができる。 【授業形態】 実技形式</p>

第13回	<p>【備考】本授業までに、足関節外側側副靭帯損傷の固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>足関節外側側副靭帯損傷の固定（テーピング固定）</p> <p>【到達目標】足関節外側側副靭帯損傷の固定（テーピング固定）を実践することができる。 【授業形態】実技形式</p>
第14回	<p>【備考】本授業までに、足関節外側側副靭帯損傷の固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>膝関節内側側副靭帯損傷</p> <p>【到達目標】膝関節内側側副靭帯損傷の固定を実践することができる。 【授業形態】実技形式</p>
第15回	<p>【備考】本授業までに、膝関節内側側副靭帯損傷の固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>評価とまとめ これまで学んだ項目について、実技試験による評価を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>整復学および臨床整復学実習で習得した知識および技術を復習すること。また、シラバスの各回に記載されている【備考】を参照し、該当授業の外傷について教科書を熟読し理解しておくこと。 本科目受講に必要な予習・復習に必要な時間は各100分とする。</p>
教科書	<p>「柔道整復学・理論編 改訂第7版」公益社団法人柔道整復学校協会（南江堂） 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」公益社団法人柔道整復学校協会（南江堂） 「包帯固定学 改訂第2版」公益社団法人柔道整復学校協会（南江堂）</p>
参考書	<p>必要に応じて指示をする。</p>
成績評価	<p>成績評価は、出席基準を満たした者に対して、授業時間内に実技・口述試験を行う。 授業中はKCと名札の着用を原則とし、着用していない場合は実習態度の項目から減点対象とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：沖 和久 研究室：8号館4F 講師室（沖） メールアドレス：k_oki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後</p>
備考	<p>実務経験：クリニックや施術所、スポーツ現場等での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p>
	<p>この科目は原則として対面の実習形式にて実施するが、一部オンデマンド授業に変更されることがある。</p>
	<p>この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○-5 科目ナンバー：HJ-4-JT44-ES-P-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
宗友 宏行			
柔道整復学科	30時間	実習（対面）	
添付ファイル			
臨シミュⅢ. pdf			

授業目標	<p>【授業概要】 柔道整復師の業務範囲である骨折・脱臼・軟部組織損傷のうち主要な外傷の損傷発生時の診察から整復・検査までの一連動作と固定法を適切に実施することを可能にするための科目である。</p> <p>【授業目標】</p> <p>目標1：柔道整復学領域における各組織損傷の診察の流れを習得する。 目標2：傷害部位や傷害の程度を知るための基本的な診察の流れと病態・傷害鑑別のための徒手検査法を習得する。 目標3：身体の傷害部所および傷害の状況に応じた包帯法を習得する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・口頭試問・肩関節前方烏口下脱臼の診察と整復法 【授業目標】 口頭試問・肩関節前方烏口下脱臼の診察と整復法を習得することができる。 【授業概要】 口頭試問・肩関節前方烏口下脱臼の診察と整復法を実践して学ぶ。 【準備学習】 肩関節前方烏口下脱臼を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>2回目 鎖骨定型的骨折、肩鎖関節上方脱臼の診察と整復法 【授業目標】 鎖骨定型的骨折、肩鎖関節上方脱臼の診察と整復法を習得することができる。 【授業概要】 鎖骨定型的骨折、肩鎖関節上方脱臼の診察と整復法を実践して学ぶ。 【準備学習】 鎖骨定型的骨折、肩鎖関節上方脱臼を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>3回目 上腕骨外科頸骨折、コーレス骨折の診察と整復法 【授業目標】 上腕骨外科頸骨折、コーレス骨折の診察と整復法を習得することができる。 【授業概要】 上腕骨外科頸骨折、コーレス骨折の診察と整復法を実践して学ぶ。 【準備学習】 上腕骨外科頸骨折、コーレス骨折を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>4回目 肘関節後方脱臼、肘内障の診察と整復法 【到達目標】 肘関節後方脱臼、肘内障の診察と整復法が実践できる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、肘関節後方脱臼、肘内障について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：小テスト、各グループで術者・患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>5回目 肘関節後方脱臼、肘内障の診察と整復法 【授業目標】 肘関節後方脱臼、肘内障の診察と整復法を習得することができる。 【授業概要】 肘関節後方脱臼、肘内障の診察と整復法を実践して学ぶ。 【準備学習】 肘関節後方脱臼、肘内障を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>6回目 腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察と検査法 【授業目標】 腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察と検査法を実施することができる。 【授業概要】 腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察と検査法を実践して学ぶ。 【準備学習】 腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>7回目 膝関節側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷の診察と検査法 【授業目標】 膝関節側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷の診察と検査法を実施することができる。 【授業概要】 膝関節側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷の診察と検査法を実践して学ぶ。 【準備学習】 膝関節側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷の診察と検査法を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>8回目 足関節外側側副靭帯損傷の診察と検査法、まとめ 【授業目標】 足関節外側側副靭帯損傷の診察と検査法を実施することができる。 【授業概要】 足関節外側側副靭帯損傷の診察と検査法を実践して学ぶ。 【準備学習】 足関節外側側副靭帯損傷を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト 【アクティブラーニング】 有：小テスト、各グループで術者・患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>

	<p>9回目 鎖骨骨折、肩鎖関節上方脱臼の固定 【授業目標】 鎖骨骨折、肩鎖関節上方脱臼の固定を実施することができる。</p> <p>【授業概要】 鎖骨骨折、肩鎖関節上方脱臼の固定を実践して学ぶ。 【準備学習】 鎖骨骨折、肩鎖関節上方脱臼の固定を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>10回目 肩関節前方脱臼、上腕骨骨幹部骨折、肋骨骨折の固定 【授業目標】 肩関節前方脱臼、上腕骨骨幹部骨折、肋骨骨折の固定を実施することができる。</p> <p>【授業概要】 肩関節前方脱臼、上腕骨骨幹部骨折、肋骨骨折の固定を実践して学ぶ。 【準備学習】 肩関節前方脱臼、上腕骨骨幹部骨折、肋骨骨折を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>11回目 コーレス骨折、肘関節後方脱臼の固定 【授業目標】 コーレス骨折、肘関節後方脱臼の固定を実施することができる。</p> <p>【授業概要】 コーレス骨折、肘関節後方脱臼の固定を実技して学ぶ。 【準備学習】 コーレス骨折、肘関節後方脱臼を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>12回目 第5中手骨骨折、第2指PIP関節背側脱臼の固定 【授業目標】 第5中手骨骨折、第2指PIP関節背側脱臼の固定を実施することができる。</p> <p>【授業概要】 第5中手骨骨折、第2指PIP関節背側脱臼の固定を実践して学ぶ。 【準備学習】 第5中手骨骨折、第2指PIP関節背側脱臼を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>13回目 下腿骨骨幹部骨折、アキレス腱断裂の固定 【授業目標】 下腿骨骨幹部骨折、アキレス腱断裂の固定を実施することができる。</p> <p>【授業概要】 下腿骨骨幹部骨折、アキレス腱断裂の固定を実践して学ぶ。 【準備学習】 下腿骨骨幹部骨折、アキレス腱断裂を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>14回目 膝関節内側側副靭帯損傷、足関節外側側副靭帯損傷（バスケットウィーブ、フィギアエイト・ヒールロック）の固定 【授業目標】 膝関節内側側副靭帯損傷、足関節外側側副靭帯損傷の固定を実施することができる。</p> <p>【授業概要】 膝関節内側側副靭帯損傷、足関節外側側副靭帯損傷の固定を実践して学ぶ。 【準備学習】 膝関節内側側副靭帯損傷、足関節外側側副靭帯損傷を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p> <p>15回目 足関節外側側副靭帯損傷（厚紙副子）の固定 【授業目標】 足関節外側側副靭帯損傷の固定を実施することができる。 【授業概要】 足関節外側側副靭帯損傷の固定を実践して学ぶ。 【準備学習】 足関節外側側副靭帯損傷を復習しておく。 【授業形態】 実習（アクティブラーニング）、小テスト</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>整復学および整復学実習で習得した知識および技術を復習すること。また、シラバスの各回に記載されている【備考】を参照し、該当授業の外傷について教科書を熟読し理解しておくこと。</p> <p>本科目受講に必要な予習・復習に必要な時間は各100分とする。</p>
教科書	<p>「柔道整復学・理論編 改訂第6版」公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 「包帯固定学 改訂第2版」公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）</p>
参考書	<p>参考資料はGoogle classroomにて配信する。 必要に応じて配布する。</p>
成績評価	<p>出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たしたものに対して実技試験を行う。 実技審査は、認定実技試験の実施形態とする。 実技審査（80%）、小テスト（20%）として6割が理解できている場合に単位習得できるものとする。 追試験：学生便覧に準じて実施いたします。 再試験：定期試験で合格点に満たなかったもので、定期試験までに必要な補講を受けていることを条件とします。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：宗友宏行 研究室：8号館4F 講師室 オフィスアワー：授業終了後1時間 メールアドレス：h_munetomo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後</p>
備考	<p>期末試験は認定実技試験に準じた方式で実施する。 宗友宏行：病院、接骨院、介護施設で臨床業務に従事し、その経験に基づいて本講義の授業を行う。 原則として対面にて実施するが、適宜遠隔授業に変更されることがある。</p>
	<p>ディプロマポリシーとの関連：◎-2、○-5 科目ナンバー：HJ-3-JT48-RS-P-1</p>

講義科目名称： 臨床実習Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3-4	2	必修
担当教員			
宮坂 卓治、木村 篤史、奥田 正作			
配当学科：柔道整復学科	時間数：90時間	授業形態：実習	
添付ファイル			
シラバス 2023（臨実Ⅲ）.xlsx			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

講義科目名称： スポーツバイオメカニクス

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	医療に携わる大学生として、スポーツにおけるパフォーマンスを科学的に分析し説明するための知見および技術を習得することを授業目標とする。		
授業計画	第1回	<p>スポーツバイオメカニクスとは</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しなやかな動作の説明できる。 ・スキルについて説明できる。 ・反射と随意運動の説明できる。 ・ベクトルの計算ができる。 <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。 	
	第2回	<p>動きを数値化する並進運動：速度，加速度，移動距離</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立位，歩行，走行の説明できる。 ・速度，加速度，移動距離の計算ができる。 <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。 	
	第3回	<p>並進運動の力学：ニュートンの運動方程式，力積，着地時の衝撃吸収</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テコの原理について説明できる。 ・ニュートンの法則の説明ができる。 ・力積の計算ができる。 <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。 	
	第4回	<p>回転運動の力学：角速度，角加速度，角変位，ハンマー投げ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・角速度，角加速度，角変位の計算ができる。 ・関節トルク，慣性モーメント，（遠心力）の説明ができる。 ・変化球の正体（マグヌス力）の説明ができる。 <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。 	
	第5回	<p>流体力学：風をとらえる（抵抗，揚力），水のねばりけ（粘性），摩擦</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風をとらえる抵抗と揚力の説明ができる。 ・水のねばりけ粘性の説明ができる。 ・摩擦の説明ができる。 <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。 	
	第6回	<p>確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>効果的な筋力トレーニングについて</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋腱複合体の説明ができる。 ・効率的なトレーニングの説明できる。 <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面形式で行う。日時は別途指定する。 ・確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。 	
	第7回	<p>試験及びまとめ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的な概要を説明することができる。 <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。 	
	第8回	<p>総括</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義全体を振り返り，スポーツバイオメカニクスを総合的に判断し説明することができる。 <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。 	
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義の項目に対して参考書を読み予習（約130分程度）すること。講義の後，配布プリントや参考書を用い復習（約130分程度）すること		
教科書	特に指定しない。		
参考書	スポーツ・バイオメカニクス入門 絵で見る講義ノート 金子 公宥 杏林書院 スポーツ動作の科学—バイオメカニクスで読み解く 深代 千之 東京大学出版会		

成績評価	試験（100%）により評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 赤澤 淳 研究室 : 5号館3階研究室 オフィスアワー : Mellyを活用して連絡して下さい。
備考	DPとの関連「◎-1」 科目コード「-」
	講義の動画は該当週の月曜日9:30までに公開する。 動画視聴（20～50分程度）と課題（30～80分程度）で講義を行う。 動画視聴に関する質問は、原則Mellyで行ってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 出欠は課題の期限内での提出をもって行います。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業は、「健康運動実践指導者資格取得」を目標とする。生涯を通じて健康維持増進を図ることへの関心が高まって以来久しいが、健康運動指導に必要な知識と有酸素運動の特性を理解した上で、水中運動の基本的な技術を習得し、仲間と楽しく身体運動の喜びに触れることを目的として、実践を中心とした授業を展開する。すなわち、グループ指導能力の繰り返し実践を通し、人間性と教養を身につけコミュニケーション力の向上、基本的技術、正しい動作、指導技術を修得することをねらいとする。また、他者の健康管理と健康指導に従事しようとする医療人に求められている、自分のからだの仕組みを知り自身の健康に対する意識を常に高める習慣づくりとは何かを体得する。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解することができる。 [授業形態] 講義と実習 水中運動とは何か事前に調べ（予習35分）、本時内容をまとめる（復習35分）。</p> <p>第2講 健康づくり運動の実際 水中運動の課題運動① [到達目標] 水の特性（浮力・水抵抗・水圧・水温）について解説できるようになる。 [授業形態] 講義と実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第3講 健康づくり運動の実際 水中運動の課題運動② [到達目標] 水中運動の基本姿勢やテンポ、動作を習得し、リズムカルに動けるようになる。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第4講 健康づくり運動の実際 水中運動の課題運動③ [到達目標] 前歩き・横歩き・後ろ歩き・回旋歩きを習得し教示できるようにする。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第5講 健康づくり運動の実際 水中レジスタンス運動① [到達目標] 水中レジスタンス運動の特性・目的・内容について理解し、説明できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第6講 健康づくり運動の実際 水中レジスタンス運動② [到達目標] 課題とした基本姿勢・動作確認に習熟し、指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第7講 健康づくり運動の実際 水中レジスタンス運動③ [到達目標] 運動強度の考えかた、実施における留意点などを理解し、解説できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第8講 健康づくり運動の実際 水中運動および水中レジスタンス運動 [到達目標] 水中運動・水中レジスタンス運動のグループワークを習熟し、水の抵抗を利用した筋の強化運動のグループワークを指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第9講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導① [到達目標] 「規定の課題運動」を、グループワークにて指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第10講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導② [到達目標] グループワーク指導で、キューイング法とステップ動作指導ができるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第11講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導③ [到達目標] グループワーク指導で、課題ステップ動作を実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第12講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導④ [到達目標] 運動プログラム作成・実践指導：プールに於いて「課題運動」の運動の目的と内容を説明でき、実演できる能力を身につける。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第13講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導⑤ [到達目標] 対象者の健康状態に即した運動プログラム作成・実践指導を、プールに於いて実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p>

	<p>第14講 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導⑥</p> <p>[到達目標] 課題運動の内容が説明でき、実践指導ができるようになる。</p> <p>[授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>第15講 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導⑦</p> <p>[到達目標]（実習のまとめ）。第1講～第14講を総括した実践指導ができるようになる。</p> <p>[授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	資料を集め、水中運動の要点をまとめた自分のハンドブックを作成する。プログラム作成後は、それに基づいた指導練習を行う。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布する。
参考書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団
成績評価	実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度（探究心の総合評価）30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 村川増代</p> <p>研究室 : 体育館・教員室</p> <p>メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業前後、木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。</p>
備考	<p>① 服装は、運動に適した服装、体育館シューズ。プールで実施する時は、水着の準備をする。</p> <p>② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。</p> <p>③ この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-5 技能・表現，○-1 知識・理解。</p>

講義科目名称： アスレチックリハビリテーション

授業コード：

英文科目名称： Athletic Rehabilitation Lecture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
川西 弘晃			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>落ち込んだ選手に対するリハビリテーションには集中力や意識など精神面を強化が特に必要になります。これまでこのような局面に遭遇したことがない学生たちに集中力や意識、モチベーション（意志）など心理学ではなく大脳生理学的に理解し、選手の心のサポートができる考え方やトレーニング法を理解することを目的とする。また、アスレチックリハビリテーションを通じてメンタル面をサポートし競技復帰後、選手が能力を発揮できるよう指導できるようになることを最終目的とする。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・精神面のサポートとは [到達目標] 心技体の相関関係など肉体的サポートの他に心のサポートについて何を理解しなければいけないのかが分かる。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>2回目 大脳と小脳の働き [到達目標] それぞれの役割から勉強とスポーツの反省の仕方や習得/理解の方法を学ぶ。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>3回目 集中力の理解 [到達目標] 集中力について、大脳生理学から集中状態とはどのような状態（アルファ波、シータ波、ベータ波など）かを理解する。ただ集中力が”ある” ”ない”と言う捉え方ではなく、”意識の分散”であることとこととを知り、一点にフォーカスできるトレーニングをすれば集中できるようになることを選手にアドバイスできることを目的とする。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>4回目 脳と身体つながり [到達目標] 脳の無意識領域について学ぶ。外界からの刺激で感情が働き体内での自律神経に無意識的に直接影響を及ぼす。外界から落ち着いた刺激を入れるトレーニングを継続することで自律神経も安定する。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>5回目 大脳のプログラム [到達目標] なぜ、人間は同じように勉強やスポーツをしているのにできる人とできない人、上達する人となかなか上達しない人に分かれるのか？と言う疑問に対して、そのメカニズムと改善方法を習得する。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>6回目 エネルギー（やる気）の理解 [到達目標] 人間を知るには心理学ではなく、エネルギー理論に基づいて科学的に人間を捉えることが大切。脳からの電気エネルギー、エネルギー生産で発生する熱エネルギー、動作に変換される運動エネルギー。ここに外界からの刺激が感覚情報処理システムを介して様々な情動反応へと表現される流れを理解して初めて人間を客観的に見ることができると知る。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>7回目 自主性と主体性 [到達目標] 自主独立について、行動学から人間の行動には3つの段階が存在します。治療家として利他的に行動できる物事の考え方や捉え方を理解して、まずは自分なりにやってみる。その結果、様々な経験を通じて患者さんに対してこころのサポートができるようになる。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>8回目 意識の働き [到達目標]意識が高い、低いと表現しますが、それがどのような状態を指すのか？3つの意識から自分でコントロールできる意識を知る 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>前回の授業範囲の予習(45分)復習(45分)行う。</p>
教科書	<p>担当講師作成資料</p>
参考書	<p>特になし</p>
成績評価	<p>レポートにて評価を行う。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 川西 弘晃NATA-ATC 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : sports_stay_focus@yahoo.co.jp</p>

	オフィスアワー : 授業直後
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-3 科目ナンバー: HJ-3-HA27-ES-L-0
	スポーツ現場や施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。

講義科目名称： アスレチックリハビリテーション実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
川西 弘晃			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	アスレチックリハビリテーションの講義にて理解したことを実践できることを目的とする。また部位別にケガからの復帰までの段階的なプログラム及び基本的な考え方を習得することを最終目的とする。		
授業計画	1回目	オリエンテーション・アスレチックリハビリテーションに必要な基礎知識 [到達目標] リハビリテーションを行う上で必要な障害・外傷評価法の手順や考え方を理解する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	2回目	足関節1 [到達目標] 足関節評価法・ステージ1、固定テーピングなど復帰に向けての準備において漸進的アプローチと悪化/再発防止の手順を理解する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	3回目	足関節2 [到達目標] ステージ3・復帰テスト、バリエーションテーピングなど競技復帰直前から復帰後の経過観察において安全に全力が出せる状態を構築できる方法が身に付く 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	4回目	足底筋膜炎 [到達目標]]足底筋膜炎アスレチックリハビリテーション競技復帰までのプログラム及びテーピングを習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	5回目	ハムストリングス [到達目標] ハムストリングス肉離れ、第1ステージから競技復帰までのプログラム及びテーピングを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	6回目	内転筋 [到達目標] 内転筋肉離れ、第1ステージから競技復帰までのプログラムを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	7回目	膝関節1 [到達目標] 様々な膝関節評価法とテーピングを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	8回目	膝関節2 [到達目標] 膝関節前十字靭帯損傷第1～第2ステージプログラムの習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	9回目	膝関節3 [到達目標] 膝関節前十字靭帯第3ステージから競技復帰プログラム及びテーピングの習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	10回目	肘関節 [到達目標] テニス肘の評価法及び第1ステージから競技復帰までのプログラムを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	11回目	肩関節1 [到達目標] 様々な肩関節評価法と脱臼予防のテーピングを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	12回目	肩関節2 [到達目標] 腱板損傷第1～第2ステージプログラムの習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	13回目	肩関節3 [到達目標]]腱板損傷第3ステージから競技復帰プログラムの習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	14回目	腰部 [到達目標] ヘルニアリハビリプログラムからの競技復帰を習得	

	<p>【授業形態】実習（アクティブラーニング） 15回目 実技評価・まとめ [到達目標] 膝関節リハビリテーションステージ別に5種目ずつ（イラスト、回数、セット数）解説する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>前回の授業範囲の予習の予習(45分)復習(45分)行う。 部活動や学生間で学んだテーピングやリハビリを実施してする。感じたことや気づきについて次の講義で質問し、部活動で生かす。</p>
教科書	<p>担当講師作成資料</p>
参考書	<p>特になし</p>
成績評価	<p>出席基準を満たした者に対して評価を行う。 評価は筆記試験で行う。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 川西 弘晃NATA-ATC 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : sports_stay_focus@yahoo.co.jp オフィスアワー : 授業直後</p>
備考	<p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1, ○-2 科目ナンバー：HJ-3-HA28-ES-P-0</p>
	<p>川西弘晃：スポーツ現場や施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p>

講義科目名称： ジュニアスポーツ指導の実際 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>スポーツとの「出会い」の時期となるジュニア期は、その後のスポーツライフスタイルや大人になってからの生活習慣を左右する大切な時期となる。それだけにジュニアスポーツ指導員に求められる役割や理解しておくべき知識や事柄は多岐にわたる。 本授業では、テキストを用いて「スポーツ好き」の子ども達を増やし、将来アスリートとなるための土台づくりを行うために、指導の基本となる知識を学んでいく。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション [到達目標] 子どもたちの運動・スポーツ実施状況、体力・運動能力の現状と課題、発育発達に応じた適切な運動・スポーツ活動の重要性について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有</p> <p>第2講 概論1 スポーツ指導者とは [到達目標] スポーツの意義と価値についてその役割と、ジュニアスポーツ指導員に求められる資質について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有</p> <p>第3講 d指導者の心構えと視点 [到達目標] 指導者のコミュニケーションスキル、ジュニア期のコーチングについて理解できる。 アクティブラーニングの有無：有</p> <p>第4講 アスリートの発掘と育成 [到達目標] トップアスリートの育成指導実践について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有</p> <p>第5講 トレーニング論1 [到達目標] 体力の概念について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有</p> <p>第6講 トレーニング論2 [到達目標] トレーニングの原理と原則、処方について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有</p> <p>第7講 スポーツ指導者に必要な医学的知識1 [到達目標] スポーツと健康について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有</p> <p>第8講 スポーツ指導者に必要な医学的知識2 [到達目標] スポーツ活動中に多いケガや病気(内科)について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有</p> <p>第9講 スポーツ指導者に必要な医学的知識3 [到達目標] スポーツ活動中に多いケガや病気(外科)について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有</p> <p>第10講 スポーツ指導者に必要な医学的知識4 [到達目標] スポーツ活動中に多いケガや病気の救急処置について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有</p> <p>第11講 指導計画と安全管理 [到達目標] スポーツ指導計画の重要性と立案について実践理解できる。 アクティブラーニングの有無：有</p> <p>第12講 ジュニア期のスポーツ [到達目標] 発育発達期の身体的特徴と心理的特徴について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有</p> <p>第13講 発育発達期のプログラム [到達目標] 発育発達に応じた指導について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有</p> <p>第14講 地域のスポーツ振興と行政のかかわり [到達目標]</p>

	我が国のスポーツ行政のねらいとしくみについて理解できる。 アクティブラーニングの有無：有 検定試験について [到達目標] 公認ジュニアスポーツ指導員専門科目検定試験の実践経験ができる。 アクティブラーニングの有無：有
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義のタイトルを事前学習(予習70分)するとともに、受講後に学習したことを配布したプリントをもとにまとめる(復習70分)。
教科書	特定の教科書は使用しない。 必要に応じて資料を配付する。
参考書	公益財団法人日本スポーツ協会 「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」
成績評価	4出席状況、小テスト、授業態度で総合評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名： 池本 敬博 研究室： 体育館健康スポーツ学ユニット メールアドレス： iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー： 授業の前後
備考	ディプロマ・ポリシーとの関連； ◎-1 ○-2
	HJ-4-HA-ES-L-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅱ」では、「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅰ」で学んだ内容を基に実際にどのように指導すればよいのかを実技を通して学んでいく。 併せて、指導に際しての事前準備、指導計画の立案、指導実践、指導内容について学び、自分自身の指導の評価と改善、応用実践ができるようになることを目標とする。 また、総まとめとして、実際の指導現場（ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等）で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験する（体験実習）。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、授業（実習）の進め方について [到達目標] 授業（実習）のすすめ方を理解する。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第2講 発達段階に応じた運動遊びについて（1） [到達目標] 幼少期における遊びについて理解できる。 けん玉、めんこ使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第3講 発達段階に応じた運動遊びについて（2） [到達目標] 発達段階に応じた運動遊びが理解できる。 木ゴマ、タオル、風船使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第4講 発達段階に応じた運動遊びについて（3） [到達目標] 発達段階に応じたスポーツの選択ができる。 おにごっこ、ソフトテニスボール使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第5講 スポーツ指導における運動遊びの活用について [到達目標] スポーツ指導における運動遊びの活用場面、活用方法について理解できる。 マット運動、跳び箱、バッティング系。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第6講 アイスブレイクの必要性について [到達目標] アイスブレイクの必要性について理解できる。 ペアでのじゃんけん系 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第7講 スポーツの必要性について（1） [到達目標] スポーツの指導現場で使える具体例を体験することができる。 ソフトハンドボール、ミニハードル使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第8講 スポーツの必要性について（2） [到達目標] スポーツの指導現場で使える具体例を体験することができる。 卓球、バドミントン使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第9講 指導プログラムの作成について [到達目標] 指導プログラムの作成手順、留意点を理解し指導プログラムを作成できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第10講 プログラムの指導実践について [到達目標] 指導実践を行う際の留意点（ねらい、観察、働きかけ）を理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第11講 指導内容の評価方法について [到達目標] 指導内容の振り返り手順について理解し説明できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第12講 ジュニアスポーツ指導体験実習（1） [到達目標] ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験・実習する。 アクティブラーニングの有無：あり</p>

	<p>第13講 スポーツ実践 (1) [到達目標] ジュニア期に必要とされるスポーツ実践ができる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第14講 スポーツ実践 (2) [到達目標] ジュニア期に必要とされるスポーツ実践ができる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第15講 まとめ [到達目標] 第2講から第14講までの内容を理解し、資格取得に必要な知識を確認できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義のタイトルに関して事前学習(予習45分)するとともに、受講後に学習したことを配布したプリントをもとにまとめる(復習45分)。
教科書	特定の教科書は使用しない。 必要に応じて資料を配付する。
参考書	公益財団法人日本スポーツ協会 「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」
成績評価	出席状況及び取り組み姿勢等で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：池本 敬博 研究室：体育館 健康スポーツ学ユニット メールアドレス：iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業の前後
備考	ディプロマ・ポリシーとの関連；◎-1、○-2
	HJ-4-HA-ES-S-1